沖縄県文化財調査報告書第123集

北原貝塚

発掘調査報告書

１９９５年３月

沖縄県教育委員会

上空からみた貝塚周辺の地形

同　　上（空港エプロン南側の駐車場との間の三角形状を呈した黄褐色部分が調査地点）

かさなり合った状態で出土したサラサバテイ製貝輪

ヤコウガイ製杓子状製品の出土状態

鏃の出土状態

伊波式土器（有文）

伊波式土器（有文）

伊波式土器（有文）

伊波式土器（無文）

前期・無文土器

鏃

序

本調査報告書は，久米島空港内に所在する北原貝塚の発掘調査の成果を記録したものであります。調査は，久米島空港整備工事計画に先立ち，記録保存を目的として実施されました。

久米島空港は，1972年の沖縄の本土復帰前に米国民政府援助資金によって建設されましたが，その後，二度の拡張・整備を経て現在に至っています。しかし，近年のリゾートブームによる観光客の増加や農産物等の島外輸送の増加に伴う需要増に対処するため，より大型機の導入を図る目的から，空港の拡張・整備の必要があり，現空港エプロンに南接して残存する北原貝塚についても，その計画範囲に含められたのであります。

当該貝塚は沖縄考古学史上著名な貝塚であるうえ，従前の拡張・整備に伴う発掘調査によって，貝塚の大半は消失してしまっていることから，現存部については可能な限り，現地保存の方途を探ったのでありますが，空港エプロンの拡張部分にあたる性格上，設計変更にも一定の限界があり，やむを得ず記録保存の処置をとったわけであります。

調査の内容については，本文に紹介するとおりでありますが，従来認識されていた沖縄後期（弥生時代～平安時代初頭併行期）の文化層下に，久米島では希少な沖縄前期（縄文時代後期併行期）の文化層の発見と，それに伴う遺構や遺物が出土し，往時の文化内容を解明すべき多くの貴重な資料を含んでいます。

はるかな時代に，この琉球列島に生きてきた先人たちが，どのような暮らしを行ってきたかは多くの人々が強い関心を寄せるところであります。

本調査報告書が考古学上の研究に十分供されると共に，広く一般の方々に文化財への理解を深め，文化財愛護思想の高揚の一助となることを期するものであります。

末尾ながら，この度の調査に際し，種々便宜を供与され，多大な御指導および御協力をいただいた，文化庁および具志川村教育委員会をはじめ，関係各位に対し，哀心より感謝の意を表する次第であります。

平成７年３月

沖縄県教育委員会
教育長　嘉陽正幸

凡　例　1．本書は，1992年度に実施した沖縄県島尻郡具志川村字北原に所在する北原貝塚の発掘調査報告書である。

2．発掘調査および資料整理業務は，北原貝塚発掘調査事業として，沖縄県土木建築部（所管：空港課）より予算の分任を受けて，沖縄県教育委員会（所管：文化課）が実施したものである。

3．本書で用いたレベルの数値は，すべて絶対高である。

4．特にことわりのない限り，観察表などに記した値は製品の最大値で，その単位はcm，およびｇである。また，（　）を付したものは残存値を示し，－としたものは，欠失などで計測不可能なものを示す。

5．本書に掲載した地図は，建設省国土地理院の許可を得て，同院発行の2.5万分の１の地形図を複製したものである。

6．原色図版の空中写真は，沖縄県南部土木事務所より提供していただいたものである。

7．本書の執筆は，下記の通りである。

盛本　勲（沖縄県教育庁文化課史跡・名勝・埋蔵文化財係主任）
第１～第４章，第５章第２節・第３節，第４節１～７・９～11・13～16，第５章第５・６節，第６章

西銘　章（沖縄県教育庁文化課史跡・名勝・埋蔵文化財係充て指導主事）
第５章第１節

比嘉優子（沖縄県教育庁文化課史跡・名勝・埋蔵文化財係嘱託調査員）
第５章第４節８・12

8．本書の編集は，比嘉優子の協力を得て，盛本が行った。

9．出土遺物および調査に関する記録類は，沖縄県教育庁文化課資料室にて保管している。

報告書抄録

ふりがな	きた はら かい づか はっ くつ ちょう さ ほう こく しょ
書名	北原貝塚発掘調査報告書
副書名	
巻次	
シリーズ名	沖縄県文化財調査報告書
シリーズ番号	第123集
編著者名	盛本 勲・西銘 章・比嘉優子
編集機関	沖縄県教育委員会
所在地	〒 900 沖縄県那覇市泉崎1丁目2番2号
発行年月日	西暦1995年3月31日

ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード		北緯 °′″	東経 °′″	調査期間	調査面積 m²	調査原因
		市町村	遺跡番号					
きたはらかいづか 北原貝塚	おきなわけんしまじりぐん 沖縄県島尻郡 具志川村字北原 563番地	47352		26° 21′ 23″	126° 42′ 51″	1992年 9月26日 ～ 1993年 2月26日	997	久米島空港の拡張・整備工事に伴う事前調査

所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
北原貝塚	貝塚	縄文時代後期併行期，弥生時代～平安時代初頭併行	礫群，集石遺構，焼土遺構	土器，石器，石製品，貝製品，骨製品，動物遺存体，他	特になし

目　　次

序
凡　例

第１章　貝塚の位置と環境 …… (1)
第１節　貝塚の位置と環境 …… (1)
第２節　調査地周辺の遺跡 …… (3)

第２章　発掘調査の経過 …… (8)
第１節　調査に至る経緯 …… (8)
第２節　調査組織 …… (8)
第３節　調査の経過 …… (12)

第３章　層　序 …… (14)

第４章　検出遺構 …… (18)

第５章　出土遺物 …… (21)
第１節　土　器 …… (21)
第２節　石　器 …… (57)
1．石　斧　　2．石　皿
3．敲　石　　4．磨石兼敲石
5．クガニイシ
第３節　石製品 …… (80)
第４節　貝製品 …… (81)
1．玉類　　2．ヤコウガイ製垂飾
3．サツマビナガイ製品　　4．タカラガイ製品
5．貝　輪　　6．鏃
7．スイジガイ製利器　　8．螺蓋製品
9．庖丁様製品　　10．ヤコウガイ製杓子状製品
11．ホラガイ製品　　12．貝　皿
13．貝製漁網錘　　14．フデガイ科製品
15．イモガイ科製品　　16．その他

第５節　骨製品 …… (125)
第６節　動物遺存体 …… (126)
１．貝類 …… (126)
２．脊椎動物 …… (137)
３．節足動物 …… (151)
４．軟体動物 …… (151)

第６章　まとめ …… (152)

参考文献 …… (155)

図　版

挿　図　目　次

第１図　久米島と北原貝塚（・）の位置 …… （　2　）
第２図　北原貝塚の現存範囲と周辺の地形図 …… （　4　）
第３図　具志川村における遺跡分布図 …… （　6　）
第４図　久米島空港拡張建設計画予定図(網点部分)(沖縄県土木建築部1991より) …… （　9　）
第５図　グリッド配置図 …… （　13　）
第６図　基本土層図 …… （　15　）
第７図　堆積土層図 …… (16～17)
第８図　遺構配置図 …… （　19　）
第９図　１・２号集石遺構 …… （　20　）
第10図　焼土遺構 …… （　20　）
第11図　奄美系（１～４），伊波式土器（５～７）実測図・拓影・１ …… （　31　）
第12図　伊波式土器実測図・拓影・２ …… （　32　）
第13図　伊波式土器実測図・拓影・３ …… （　33　）
第14図　伊波式土器実測図・拓影・４ …… （　34　）
第15図　伊波式土器実測図・拓影・５ …… （　35　）
第16図　伊波式土器実測図・拓影・６ …… （　36　）
第17図　伊波式土器実測図・拓影・７ …… （　37　）
第18図　伊波式土器実測図・拓影・８ …… （　38　）
第19図　伊波式土器実測図・拓影・９ …… （　39　）
第20図　伊波式土器実測図・拓影・10 …… （　40　）
第21図　前期の有文土器(１)，大山式（２～４），室川式（５・６），室川上層期の土器（７），無文土器（８・９）実測図・拓影 …… （　41　）
第22図　伊波式土器・他底部実測図・拓影 …… （　42　）
第23図　後期系土器実測図・１ …… （　51　）
第24図　後期系土器実測図・２ …… （　52　）
第25図　後期系土器実測図・３ …… （　53　）
第26図　後期系土器実測図・４ …… （　54　）
第27図　後期系土器実測図・５ …… （　55　）
第28図　後期系土器実測図・６ …… （　56　）
第29図　石斧実測図・１ …… （　58　）
第30図　石斧実測図・２ …… （　59　）
第31図　石皿実測図・１ …… （　63　）
第32図　石皿実測図・２ …… （　64　）
第33図　敲石Ⅰ類実測図・１ …… （　67　）
第34図　敲石Ⅰ・Ⅱ類実測図・２（１・２：Ⅰ類，３・４：Ⅱ類） …… （　68　）
第35図　敲石Ⅲ類実測図 …… （　70　）
第36図　磨石兼敲石Ⅰ類実測図 …… （　73　）
第37図　磨石兼敲石Ⅰ・Ⅱ類実測図（１・２：Ⅰ類，３・４：Ⅱ類） …… （　74　）
第38図　磨石兼敲石Ⅲ類実測図・１ …… （　77　）

第39図　磨石兼敲石Ⅲ類実測図・2 …… (78)
第40図　磨石兼敲石Ⅲ類実測図・3 …… (79)
第41図　クガニイシ実測図 …… (80)
第42図　石製品実測図 …… (80)
第43図　丸玉実測図 …… (82)
第44図　臼玉実測図 …… (83)
第45図　ヤコウガイ製垂飾（1･2），タカラガイ科製品（3・4），サツマビナガイ製品（5）実測図 …… (85)
第46図　貝輪実測図・1（1～3：オオツタノハガイ製，4:イモガイ科製，5･6：ゴホウラ製） …… (87)
第47図　貝輪実測図・2（サラサバテイ製） …… (89)
第48図　貝輪実測図・3（1～6:ウミギクガイ科製，7:クロチョウガイ製） …… (91)
第49図　鏃実測図 …… (92)
第50図　スイジガイ製利器の突起番号（上原1981に加筆） …… (94)
第51図　スイジガイ製利器実測図・1 …… (95)
第52図　スイジガイ製利器実測図・2 …… (96)
第53図　部位名 …… (98)
第54図　螺蓋製品の使用想定図 …… (98)
第55図　螺蓋製品実測図・1（Ⅰ類：1～13，Ⅱ類：14～20） …… (105)
第56図　螺蓋製品実測図・2（Ⅲ類） …… (106)
第57図　螺蓋製品実測図・3（Ⅳ類） …… (107)
第58図　螺蓋製品実測図・4（Ⅴ類） …… (108)
第59図　庖丁様製品実測図 …… (109)
第60図　ヤコウガイ各部の名称と杓子状製品の利用部位（木下1981に加筆） …… (109)
第61図　ヤコウガイ製杓子状製品実測図 …… (110)
第62図　ヤコウガイ製杓子状製品未製品実測図 …… (113)
第63図　ホラガイ製品実測図 …… (114)
第64図　貝皿実測図・1 …… (115)
第65図　貝皿実測図・2 …… (116)
第66図　貝製漁網錘実測図・1 …… (120)
第67図　貝製漁網錘実測図・2 …… (121)
第68図　フデガイ科製品実測図 …… (122)
第69図　イモガイ科実測図 …… (123)
第70図　その他の貝製品実測図 …… (124)
第71図　骨製品実測図 …… (125)
第72図　沖縄のサンゴ礁海域の模式図と地方名（島袋1983より） …… (129)
第73図　各層における主体貝の出現頻度 …… (130)
第74図　波浪の変化に基づく海洋地形の3つのタイプ(模式図)(黒住1987より) …… (131)

挿表目次

第1表　土器層位別出土数量表 …… (21)
第2表　前・中期土器観察表・1 …… (26)
第3表　前・中期土器観察表・2 …… (27)
第4表　前・中期土器観察表・3 …… (28)
第5表　前・中期土器観察表・4 …… (29)
第6表　前・中期土器観察表・5 …… (30)
第7表　前・中期土器観察表・6 …… (46)
第8表　後期系土器観察表・1 …… (47)
第9表　後期系土器観察表・2 …… (48)
第10表　後期系土器観察表・3 …… (49)
第11表　後期系土器観察表・4 …… (50)
第12表　石器組成表 …… (57)
第13表　石斧観察表 …… (60)
第14表　石皿観察表 …… (62)
第15表　敲石Ⅰ類観察表 …… (65)
第16表　敲石Ⅱ類観察表 …… (69)
第17表　敲石Ⅲ類観察表 …… (69)
第18表　磨石兼敲石Ⅰ類観察表 …… (71)
第19表　磨石兼敲石Ⅱ類観察表 …… (72)
第20表　磨石兼敲石Ⅲ類観察表 …… (75)
第21表　貝製品組成表 …… (81)
第22表　丸玉観察表 …… (82)
第23表　臼玉観察表 …… (83)
第24表　タカラガイ科製品観察表 …… (86)
第25表　オオツタノハガイ製貝輪観察表 …… (86)
第26表　ゴホウラ製貝輪観察表 …… (88)
第27表　サラサバテイ製貝輪観察表 …… (88)
第28表　ウミギクガイ科製貝輪観察表 …… (90)
第29表　鏃観察表 …… (92)
第30表　スイジガイ製利器観察表 …… (94)
第31表　螺蓋製品観察表・1 …… (99)
第32表　螺蓋製品観察表・2 …… (100)
第33表　螺蓋製品観察表・3 …… (101)
第34表　螺蓋製品観察表・4 …… (102)
第35表　螺蓋製品観察表・5 …… (103)
第36表　螺蓋製品観察表・6 …… (104)
第37表　ヤコウガイ製杓子状製品観察表 …… (110)
第38表　ヤコウガイ製杓子状未製品観察表 …… (112)
第39表　ホラガイ製品観察表 …… (114)

第40表　貝皿観察表 …… (117)
第41表　貝製漁網錘観察表 …… (119)
第42表　フデガイ科製品観察表 …… (122)
第43表　貝類組成表・1 …… (132)
第44表　貝類組成表・2 …… (133)
第45表　貝類組成表・3 …… (134)
第46表　貝類組成表・4 …… (135)
第47表　貝類組成表・5 …… (136)
第48表　魚類骨部位別数量表 …… (141)
第49表　ウミガメ類部位別数量表 …… (142)
第50表　ヘビ類部位別数量表 …… (142)
第51表　鳥類部位別数量表 …… (143)
第52表　ネズミ部位別数量表 …… (144)
第53表　ネコ部位別数量表 …… (145)
第54表　ネコの歯牙数量表 …… (146)
第55表　ウマ部位別数量表 …… (147)
第56表　ヤギの歯数量表 …… (147)
第57表　イノシシ部位別数量表 …… (148)
第58表　イノシシの歯牙数量表 …… (149)
第59表　ウシ部位別数量表 …… (150)

図　版　目　次

1．上・下：貝塚近景（上：北東より，下：西より）
2．調査光景・1
3．上・下：試掘トレンチの状況（上：南より，下：西より）
4．調査光景・2
5．調査光景・3
6．上・下：堆積層序・1
7．上・下：堆積層序・2
8．礫群の出土
9．上・下：集石遺構・1（上：検出状態，下：四分割した状態）
10．上：集石遺構・2（掘り上げた状態）　下：焼土遺構断面
11．遺物の出土状態・1
12．遺物の出土状態・2
13．遺物の出土状態・3
14．遺物の出土状態・4
15．遺物の出土状態・5
16．上・奄美系および伊波式土器・1　下：伊波式土器・2
17．上・下：伊波式土器・3
18．伊波式土器・4

19. 上・下：伊波式土器・5
20. 上・下：伊波式土器・6
21. 上・伊波式土器・7　下・伊波式土器・8
22. 伊波式土器・9
23. 上・下：伊波式土器・10
24. 上・前期の無文土器　下：1：前期の無文土器，2：前期の有文土器，3～5：大山式土器，6・7：室川式土器，8：室川上層期の土器
25. 伊波式土器・他底部
26. 上：後期系土器・1　下：後期系土器・2
27. 上：後期系土器・3　下：後期系土器・4
28. 上：後期系土器・5　下：後期系土器・6
29. 石斧・1
30. 石斧・2
31. 上・下：石皿
32. 敲石Ⅰ類　下：敲石Ⅰ・Ⅱ類（1・2：Ⅰ類，3・4：Ⅱ類）
33. 敲石Ⅲ類　下：磨石兼敲石Ⅰ類
34. 磨石兼敲石Ⅰ・Ⅱ類（1・2：Ⅰ類，3・4：Ⅱ類）下：磨石兼敲石Ⅲ類
35. 上・下：磨石兼敲石Ⅲ類
36. クガニイシ　下：石製品
37. 上：丸玉，臼玉
38. ヤコウガイ製垂飾，サツマビナガイ製品，タカラガイ製品　下：貝輪・1（オオツタノハガイ製，イモガイ科製，ゴボウラ製）
39. 上・下：貝輪・2（サラサバテイ製）
40. 貝輪・3（ウミギクガイ科製，クロチョウガイ製）
41. 上：鏃，下：スイジガイ製利器
42. スイジガイ製利器・1
43. スイジガイ製利器・2
44. 上・下：螺蓋製品・1
45. 上・下：螺蓋製品・2
46. 上・下：ヤコウガイ製杓子状製品・2　下：ホラガイ製品
47. 上・ヤコウガイ製杓子状製品・2　下：ホラガイ製品
48・上・下：貝皿
49. 上・下：貝製漁網錘
50. 上・フデガイ科製品　下：イモガイ科製品
51. その他の貝製品　下：骨製品（裁縫用ヘラ）
52. 貝類遺存体・1
53. 貝類遺存体・2
54. 貝類遺存体・3
55. 貝類遺存体・4
56. 貝類遺存体・5

57. 貝類遺存体・6
58. 上：魚類遺存体・1　　下：魚類遺存体・2
59. 上：魚類遺存体・3　　下：カニ・ウニ・イカ遺存体
60. 上：ウミガメ類遺存体　　下：ウマ遺存体
61. 上：イノシシ遺存体・1（歯等）　　下：ウシ遺存体・1（歯等）
62. イノシシ遺存体・2（四肢骨等）
63. ウシ遺存体・2
64. ウシ遺存体・3
65. 上：ネコ遺存体
66. 上：鳥類（カモメ科，ワシ・タカ目）遺存体　　下：ネズミ遺存体

第１章　貝塚の位置と環境

第１節　貝塚の位置と環境

北原（きたはら）貝塚は，1967年に発見された沖縄編年後期の貝塚である。貝塚の所在地は，沖縄県久米島具志川村字北原に所在する久米島空港のエプロン（駐機場）と，その南接する一帯であるが，第２章第１節で述べるように，エプロン（駐機場）部分は1972年度の整備・工事に伴う事前調査によって消失している。

久米島は，沖縄本島・那覇の南西約95kmに浮かぶ55.69 km² の略台形状を呈した島で，沖縄諸島域では，最も西端に位置する（第１図）。島の東側には奥武島，オーハ島の小島が隣接し，行政区画上は，島の西半部が具志川村，東半部が仲里村となっている。

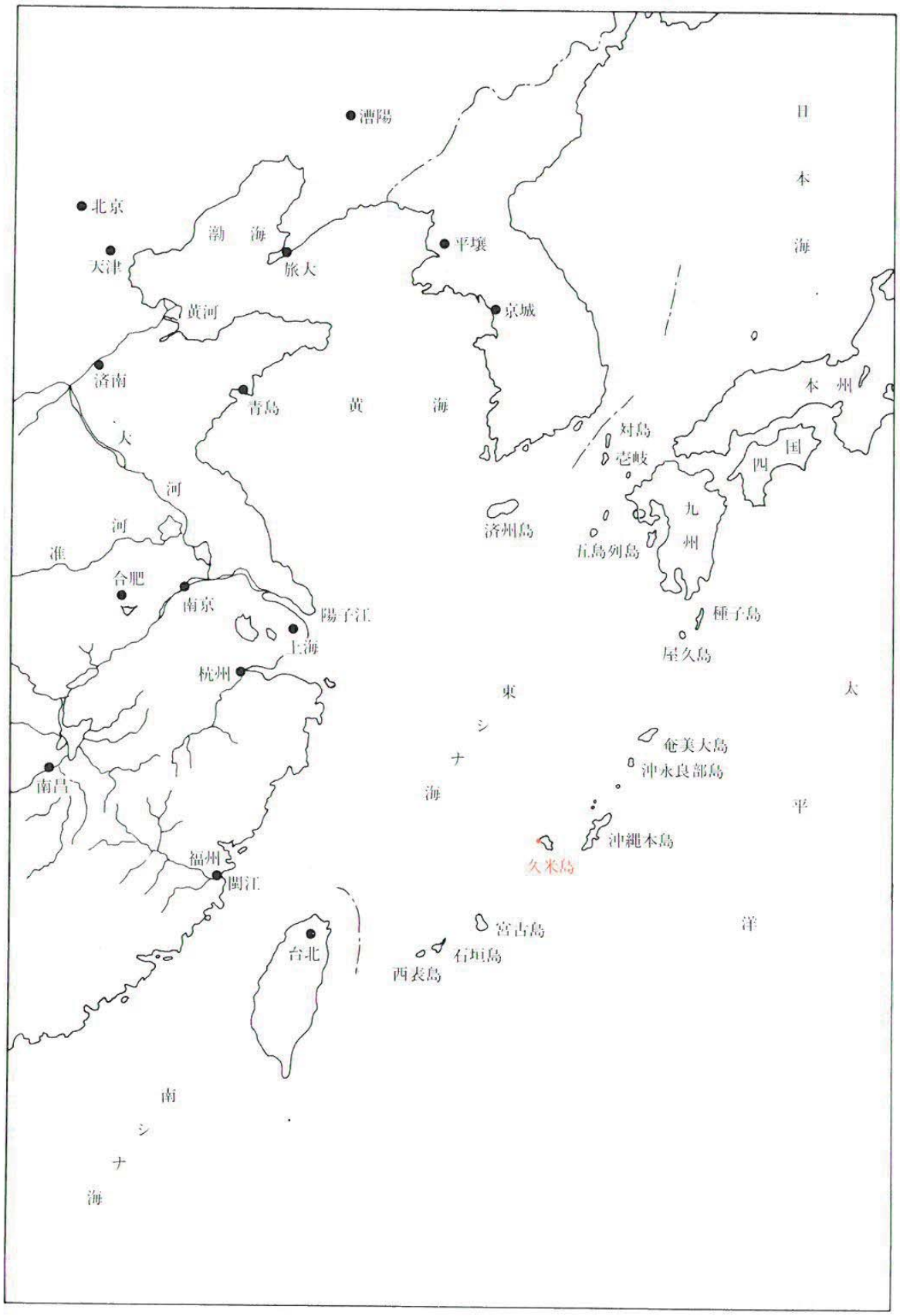
島は地質構造上，古期火山区に属し，琉球列島では数少ない火成岩を主とする山地主体の島で，伊平屋島，慶良間諸島，石垣島，西表島，与那国島などとならんで高島に属する（目崎1988）。そのため，島は北部と南部の200～300級の山地形を中心として，それに附着したようなかたちで広がる砂泥質の低地帯と，石灰岩の平地帯から構成されている（大城1976）。とりわけ，島の西側には海抜20～50ｍの石灰岩平地帯が舌状に張り出し，顕著な発達をみせている。また，山地帯に源を発して小河川が幾筋か走り，台地を深く刻み込んで，この石灰岩平地帯を経て海へ流れている。本貝塚に近い北部の富祖古岳（202.6 ｍ），宇江城岳（309.5 ｍ）などの植物群落の垂直分布をみると，山頂付近は小竹で覆われているものの，その下位はシイやカシ類などの広葉樹林が繁茂している（関1975）。

また，該島は沖縄地方ではめずらしい堡礁型のサンゴ礁のみられる島で，東方洋上にはウガンビシが釣り針状に突出し，南西部にナンビシ，ハナリグワーと続き，島尻先をまわるとメービシ，ウクビシ，イリビシと，ほぼ島を囲繞している（木崎編1975）。

このような自然条件に規定されてか，島の遺跡のほとんどは西側の石灰岩平地帯から南西海岸の砂丘上に分布している。このことは，島の北および東南海岸が急崖で，海も深く，人間の生活に適さないのに対し，西～西南海岸は前記したように低平な陸地と海岸砂丘，さらには漁撈活動としての必須の条件であるラグーンの発達が顕著であることなど，生活を営む上での種々の条件を具備していることから首肯されよう。

主な遺跡としては，西側の石灰岩地帯内の洞穴に形成された下地原洞穴遺跡（旧石器時代相当期），ヤジヤーガマ洞穴遺跡（沖縄後期～グスク時代）や石灰岩台地上の大田辻遺跡（沖縄前Ⅴ期），西から南西部の砂丘上には清水貝塚（沖縄後期），大原貝塚群（沖縄前Ⅳ～Ⅴ期，後期）などがある（第２図）。

本貝塚も南西海岸に発達した，通称「大原砂丘」の北端部付近に形成されている。その範囲は，1972年度の現久米島空港の拡張・整備工事によって南北に分断され，北側の駐機場（エプ



第1図　久米島と北原貝塚（・）の位置

ロン）付近にあった貝塚の中心部は現存しないため，正確な範囲は判然としないが，かなりの範囲で広がっていたようである。貝塚付近での海抜高度は，10～12ｍである。

第２節　調査地周辺の遺跡

具志川村の先史時代（沖縄前期～同後期）の遺跡立地をみた場合，その地形などとの関係からして二大別される（第３図参照）。

その一つは，鳥島集落の前あたりから久米島空港あたりに至る海浜砂丘（通称：大原砂丘）の発達した南～南西海岸と，その背後の石灰岩台地に立地する遺跡群である。

他の一つは，空港北側から具志川城跡あたりに至るリアス式状の海岸に面して立地する遺跡群である。

海岸線長は，前者が約５km，後者は約４kmである。さらに，両者は陸地や海岸などの微地形も異なる。まず，陸地形をみた場合，前者は背後に20～50ｍの低平な石灰岩を控えているのに対し，後者は海岸線に沿って筋状の石灰岩丘陵がほぼ南北に２～３縦走する地形をなしている。

海岸地形をみると，前者は遠浅で沖合い約700 ｍに島尻沖から延びてきたリーフが海岸線を包み込むように横たわっているのに対し，後者はリーフの発達が弱く，海岸線ぎりぎりまで海がせまり，急深になっている。

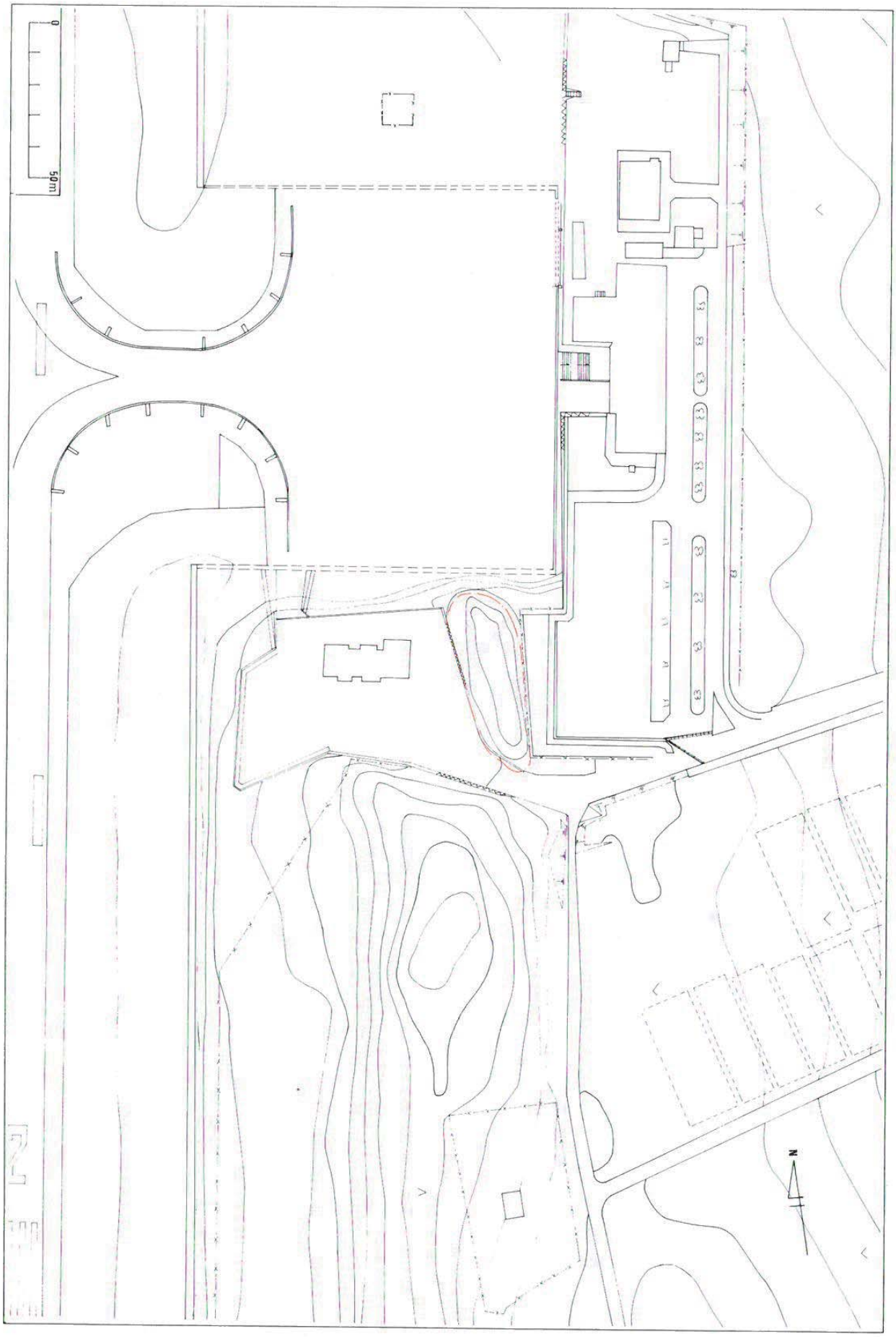
このような地形の差異は遺跡の立地にもあらわれており，先史時代遺跡のあり方をみた場合，主として沖縄前期や同後期の遺跡は砂丘の発達した南海岸に集中するとともに，その規模も大きく，かつまた群をなして途切れなく続いているようである。しかし，沖縄前期でもⅤ期の段階になると，それまで海浜砂丘上に生活の舞台をもっていた人たちは，背後の石灰岩平地帯の開地へと移動し，後期になるとまた砂丘地へ戻ってくるようである。そして，前Ⅳ期後半～Ⅴ期の段階になって遺跡が形成され始めるのが，北西海岸の石灰岩台地上である。北西海岸の遺跡をみた場合，１遺跡のみの沖縄後期の遺跡を除いては，そのほとんどが前Ⅳ～Ⅴ期の遺跡である。

北西海岸の遺跡については，久手堅1982に詳述されているので，それを参照していただくことにし，ここでは本貝塚の立地条件とも類似する南西海岸の砂丘遺跡について簡述する。なお，この記述は，西里他1968，久手堅1979・1982，安里1974・1975，知念1976・1993，高宮1982，盛本編1989，および盛本の調査メモにもとづくものである。

〈石灰岩平地上の遺跡〉

１．大田辻遺跡

字西銘集落の南西約300～400ｍの小字大田辻原に所在する，沖縄前Ⅴ期の遺跡である。遺跡は，標高30ｍ前後の石灰岩平地に立地している。一帯は，近年の圃場整備事業により旧地形が改変され，その面影はとどめていない。



第２図　北原貝塚の現存範囲と周辺の地形図

遺跡の本格的な調査がなされたことはないが，これまでの採集資料や報告などからする限り，無文化した肥厚口縁（断面が略三角状を呈す）の宇座浜式土器を主体とする遺跡のようである。

〈砂丘上の遺跡〉

2．ウルル貝塚

清水小学校の東北部に在する，ウルル御嶽一帯を中心とする沖縄後期の貝塚である。貝塚の範囲については判然としないが，御嶽を中心とした周辺の畑の50m四方以上にわたって遺物の分布がみられる。

本貝塚も未だ本格的な発掘調査が実施されたことがなく，その範囲については不明な部分が多い。採集資料や報告などからすると，くびれた平底の沖縄後期土器や壺形のグスク土器などがみられることより，沖縄後期後半～グスク時代への移行期の貝塚と思われる。

なお，1991年に本貝塚より，1点のみであるが中国古銭の五銖銭（初鋳 BC118 年）と鉄釘が表採されている（金城・久手堅1992）。

3．仲泊貝塚

字仲泊集落後方の砂丘上に立地する沖縄後期の貝塚である。本貝塚も未だ本格的な発掘調査は行われたことはないが，採集資料や試掘調査（吉浜1976）などからして，底部形態は乳房状尖底をなす器形の土器群を伴う貝塚のようである。

4．清水貝塚

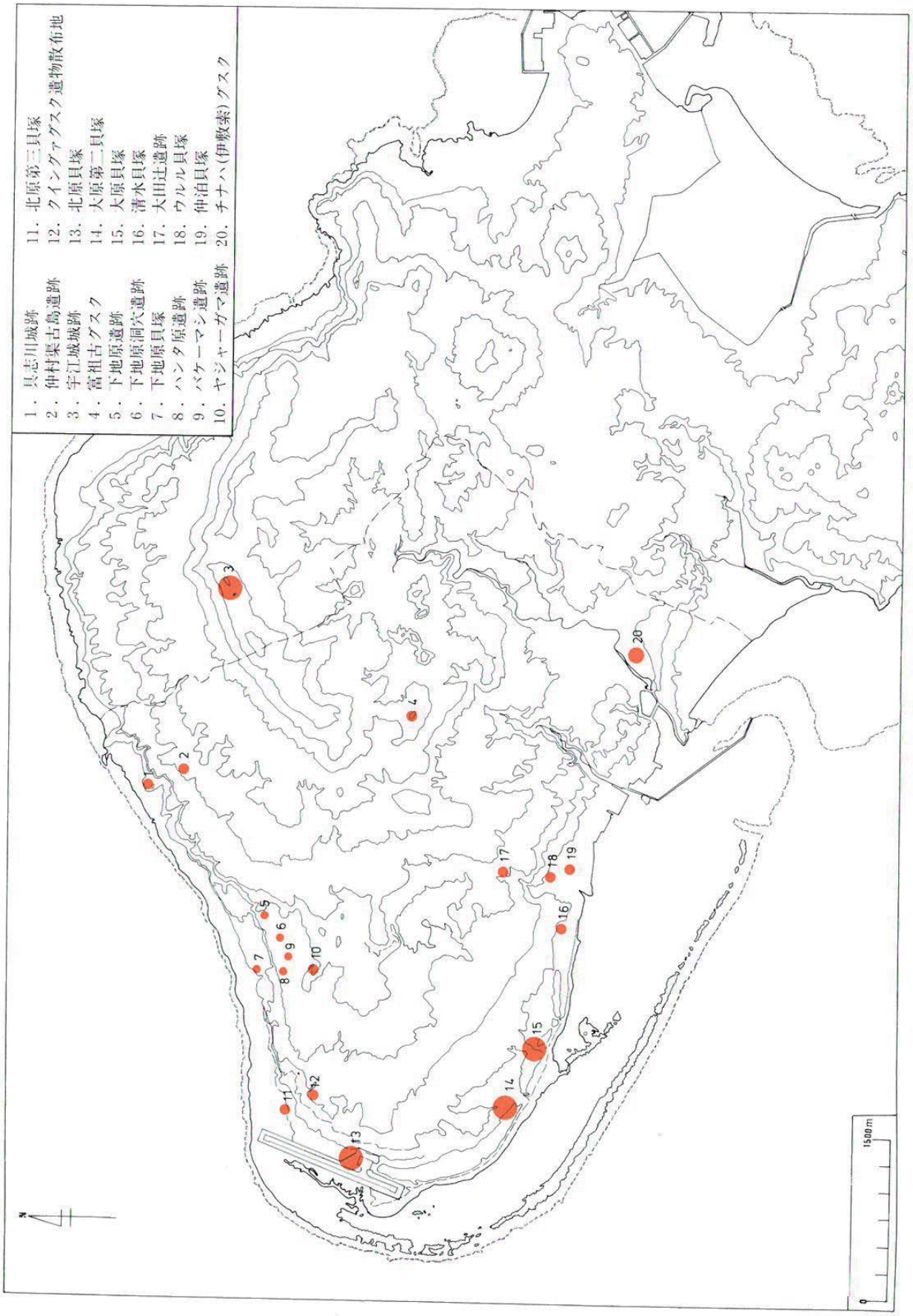
清水小学校の西側の砂丘上（標高7～8m）に形成された，沖縄後期の貝塚である。貝塚の正確な範囲については判然としないが，かつて運動場西側の切り通し断面でも遺物包含層が確認されたことより，その東限は運動場へも延びていたようである。また，西限も判然としないが，1985年に個人畑地の土壌改良に伴って記録保存調査を実施した畑に隣接する畑の西方へ延びているようである。

1985年に個人畑地の土壌改良に伴う記録保存調査が実施されている。その結果，沖縄後期の貝塚では稀にみる基盤の白砂層も含めて7枚の推積層の重なりをもつ貝塚であることが判明している（盛本編1989）。検出遺構としては，イモガイ科集積遺構と石列遺構がある。出土遺物は，豊富でかつまた多岐にわたっている。

なお，詳細については，調査報告書に依られたい。

4．大原貝塚群

通称，大原砂丘上に立地する沖縄前Ⅳ～Ⅴ期，および沖縄後期の複合遺跡である。貝塚の一部は，1956年に琉球政府文化財保護委員会の指定を受け，1972年の本土復帰後は県指定史跡と



第3図　具志川村における遺跡分布図

して引き継がれている。

貝塚は，村立総合運動場付近からサンリーフリゾートホテルの手前近くの比較的広範囲におよんでいる。そして，この群はいくつかの地点貝塚を形成し，各々は時期や性格などからして3ヵ所の地点に大別されるようである。

第一地点は，指定地を含む周辺である。主として，沖縄前Ⅳ期に属する伊波式や荻堂式，大山式等の土器群を出土する地点である。

第二地点は，指定地の西側部分である。主として，沖縄前Ⅴ期に属するカヤウチバンタ式や宇座浜式等の土器群を出土する地点である。当該地点は，1979年に圃場整備事業に伴う範囲確認調査が実施されている（当真編1980）。調査報告書によれば，3枚の遺物包含層が確認され，多くの遺物や遺構が検出されている。遺構としては，石列遺構，方形石組遺構，集石遺構などがあり，それらの遺構の性格としては，住居若しくは墓域空間との関連性が考慮されている。出土遺物は，沖縄前Ⅴ期に属するカヤウチバンタ式や宇座浜式などを主として，前Ⅳ期の伊波式や荻堂式，および沖縄後期の土器類のほか，多種多様の貝製品や石斧，磨石，石皿等の石器類なども出土している。

第三地点は，指定地の西方にあたる箇所である。別名，大原第二貝塚と称されている。沖縄後期の貝塚である。表面調査によって，沖縄後期に属する土器群が得られているものの，未だ正式な発掘調査がなされたことがないため，詳細な内容については判然としない。

5．北原第二貝塚

久米島空港北端部の東側に立地する，沖縄後期の貝塚である。未だ本格的な発掘調査が実施されたことがないため，詳細については判然としない。

7．北原第三貝塚

久米島空港南端の東約500 mの標高3～4 mに立地する，沖縄後期の貝塚である。貝塚の立地する砂丘は，南海岸から延びてきた砂丘（通称：大原砂丘）の最西端にあたる。本貝塚も，未だ本格的な発掘調査がなされたことがないため，その詳細については判然としない。

第２章　発掘調査の経過

第１節　調査に至る経緯

久米島空港は，1963年に米国民政府援助資金により現在地に建設され，1965年１月から民間航空により運行を開始している。その後，滑走路などの整備を行い，1968年よりＹＳ－11型機が運行していたが，1972年の沖縄の本土復帰に伴い，離島の空港が本土の航空基準法に合わないということから，1976年に大幅な拡張・整備工事を実施し，翌年４月に滑走路長1200ｍで再供用され，現在に至っている（沖縄県土木建築部）。

近年のリゾートブームに伴い，県外から沖縄県への観光客は年々増加傾向にあり，これと連動するかたちで離島観光も増加の一途をたどるとともに，農産物や花木等の県外出荷の増加が見込まれているという（沖縄県土木建築部1991）。

このようなことから，沖縄県では今後の需要増に対処するため，より大型機の導入を図り，効率的な輸送力を確保する目的から，現在の1200ｍ滑走路を2000ｍに延張する計画を進めていた。その結果，諸点からして既存空港での拡張（第４図・原色図版一）が最良との結論に至っている。

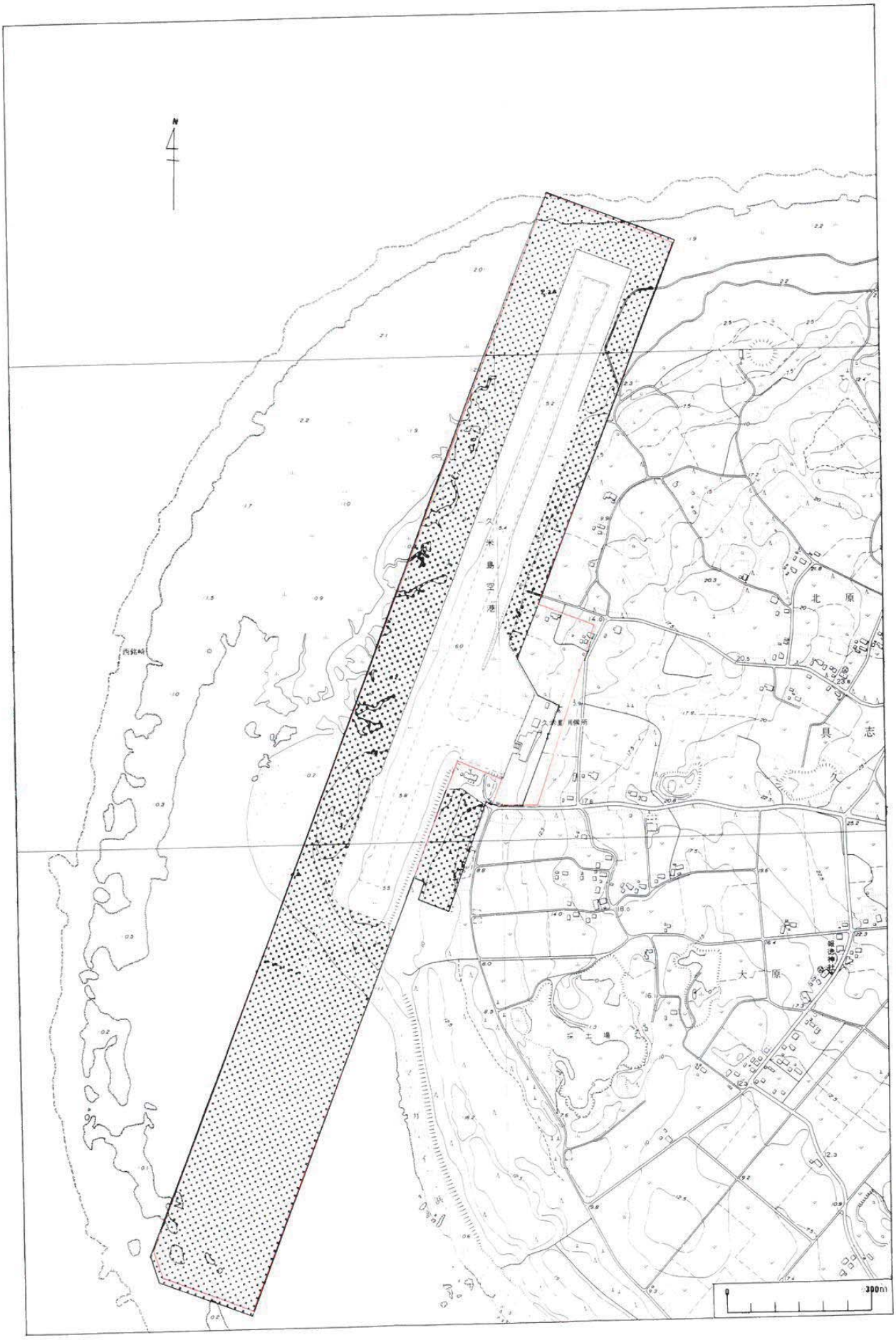
計画に先だって，沖縄県教育委員会が実施した分布調査によれば，この拡張・整備計画予定地内には，周知の遺跡，北原貝塚が存在することから（盛本編1992），県教育委員会（所管：文化課）としては，文化財保護の立場から，計画者の県土木建築部（所管：空港課）と，その取扱いについて協議を重ねたが，貝塚が所在する地点にはエプロン（駐機場）の計画があり，大型機が３機並列して駐機可能なスペースが必要とのことから，記録保存を目的に事前調査を実施することになった。

調査は，県土木建築部（所管：空港課）が県教育委員会（所管：文化課）に予算を分任するかたちをとり，1992年９月16日から発掘調査を開始し，翌1993年２月26日までの延べ154日間にわたって行った。

第２節　調査組織

発掘調査（1992年度）

調査責任者	津留　健二	（沖縄県教育委員会教育長）
調査総括	金城　功	（沖縄県教育庁文化課課長）
	知念　勇	（　同　　上　課長補佐）
	大城　慧	（　同　　上　史跡・名勝・埋蔵文化財係長）
調査事務	川満　一成	（　同　　上　課長補佐）



第4図　久米島空港拡張計画予定図（網点部分）（沖縄県土木建築部1991より）

大村　光仁（　同　　上　管理係係長）
伊波　盛治（　同　　上　主事）
上間　尚子（　同　　上　副主査）
比嘉美代子（　同　　上　副主査）
玉村　良子（　同　　上　副主査）

調査指導　渡辺　誠（名古屋大学文学部教授・考古学）
上江洲　均（文化庁伝統文化課主任調査官・民俗学）

指導助言者（資料整理）　木下　尚子（梅光女学院大学助教授・考古学）

調査担当　盛本　勲（沖縄県教育庁文化課史跡・名勝・埋蔵文化財係主任）

調査員　桐山　秀穂（名古屋大学文学部大学院修士課程）
比嘉　優子（沖縄県教育庁文化課史跡・名勝・埋蔵文化財係嘱託調査員）
大城　勝江（　同　　上）
照屋　利子（　同　　上）
渡慶次ゆかり（　同　　上）

調査補助員　西銘　章（沖縄国際大学文学部社会学科考古学専巧生，現沖縄県教育文化課史跡・名勝・埋蔵文化財係充て指導主事）

発掘調査作業員（五十音順）

新垣喜久子，新垣　文，新垣久子，新垣ハツ，上里美智子，内間フジ，大城秀，古波蔵洋子，中村タケ，仲原　文，仲地静子，比嘉　文，比嘉トミ，宮里喜美子，宮里邦子，山城初子，山城美智子，安村直子，与那城ハル，与那原ミト。

調査協力　久手堅稔（具志川村文化財保護審議員・沖縄県文化財保護指導員），佐久田勇（仲里村文化財保護審議員），沖縄県土木建築部空港課，沖縄県土木建築部南部土木事務所，具志川村役場空港課，具志川村役場建設課。

資料整理（1993～ '94年度）

調査責任者　嘉陽　正幸（沖縄県教育委員会教育長，1993～ '94年度）

調査総括　糸数　兼治（沖縄県教育庁文化課課長，1993年度）
西平　守勝（　同　　上　，1994年度）
知念　勇（　同　　上　課長補佐，1993～ '94年度）
大城　慧（　同　　上　史跡・名勝・埋蔵文化財係長，1993～ '94年度）

調査事務　川満　一成（　同　　上　課長補佐，1993年度）

新垣　末子（　同　　上　，1994年度）
大村　光仁（　同　　上　管理係長，1993年度）
比屋根正治（　同　　上　，1994年度）
伊波　盛治（　同　　上　管理係主任，1993～ '94年度）
新垣　和子（　同　　上　主査，1993～ '94年度）
宮城　直子（　同　　上　副主査，1993～ '94年度）

指導助言者　渡辺　誠（名古屋大学文学部教授・考古学，1993～ '94年度）
村田　文夫（川崎市市民ミュージアム副主幹・考古学，1993年度）

調査報告書のための整理作業の分担は，下記のメンバーで行った。

実測・復元・拓影　比嘉優子，上原園子，大城勝江，城間千鶴子，照屋利子，仲宗根三枝子，外間　瞳。
トレース　外間瞳，大城勝江，照屋利子。
獣・魚骨分類　大城勝江，大村広美，城間千鶴子。
貝類分類　当山慶子。
土器，石器，貝製品等　比嘉優子，上原園子，大城勝江，城間千鶴子，照屋利子，仲宗根三枝子，我那覇悠子，崎原美智子，西銘　章，盛本　勲。
遺物撮影　長田　剛。

資料整理および報告書作成にあたっては，下記の方々の指導，助言をいただいた（順不同，敬称略）。

高宮廣衛（沖縄国際大学文学部教授・考古学），金子浩昌（早稲田大学教育学部非常勤講師・動物考古学），嵩元政秀（沖縄考古学会会長・考古学），新田重清（沖縄考古学会副会長・考古学），大城逸朗（沖縄県立北中城高等学校教頭・地質学），黒住耐二（千葉県立中央博物館動物課研究員・貝類学）。

第３節　調査の経過

発掘調査を実施した地域は，久米島空港のエプロン（駐機場）の南側に位置する地点で，西側が略弧状をなした，やや南北に長い不定形を呈している。

過去２度の調査地点との位置関係は，1971年のカナダ・ブリテイ シュコロンビア大学のリチャード・ピアソン教授らの調査地点がその西側部分（旧ターミナル建物と今回の調査地点の間にあたる部分？）で（R. Peason1981リチャード・ピアソン他1990），その２年後の1993年の沖縄県教育委員会による調査地点は，北側のエプロン（駐機場）部分（知念1976・1993）である。

今回の調査地点の地籍と面積は，下記のとおりである。

具志川村字北原563 番地　　997 ㎡

発掘作業は，1992年９月16日より着手し，翌1993年２月26日までの延べ154 日間にわたって行った。

調査対象地は地目上保安林となっており，かつてはモクマオウやアダンなどが繁茂していたようであるが，調査着手時点にはこれらの樹木は散見するのみで，牧草やススキおよびギンネムなどの雑草木が繁茂していたうえ（図版１），調査地点南側の道路や旧ターミナル建物を整備した際に遺物包含層を含んだ砂が盛り上げられていたことから，作業はバーックホーによる本来の地表面までの除去作業から始まり（図版２），次いでグリッド設定を行った。

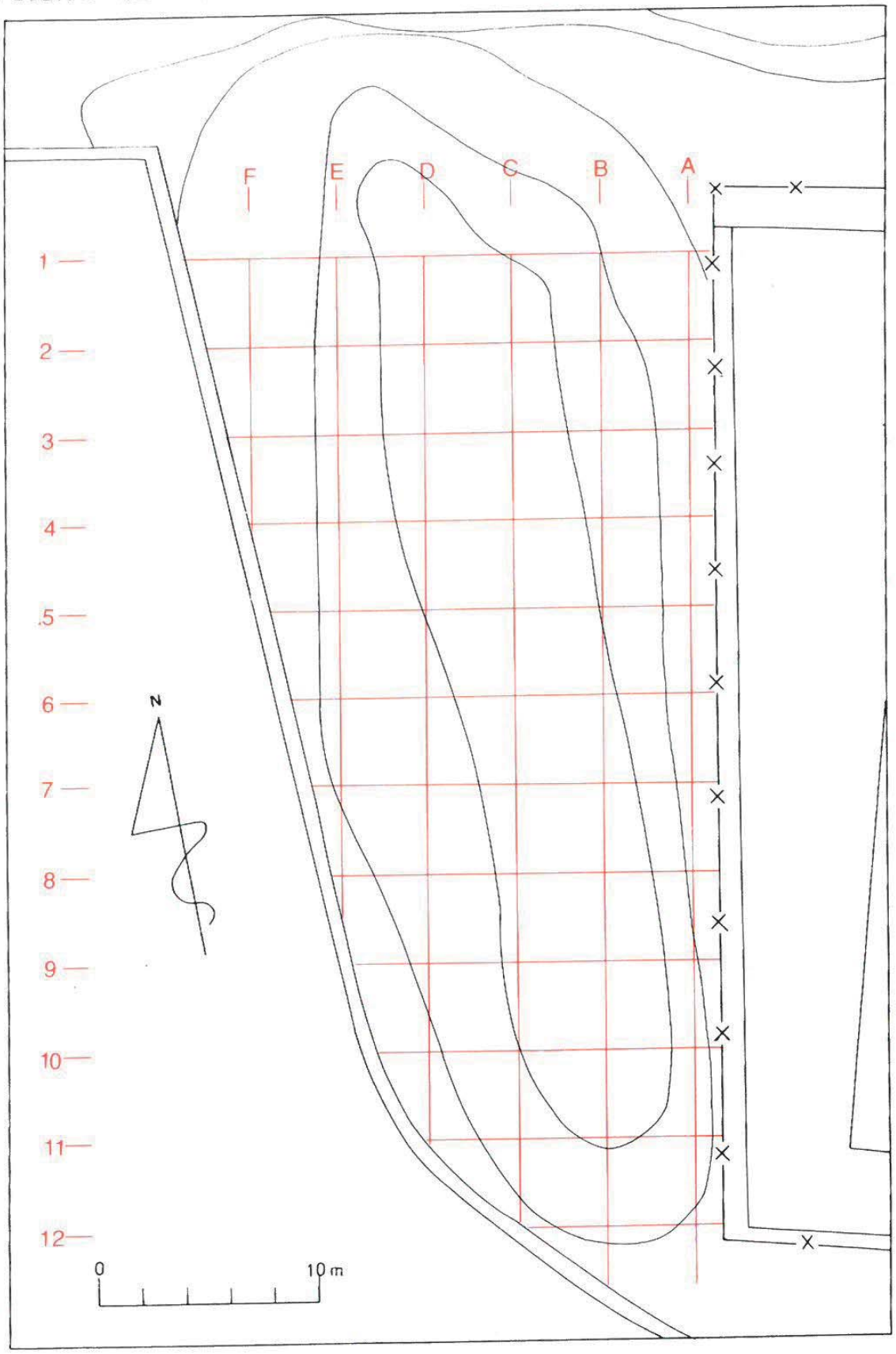
グリッド設定は，対象地のほぼ中央部付近を南北の基準・Cラインとし，そのほぼ中央部に位置する箇所を６列とした，４ｍ四方のグリッドを対象地全域に組んだ（第５図）。この結果，南北に１～12列，東西にA～F列を設定し，各グリッドはこれらの数字とアルファベットを組み合わせて用いることにした。そして，各々のグリッドの示準は，北東隅の交点で表した。

その後，基本的な堆積層序を把握するために，対象地の北端部にて東西方向へ，そのほぼ中間部より南北方向へのＴ字形の試掘トレンチを設定し，堆積状況を把握した（図版３）。

その結果，表土下20～30cm前後までは表土・腐植土層となっていたため，さらにこの部分もバックホーによって除去した。全体的な層の状況としては，東側つまり陸奥側では地表下20～30cmと比較的浅い深度で基盤層（東端のグリッドでは，石灰岩の風化土壌であるマージ層）に達するものの，西側つまり海浜側では表土面より基盤層までの深度が約1.8ｍ以上の深度があることが判明した。このことは，次章の「層序」でも述べているが，貝塚形成前の旧地形が西側（海浜側）で低く，東側（陸奥側）に行くに従って漸次高まりをなして行っていたことを反映していることによるものであろう。

その後，２～３列間隔でセクションベルトを設け，上層より各層ごとに，基本的には10cmレベルで掘り下げながら発掘を進行して行った。また，調査区の南側寄りの２～３箇所において，戦時中のものと思われる大きく掘削された撹乱土壙があり，この部分は鍬により掘り下げた。なお，うちの１つの撹乱土壙の基底部から不発した薬莢が６点連接した状態で出土した。

全体的な作業としては，廃土捨て場が西側の調査区外にしか確保できなかったため，常に東側部分を先行して進めて行った。



第5図　グリッド配置図

第3章　層　　序

本貝塚の堆積層序は，第6図に示したように基本的には基盤の白砂層も含めて4枚に区分される。

しかし，調査地区全域で同様な堆積状況を示しているわけではない。すなわち，調査地区の南北ライン（海岸汀線に並行）では，第7図に示したように概して水平堆積を示すが，東西ライン（海岸汀線に直交）では，西側（海岸つまり空港滑走路側）でその堆積は厚く，東（陸奥側つまり空港駐車場側）に行くに従って漸次薄くなっていっている。このことは，当然のことながら，貝塚形成以前の地形が海岸汀線部分で低くなり，陸奥部に行くに従って高くなっていくという旧地形を反映していることによるものである。

また，各層の細分についても，調査地区全域におよんでいるというわけではなく，ブロック状の部分的な堆積状況を示している状況であった。

以下，各層の概要について述べる。

Ⅰ層－腐植土層である。調査着手時点には，主として牧草やススキ，ギンネムなどの雑植物と，数本のモクマオウやアダンがまばらに生えている状況であった。しかし，かつて一帯は保安林帯であり，モクマオウが繁茂していた。このため，調査地区各所でその根株がみられた。

層厚は，概ね30～50cmを測るが，部分的にはかなり厚い箇所もある。

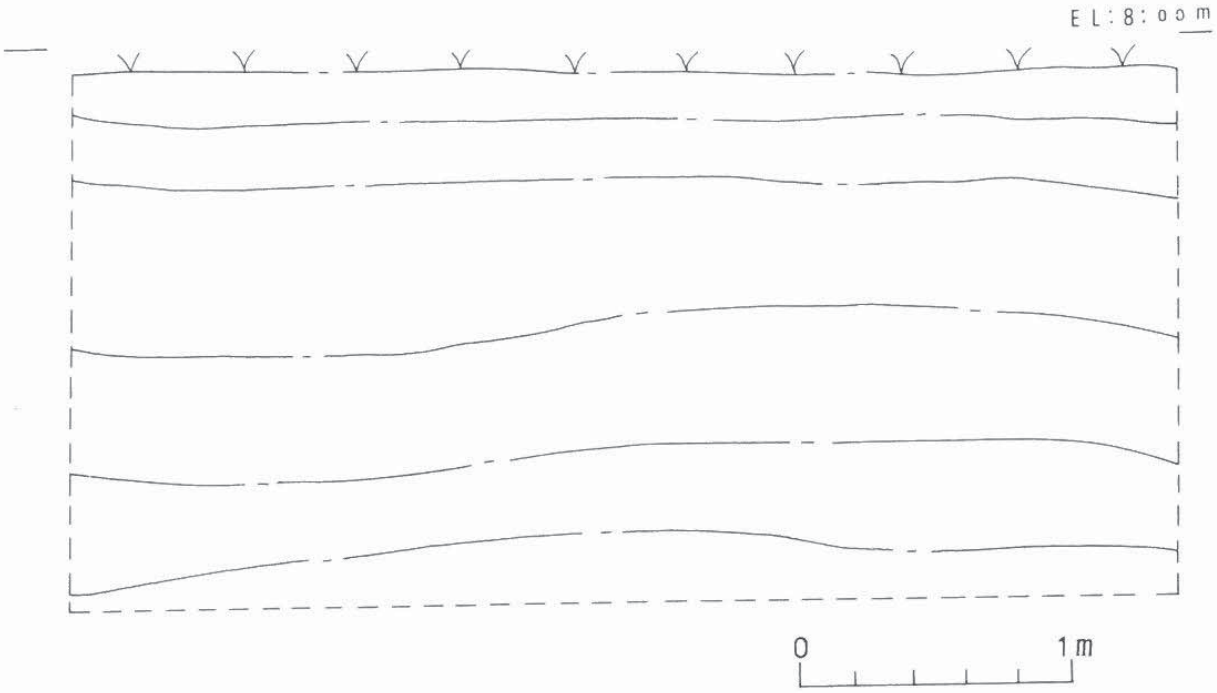
現代遺物としての焼物や戦争遺品などが散在していた。先史時代遺物も比較的多く出土している。これらは，調査区南側の道路や旧ターミナル待合室を工事した際に盛り上げたもののようである。

Ⅱ層－黄褐色の砂層で，遺物包含層である。沖縄後期系遺物を主体的に出土する。層は，比較的締まりはなく，フワフワしている。部分的に撹乱を受けた箇所も見られる。

層厚は，25～50cmを測る。

Ⅲ層－淡い黒褐色砂層で，遺物包含層である。さほど締まりはない。部分的にマガキガイやイソハマグリに混じって，陸産マイマイ類を中心とした貝層ブロックが散見された。

人工遺物の出土も比較的多く，土器をはじめとして，多くの貝製品，石器などが出土している。

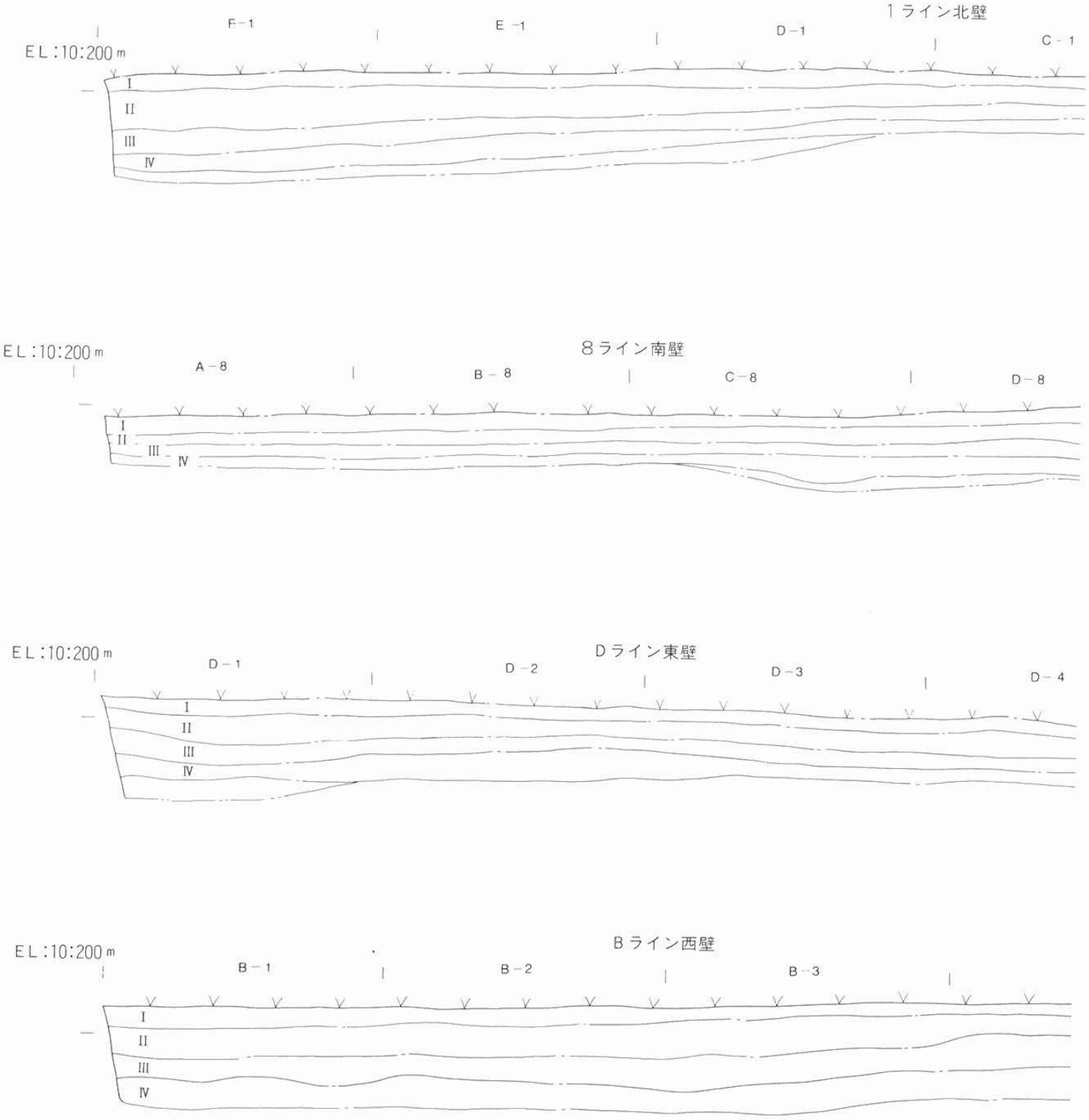


第6図　基本土層図

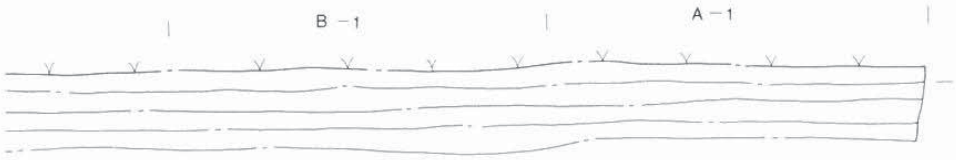
Ⅳ層－本貝塚の基盤層である。基本的には，白砂の無遺物層であるが，調査区東端部では陸奥側から延びてきて白砂層下に潜っているマージ層（石灰岩の風化土）に達する。

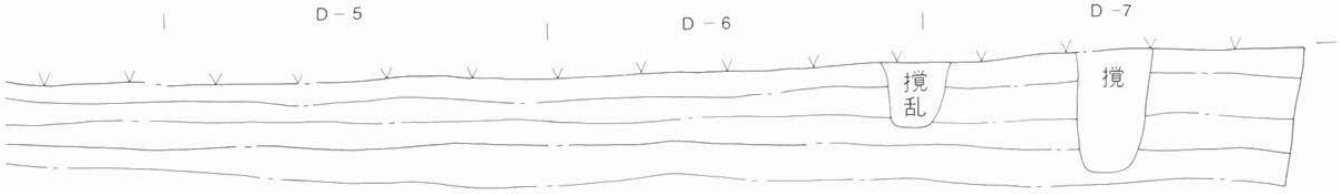
しかし，西側（海岸汀線および空港滑走路側）では，表土下2.5cmまで掘り下げるが，白砂層であった。一帯では，本層上端部においても，上層（Ⅲ層）よりの陥入により，若干の遺物が見られた。

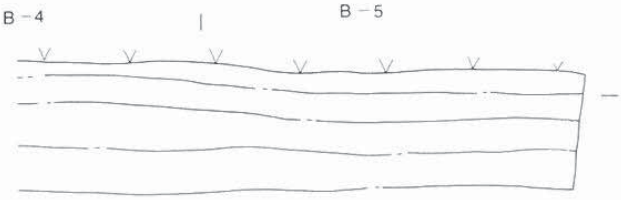
なお，一帯で当該層下の遺物包含層の有無を確認するために，約１ｍほどを試掘して掘り下げてみたが，その存在は確認されなかった。


1ライン北壁
F－1
E－1
D－1
C－1
EL：10:200 m
I
II
III
IV
8ライン南壁
A－8
B－8
C－8
D－8
EL：10:200 m
I
II
III
IV
Dライン東壁
D－1
D－2
D－3
D－4
EL：10:200 m
I
II
III
IV
Bライン西壁
B－1
B－2
B－3
EL：10:200 m
I
II
III
IV

第7図　堆積土層図


B－1
A－1


D－5
D－6
D－7
撹乱
撹


B－4
B－5

0
2m

第４章　検出遺構

検出された遺構には，礫群１基，集石遺構２基，焼土遺構１基がある。
以下に，各々の概要を簡記する。

１．礫群（図版８）

Ａ・Ｂ―４～６区の範囲のⅠ層下部において，検出されたものである。その特徴は，挙大ほどの珊瑚塊の広がりのみで，それ以外の遺構としての認定判断となるものはみられなかった。そのため，これらが，人為的なものか，そうでないかということについては，発掘調査時から検討を重ねているものの，未だに結論を出し得ていないというのが現状である。このことは，一部に現代遺物なども混じっているⅠ層よりの検出であるうえ，これらのあり方が比較的疎の状態であることや，さほどその厚みも有していないことなどに起因している。

このようなことから，当該遺構？に関しては，人為的な構築物か，否か，人為的なものであれば，いかような性格を有したものかということについての検討を要するうえ，紙幅の関係もあり，挿図については割愛した。

２．１号集石遺構（第９図，図版９）

Ａ・Ｂ―７区：Ⅲ層下部で検出されたもので，地山の白砂層を鍋底状に掘り込み，そこに20～30cmほどのサンゴの角および円礫を充填して構築されている。礫のなかには，最大40cmほどのものとみられたとともに，遺構のほぼ中央部に近い礫には，黒褐色の煤様のものが附着していた。

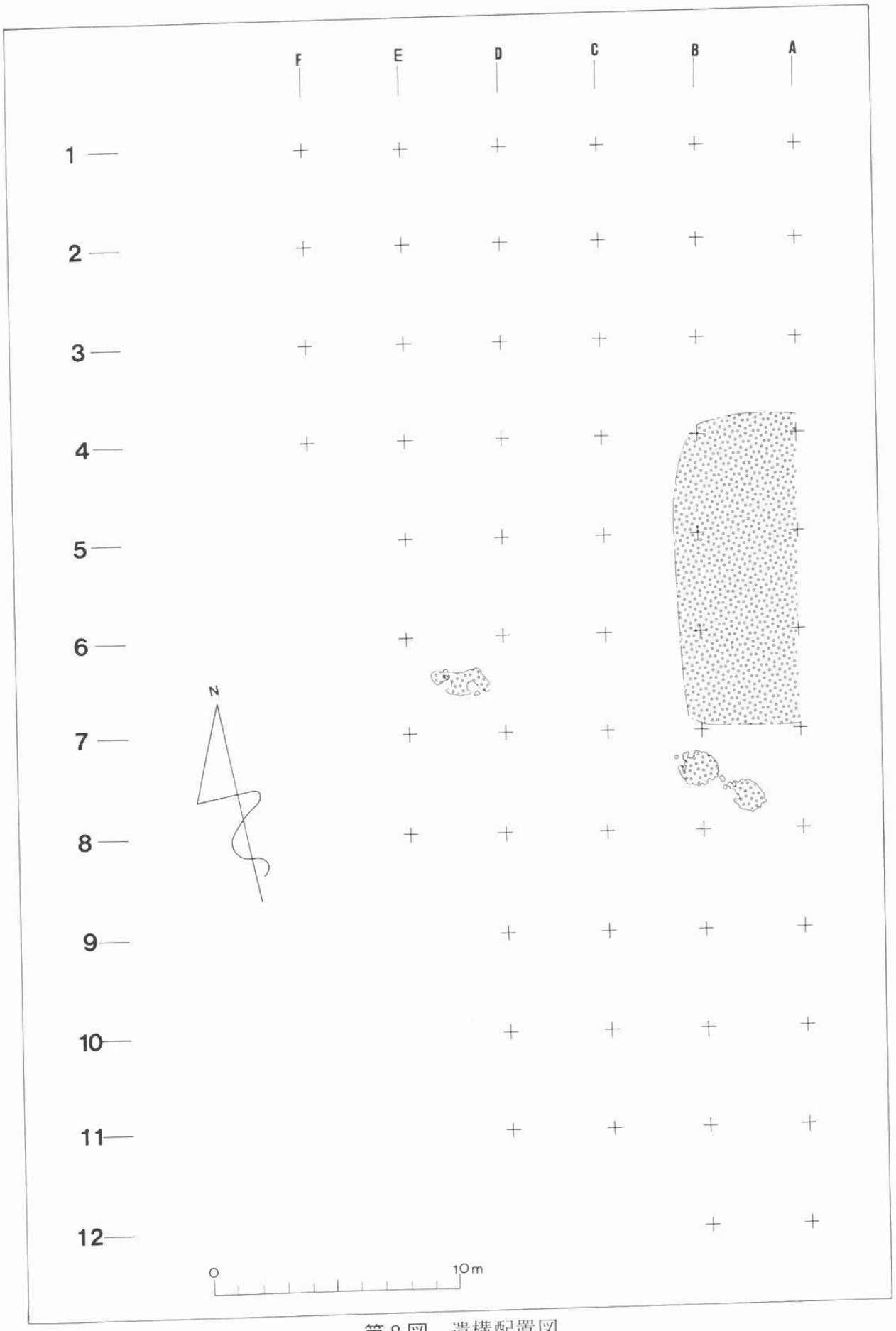
比較的大型の礫や煤様の附着物がみられることなどからして，炉址的機能が考えられる遺構であるが，詳細については判然としない。

３．２号集石遺構（第９図，図版10）

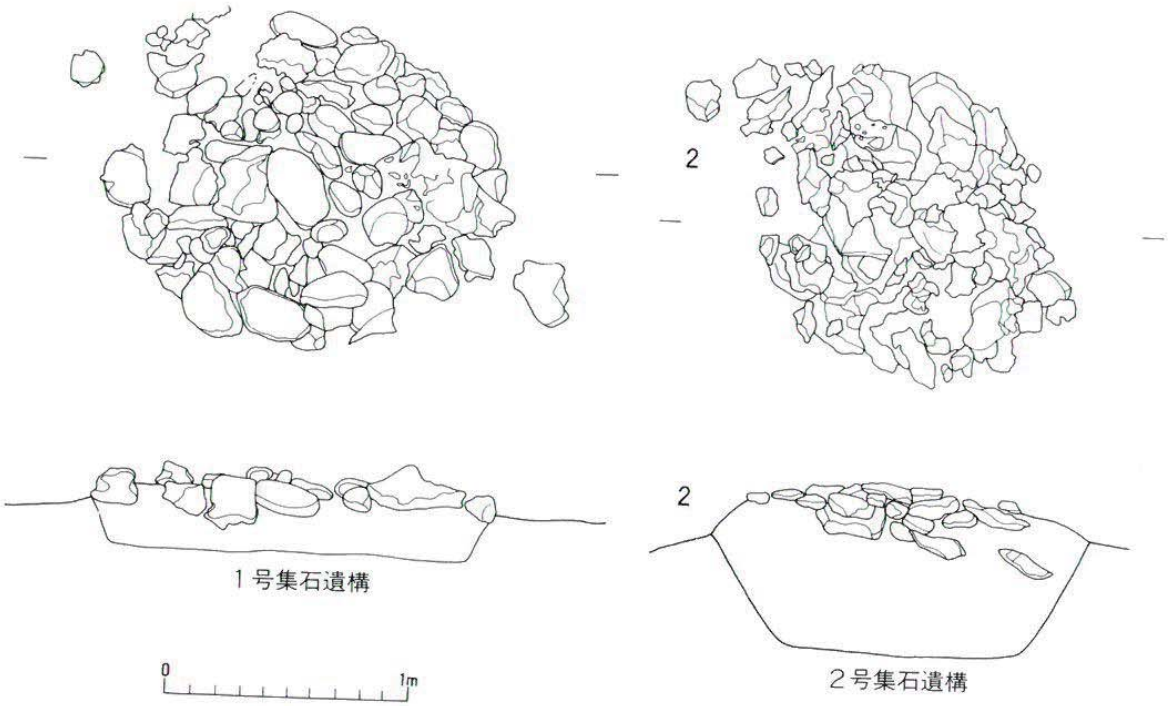
１号集石遺構同様，Ａ－７区：Ⅲ層下部で検出されたもので，地山の白砂層を鍋底状に掘り込み，そこに最大30cmほどの角および円礫を詰めて構築されている。

遺構に用いられている素材は，いずれもサンゴ塊で，確認面から掘り込み底部までに，大小の角および円礫を比較的ギッシリ詰められている。大小のサンゴ塊のなかには，加熱のために砕けたと推されるような小破片や細かい粉状になったものもみられた。

遺構の機能・用途などについては，判然としないが，そのあり方からして炉址的機能の可能性を推する。



第8図　遺構配置図

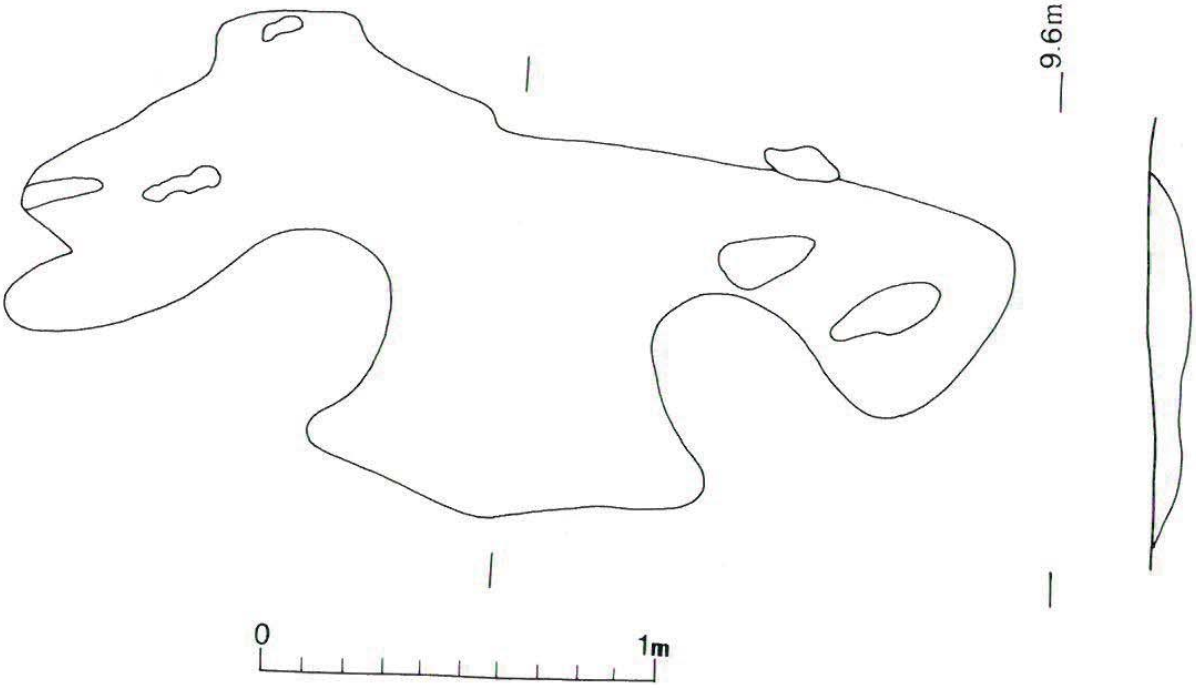


第９図　１・２号集石遺構

４．焼土遺構（第10図，図版10・下）

Ｄ－６区：Ⅲ層で検出されたものである。平面プランが不正形状を呈し，断面形状は中央部付近で約10cmを測り，端部にいくに従って薄くなっていく凸レンズ状をなしている。

全体として，比較的堅く締まっており，検出面あるいは内部には，石灰状になったものなどがみられた。



第10図　焼土遺構

第5章　出土遺物

第1節　土　器

1．はじめに

今回の発掘調査では，完形品に近い土器を含む，総数6,794点の土器片が出土している（第1表）。

これらを層位別にみてみると，Ⅰ層での出土量がもっとも多く，3,352点を占める。

時代的には沖縄編年前期（縄文後期）から同後期（弥生～平安初期相当期）に属する土器群があるが，そのなかでも前期に属する土器群が主体をなしている。

前・中期の土器は，Ⅲ層を中心に出土しており，ⅠおよびⅡ層からも出土している。後期系の土器はⅠ層を中心に出土しているが，ⅡおよびⅢ層からも若干の出土がみられる。後期系土器のなかでⅢ層より出土しているものは，一部に撹乱が入ったためであろう。

前期の土器は，高宮廣衛提唱の前Ⅳ期前半を代表する土器型式の一つである伊波式土器がほとんどを占めている他，数型式の土器群が出土している。伊波式土器は，器形や文様などにより，いくつかのタイプに細分することが可能である。

中期の土器は，室川上層期の土器が僅かに出土したのみである。

後期系土器は，大原第二貝塚C地点で出土している（当真他：1980），上層タイプと下層タイプに類する土器群の出土があるが，量的には前者が主体を占めている。

第1表　土器層位別出土数量表

部位	前・中　期					後　期					合計
	有　文		有　文		底部	有　文		有　文		底部	
層序	口縁	胴部	口縁	胴部		口縁	胴部	口縁	胴部		
表採	0	1	0	2	1	0	0	9	545	3	561
Ⅰa	0	0	0	0	0	0	1	34	691	10	739
Ⅰb	1	0	0	0	1	2	0	49	634	6	698
Ⅰ	2	35	1	13	3	5	1	123	3,044	56	3,352
Ⅱa	0	0	0	2	0	0	0	1	0	0	3
Ⅱb	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	1
Ⅱ	15	21	0	107	2	0	0	32	431	10	618
Ⅲa	27	70	1	347	7	0	0	2	18	10	482
Ⅲb	6	8	0	50	3	0	0	1	2	1	71
Ⅲ	6	22	0	116	5	1	0	1	39	2	192
Ⅳ	0	2	0	43	1	0	0	2	0	3	51
撹乱	3	2	0	0	0	0	0	0	0	0	5
不明	6	2	0	0	0	0	0	0	21	0	55
合計	66	165	2	680	23	9	2	271	5,426	109	6,753

2．前・中期系（縄文後期～晩期）土器（第11～22図，図版16～25）

前・中期に属する土器群は総数357点ある。

このうち，型式名の判明している土器としては，面縄東洞式土器，嘉徳Ⅰ式土器と思われるもの，伊波式土器，大山式土器，室川式土器，室川上層期の土器がある。この他に，型式名が判然としない土器群も数点出土している。

これらのうち，その主体をなすものは前述したとおり伊波式土器で，その文様のヴァリエーションも豊富であり，数種に細分される。

Ⅰ群　奄美系土器（第11図１～４，図版16）

面縄東洞式土器，嘉徳Ⅰ式土器などの，奄美地方に分布の中心をもつ土器群である。これらは，一般に奄美系土器と称されている。計４点の出土がある。

第11図１・２は，面縄東洞式土器である。１は口縁部片で，器面の保持が悪いため，文様は判然としないが，先端の尖った工具による押し引き文であろう。２は胴部片で，先端の尖った工具による押し引き文が明瞭である。

同図３は，嘉徳Ⅰ式土器に属すると思われるものの口縁部片である。文様構成が二条の押し引き文の直下に沈線文を配していることからここに含めた。口縁部には，先端が平坦な工具による押し引き文を，口唇部にも，同じ工具によるものと思われる刻目を施している。

同図４は，文様の形態から，奄美系土器に属する土器であろうと思われる。口唇部には先端の丸い工具による押し引き文，口頸部には押し引き文と羽状文を施している。

Ⅱ群　伊波式土器（第11図５～７，11～20・22図，図版16・下～23，25）

前期土器のなかではもっとも出土量が多い。これらは，完形品に近い土器が３点も含まれるとともに，器形，文様は数種に細分可能である。

A　器種・器形

確認できる器種は，深鉢形のみである。

深鉢形の器形は，胴部から口縁部にかけて「ハ」の字状に開くタイプと，胴部に最大径をもち，頸部に向けてくびれていく，どちらかと言えば荻堂式土器に近い器形のタイプ，口縁部が直行するタイプに細分可能である。復元品からみる限り，胴部が張り，頸部のくびれるタイプが多いようである。第12図２，第13図８などがこれに属する。全体的に「ハ」の字状に開くタイプは第14図１，口縁部が直行するタイプは第15図５などである。

完形品に近い深鉢形が２点出土しているが，両者からこれらの口径，器高，底径の割合をみると，およそ２：３：１になる。この２点は，いずれも口径と胴径がほぼ同じである。口径が胴径より大きくなるものとしては，第12図２がある。標品は，出土土器のなかでも最も大型品

で，口径約29cmを測る。復元品からみる限り，10～12cm程度の土器がもっとも多いようである。

口縁部上面観は，円形になるもの（第12図２，第15図５），方形になるもの（第13図８，第16図１）があるが，量的には円形になるものが多いようである。

B　口縁部形態

口縁部形態は，平口縁とチェブロン状をなすものがある。平口縁には，第12図２，第14図１があるが，いずれも口唇部にかなり深い刻目を施すことから，鋸歯状，あるいは波状口縁のようにもみえ，厳密な平口縁とは異なる。チェブロン状をなすものは，頂部を４つもつものと，複数の頂部をもち，最頂部から最頂部までの連なりに切れ込みのような段を設けたものがある。

C　胎土・混和材等

その多くがきめの細かい，泥質の胎土で，なめらかな器面を呈している。なかには，焼成も良く，堅緻な土器もある。胎土が砂質のものは器面がザラついており，焼成は普通で，脆いものもみられる。

多くの土器は混和材として，石灰質砂粒および微砂粒，鉱物質微砂粒（長石？，角閃石？）を含み，褐色粒，石英を含むものもある。

D　器面調整

器面調整は，概ね良好で，内外ともナデを施したものが多く，滑らかな器面をしている。また，擦痕，条痕，指圧痕は，内面や底部付近に多く見られ，第12図２は，内外ともに擦痕，指圧痕を明瞭に残すものである。

E　文様

施文部位は，口唇部，口頸部から胴部（胴径の最大部）にかけてである。口唇部には刻目文，押し引き文，沈線文などが施されているが，施文するものは少ない。口頸部から胴部の文様帯は，上・中・下段の文様構成からなり，これらの組み合せによって４類に分類される。

Ⅰ類：上段から下段まで同一の文様帯（連点文・点刻文・鋸歯文）で充填するグループ。

Ⅱ類：上・下段に同一の横位の文様帯（連点文・点刻文・短沈線文）を配し，中段を空白にするグループ。

Ⅲ類：上段から中段までを同一の文様帯（綾杉文・羽状文）で充填し，下段が横位の文様帯（短沈線文・沈線文）で終わるグループ。

Ⅳ類：上段に横位の文様帯（連点文・鋸歯文）を配し，中段に綾杉文などの文様帯を充填するものであるが，当該タイプは，いずれも中段文様より下が破損しているため，下段が上段と同一になるか，他の文様が配されたものか，空白になるのか，文様の展開が

不明なグループ。

Ⅴ類：中段に波状文や鋸歯文を充填し，下段に横位の短沈線および点刻文を配するものであるが，上段部は破損しているため不明。

施文具はほとんどが叉状工具によるものであるが，わずかに綾杉構成文や縦位の文様区画などの中に先の細く尖った単ベラ工具によるものと思われる施文が見られる。

Ⅰ類：第15図５，８・10，第16図９の４点があげられる。いずれも口縁部から胴・下部までのほぼ全形を窺うことのできる資料である。第15図５は，叉状工具による押し引き文を二条配し，直下に同工具により点刻文を一条配し，さらに同様な文様構成を胴部まで繰り返すものである。口縁部はチェブロン状をなし，最頂部から最頂部までの連なりに段を設け，さらに刻目を二条施している。第15図８は，先の尖った叉状工具により，口縁上部から胴上部まで沈線によるルーズな鋸歯文を構成するものである。口縁部はチェブロン状をなし，口唇部に刻目を施すものである。同図10は，８と同様なものである。第16図９は，単ベラ工具により，口縁部から胴上部まで沈線による稜杉文を充填するものである。口縁部は，チェブロン状を呈する。

Ⅱ類：第11図５・７，第12図２，第13図８，第14図１，の５点があげられる。いずれも口縁部から胴部および底部までの全形を伺うことのできる資料である。第11図７は，叉状工具による連点文を上下段に配し，中段を空白にするものである。同文様による縦位の文様区画が見られる。口縁部は山形になるようであるが，口唇部をわずかに残すのみであり，詳細は不明である。第11図５は，叉状工具により，点刻文を二条ずつ上下段に配すものである。口縁部は，チェブロン状を呈する。同文様による縦位の文様区画が見られる。第13図８は，叉状工具により「ハ」の字状の点刻文を二条ずつ上下段に配すものである。口縁部は，チェブロン状を呈する。第14図１は，叉状工具により点刻文を二条ずつ上下段に配すものである。口縁部は，平口縁であるが口唇部にかなり深い刻目を施すことから一見，波状口縁のように見える。第12図２は，叉状工具により上段に連点文，下段に短沈線文を各々２条ずつ配すものである。口縁部は，平口縁を呈するが口唇上に押し引き文を施すことから弱い鋸歯状を呈するものである。

Ⅱ類不明：第11図６，第12図１，第13図１～７・９～１０，第14図２～９である。

Ⅲ類：第16図10，第17図１の２点がある。両者とも口縁部から胴下部までの資料で全形を窺うことができる。第16図10は，上段から中段までを沈線による縦位の羽状文により充填し，下段に鋸歯文を配するものである。口縁部は，チェブロン状を呈する。第17図１は，上段から中段までを沈線による綾杉文を充填し，下段に叉状工具による短沈線文を一条配するものである。また，波状文による従位の文様区画が見られ，口縁部は山形を呈する。

Ⅰ類・Ⅲ類不明：第15図６・７，第16図１～４・７・11，第17図２～６・11である。

Ⅳ類：第15図１～４，第17図７・10に示すものである。第15図１～４は，胎土，施文方法から同一個体であると思われる。これらは，上段に叉状工具による横位の連点文を数条配し，中段に沈線文による綾杉文を構成するものである。いずれも中段文様より下が破損しているため，下段の文様の展開が不明なものである。４は，連点文による従位の文様区画が見られる。第17図７は，上段に沈線による波状文を配し，中段に綾杉文を充填するものであるが，小破片のため下段の文様は不明である。

Ⅳ類不明：第15図12，第17図８・９である。

Ⅴ類：第15図９・11，第16図５・６・８・12・13，第17図12に示すものである。第15図９は，中段に沈線による波状文を充填し，下段に叉状工具による横位の短沈線を一条配するものであるが，上段の文様は破損のため不明である。同図11は，中段に鋸歯文，下段に叉状工具よる横位の点刻文が二条認められるものであるが，小破片のため詳細な文様の展開が不明なものである。

第18～20図１～18に示したものは，点刻文，連点文，短沈線文を施すものであるが，小片のため分類不可能である。

無文：第20図19・20に示したものである。19は，胴下半部に最大径をもち，頸部へ向けていったん緩やかにくびれるものの，頸部から口縁部に向けて「ハ」字状に開いていく器形をなす。胴部は砲弾形状をなし，どちらかと言えば荻堂式に近い器形をなす。口縁部はチェブロン状を呈し，複数の頂部を有すようで，最頂部から最頂部の連なりには段を設けている。20は，19と同一個体と思われる。

Ⅲ群　前期の有文土器

第21図１の１点のみである。胎土などからして，前期に属する土器であると考えられるものの，具体的な型式名については特定できない。口縁部が内傾し，三角形に肥厚した口縁部に突帯を貼り付けている。口唇部に貼付突帯文，口縁部に叉状工具による点刻文を施している。

Ⅳ群　大山式土器

第21図２～４である。全形を知りうるものは出土していない。同図１は口径が８cmで，口縁部がやや内傾する，小型の土器である。文様は横捺刻文で，右から左へと施文している。

Ⅴ群　室川式土器

第21図５・６である。石灰質の混和材を用いており，器面も粗い。文様は，横捺刻文と思われる。

Ⅵ群　室川上層期の土器

第21図７の１点のみで，室川上層期の土器であると思われる。粒の大きい軽石を混和材とし

第2表　前・中期土器観察表・1

挿図番号	グリッド 出土層	型式	器種	法量	混和材	色調	器面調整	その他 (文様分類，焼成など)
第11図1	C－12：撹乱	面縄東洞式	深鉢	－	石灰，鉱物	内外：淡褐色	内外：？	堅緻。先端の尖った工具による押し引き文。
〃 2	C－6：Ⅲ	〃	〃	－	石灰	外：暗褐色 内：褐色	外：ナデ 内：指押さえ	先端の尖った工具による押し引き文が明瞭。
〃 3	C－6：Ⅱ	嘉徳Ⅰ式	〃	－	石灰(目立たない)	内外：暗褐色	外：？ 内：条痕	堅緻。ヘラ状工具による押し引き文(口頸，口唇)。
〃 4	B－5：Ⅰb B－6：Ⅲ C－5：Ⅲ	奄美系不明	〃	口径19.1cm	石灰	内外：褐色	外：ナデ 内：条痕	先の丸い工具による押し引き文(口頸，口唇)。綾杉文(口頸)。
〃 5	D-6：Ⅱ E-6：Ⅱ・Ⅲ E-8：撹乱	伊波式	〃	口径12.7cm	石灰，石英	内外：淡褐色	外：ナデ 内：擦痕	Ⅱ類。横位の点刻文，縦位の短沈線。
〃 6	E－5：Ⅱ	〃	〃	－	石灰(目立たない)	内外：明褐色	外：？ 内：ナデ	Ⅱ類・不明。連点文，押し引き文を施す。
〃 7	E－6：Ⅲb	〃	〃	口径13.8cm	石灰，褐色(目立たず)	外：灰褐色 内：褐色	内外：ナデ	Ⅱ類・不明。連点文，押し引き文を施す。
第12図1	D－8：Ⅰ	〃	〃	－	石灰(目立たない)	外：暗褐色 内：淡褐色	外：擦痕 内：ナデ	Ⅱ類・不明。横位の短沈線。胴が張る。
〃 2	E－5：Ⅲ E－6：Ⅲa F－6：Ⅲ	〃	〃	口径5.2cm 推定器高 30.9cm	石灰，石英(多い)	内外：黒褐色(スス付着)	内外：指押さえ擦痕，輪積み痕が明瞭	Ⅱ類。口唇に刻目，口頸に連点文，短沈線。薄手で脆い。
第13図1	D－11：Ⅰ	〃	〃	－	石灰，鉱物褐色粒	外：淡暗褐色 内：明褐色	外：擦痕 内：？	Ⅱ類・点刻文。
〃 2	F－5：Ⅲa	〃	〃	－	石灰，鉱物(目立たず)	外：暗褐色 内：褐色	内外：ナデ	Ⅱ類・不明。短沈線。堅緻。
〃 3	D－7：Ⅱ	〃	〃	－	〃	外：淡暗褐色 内：褐色	内外：ナデ	Ⅱ類・不明。短沈線。山形突起
〃 4	E－5：Ⅰ	〃	〃	－	〃	内外：長褐色	内外：入念なナデ	Ⅱ類・不明。短沈線。
〃 5	E－7：Ⅲ・Ⅲa	〃	〃	－	〃	内外：褐色	外：擦痕をなでる。 内：？	Ⅱ類・不明。胴が張る。
〃 6	E－4：Ⅱ	〃	〃	－	〃(目立たず)	内外：明褐色	外：ナデ 内：擦痕	Ⅱ類・不明。横位，縦位の短沈線。
〃 7	E－5：Ⅲa	〃	〃	－	石灰(目立たない)	内外：明褐色	内外：ナデ	Ⅱ類・不明。短沈線。口縁が「ハ」の字に開く。
〃 8	E－6：Ⅲa E－7：Ⅰ・Ⅲ D－4：Ⅲa	〃	〃	口径12.4cm 器高 19.1cm 底径5.0cm	〃	外：暗褐色 内：褐色	外：ナデ，胴部に擦痕 内：ナデ	Ⅱ類。胴部が張り，頸部がくびれる。
〃 9	C－3：Ⅱ	〃	〃	－	石灰，鉱物褐色粒	外：暗褐色 内：明褐色	外：ナデ 内：？	Ⅱ類・不明。縦位の短沈線。
〃 10	不明	〃	〃	－	石灰，褐色粒	外：淡暗褐色 内：明褐色	内外：ナデ	Ⅱ類・不明。縦位の短沈線。
第14図1	C－10：Ⅰb D－10：Ⅰ E－10：撹乱	〃	〃	口径12.2cm	〃	内外：淡褐色	外：擦痕，一部なでる 内：擦痕	Ⅱ類。乱雑な点刻文。底部から「ハ」の字に開く器形？
〃 2	D－5：Ⅲb E－7：Ⅰ・Ⅲ・Ⅲa	〃	〃	－	石灰，鉱物	内外：明褐色	外：ナデ，一部擦痕 内：ナデ	Ⅱ類。横位，縦位の点刻文。高い山1つと低い山2つ？がワンセット？
〃 3	C－10：Ⅰ	〃	〃	－	石灰，褐色(多い)	外：灰褐色 内：褐色	内外：ナデ	Ⅱ類。横位，縦位の点刻文。
〃 4	C－4：Ⅰ	〃	〃	－	石灰，鉱物	外：黒褐色 内：褐色	外：ナデ 内：擦痕	Ⅱ類。点刻文。やや堅緻。
〃 5	E－6：Ⅲa	〃	〃	－	石灰，褐色粒	内外：明褐色	外：擦痕 内：ナデ	Ⅱ類。点刻文。
〃 6	E－5：Ⅲ・Ⅲa E－6：Ⅲa	〃	〃	－	〃	〃	内外：ナデ	Ⅱ類。縦位の短沈線。

第3表　前・中期土器観察表・2

挿図番号	グリッド 出土層	型式	器種	法量	混和材	色調	器面調整	その他 (文様分類，焼成など)
第14図7	E－6：Ⅲa	伊波式	深鉢	－	石灰，鉱物 褐色粒	外：黒褐色 内：褐色	内外：ナデ	Ⅱ類。短沈線。
〃 8	B－4：Ⅰa	〃	〃	－	石灰，褐色 粒	内外：淡褐色	内外：ナデ	Ⅱ類。短沈線。
〃 9	D－7：Ⅰ・Ⅱ	〃	〃	－	石灰，石英 (多い)	内外：褐色	内外：ナデ	Ⅱ類。全周を巡る？
第15図 1～4	D-5：Ⅱ E-6・7：Ⅲa F-5・6：Ⅲa	〃	〃	－	石灰（目立 たない）	外：暗褐色 内：褐色	内外：ナデ	Ⅳ類。施文方法には連点文と沈線文が混在。
〃 5	E－3：Ⅲa E－4：Ⅰ F－5：Ⅰ	〃	〃	口径12.4cm	石灰，鉱物 (目立たず)	〃	外：ナデ，一部に擦痕 内：ナデ	Ⅰ類。押し引き文を二条配し、直下に連点文を配すを繰り返す。
〃 6	E－4：Ⅰb	〃	〃	－	石灰（目立 たない）	〃	内外：ナデ	Ⅲ類・不明。又状工具による鋸歯文。山形口縁。
〃 7	E－5：Ⅲa	〃	〃	－	石灰，鉱物 褐色粒	内外：暗褐色	外：ナデ？ 内：擦痕をなでる	Ⅲ類・不明山形突起。
〃 8	F－5：Ⅱ・Ⅲa	〃	〃	口径10.4cm	石灰，石英 鉱物，褐色	〃	外：ナデ 内：？	Ⅰ類。口唇部に刻目。曲線的鋸歯文。
〃 9	E－10：Ⅰ	〃	〃	－	石灰，鉱物 褐色粒	外：淡暗褐色 内：明褐色	外：ナデ 内：かるい擦痕	Ⅴ類。くずれた鋸歯文。
〃 10	E－5：Ⅰ	〃	〃	－	石灰	外：暗褐色 内：褐色	外：？ 内：ナデ	Ⅰ類。脆い。下部の沈線は綾杉文？
〃 11	E－6：Ⅲa	〃	〃	－	石灰，鉱物 褐色粒	外：淡赤褐色 内：黄褐色	外：擦痕をなでる 内：ナデ	Ⅴ類。点刻文と綾杉文。
〃 12	E－3：Ⅱ	〃	〃	－	石灰，鉱物 石英，褐色	外：淡黒褐色 内：褐色	外：擦痕 内：ナデ	Ⅴ類。短沈線と綾杉文。
第16図1	F－5，6：Ⅲa	〃	〃	－	石灰，鉱物 (目立たず)	内外：褐色	内外：入念なナデ	Ⅲ類不明。上面観は方形。口唇部に刻目。
〃 2	E－6：Ⅰ・Ⅲa	〃	〃	－	〃	〃	？	Ⅲ類不明。山形口縁部片。
〃 3	F－5，6：Ⅲa	〃	〃	－	石灰	内外：褐色	内外：ナデ	Ⅲ類不明。山形口縁。綾杉文鋸歯文。
〃 4	D－8：Ⅰ	〃	〃	－	石灰，鉱物 (目立たず)	〃	？	Ⅲ類不明。堅緻。山形突起。
〃 5	E－5：Ⅲa	〃	〃	－	石灰，鉱物 褐色粒	外：暗褐色 内：褐色	外：擦痕をなでる 内：？	Ⅴ類不明。縦位の羽状文。
〃 6	D－8：Ⅰ	〃	〃	－	石灰，石英	内外：褐色	外：？ 内：ナデ？	Ⅴ類不明。やや堅緻。
〃 7	F－7：Ⅲa	〃	〃	－	石灰（目立 たない）	外：灰褐色 内：黄褐色	外：ナデ？ 内：ナデ	Ⅲ類・不明。綾杉文と曲線。
〃 8	C－3：Ⅱ	〃	〃	－	石灰，鉱物 褐色粒	内外：褐色	内外：ナデ	Ⅲ類・不明。沈線と綾杉文。
〃 9	B－4：Ⅰ E－6：Ⅲb E－7：Ⅰ	〃	〃	口径11.3cm	石灰，鉱物 褐色粒	内外：明褐色	外：ナデ，一部に擦痕 内：ナデ	Ⅲ類。くずれた綾杉文。混和材多い。
〃 10	E－7・8：Ⅲ	〃	〃	口径10.6cm 器高15.6cm 底径5.6cm	石灰，褐色 粒	内外：褐色	外：口頸部ナデ 胴部擦痕 内：擦痕？	Ⅲ類。全形を窺うことが可能。
〃 11	E－6：Ⅲa	〃	〃	－	石灰，褐色 粒	外：黒褐色 内：褐色	内外：ナデ	Ⅲ類・不明縦位区画は直線上にならぶ短沈線と曲線的沈線が混在。
〃 12	D－10：Ⅰb	〃	〃	－	石灰，鉱物 褐色粒	外：暗褐色 内：褐色	外：？ 内：ナデ	Ⅴ類不明。
〃 13	B－3：Ⅰa	〃	〃	－	石灰，鉱物	外：明褐色 内：暗灰褐色	〃	Ⅴ類不明。堅緻。下位は連点文。
第17図1	D－8：Ⅰ・Ⅱ	〃	〃	－	石灰，鉱物 褐色粒	外：明褐色 内：黒褐色	内外：ナデ	Ⅲ類。やや堅緻。

第4表　前・中期土器観察表・3

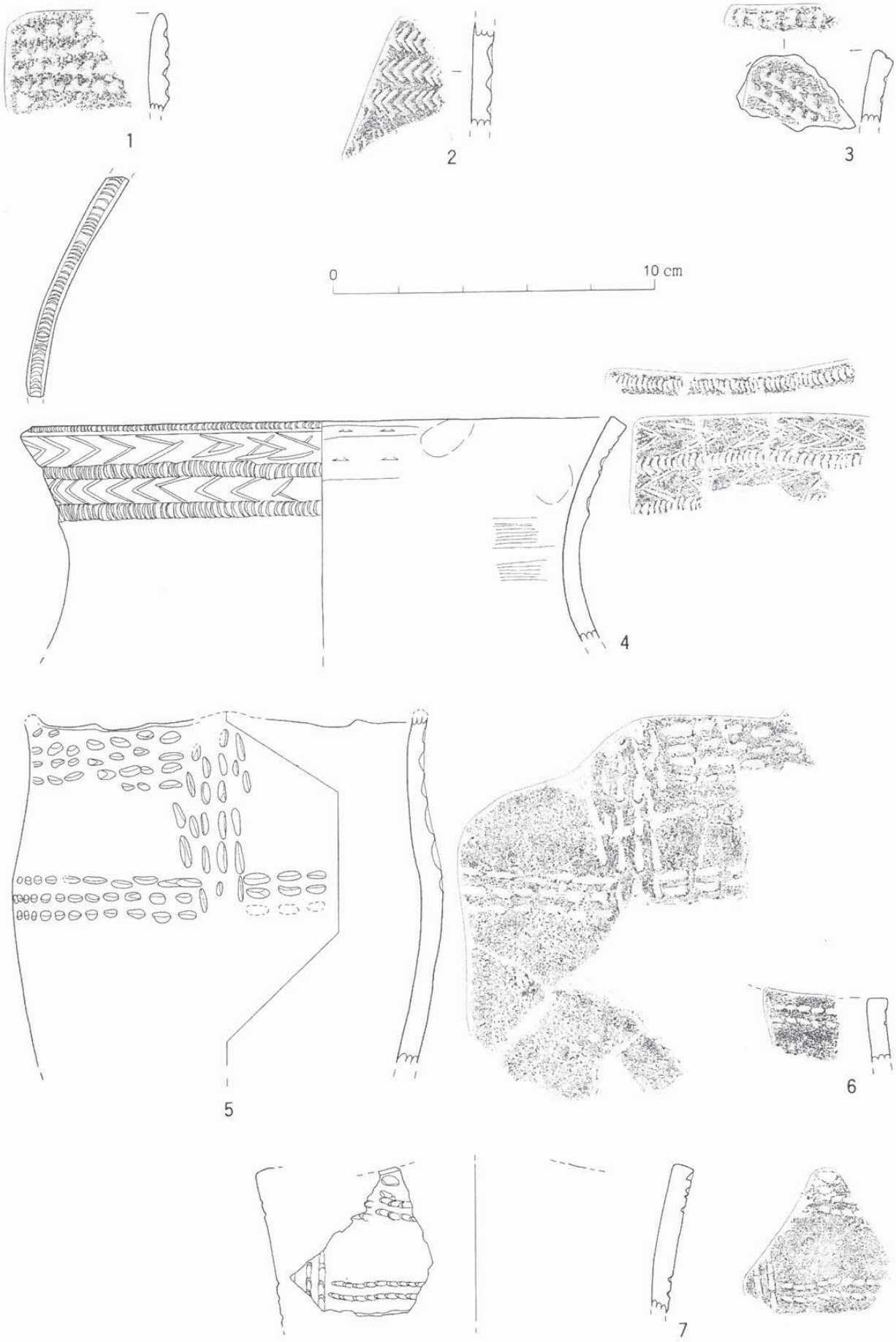
挿図番号	グリッド 出土層	型式	器種	法量	混和材	色調	器面調整	その他 (文様分類，焼成など)
第17図2	E－6：Ⅲb E－7：Ⅲ	伊波式	深鉢	－	石灰	外：淡暗褐色 内：褐色	内外：ナデ	Ⅲ類・不明。有段の山形突**綾**杉文のみ。
〃 3	E－6：Ⅲa	〃	〃	－	〃	外：暗褐色 内：褐色	外：ナデ 内：ナデ？	Ⅲ類・不明。綾杉文のみ。
〃 4	C－10：Ⅰ・Ⅱ	〃	〃	－	石灰，鉱物	内外：明褐色	外：ナデ 内：？	Ⅲ類・不明。綾杉文のみ。
〃 5	E－5：Ⅲ	〃	〃	－	石灰，鉱物 石英，褐色	外：暗灰褐色 内：灰褐色	内外：ナデ	Ⅲ類・不明
〃 6	E－5：Ⅲa	〃	〃	－	石灰，褐色粒	外：褐色 内：明褐色	外：？ 内：ナデ	Ⅲ類・不明。綾杉文のみ。
〃 7	E－8：撹乱	〃	〃	－	石灰，鉱物 褐色粒	内外：褐色	外：擦痕をナデる 内：擦痕	Ⅳ類。口唇部に刻目と沈線。
〃 8	E－5：Ⅲa	〃	〃	－	石灰，褐色粒	外：暗褐色 内：褐色	内外：ナデ	Ⅲ類不明。
〃 9	E－4：Ⅲa	伊波式？	〃	－	石灰，鉱物 褐色粒	内外：淡褐色	内外：ナデ	Ⅳ類不明。細沈線。 点刻文。
〃 10	E－5：Ⅲ	〃	〃	－	石灰，鉱物 (目立たず)	外：黒褐色 内：褐色	外：ナデ 内：？	〃
〃 11	E－5：Ⅲ	〃	〃	－	鉱物（目立たない）	内外：淡暗褐色	外：ナデ 内：？	Ⅲ類不明。細沈線と点刻文。
〃 12	C－6：Ⅱ，Ⅲ D－8：Ⅰ	伊波式	〃	－	石灰，鉱物 (目立たず)	外：褐色 内：暗灰褐色	内外：ナデ	Ⅴ類不明。浅い沈線。丸みを帯びた器形。
第18図1	C－4：Ⅱ	〃	〃	－	石灰，鉱物	内外：淡灰褐色	外：ナデ 内：？	やや堅緻。短沈線。
〃 2	D－12：Ⅰ	〃	〃	－	石灰，鉱物 褐色粒	外：淡灰褐色 内：明褐色	〃	山形突起。短沈線。
〃 3	D－7：Ⅱ	〃	〃	－	石灰，鉱物 (目立たず)	外：暗灰褐色 内：淡灰褐色	内外：ナデ	短沈線。山形突起。
〃 4	E－4：Ⅲa	〃	〃	－	石灰，鉱物	内外：明褐色	〃	沈線
〃 5	D－3：Ⅲb	〃	〃	－	石灰，鉱物 褐色粒	外：明褐色 内：灰褐色	〃	短沈線
〃 6	E－6：Ⅲa	〃	〃	－	石灰，鉱物 褐色粒	外：暗褐色 内：褐色	外：ナデ 内：？	短沈線。やや脆い。
〃 7	D－5	〃	〃	－	石灰（目立たない）	内外：褐色	内外：ナデ	山形突起。短沈線。
〃 8	D－7：Ⅱ	〃	〃	－	石灰，鉱物 褐色粒	外：淡褐色 内：褐色	外：擦痕をナデる 内：ナデ	点刻文
〃 9	E－8：撹乱	〃	〃	－	石灰，鉱物	外：黒褐色 内：灰褐色	内外：ナデ	点刻文。堅緻。
〃 10	E－7：Ⅲ	〃	〃	－	石灰，鉱物 褐色粒	外：明褐色 内：褐色	外：？ 内：ナデ	点刻文。山形突起。口唇部に刻目。
〃 11	E－4：Ⅲ	〃	〃	－	石灰，鉱物	内外：灰褐色	外：擦痕をナデる 内：ナデ	点刻文
〃 12	F－4：撹乱	〃	〃	－	〃	内外：淡褐色	内外：ナデ	点刻文。
〃 13	C－6：Ⅱ	〃	〃	－	石灰（目立たない）	内外：黒褐色	〃	山形突起。点刻文。
〃 14	E－7：Ⅱ	〃	〃	－	石灰，褐色粒	外：黒褐色 内：灰褐色	〃	山形突起。点刻文。
〃 15	E－3：Ⅲ E－4：Ⅲa	〃	〃	－	石灰，鉱物 (目立たず)	外：暗褐色 内：褐色	外：擦痕 内：ナデ	点刻文。口唇部に沈線。
〃 16	C－4：Ⅰ	〃	〃	－	石灰，鉱物 石英	外：黒褐色 内：褐色	内外：ナデ	点刻文。有段の山形突起。堅緻。
〃 17	F－4：Ⅰ	〃	〃	－	石灰，鉱物 褐色粒	内外：暗褐色	〃	短沈線

第5表　前・中期土器観察表・4

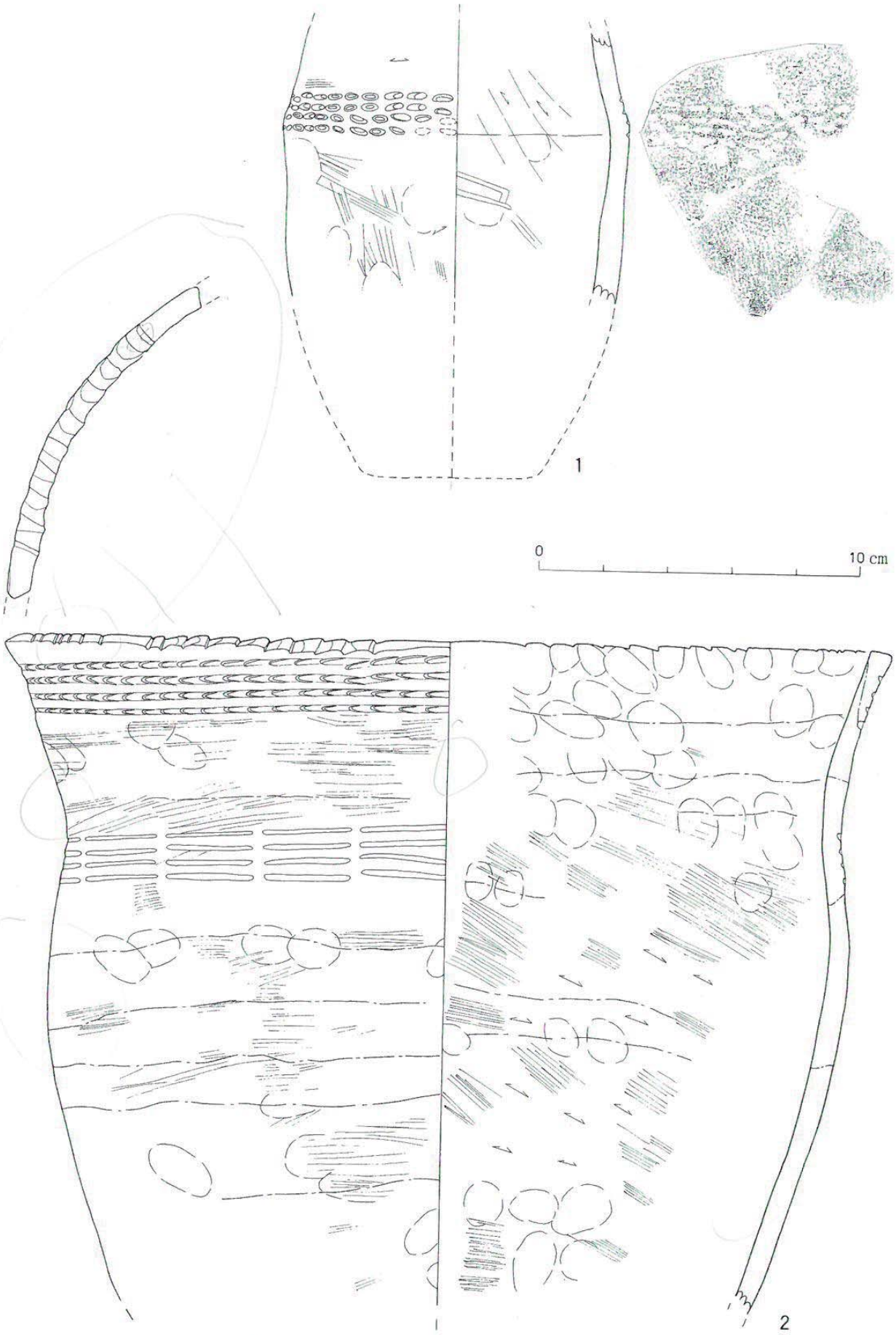
挿図番号	グリッド 出土層	型式	器種	法量	混和材	色調	器面調整	その他 (文様分類，焼成など)
第18図18	E－5：Ⅲa	伊波式	深鉢	－	石灰，鉱物	外：褐色 内：暗褐色	内外：ナデ	短沈線
〃 19	E－4：Ⅲa	〃	〃	－	〃	外：褐色 内：明褐色	内外：入念なナデ	短沈線
〃 20	E－7：Ⅲa	〃	〃	－	〃	内外：暗褐色	外：？ 内：ナデ	短沈線
〃 21	F－3：Ⅰ	〃	〃	－	石灰，鉱物 石英，褐色粒	外：黒褐色 内：褐色	内外：ナデ	短沈線。堅緻。
〃 22	E－5：Ⅰ	〃	〃	－	石灰，鉱物	内外：褐色	〃	短沈線
〃 23	F－6：Ⅲa	〃	〃	－	〃	外：暗褐色 内：明褐色	外：擦痕をナデる 内：擦痕	短沈線。やや厚手。
〃 24	E－5：Ⅲa	〃	〃	－	石灰，鉱物 (目立たず)	内外：明褐色	内外：ナデ	短沈線
第19図1	F－5：Ⅰ	〃	〃	－	石灰，鉱物 褐色粒	外：暗褐色 内：明褐色	〃	短沈線。やや厚手で堅緻。
〃 2	E－5：Ⅲa	〃	〃	－	石灰，鉱物	内外：明褐色	〃	浅い短沈線
〃 3	E－5：Ⅲ	〃	〃	－	石灰，鉱物 褐色粒	〃	〃	短沈線
〃 4	D－4：Ⅱ	〃	〃	－	石灰，鉱物	外：淡暗褐色 内：褐色	〃	短沈線。一部に点刻文。
〃 5	E－5：Ⅲa	〃	〃	－	石灰，鉱物 褐色粒	〃	外：擦痕をナデる 内：？	短沈線
〃 6	D－6：Ⅲ	〃	〃	－	石灰，鉱物	内外：淡褐色	内外：擦痕明瞭	短沈線
〃 7	F－5：Ⅲ	〃	〃	－	石灰，鉱物 (目立たず)	外：黒褐色 内：褐色	内外：ナデ	短沈線。堅緻。
〃 8	F－5：Ⅰ	〃	〃	－	石灰，鉱物 褐色粒	外：淡暗褐色 内：褐色	外：ナデ 内：？	短沈線
〃 9	D－6：Ⅲa	〃	〃	－	石灰，鉱物	内外：暗褐色	外：擦痕をナデる 内：ナデ	短沈線
〃 10	C－3：Ⅱ	〃	〃	－	石灰，鉱物 褐色粒	内外：黒褐色	外：？ 内：ナデ	沈線
〃 11	E－5：Ⅲa	〃	〃	－	石灰（目立たない）	〃	内外：ナデ	短沈線
〃 12	E－6：Ⅲa	〃	〃	－	石灰，鉱物 (目立たず)	外：暗褐色 内：褐色	〃	短沈線
〃 13	D－8：Ⅰ	〃	〃	－	石灰，鉱物 石英	内外：褐色	内外：ナデ	短沈線
〃 14	E－5：Ⅲa	〃	〃	－	石灰，鉱物	内外：明褐色	〃	短沈線
〃 15	E－4：Ⅲa	〃	〃	－	〃	外：暗褐色 内：明褐色	〃	短沈線
〃 16	E－7：Ⅲ	〃	〃	－	石灰，鉱物 褐色粒	内外：褐色	〃	沈線
〃 17	E－3：Ⅲa	〃	〃	－	石灰，鉱物	外：暗褐色 内：淡褐色	外：？ 内：擦痕をナデる	短沈線
〃 18	E－4：Ⅰ	〃	〃	－	石灰，鉱物 褐色粒	内外：淡灰褐色	内外：ナデ	短沈線。やや堅緻。
〃 19	B－3：Ⅰ	〃	〃	－	〃	外：黒褐色 内：淡暗褐色	〃	短沈線。やや堅緻。
〃 20	E－7：Ⅲa D－4：Ⅲ	〃	〃	－	〃	内外：明褐色	〃	短沈線
〃 21	E－8：撹乱	〃	〃	－	石灰，褐色 粒	内外：褐色	外：ナデ 内：？	短沈線
〃 22	E－5：Ⅲa	〃	〃	－	石灰，鉱物 (目立たず)	外：淡褐色 内：暗褐色	内外：ナデ	短沈線

第6表　前・中期土器観察表・5

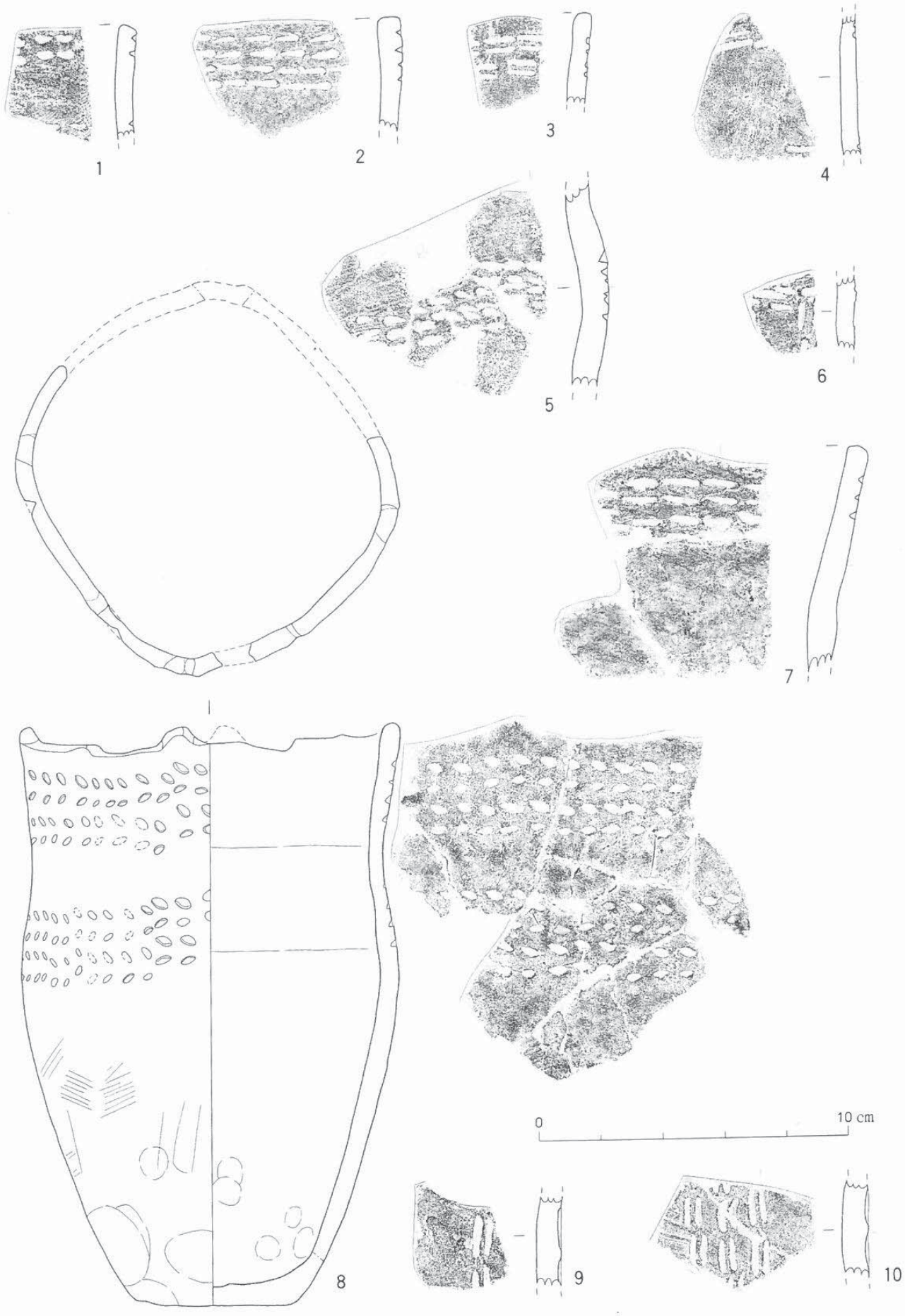
挿図番号	グリッド 出土層	型式	器種	法量	混和材	色調	器面調整	その他 （文様分類，焼成など）
第19図23	E－5：Ⅲa	伊波式	深鉢	－	石灰，鉱物	外：暗褐色 内：灰褐色	内外：？	点刻文
〃 24	D－12：Ⅰ	〃	〃	－	石灰，鉱物 石英	外：褐色 内：明褐色	内外：ナデ	点刻文
〃 25	E－3：Ⅲa	〃	〃	－	石灰，鉱物 石英，褐色粒	外：暗灰褐色 内：明褐色	外：ナデ？ 内：ナデ	短沈線
第20図1	D－8：Ⅰ	〃	〃	－	石灰，鉱物 褐色粒	内外：明褐色	内外：ナデ	短沈線
〃 2	F－6：Ⅲa	〃	〃	－	石灰，鉱物 （目立たず）	外：黒褐色 内：褐色	内外：ナデ	短沈線
〃 3	E－7：Ⅲ	〃	〃	－	石灰，鉱物 褐色粒	内外：淡暗褐色	外：ナデ？ 内：ナデ	点刻文と沈線？
〃 4	F－4：Ⅰ	〃	〃	－	石灰，鉱物 （目立たず）	外：暗褐色 内：明褐色	外：擦痕をナデる 内：ナデ	沈線
〃 5	F－5：Ⅲ	〃	〃	－	石灰，鉱物	内外：淡暗褐色	内外：ナデ	浅い短沈線
〃 6	D－10：Ⅰ・Ⅱ	〃	〃	－	〃	内外：暗灰褐色	外：擦痕をナデる 内：？	縦位の点刻文。薄手で堅緻
〃 7	C－3：Ⅱ	〃	〃	－	〃	内外：淡褐色	内外：ナデ	短沈線。大きい石灰も含む
〃 8	E－9：Ⅰ	〃	〃	－	石灰，鉱物 褐色粒	内外：淡褐色	外：擦痕をナデる 内：？	点刻文
〃 9	E－6：Ⅲa	〃	〃	－	〃	内外：明褐色	外：ナデ？ 内：？	点刻文
〃 10	E－5・6：Ⅲa	〃	〃	－	石灰，鉱物	〃	外：ナデ 内：擦痕	点刻文
〃 11	E－6：Ⅲa	〃	〃	－	石灰，鉱物 褐色粒	外：暗褐色 内：灰褐色	内外：ナデ	点刻文
〃 12	E－7：Ⅲ	〃	〃	－	石灰，鉱物	内外：明褐色	外：ナデ 内：？	点刻文
〃 13	E－6：Ⅲa	〃	〃	－	石灰，鉱物 褐色粒	〃	外：ナデ 内：擦痕	点刻文。厚手でやや堅緻。
〃 14	E－4：Ⅲa	〃	〃	－	〃	内外：暗褐色	内外：ナデ	点刻文
〃 15	E－4：Ⅲa	〃	〃	－	石灰，鉱物 （目立たず）	内外：暗灰褐色	〃	点刻文
〃 16	E－5：Ⅰ	〃	〃	－	〃	外：淡暗褐色 内：褐色	内外：？	点刻文
〃 17	C－10：Ⅰ・Ⅱ	〃	〃	－	石灰，鉱物 褐色粒，（多）	外：暗褐色 内：明褐色	外：？ 内：ナデ	連点文？。堅緻。
〃 18	B－4：Ⅰb	〃	〃	－	石灰，鉱物 （目立たず）	内外：黒褐色	外：ナデ 内：擦痕	短沈線。堅緻。
〃 19 〃 20	不明	〃	〃	口径9.8cm 器高17.4cm 底径5.2cm	石灰，鉱物 褐色粒（目立たない）	内外：明褐色	外：ナデ 内：輪積み，指頭痕を残す	無文の伊波式。山形口縁。壷形に近い。
第21図1	E－5：Ⅱ	前期の有文土器	〃	口径14.7cm	石灰	外：明褐色 内：黄褐色	外：ナデ 内：？	三角口縁。貼付突帯。点刻文1条。
〃 2	E－7	大山式	〃	口径8.0cm	石灰	内外：褐色	内外：ナデ	横捺刻文
〃 3	C－3：Ⅱ	〃	〃	－	石灰，鉱物	外：褐色 内：淡褐色	〃	横捺刻文。薄手。
〃 4	E－6：Ⅲa	〃	〃	－	〃	内外：暗褐色	〃	横捺刻文
〃 5	D－1：1Ⅰ	室川式	？	－	石灰（多）	内外：褐色	内外：？	横捺刻文？。室川a式？
〃 6	D－10：Ⅰ	〃	〃	－	〃	〃	〃	横捺刻文？。第●図23と同一個体？
〃 7	F－3：Ⅰ	室川上層期	壷？	口径10.4cm	軽石（多）	内外：灰褐色	内外：？	山形口縁。口縁部がわずかに肥厚。軽石を含み軽い。



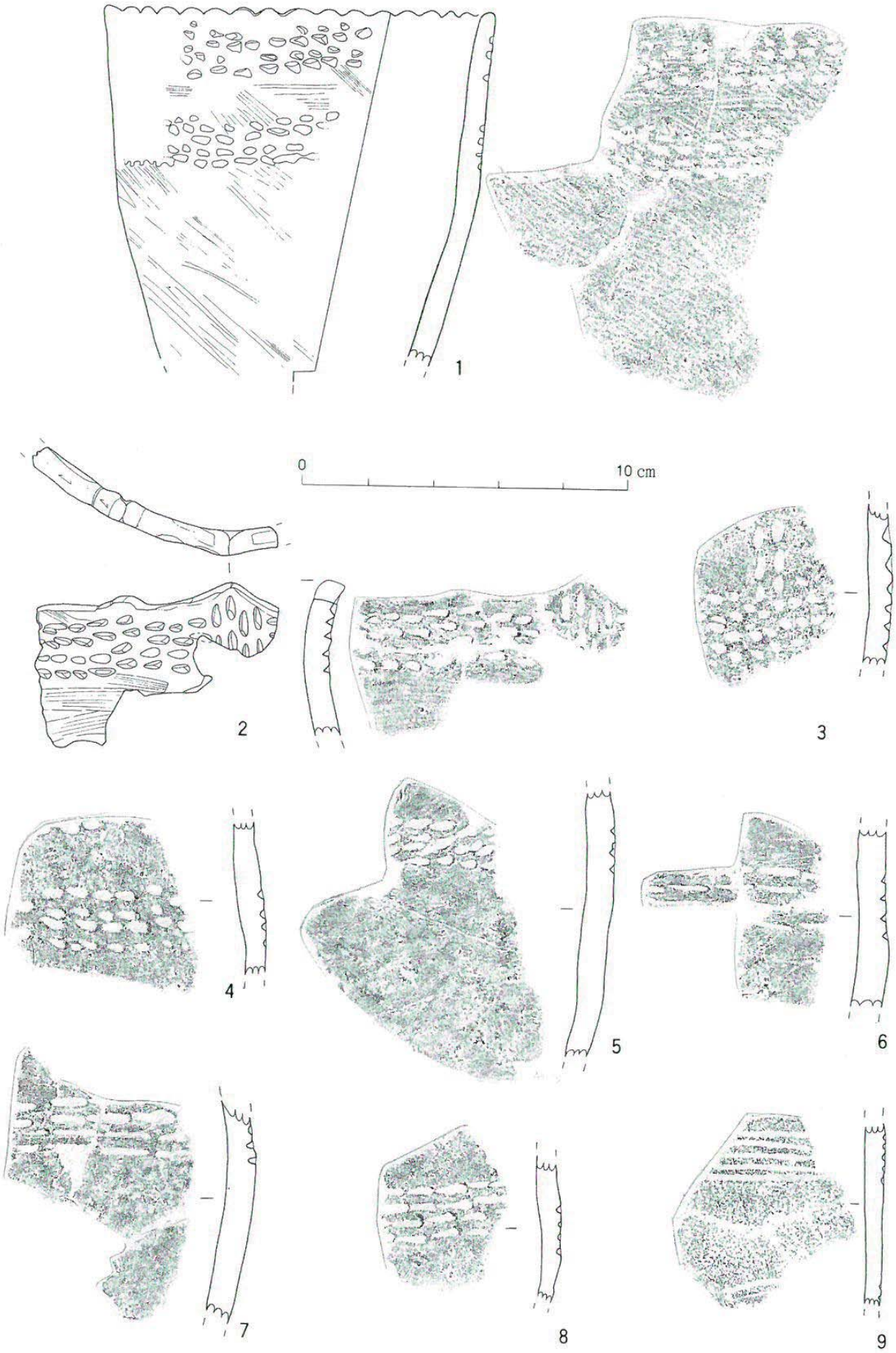
第11図　奄美系（1～4），伊波式土器（5～7）実測図・拓影・1



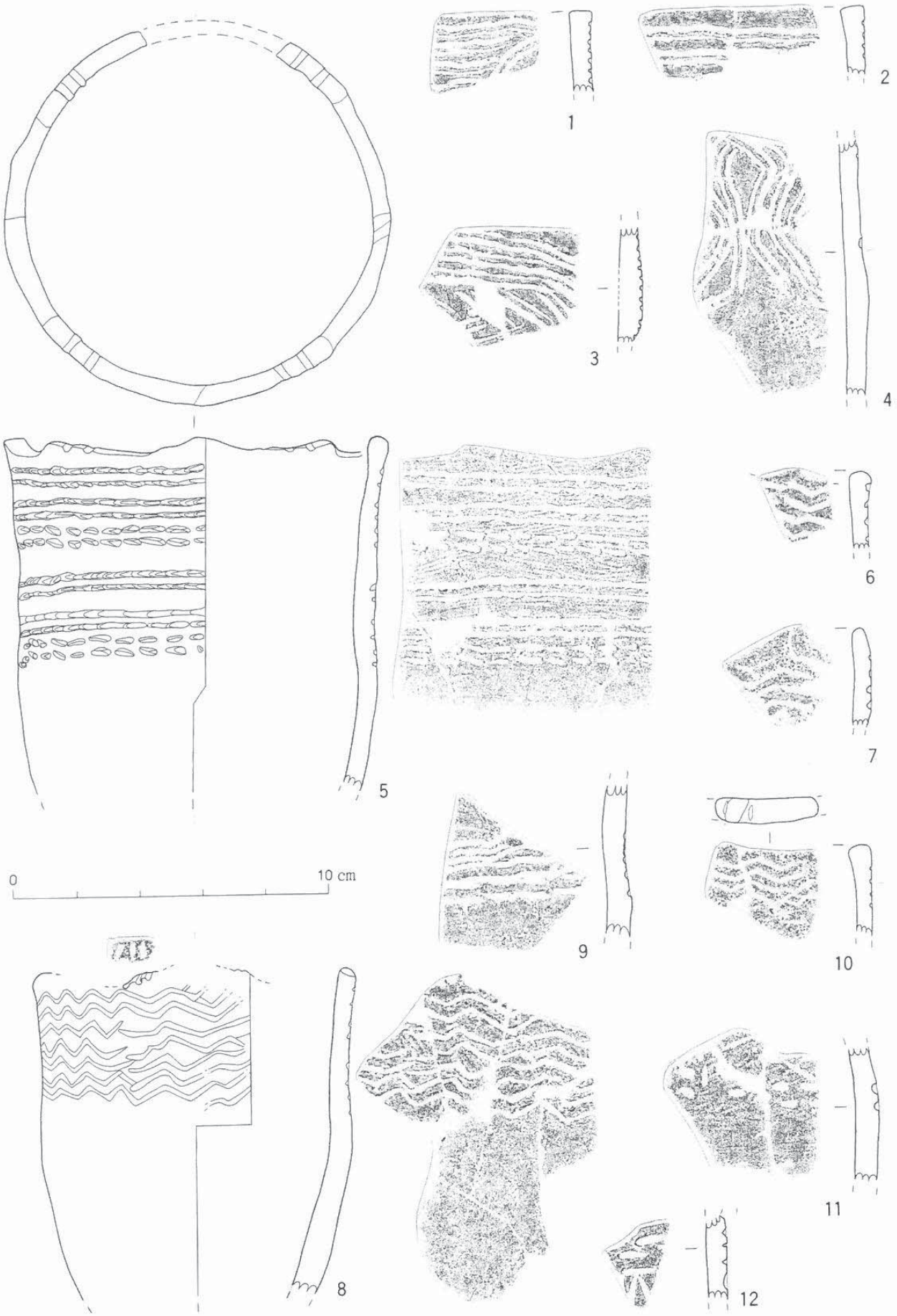
第12図　伊波式土器実測図・拓影・2



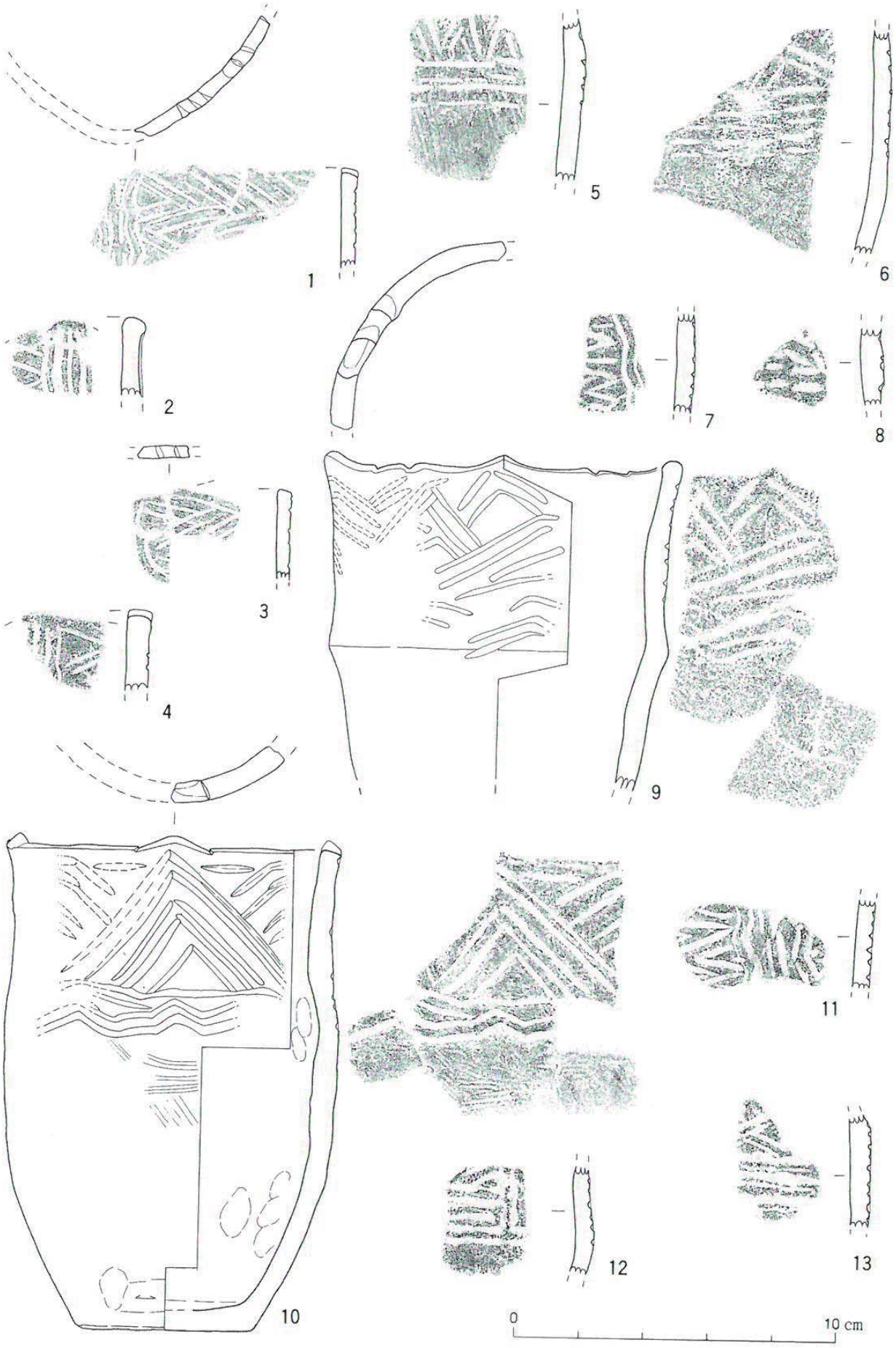
第13図　伊波式土器実測図・拓影・3



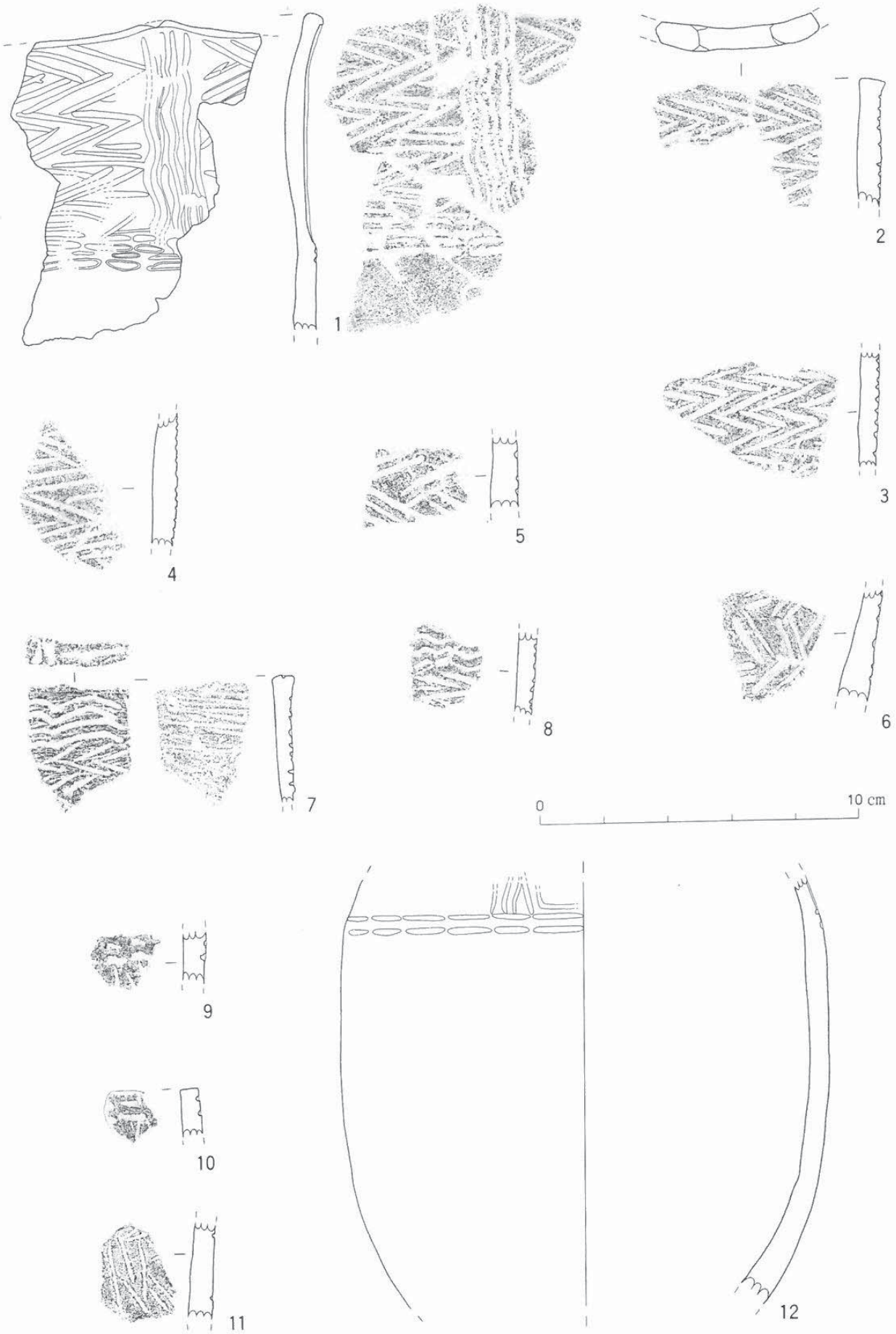
第14図　伊波式土器実測図・拓影・4



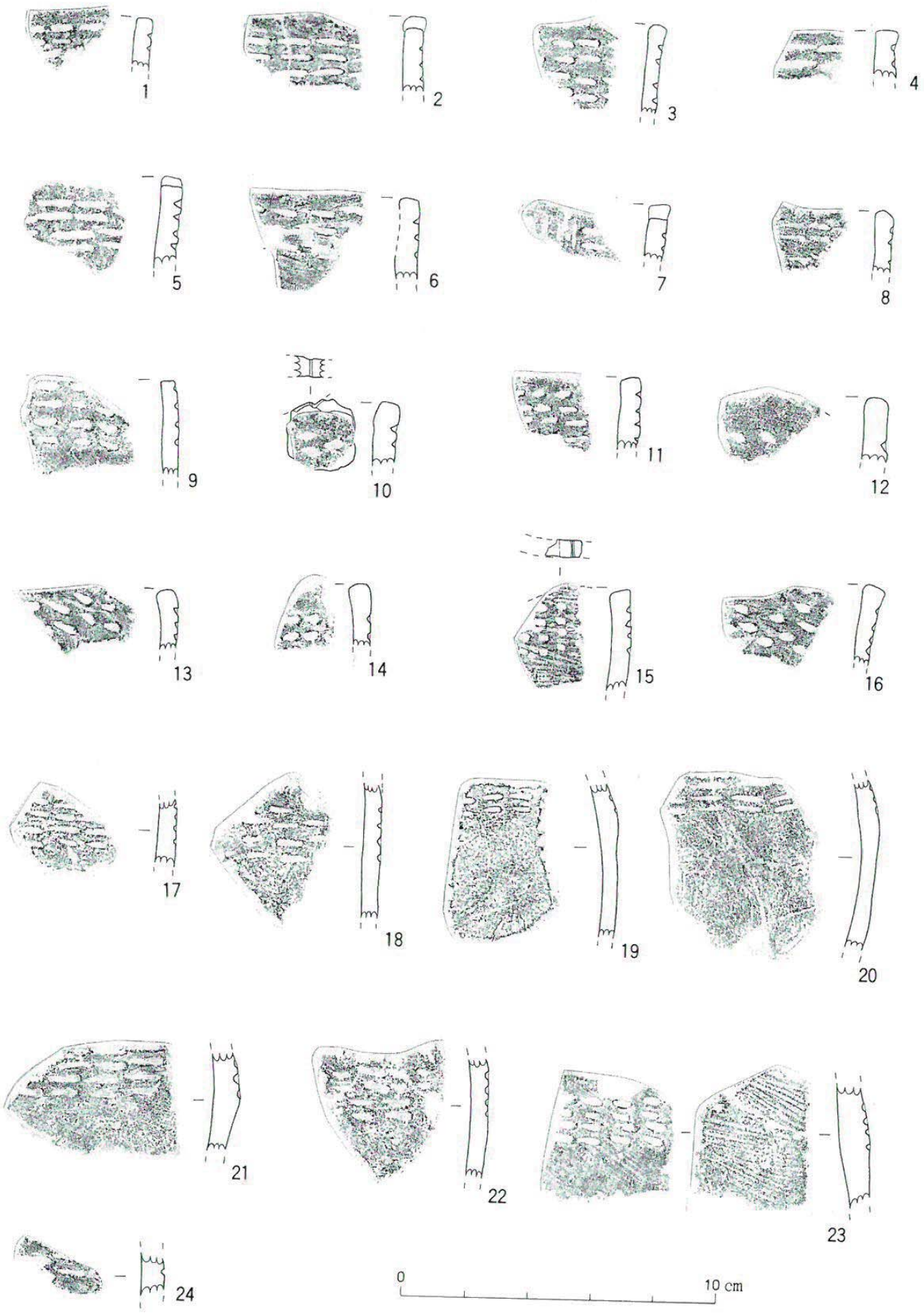
第15図　伊波式土器実測図・拓影・5



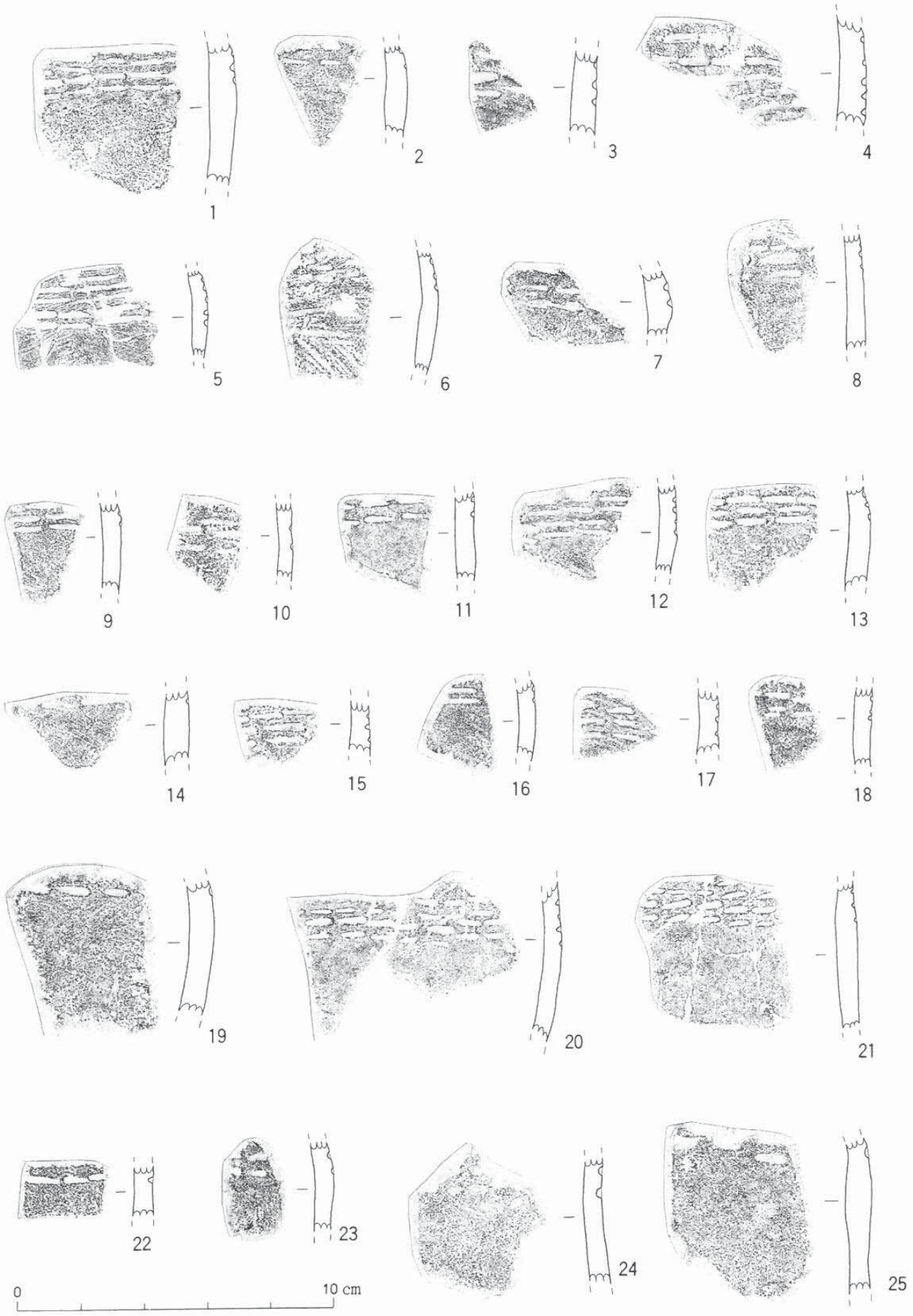
第16図　伊波式土器実測図・拓影・6



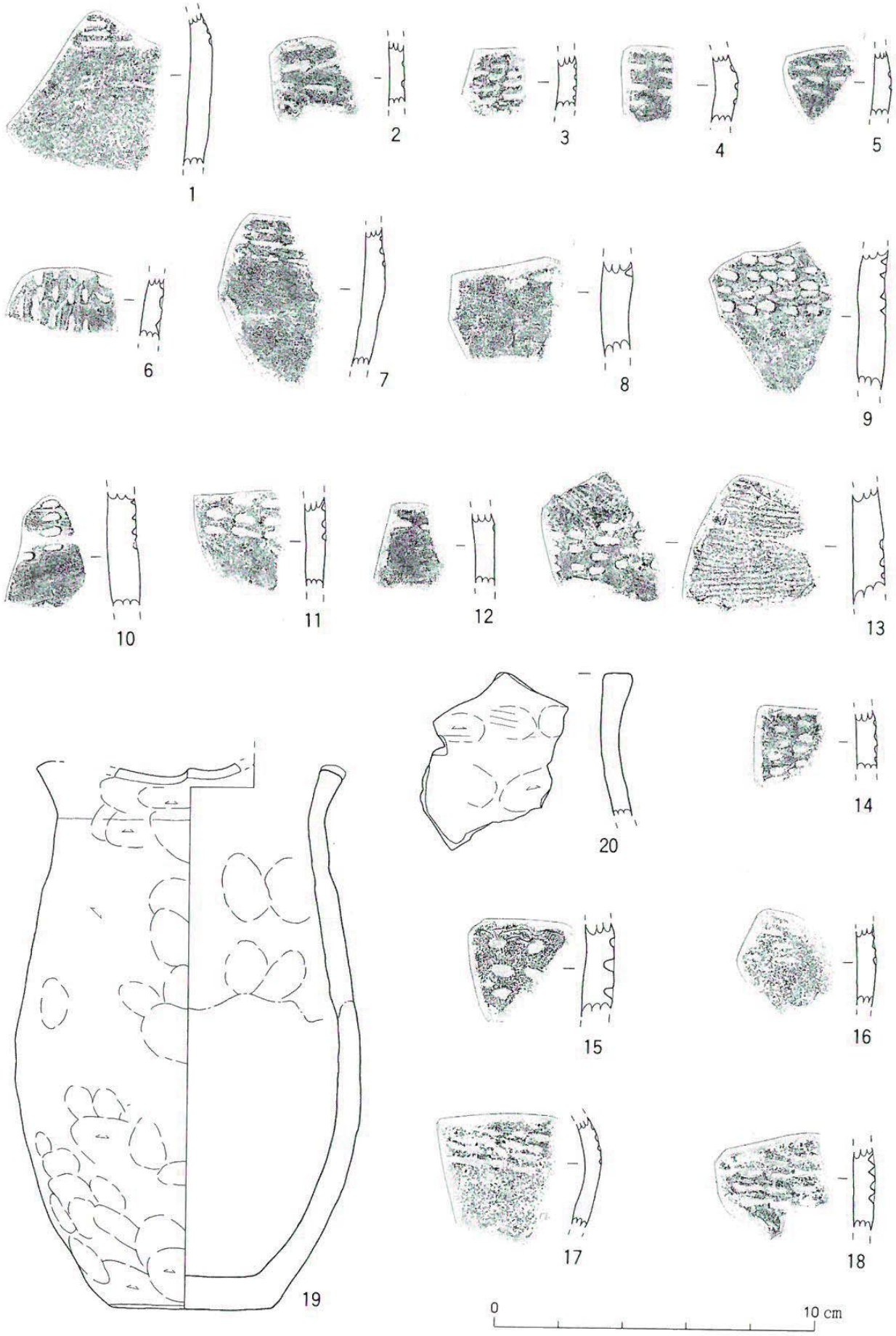
第17図　伊波式土器実測図・拓影・7



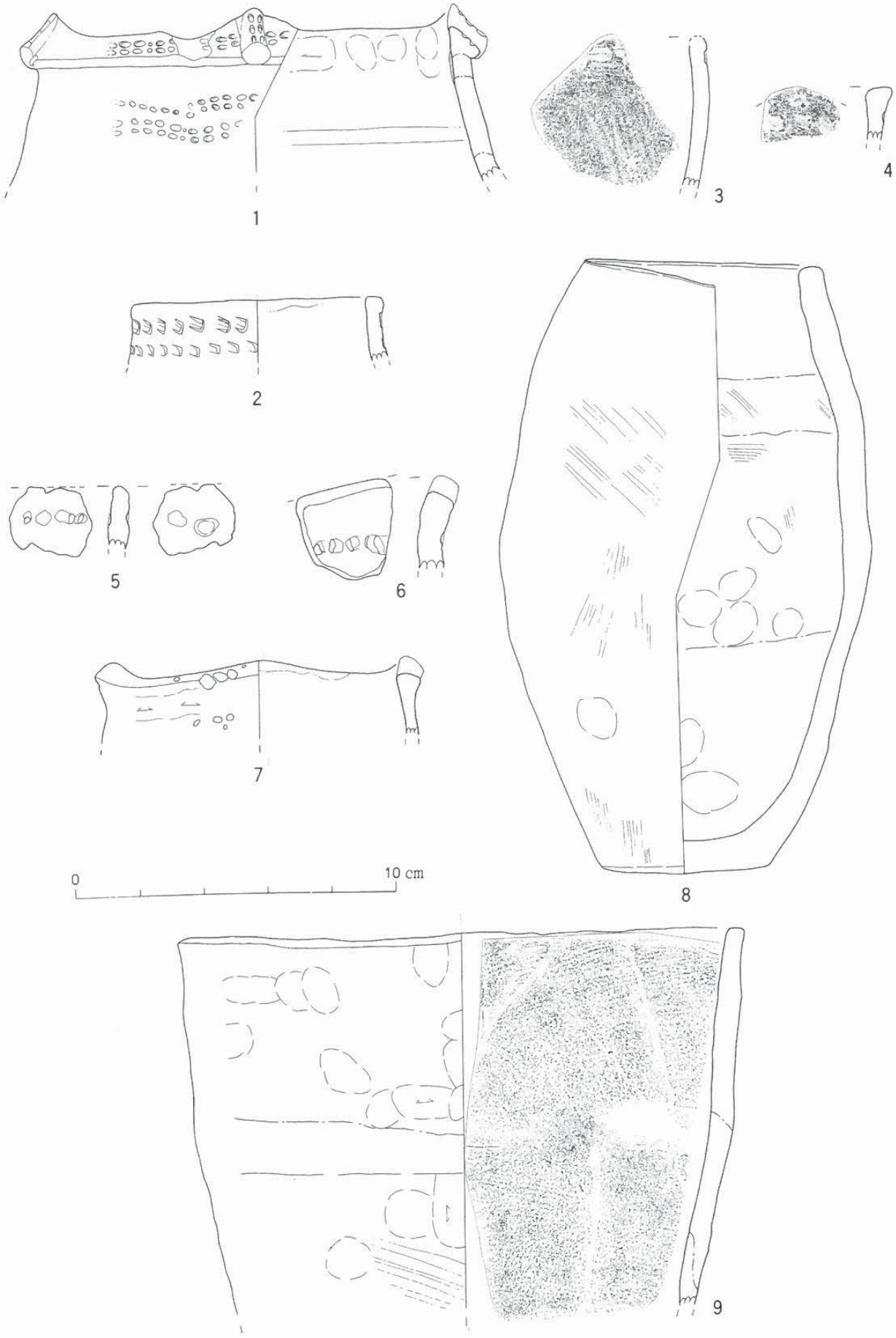
第18図　伊波式土器実測図・拓影・8



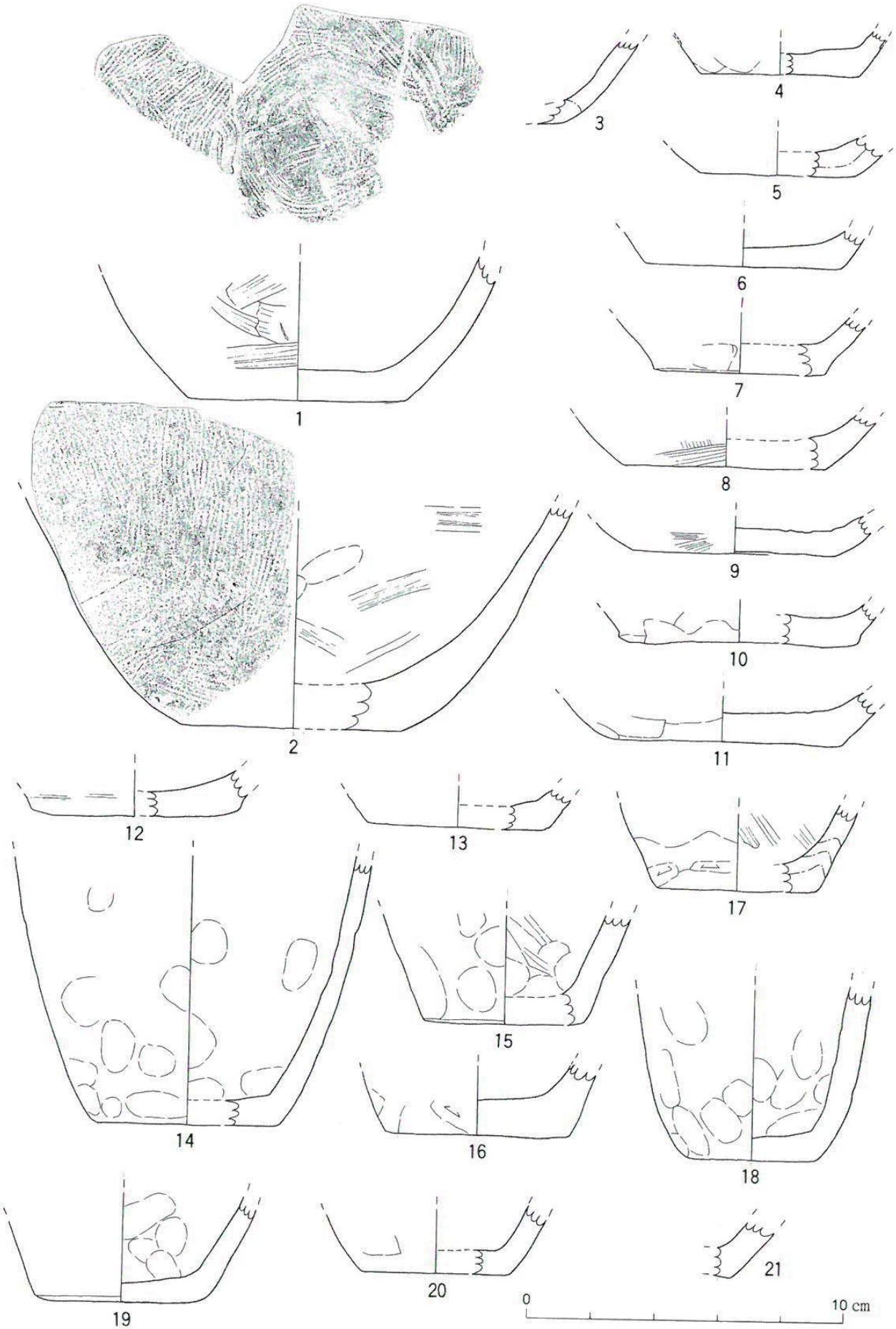
第19図　伊波式土器実測図・拓影・9



第20図　伊波式土器実測図・拓影・10



第21図　前期の有文土器(1)，大山式 (2～4)，室川式 (5･6)，室川上層期の土器(7)，無文土器 (8･9) 実測図・拓影



第22図　伊波武土器・他底部実測図

て用いており，器面はポーラスを呈する。口径は10.4cmで，山形口縁になる。壺形であろうか。

Ⅶ群　無文土器

第21図８・９である。同図８は，ほぼ完形品の土器で，口径11cmを測る。口縁部が内彎し，胴部が張る器形である。やや雑なつくりである。同図９は口径が17.9cmで，口縁部がやや「ハ」の字状に開く器形である。内面は，擦痕が明瞭に残る。いずれも胎土などから，前期の土器であると考えられる。

底部資料（第22図，図版25）

平底のみで，伊波式に含まれるものであると思われる。底径は，５～７cmのものが多い。これらは，その形態的特徴から底部の立ち上がりがルーズな一群（Ⅰ類）とストレートに立ち上がる一群（Ⅱ類）に大別される。Ⅰ類は１～20，Ⅱ類は21～31である。同図２は丸底を平底に成形した感があり，特異なものである。同図18は，かなりストレートに立ち上がるもので，大きさからみて，小型の土器であると思われる。器面調整は，内底面，胴下部に擦痕や条痕を残し，外底面は丁寧なナデにより，器面はかなり滑らかである。

３．後期系土器

後期系土器は，5,817 点の出土がある。これらを大別すると，前述のとおり大原第二貝塚Ｃ地点で出土した下層タイプと上層タイプに細分可能である。大原第二貝塚Ｃ地点では，下層タイプは鉱物を多く含み，外面は平滑であるが内面は指頭痕が明瞭であるとし，上層タイプは薄手で，雑な仕上げであるとしている。今回は両者が混在しており，出土状況等による層位関係は把握できなかった。両者の量的出土状況は，後者が主体をなす。ここでは前者をⅠ類，後者をⅡ類として扱う。

Ⅰ類：第23図である。出土量は10点と少なく，口縁部，胴部のみである。全形を窺えるものが出土していないため，どのような器形になるのかは不明である。確認できる器種は甕形のみである。口縁部が外反するタイプと，直口するタイプがある。胎土は砂質で，焼成は普通である。混和材として石灰質微砂粒や鉱物質微砂粒（長石？，角閃石？）を含む。器面調整は，外面は丁寧なナデを施すが，内面には指頭痕を明瞭に残す。

Ⅱ類：出土した後期土器のほとんどを占める。第24図～第27図である。器種は甕形が主体をなし，鉢形，壺形が若干含まれる。主体をなす甕形には，口縁部が内彎するタイプ（Ａ種），直口するタイプ（Ｂ種），外反するタイプ（Ｃ種）がある。器形は，胴部の張るものが多いようである。壺形は，無頸のタイプ（Ａ種），有頸のタイプ（Ｂ種）に分けられる。ほとんどが無文土器で，浮文（Ａ種）や沈線文（Ｂ種）を施した有文土器は少ない。

全体的に器面調整は粗く，土器形成の際の指頭痕を明瞭に残すものが多い。焼成は比較的良好で，薄手で堅緻な土器もみられる。胎土は泥質で，混和材として石灰質砂粒および微砂粒，鉱物質微砂粒（長石？，角閃石？），褐色粒，石英を用いている。

甕形

A種：第24図１～10である。小破片のみで，全形を窺うことはできないが，胴部はあまり張らないようでる。

B種：第24図11～16，第25図，第26図１～６である。口縁部が緩く外反し，胴部がやや張るタイプ（第24図11～16，第25図）と，ストレートに立ち上がり，口縁部が外反するタイプ（第26図１～６）に分けられる。第25図５，８は全形の窺える資料である。いずれも，最大径は胴上部付近にある。

C種：第26図９～13，第27図１～５である。開く器形が多いようであるが，第27図11は，口縁部が直立し，外反は弱い。内外面ともハケ目状調整が明瞭である。

鉢形

第27図６～10で，５点と少ない。図上復元を行ったものからみると，小振りの器形となる。同図７は，口径が11.4cm，同図10は12.5cmである。口縁部が直口するものと緩く外反するものがみられる。

壺形

第27図11～20である。無頸の壺（A種）が多くみられる。復元したものからする限り，ナデ肩を示すようである。

A種：第27図11～13である。口縁部が直立するものと，外反するものがある。いずれもナデ肩の器形になるものと思われる。

B種：第27図14～20である。明確に確認できるものは，同図10のみである。これは短頸の壺で，ナデ肩になっている。

有文土器

第28図１～11である。浮文が５点（第28図１～５），沈線が６点（第28図６～11）あるが，いずれも小片のため，全体の文様構成を窺うことはできない。

底部資料

第28図12～33である。尖底（A種），乳房状尖底（B種），平底（C種），くびれ平底（D種），脚台（E種）がある。尖底が主体である。

A種：第28図12～26である。いずれも胴部へ向けてルーズに開く底部である。底厚は1cm前後のものが多く，底面をやや膨らませたように形成し，乳房状尖底に似たもの（同図14，22）もある。

B種：第28図27の1点のみである。残存資料からして，当該種に含まれるものと思われるが，胎土からすればⅡ類に含まれる可能性もある。

C種：第28図28の1点のみである。底径は3.3cmと径の小さい平底で，底厚は2cmと厚い。底の厚い尖底を押しつぶし，平坦にした感じである。

D種：第28図29～32である。くびれ部の目立たないものと，やや明瞭なものがある。

E種：第28図33の1点のみである。小型の中空の脚台である。

4．土器収束

以上に簡述してきたことが，今回の発掘調査により出土した土器である。1971年の調査（知念：1976）では後期に属する土器のみの出土であったが，今回はⅢ層より伊波式を主体とした前・中期系土器が多数出土している。前・中期系土器の出土したⅢ層は，一部に撹乱が入っているものの，時期的には前期に属するものと考えてよいであろう。Ⅰ層は，後期系土器を中心に出土することから，当該期に属するようである。

出土土器のなかで出土量の最も多い伊波式土器は，文様のヴァリエーションも豊富で，これまでにはみられなかった文様もあった。なかには綾杉文が主体となり，いわゆる奄美系の土器にみられるような文様が展開する土器もみられた。一般に，伊波式土器は口径が胴の最大径よりも大きくなるが，今回出土した伊波式土器には口径と胴の最大径がほぼ等しく，荻堂式土器の特徴に近い器形のものもみられた。完形品に近いものが2点出土しており，口径，器高，底径の割合は，これまでに出土しているものと一致すると言えよう。

伊波式土器以外の前・中期系土器は極少であるが，今回1点のみ出土した前期に属するものと思われる有文土器は，奄美系の土器にも類似する。

後期土系器はⅠ類，Ⅱ類に細分でき，後者が圧倒的多数を占める。Ⅰ類は小片のみで，器形が窺える土器は皆無であった。Ⅱ類にはいくつかの復元可能な土器があり，これらから器形を推すると，甕形は胴部が張るもの，壷形は無頸のものが多いようである。底部は，尖底がもっとも多い。くびれ平底もわずかに出土しているものの，明確に平底といえるものは出土していない。また，無文化も著しく，有文土器はわずかに11点のみである。尖底が多く，無文化が著しいことなどからみると，Ⅱ類は高宮廣衛氏提唱の暫定編年後Ⅱ期（具志原式期）に属するものと思わ
れる。中空の脚台が1点出土したことも特筆できることの一つと言えよう。

第7表　前・中期土器観察表・6

挿図番号	グリッド 出土層	型式	器種	法量	混和材	色調	器面調整	その他 (文様分類，焼成など)
第21図8	F-3・4：Ⅰ E-3・4：Ⅰ E-3：撹乱 E-3：Ⅱ	無文土器	深鉢	口径11.0cm 器高19.5cm 底径5.3cm	石灰，鉱物 石英，褐色	内外：褐色	外：ナデ 内：ナデ？	平口縁。胴が張る。
〃 9	C－3：Ⅲa	〃	〃	口径17.9cm	石灰，褐色粒 (多)	外：暗褐色 内：明褐色	外：擦痕，ナデ 内：条痕が明瞭	直行平口縁。やや脆い。
第22図1	C－5：Ⅰ D－7：Ⅰ	前期土器	－	底径7.0cm 底厚1.0cm	石灰（目立たない）	外：明褐色 内：淡暗褐色	内外：条痕をナデる	Ⅰ類
〃 2	F－5：Ⅲ	〃	－	底径7.1cm 底厚1.5cm	石灰，鉱物 褐色粒	外：褐色 内：明褐色	外：条痕を一部ナデる 内：条痕？	Ⅰ類。丸底を平底にした感じ。やや脆い。
〃 3	E－7：Ⅲ	〃	－	－	石灰，褐色粒	外：黒褐色 内：褐色	内外：ナデ	Ⅰ類
〃 4	F－5：Ⅲ	〃	－	底径5.1cm 底厚0.7cm	石灰，鉱物	外：暗灰褐色 内：褐色	外：ナデ？ 内：条痕が残る	Ⅰ類
〃 5	E－7：Ⅲ	〃	－	底径5.0cm 底厚0.9cm	石　灰	内外：明褐色	外：ナデ 内：？	Ⅰ類
〃 6	B－6：Ⅲ	〃	－	底径6.3cm 底厚0.7cm	石灰，鉱物	外：褐色 内：灰褐色	内外：ナデ	Ⅰ類
〃 7	E－6：Ⅲa	〃	－	底径5.5cm 底厚1.0cm	石灰，褐色	内外：灰褐色	外：条痕をナデる 内：ナデ	Ⅰ類
〃 8	D－5：Ⅱ	〃	－	底径6.5cm 底厚1.0cm	石灰，鉱物	内外：暗褐色	〃	Ⅰ類
〃 9	E-3：Ⅲ E-6：Ⅲa E-7：Ⅲa	〃	－	底径6.5cm 底厚0.8cm	石灰，鉱物 褐色粒	外：褐色 内：灰褐色	外：条痕 外底，内：ナデ	Ⅰ類
〃 10	E－6：Ⅲb	〃	－	底径7.7cm 底厚1.0cm	石灰，鉱物	外：褐色 内：淡灰褐色	外：条痕 外底：ナデ 内：？	Ⅰ類
〃 11	C－5：Ⅰ E－6：Ⅲa D－5：Ⅱ	〃	－	底径7.5cm 底厚0.9cm	石灰，鉱物 褐色粒	内外：褐色	外：条痕をナデる 外底：ナデ 内：？	Ⅰ類
〃 12	表採	〃	－	底径6.7cm 底厚0.8cm	〃	内外：褐色	外底：ナデ 内：？	Ⅰ類
〃 13	C－3：Ⅰb	〃	－	底径5.8cm 底厚0.9cm	石灰，褐色 粒	外：灰褐色 内：褐色	外：ナデ 内：？	Ⅰ類
〃 14	E-5：Ⅲ E-6：Ⅲb E-7：Ⅲa E-5：Ⅲa	〃	－	底径5.7cm 底厚0.7cm	石灰，鉱物 褐色粒	内外：暗灰褐色	内外：指押さえの後ナデ仕上げ	Ⅱ類
〃 15	D－8：Ⅰ	〃	－	底径5.2cm 底厚1.0cm	石灰（目立たない）	外：暗褐色 内：黒褐色	外：擦痕？ 内：指押さえ	Ⅱ類
〃 16	D－10：Ⅰ	〃	－	底径5.9cm 底厚1.2cm	石灰，鉱物 褐色粒	外：暗褐色 内：褐色	外：指押さえ 内：ナデ？	Ⅱ類
〃 17	E－5：Ⅲa	〃	－	底径5.2cm 底厚0.9cm	石灰，鉱物	〃	外：ナデ 内：条痕	Ⅱ類
〃 18	F－4：Ⅲ F－5：Ⅲa	〃	－	底径4.7cm 底厚0.7cm	〃	内外：褐色	内外：指押さえののちナデ	Ⅱ類。小型土器の底部？
〃 19	E－6：Ⅲb D－5：Ⅳ	〃	－	底径4.8cm 底厚0.6cm	石灰，鉱物 褐色粒	外：暗褐色 内：褐色	内外：ナデ	Ⅱ類
〃 20	E－6：Ⅲb	〃	－	底径5.6cm 底厚0.8cm	石灰（目立たない）	内外：暗灰褐色	〃	Ⅱ類
〃 21	C－4：Ⅱ	〃	－	－	石灰，鉱物 褐色粒	外：淡暗褐色 内：淡褐色	〃	Ⅱ類

第８表　後期系土器観察表・１

挿図番号	グリッド 出土層	型式	器種	法量	混和材	色調	器面調整	その他 （文様分類，焼成など）
第23図１	E－３：Ⅰ・Ⅰa	後期Ⅰ類		－	石灰，鉱物	外：暗褐色 内：褐色	外：ナデ 内：指押さえ	「ハ」の字に開く器形。
〃　２	D－３：Ⅰ	〃	〃	－	〃	外：褐色 内：淡褐色	〃	口縁部が直行する器形。
〃　３	E－３：Ⅰ	〃	〃	－	〃	外：暗褐色 内：褐色	〃	口縁部が直行する器形。
〃　４	B－４：Ⅱ	〃	〃	－	〃	内外：淡暗褐色	内外：？	口縁部が直行する器形。
〃　５	C－13：Ⅰ	〃	〃	－	〃	内外：暗褐色	内外：ナデ	外反口縁
〃　６	？	〃	〃	－	〃	外：暗褐色 内：褐色	〃	外反口縁
〃　７	E－３：Ⅰ	〃	〃	－	〃	外：黒褐色 内：暗褐色	外：ナデ 内：指押さえ	外反口縁
〃　８	D－３：Ⅰ	〃	〃	－	〃	外：褐色 内：灰褐色	〃	ゆるく外反。
〃　９	C－５：Ⅰ	〃	〃	－	石灰，鉱物 褐色粒	内外：暗灰褐色	内外：ナデ	外反。
第24図１	D－９：Ⅰ	後期Ⅱ類	〃	－	石灰，鉱物 石英，褐色粒	〃	内外：雑なナデ	A。平口縁
〃　２	C－４：Ⅰ	〃	〃	－	石灰，鉱物 褐色粒	内外：淡褐色	〃	A。口唇部は内から外へ，ナデ返す。
〃　３	F－４：Ⅰ	〃	〃	－	〃	内外：暗褐色	内外：指押さえ ののちナデ？	A
〃　４	D－９：Ⅰ	〃	〃	－	〃	外：灰褐色 内：褐色	外：？ 内：ハケ目状	A。ハケ目状の単位は不明
〃　５	D－４：Ⅰ	〃	〃	－	石灰，褐色 粒（多）	外：暗褐色 内：灰褐色	外：指押さえ 内：？	A
〃　６	F－５：Ⅰ	〃	〃	－	〃	外：黒褐色 内：灰褐色	内外：指押さえ ののちナデ	A。薄手で堅緻。
〃　７	D－11：Ⅰ	〃	〃	－	石灰（目立 たない）	内外：淡黄褐色	内外：指押さえ	A
〃　８	D－９：Ⅰ	〃	〃	－	褐色粒	内外：淡褐色	〃	A
〃　９	F－４：Ⅰ	〃	〃	－	石灰，鉱物 褐色粒	外：淡褐色 内：淡灰褐色	〃	A
〃　10	D－４：Ⅰ	〃	〃	－	〃	内外：暗褐色	外：指押さえ 内：ハケ目状	A。調整痕明瞭。ハケ目状の単位は不明。
〃　11	D－９：Ⅰ	〃	〃	－	石灰，鉱物	外：淡暗褐色 内：淡灰褐色	外：指押さえ 内：擦痕	B。内外とも調整痕が明瞭
〃　12	F－５：Ⅰ	〃	〃	－	石灰，鉱物 褐色粒	内外：淡褐色	内外：指押さえ （不明瞭）	B
〃　13	C－９：Ⅰ	〃	〃	－	褐色粒（目 立たない）	内外：淡明褐色	外：指押さえ 内：？	B
〃　14	C－４：Ⅰa	〃	〃	－	石灰（目立 たない）	外：暗褐色 内：褐色	内外：指押さえ ののちナデ	B。やや外反が強い。薄手
〃　15	F－４：Ⅰ	〃	〃	－	石灰，鉱物 褐色粒，石英	内外：淡褐色	〃	B。薄手でやや堅緻。
〃　16	D－９：Ⅰ	〃	〃	－	石灰，鉱物 褐色，粒(多)	〃	内外：指押さえ	B。口縁部をやや厚く成形
第25図１	E－７：Ⅰ	〃	〃	－	石灰，鉱物 褐色粒	外：淡暗褐色 内：淡黒褐色	〃	B
〃　２	D－９：Ⅰ	〃	〃	－	石灰（目立 たない）	内外：灰褐色	外：ナデおよび 擦痕 内：擦痕	B
〃　３	D－10：Ⅰ	〃	〃	－	石灰，鉱物 褐色粒	内外：褐色	内外：指押さえ	B。口縁が張り出す。

第9表　後期系土器観察表・2

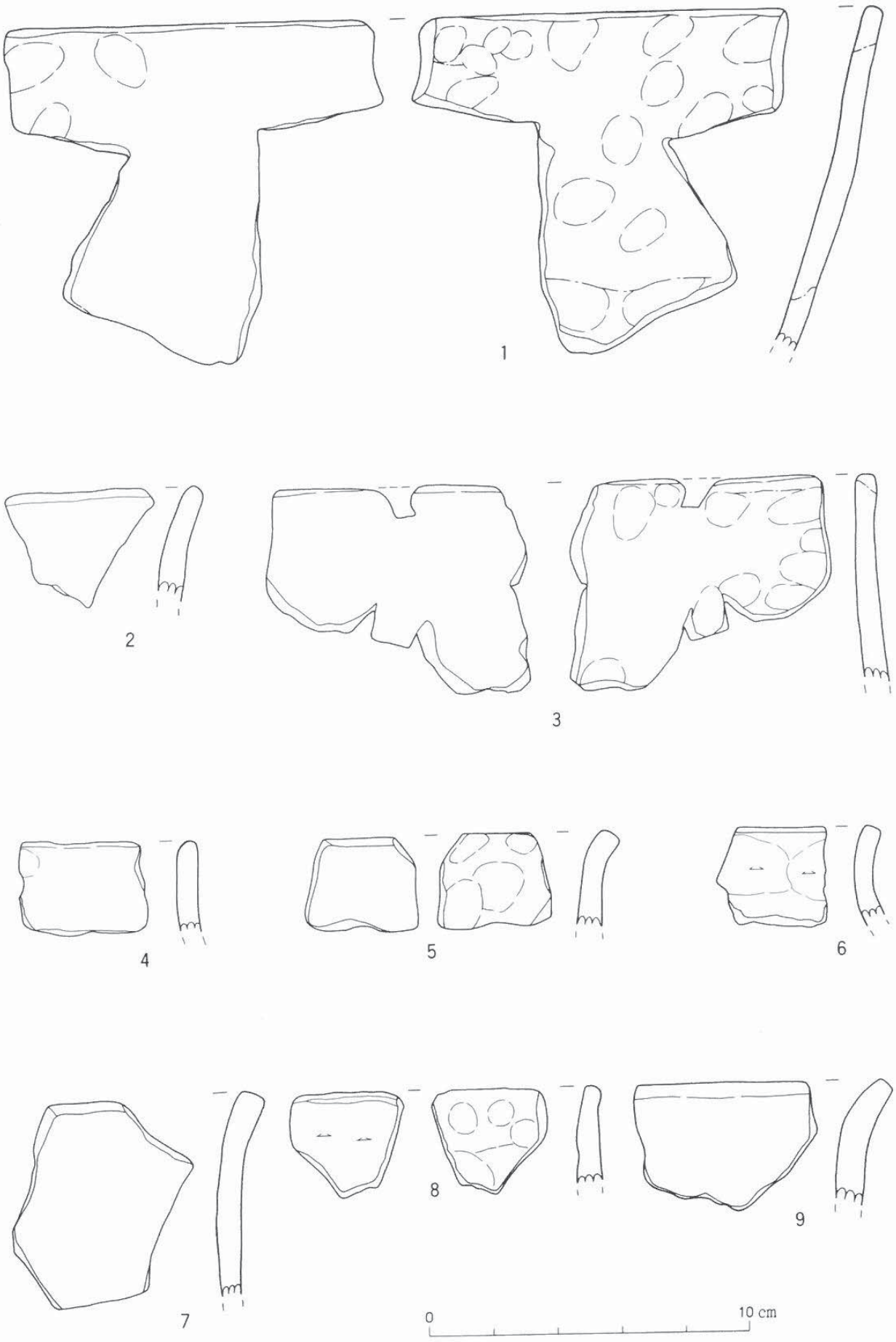
挿図番号	グリッド 出土層	型式	器種	法量	混和材	色調	器面調整	その他 (文様分類，焼成など)
第25図4	C－9：Ⅰb	後期Ⅱ類		－	石灰，褐色粒	内外：淡暗褐色	内外：指押さえ	B
〃 5	D－9：Ⅰ	〃	〃	口径16.7cm	〃	外：褐色 内：明褐色	内外：指押さえおよびナデ	B
〃 6	F－9：Ⅰa	〃	〃	－	〃	外：淡褐色 内：暗褐色	外：ナデ？ 内：指押さえおよびナデ	B。やや脆い。
〃 7	F－3：Ⅰ	〃	〃	－	石灰，鉱物褐色粒	外：灰褐色 内：明褐色	内外：ナデ	B
〃 8	D－4：Ⅰa D－4：Ⅰ	〃	〃	口径18.9cm	石灰，褐色粒	外：暗褐色 内：灰褐色	外：指押さえおよびナデ 内：口縁部ナデ胴部ハケ目状	B。わずかに外反。調整は明瞭であるが雑。脆い。
〃 9	C－4：Ⅰ	〃	〃	－	石灰，褐色粒	外：灰褐色 内：淡褐色	内外：ナデ	B
〃 10	E－6：Ⅰ	〃	〃	－	石灰，褐色粒(目立たず)	外：淡黒褐色 内：淡黄褐色	外：指押さえ？ 内：ハケ目状	B。ハケ目状の単位は不明脆い。
第26図1	C－4：Ⅰa	〃	〃	－	石灰（目立たない）	外：淡暗褐色 内：淡褐色	内外：指押さえ	B。厚手。やや「ハ」の字に開く器形。
〃 2	F－4：Ⅰ	〃	〃	－	〃	外：黒褐色 内：明褐色	外：指押さえおよび擦痕？ 内：指押さえ	B。薄手で堅緻。
〃 3	F－6：Ⅰ	〃	〃	－	〃	内外：淡褐色	外：ナデ 内：指押さえ	B。口縁を厚くする。「ハ」の字に開く器形。
〃 4	D－9：Ⅰ	〃	〃	－	〃	外：黒褐色 内：淡暗褐色	外：ナデ 内：ハケ目状	B。薄手で堅緻。
〃 5	F－5：Ⅰ	〃	〃	－	石灰(多)，褐色粒	外：暗褐色 内：淡暗褐色	外：指押さえ 内：ナデ，ハケ目状？	B
〃 6	D－4：Ⅱ	〃	〃	－	石　灰	外：黒褐色 内：灰褐色	外：指押さえ 内：ハケ目状？	B
〃 7	D－5：Ⅱ	〃	〃	－	石灰，鉱物褐色粒	外：暗褐色 内：暗黄褐色	外：指押さえ 内：ナデ？	C。波状口縁？。薄手でやや堅緻。
〃 8	C－5：Ⅰ	〃	〃	－	石灰，褐色粒(目立たず)	内外：淡暗褐色	外：ナデ 内：口縁部ナデ胴部ハケ目状？	C。薄手。
〃 9	E－4：Ⅰ	〃	〃	－	石灰，褐色粒(目立たず)	内外：灰褐色	内外：指押さえ	C。口唇部は外から内へなで返す。
〃 10	D－3：Ⅰ	〃	〃	－	褐色粒(多)，石灰	内外：淡暗褐色	内外：ナデ	C
〃 11	F－4：Ⅰb	〃	〃	口径15.9cm	石灰，鉱物	外：淡褐色 内：黒褐色	外：ナデおよびハケ目状 内：ハケ目状	C。薄手でやや堅緻。内面の調整痕は明瞭。
〃 12	F－3：Ⅰ	〃	〃	－	石灰，褐色粒	外：褐色 内：灰褐色	内外：ナデ	C
〃 13	〃	〃	〃	－	石灰，鉱物褐色粒	内外：灰褐色	〃	C
第27図1	D－9：Ⅰ	〃	〃	口径12.6cm	石灰，鉱物褐色粒	内外：明褐色	外：ナデ 内：口縁部ナデ胴部ハケ目状	C。薄手でやや堅緻。
〃 2	F－5：Ⅰ	〃	〃	－	石灰,褐色粒	内外：暗褐色	〃	C。薄手。
〃 3	C－4：Ⅰ	〃	鉢	－	石灰,褐色粒	外：暗灰褐色 内：褐色	内外：ナデ	C。薄手でやや堅緻。
〃 4	C－6：Ⅱ	〃	〃	－	石灰（目立たない）	外；褐色 内：灰褐色	内外：指押さえ	C。薄手で堅緻。
〃 5	C－4：Ⅰa	〃	〃	－	〃	〃	〃	C。堅緻。

第10表　後期系土器観察表・3

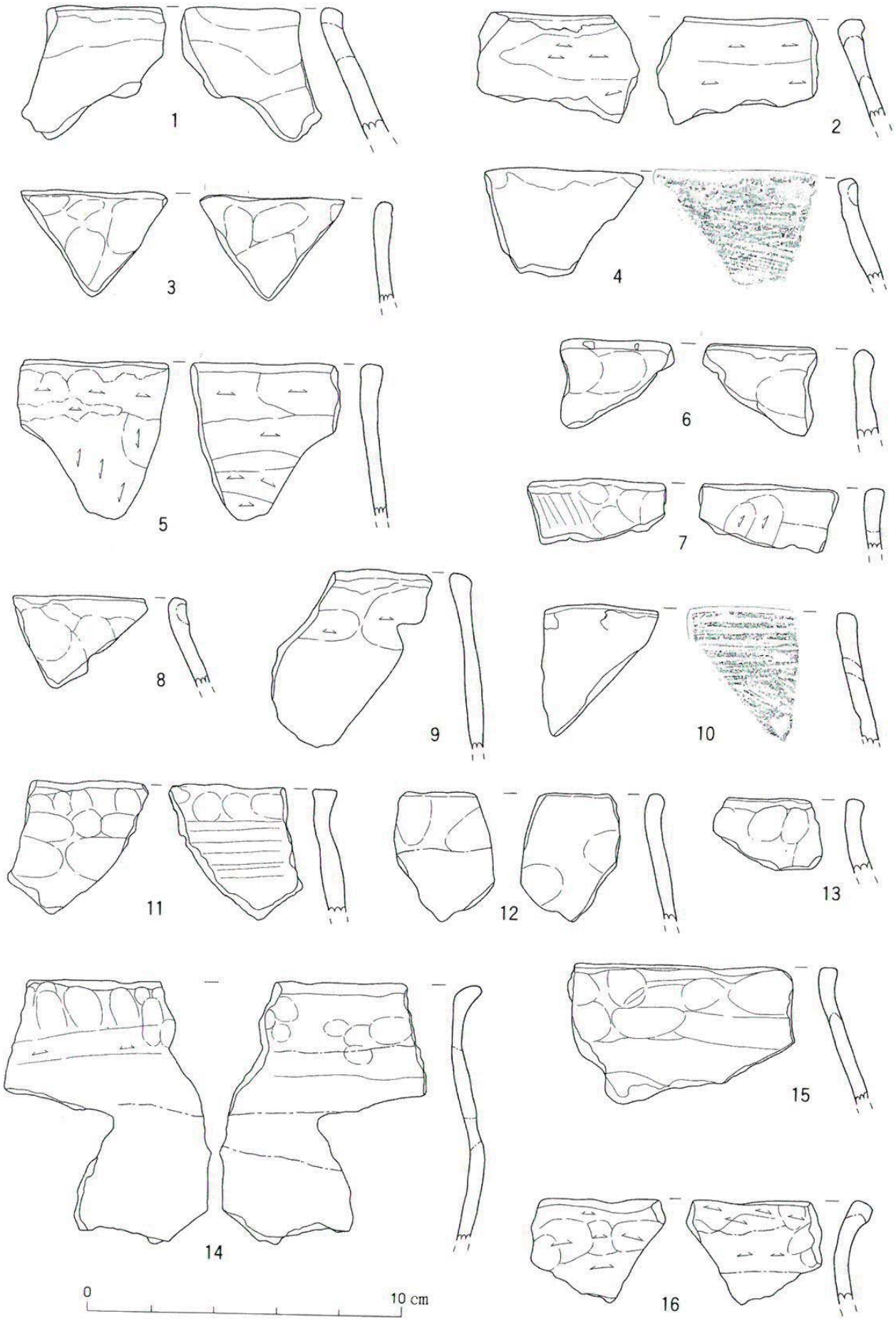
挿図番号	グリッド 出土層	型式	器種	法量	混和材	色調	器面調整	その他 (文様分類，焼成など)
第27図6	B－4：Ⅰ・Ⅱ C－4：Ⅰ	後期Ⅱ類	鉢	－	石灰，鉱物	内外：黒褐色	外：ナデ 内：擦痕？	やや堅緻。
〃 7	C－9：Ⅱ	〃	〃	－	石灰，鉱物 (目立たず)	内外：淡褐色	外：ナデ？ 内：指押さえ	
〃 8	C－3：Ⅰa	〃	〃	－	〃	外：暗褐色 内：褐色	外：指押さえお よびナデ 内：ハケ目状	堅緻。
〃 9	D－5：Ⅱ	〃	〃	口径11.4cm	石灰，褐色粒	外：灰褐色 内：淡褐色	内外：ナデ？	やや深い鉢。口縁部を厚くする。
〃 10	F－5：Ⅰ	〃	〃	口径12.5cm	〃	外：淡黒褐色 内：淡明褐色	外：指押さえ 内：擦痕？	やや深い鉢。口縁部外反。
〃 11	E－9：Ⅰ	〃	壷	口径5.8cm	石灰（目立たない）	内外：褐色	内外：ナデ	A
〃 12	F－4：撹乱	〃	〃	口径3.2cm	鉱物（目立たない）	内外：淡褐色	〃	A
〃 13	D－3：Ⅰb	〃	〃	－	石灰，鉱物 (目立たず)	外：褐色 内：淡暗褐色	外：ナデ 内：ハケ目状	A
〃 14	D－8：Ⅰ	〃	〃	口径5.8cm	石灰（目立たない）	外：淡黄褐色 内：淡褐色	外：ナデ 内：指押さえ	A。脆い。
〃 15	D－4：Ⅰ	〃	〃	－	石　灰	内外：淡暗褐色	？	A
〃 16	不　明	〃	〃	－	石灰（目立たない）	内外：淡褐色	内外：ナデ	A
〃 17	F－4：Ⅰ	〃	〃	口径6.0cm	〃	内外：淡暗褐色	〃	B？
〃 18	C－8：Ⅳ	〃	〃	－	〃	内外：淡灰褐色	〃	B？
〃 19	E－3：Ⅰa	〃	〃	－	鉱物（目立たない）	〃	内外：指押さえ	B？
〃 20	F－6：Ⅰ	〃	〃	－	石灰，鉱物	内外：明褐色	内外：ナデ	B
第28図1	F－3：Ⅰ	〃	甕	－	石灰，鉱物 石英，褐色粒	内外：淡明褐色	〃	A。逆「V」字状の突帯。
〃 2	C－4：Ⅰ	〃	〃	－	石灰，鉱物 褐色粒	内外：明褐色	〃	A
〃 3	C－4：Ⅰb	〃	〃	－	〃	外：褐色 内：灰褐色	外：ナデ 内：指押さえ	A
〃 4	B－3：Ⅰ	〃	〃	－	石灰，鉱物	外：淡黄褐色 内：褐色	外：ナデ 内：指押さえ	A
〃 5	B－6：Ⅲ	〃	〃	－	石灰，鉱物 (目立たず)	外：褐色 内：灰褐色	外：ナデ 内：？	A
〃 6	D－12：Ⅰ	〃	〃	－	褐色粒（目立たない）	内外：淡灰褐色	外：？ 内：ナデ？	B。口唇部に刻目。
〃 7	C－4：Ⅰb	〃	〃	－	〃	内外：淡黄褐色	外：ナデ 内：？	B。口唇部に刻目。口縁部に細沈線。
〃 8	不　明	〃	〃	－	石灰，褐色粒 (目立たず)	内外：褐色	内外：ナデ	B。口唇部に刻目。口縁部に「T」状の細沈線。
〃 9	F－3：Ⅰ	〃	〃	－	褐色粒（目立たない）	〃	外：？ 内：ナデ	B。口縁部に「T」字状の細沈線。
〃 10	C－4：Ⅰa	〃	〃	－	石灰（目立たない）	内外：暗灰褐色	外：ナデ 内：擦痕	B。胴部に細沈線。
〃 11	F－3：Ⅰ	〃	〃	－	褐色粒	外：黄褐色 内：明褐色	外：？ 内：ナデ	B。胴部に「＊」状の細沈線。
〃 12	C－3：Ⅰ	〃	－	底厚1.2cm	石灰，鉱物 褐色粒	内外：淡暗褐色	内外：ナデ	A
〃 13	F－3：Ⅰ	〃	－	底厚0.9cm	石灰，褐色粒	外：褐色 内：灰褐色	外：？ 内：ナデ	A

第11表　後期系土器観察表・4

挿図番号	グリッド 出土層	型式	器種	法量	混和材	色調	器面調整	その他 (文様分類，焼成など)
第28図14	F－3：Ⅰ	後期Ⅱ類	－	底厚1.5cm	石灰，褐色粒	内外：淡黄褐色	外：？ 内：ナデ	A。乳房状尖底に近い。
〃 15	D－8：Ⅰ	〃	－	底厚0.8cm	石　灰	内外：灰褐色	内外：？	A
〃 16	C－3：Ⅰa	〃	－	底厚0.9cm	石灰，褐色粒	内外：褐色	外：ナデ？ 内：？	A
〃 17	B－11：Ⅰ	〃	－	底厚1.0cm	褐色粒	内外：明褐色	内外：？	A
〃 18	B－3：Ⅰa	〃	－	底厚0.9cm	石灰，褐色粒(目立たず)	内外：暗褐色	外：指押さえ 内：擦痕？	A
〃 19	F－6：Ⅰ	〃	－	底厚1.2cm	〃	外：暗褐色 内：灰褐色	外：指押さえ 内：擦痕	A。乳房状尖底に近い。
〃 20	F－4：Ⅰ	〃	－	底厚1.4cm	石灰（目立たない）	内外：淡暗褐色	内外：？	A
〃 21	D－8：Ⅰ	〃	－	底厚0.8cm	石灰，褐色粒	内外：淡褐色	外：？ 内：ナデ	A
〃 22	F－5：Ⅰ	〃	－	－	石灰，鉱物褐色粒	外：暗褐色 内：灰褐色	外：指押さえ 内：ナデ	A
〃 23	F－6：Ⅰ	〃	－	－	石灰（目立たない）	内外：淡黄褐色	外：？ 内：擦痕？	A
〃 24	C－9：Ⅰ	〃	－	－	石　灰	内外：淡褐色	外：？ 内：ハケ目状	A
〃 25	E－8：撹乱	〃	－	－	？	内外：暗灰褐色	内外：？	A。やや堅緻。
〃 26	C－9：Ⅰ	〃	－	－	石灰，褐色粒	内外：淡褐色	〃	A
〃 27	不　明	後期Ⅰ類？	－	－	石灰，鉱物褐色粒	外：明褐色 内：黒褐色	〃	B。外底面を押し上げる。
〃 28	E－5：Ⅰ	後期Ⅱ類	－	底径3.3cm 底厚2.0cm	石灰，褐色粒	外：褐色 内：暗灰褐色	外：指押さえ 内：？	C。底径の小さな平底。
〃 29	F－5：Ⅰ	〃	－	底径6.7cm	〃	内外：淡暗褐色	内外：？	D。くびれは明瞭ではない
〃 30	F－3：Ⅰ	〃	－	底径7.1cm 底厚0.6cm	石灰，鉱物褐色粒	内外：暗褐色	外：指押さえ 内：？	D
〃 31	D－8：Ⅰ	〃	－	底径5.6cm 底厚0.7cm	〃	外：淡褐色 内：灰褐色	内外：？	D。くびれは明瞭ではない
〃 32	不　明	〃	－	－	〃	外：淡灰褐色 内：黒褐色	外：ナデ 内：？	D
〃 33	F－3：Ⅰ	〃	－	底径4.9cm	石灰，褐色粒	内外：灰褐色	内外：ナデ	F。中空の脚台。

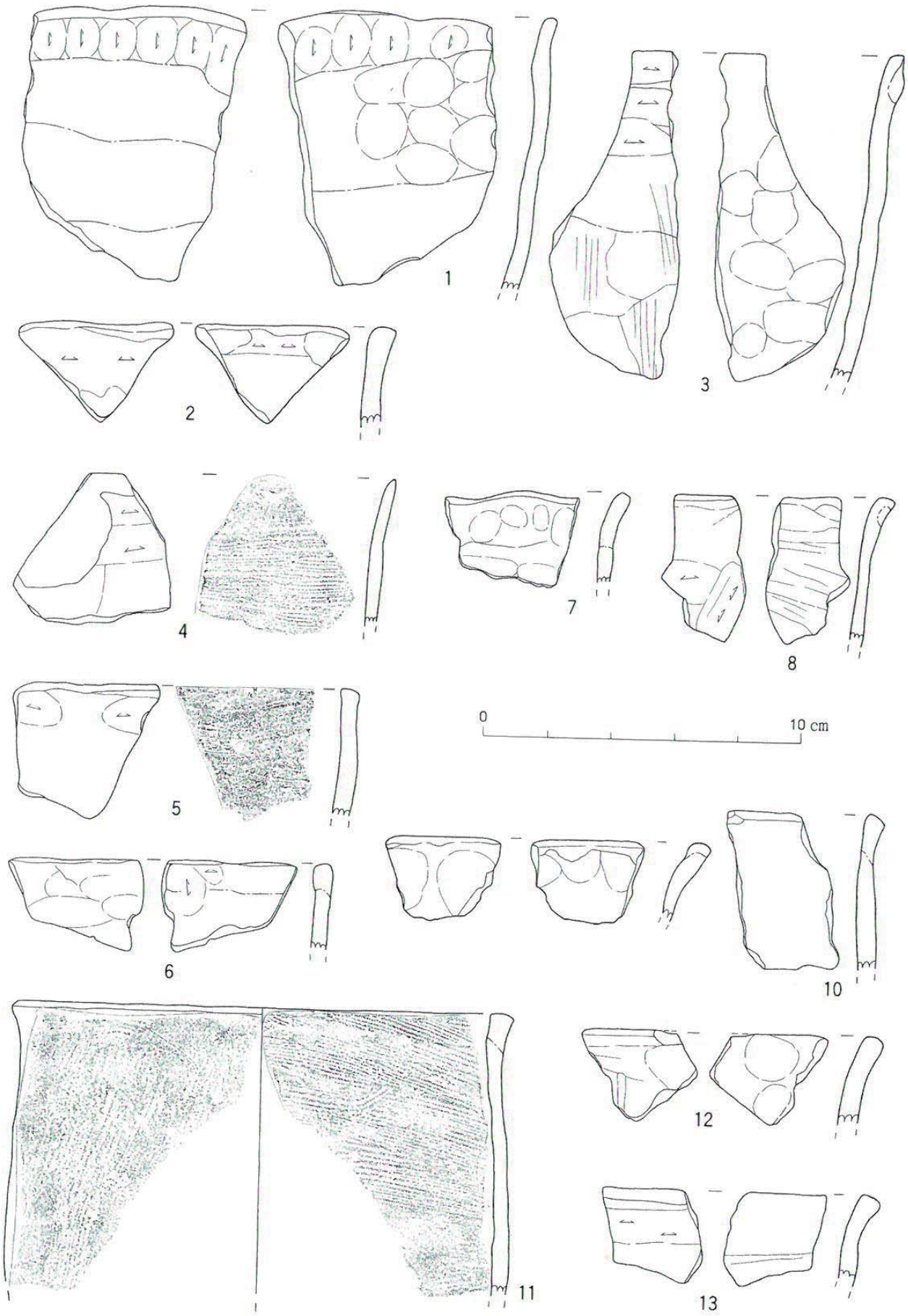


第23図　後期系土器実測図・1

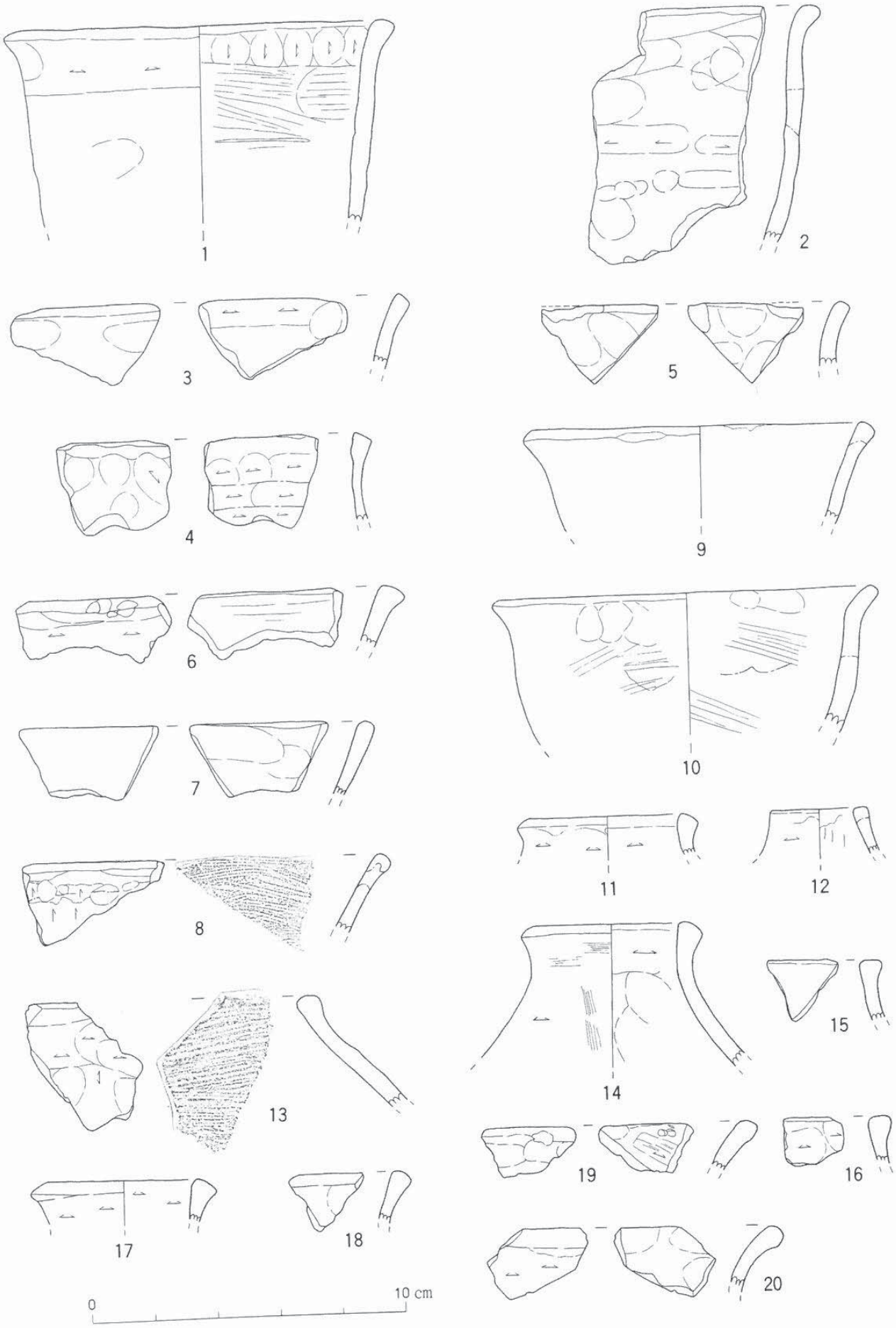


第24図　後期系土器実測図・2

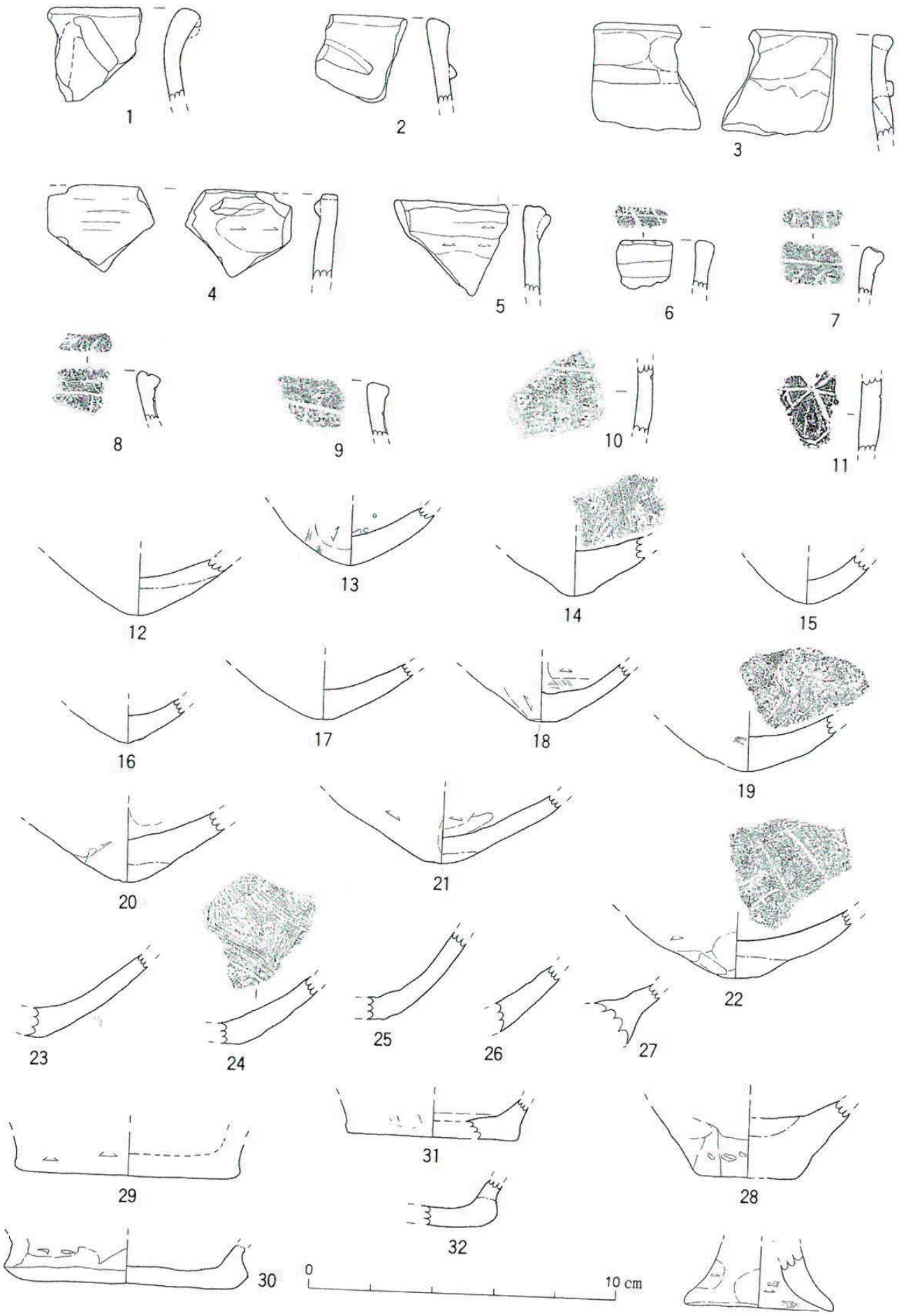
第25図　後期系土器実測図・3



第26図　後期系土器実測図・4



第27図　後期系土器実測図・5



第28図　後期系土器実測図・6

第２節　石器

石器は，総数55点が得られている。出土状況は，そのほとんどが包含層よりの出土である。これらの器種としては，石斧，石皿，敲石，磨石兼敲石，クガニイシなどがある。

第12表　石器組成表

器種＼層位	表採	Ⅰ層	Ⅰa層	Ⅰb層	Ⅱ層	Ⅱa層	Ⅲ層	Ⅲa層	Ⅲb層	Ⅳ層	計
石斧	1	8			2		1	2			14
石皿	1	1			1			1	2		6
敲石Ⅰ		3	1	2	1				1		8
敲石Ⅱ			1		1						2
敲石Ⅲ		3		1	1			1			6
磨石兼敲石Ⅰ		5			2			2			9
磨石兼敲石Ⅱ		1		1	1		1	1			15
磨石兼敲石Ⅲ	5	8		1	3		4	7	1	1	30
クガニイシ	1										1
石器片	4	14	1	1	8		1	6			35
計	12	43	3	6	20	0	7	20	4	1	116

第12表は，出土石器の器種を層位別に見てみたものである。点数については，接合資料は接合後，完形品も破損品も１点とみなして算出した。

１．石斧（第29・30図，図版29・30）

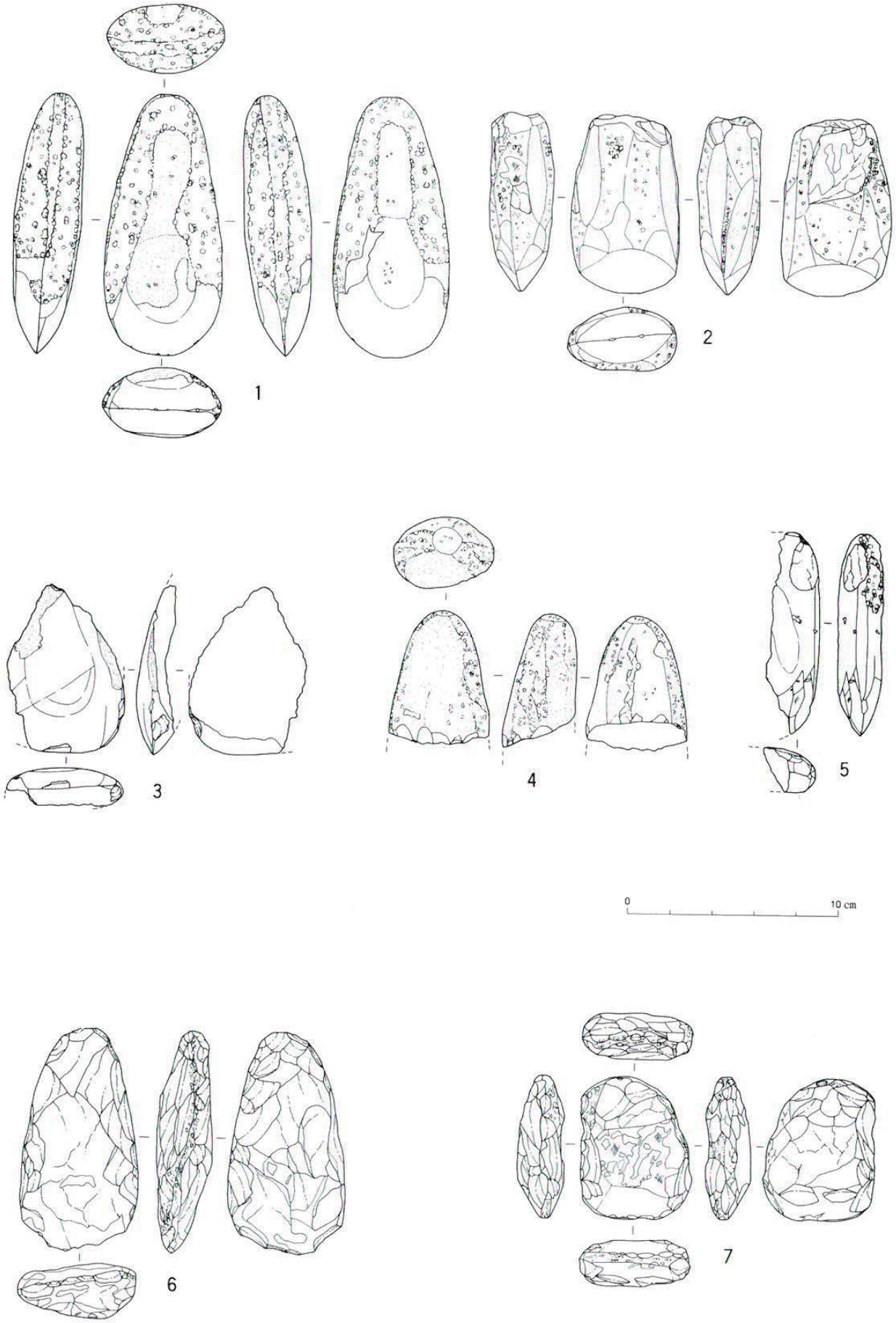
石斧は，計14点得られているが，完成品は13点で，１点は未製品である。このうち８点は欠損品で，完形品はわずか５点である。

欠損品は，身部の中央付近より横折れによって生じた頭部資料が４点，刃部資料が３点となる。また，これとは逆に，身部の中央付近より縦折れによって生じたものが１点ある。完形品を中心に，形状の窺えるものについて，これらの平面形態を見てみると，撥形が６点，短冊形３点，乳棒状？１点，不明４点となる。

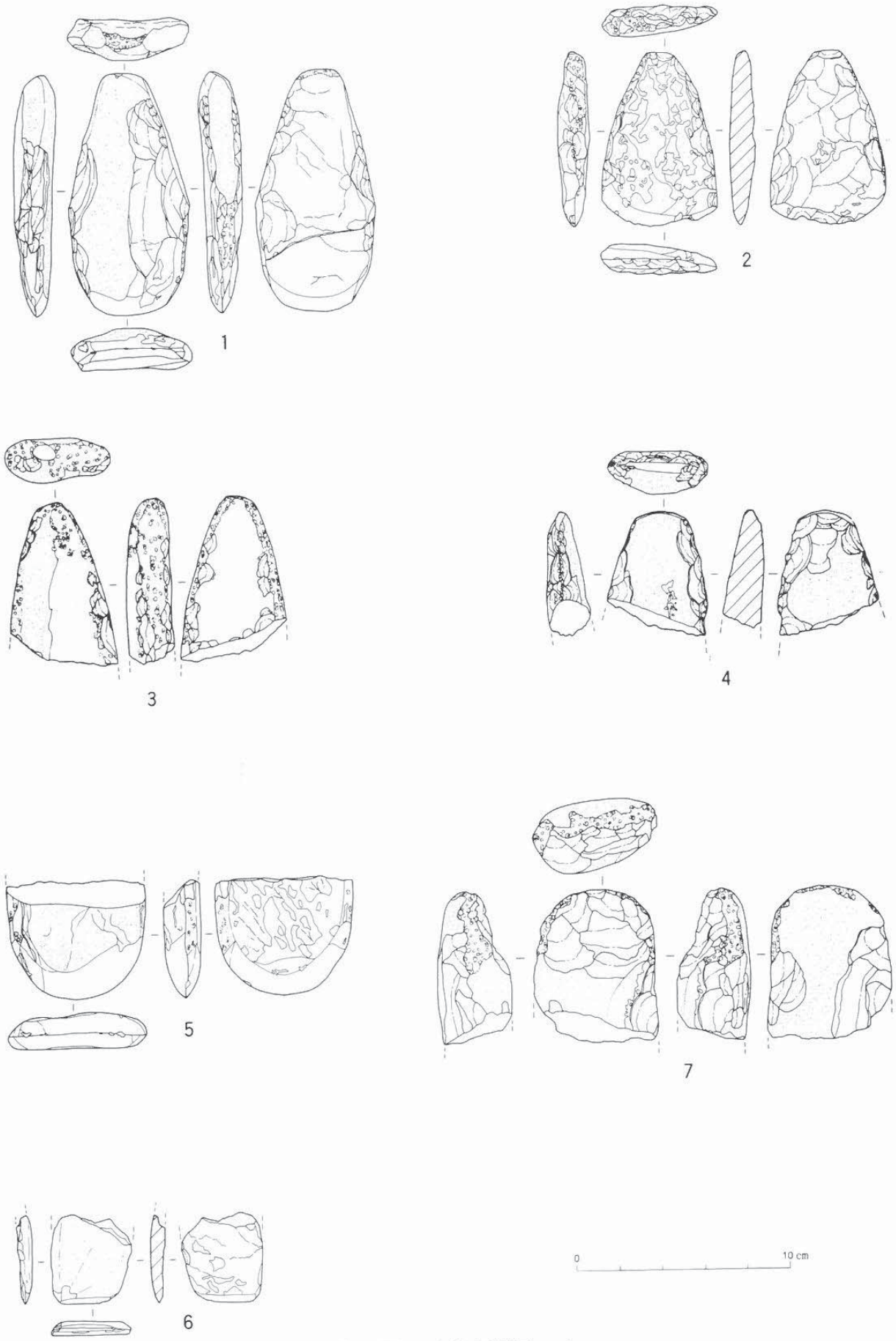
これらは，その素材選択，素材のとり方，および製作技法などからして，二大別できる。

Ⅰ類—成形および整形後，基本的には表裏面を研磨工程によって仕上げる。

Ⅱ類—河原石や転石などの母岩から表皮部を打剝によって，偏平の素材を取り，成形および整形，研磨仕上げしたものである。研磨は，表裏面および刃縁を基本とするが，表裏面においても凹んだ部分は，研磨が行きとどかず，打剝面や自然面を残見られる。



第29図　石斧実測図・1



第30図　石斧実測図・2

第13表　石斧観察表

挿図番号	グリッド：層位	石　質	長さ	幅	厚さ	重量	観　察　事　項
第29図1	D-4:Ⅲa D-4:Ⅲb	輝緑岩	12.4	5.55	3.2	320	3点の接合資料による完形品。両刃。頭部および側面に整形時の敲打痕を残す他は，研磨仕上げ。身部下方は成形時の打剥による面を完全に消しきっておらず，平坦面をなす。
〃　2	C-7:Ⅲ	〃	8.5	5.2	3.0	230	完形品。比較的短めの石斧である。全体に入念な研磨によって，丁寧に仕上げるが，裏面の打剥痕や頭部の剥離および側面の敲打痕を消しきるまでには至っていない。
〃　3	F-5:Ⅰ	〃	(8.0)	(5.2)	—	(75)	身部中間部あたりから刃部に向けて斜位に折損した刃部資料。残存部からする限り，側面に弱い敲打痕を残す他は，入念な研磨によって丁寧に仕上げる。表面の残存刃部中央付近と，裏面右側端部に刃こぼれが見られる。
〃　4	表　採	〃	(6.35)	4.8	3.3	(130)	身部断面形が楕円形状を呈す乳棒状タイプに属？。身部中央部付近の節理面から横折れした頭部資料。表裏面と頭端部に軽い磨面が観察される他は，整形時の敲打痕を残したままである。
〃　5	C-3:Ⅱ	角閃石 安山岩	(9.7)	(2.35)	-	(50)	縦割れ資料。頭部に成形時の剥離痕とその周辺に整形時の弱い敲打痕を残す他は，入念な研磨によって仕上げる。
〃　6	D-7:Ⅰ	輝緑岩	10.6	2.6	5.6	200	刃部のみを研磨した局部磨製資料。身部および頭部は成形時の打剥痕，あるいは剥離痕を残したままである。
〃　7	C-12:Ⅰ	〃 (細　粒)	6.75	5.35	2.2	120	整形後，研磨によって刃部製作の工程を行っているが，刃縁は尖るまでに至っていない。また，刃部の中間部あたりには，アバタ状の潰れが見られることより，あるいは製作途上で敲打器に転用された可能性もある。
第30図1	D-7:Ⅰ	輝緑岩	11.4	5.7	2.0	170	Ⅱ類の典型資料。裏面は打剥のままであるが，表面およびその上半の側面部は素材の自然面を残したままである。表面は両側からの整形時の剥離痕および側面部の敲打痕を残したままであるが，刃部のみは入念な研磨によって丁寧に作出されている。

〃	2	B-6:Ⅰ	輝緑岩	8.25	5.45	1.5	90	標品もⅡ類の典型資料。器表面は，自然面の各所に弱い敲打痕と研磨面を残す。裏面は，そのほとんどが母岩からの打剝のままであるが，刃部のみに研磨痕が見られる。
〃	3	D-8:Ⅰ	〃	(7.5)	4.7	2.2	(125)	身部中央部付近の節理面から横折れした，頭部資料。残存資料を見る限り，裏面は平坦をなし，表面中央部付近から右側面にかけては斜位をなす断面形が略三角形状を呈す。裏面および表面の斜位部の平坦面は，入念な研磨によって丁寧に仕上げるが，周縁および側面部は整形時の剝離，あるいは敲打痕を残す。
〃	4	E-7:Ⅲa	〃	(5.5)	4.7	1.7	(60)	身部中央部付近から横折れした頭部資料。偏平な自然石を成形しただけである。側面周辺には成形時の剝離痕を残したままであるが，頭端部のみ若干研磨加工を行っている。
〃	5	D-7:Ⅰ	〃	(5.55)	6.6	1.7	(100)	身部下半部から刃部にかけての欠損資料。Ⅱ類の典型資料で，比較的偏平の素材を使用。表面は刃部とその周辺，裏面も刃部と身部を軽く研磨しているだけである。
〃	6	D-11:Ⅰ	〃	(4.2)	(3.8)	0.6	(180)	身部下半部から刃部にかけての欠損資料。厚さ0.6mmの極めて薄い偏平な素材を利用し，刃部のみを研磨し作出した資料。
〃	7	D-4:Ⅱ	角閃石安山岩	(7.2)	5.9	3.5	(15)	未製品。身部中央部付近から横折れした頭部資料。比較的厚手の自然石を素材とし，成形を行うが，その途上で横折れし，放棄されたようである。頭部側面部周辺には成形時の剝離痕を残し，裏面には軽い研磨様の磨面も観察されるが，そのほとんどが自然面を残したままである。

2．石皿（第31・32図，図版31）

計６点が得られている。偏平な板状石を素材としたものがほとんどであるが，１点のみ厚みのある素材を使用している。

これらは，その使用面の断面形状から，４タイプに分類される。

Ⅰ類―使用面が素材の周縁から中央部に向けて，緩やかに凹んでいくものである。１点の出土がある。

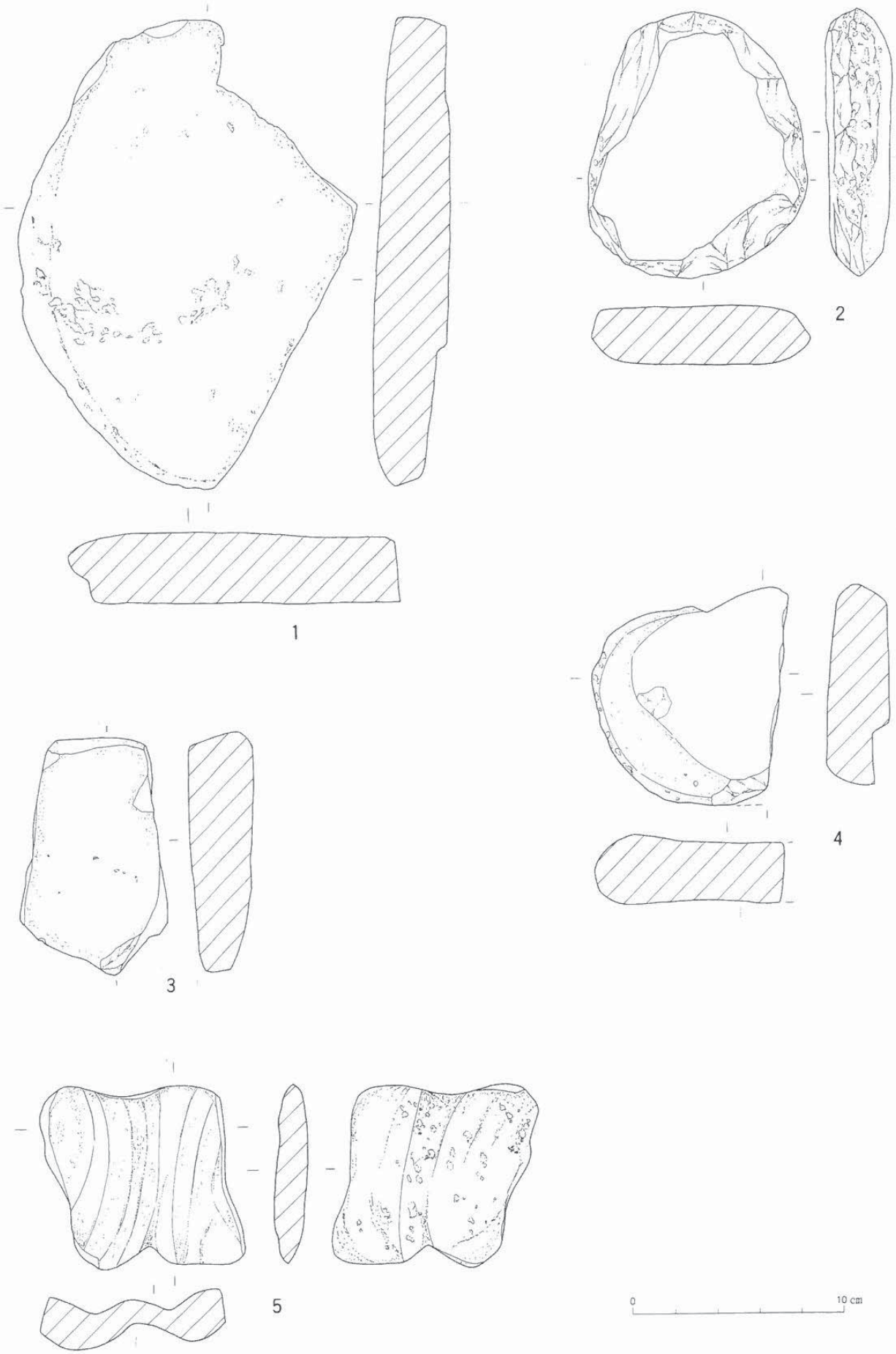
Ⅱ類―使用面が平坦をなすものである。３点の出土がある。

Ⅲ類―使用面が縦位の溝状をなし，断面形状はＶ字状をなす。１点の出土がある。

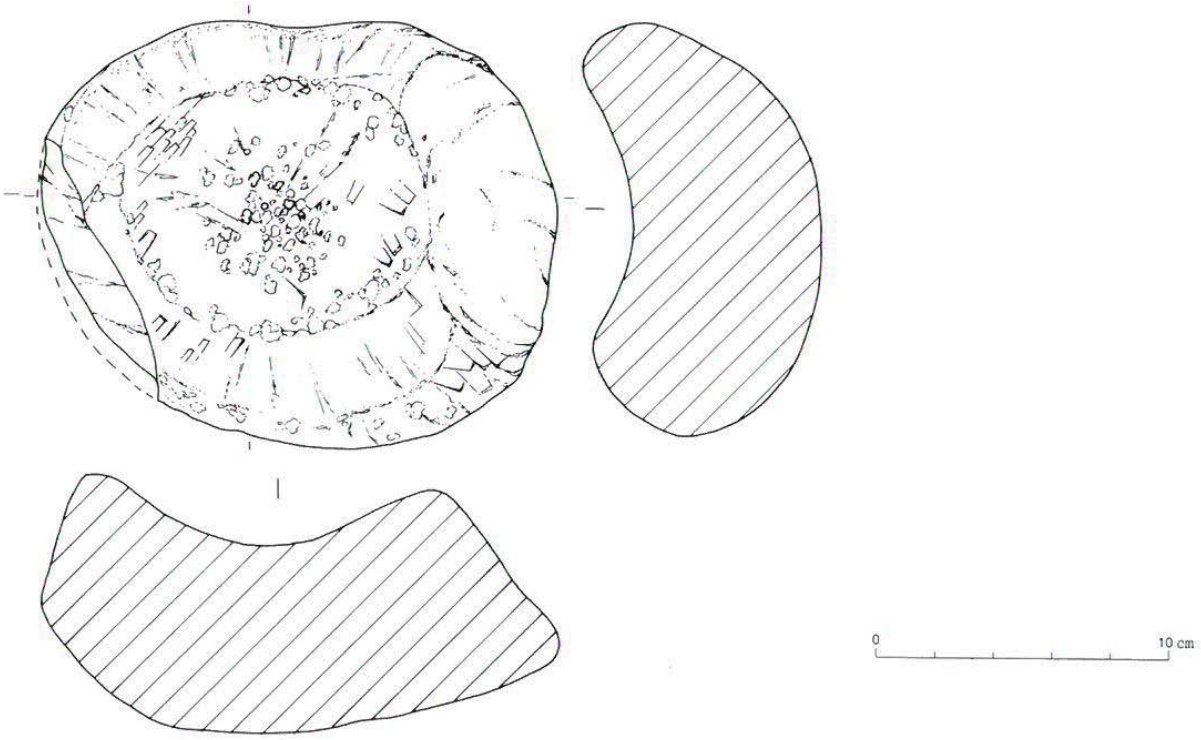
Ⅳ類―使用面が鍋底状に凹み，比較的深み（2.4cm）がある。１点の出土がある。

第14表　石皿観察表

挿図番号	グリッド:層位	石質	長さ	幅	厚さ	重量	観察事項
第31図１	D-5:Ⅲb	石英片岩	22.3	(15.9)	3.5	(1650)	ほぼ半欠品。偏平で板状の略円形の素材を使用。使用面は，素材の周縁から中央部に向けて，極めてなだらかな傾斜をもって凹んでいく形状をなす。
〃　2	表採	輝緑岩	12.7	10.6	3.1	690	完形品。偏平な素材の周縁部を打欠によって成形し，略円形状を呈す。表裏面とも平坦をなし，磨面を有すことから両面使用か？
〃　3	B-4:Ⅱ	角閃石安山岩	(9.5)	(9.0)	3.0	480	長楕円形状？の素材を使用。ほぼ半欠？。使用面は，平坦をなす。
〃　4	D-3:Ⅲa	角閃石や長石の混ざった粘土塊(？)	(11.3)	(7.6)	3.2	(380)	欠片。偏平な板状石を使用していることは判るものの，本来の平面形状については不明。使用面は，平坦をなす。
〃　5	D-8:Ⅰ	砂岩	8.5	(8.9)	2.0	(230)	欠損品。本来の平面形状については判然としないが，略長方形状？。使用面は,表面に二条,裏面に一条の断面形状がV字状の溝が縦走する。擦り切り用の砥石の可能性がある。
第32図１	E-7:Ⅲb	サンゴ塊	14.2	18.0	6.5	1440	縁の一部を欠失するのみで，ほぼ完形。平面形状が略楕円形状の厚みのある素材を使用。表面のほぼ中央部に楕円形状の深みのある鍋底状の使用面を有す。使用面底部はアバタ状の潰れをなし，使用頻度の高さを窺わせる。



第31図　石皿実測図・1



第32図　石皿実測図・2

3．敲石（第33～35図，図版32・33）

総数18点が得られている。その形態は多種多様で，個々の礫形態を分類基準にすれば，煩雑すぎるほどの区分を設けなければならない。そのため，分類にあたっては使用痕の性格とその形成位置を基準に行った。

これによれば，次のⅢ類に分類される。

Ⅰ類―素材の上下端，表裏面の両方あるいは一方にアバタ状の敲打痕を有するものである。表裏面の敲打痕は，中央部付近に一定の範囲で集中し，連続した潰れで凹みをなすものとそうでないものがある。礫形態は，偏平な楕円形状のもの，略円形状のもの，断面形が三角形状で棒状のものなどがある。

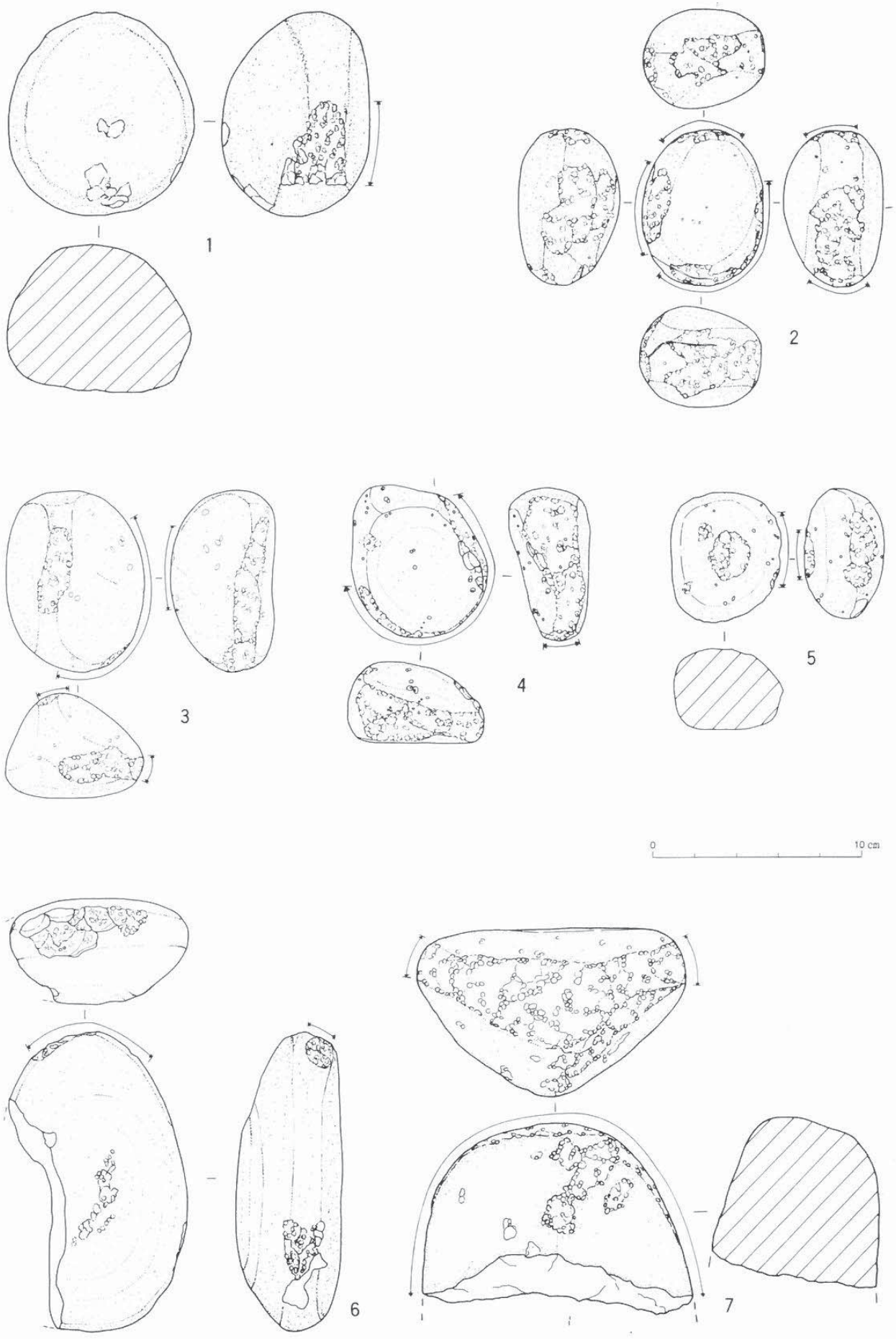
Ⅱ類―礫の周縁に強い打撃によるヒンジ・フラクチャーを形成するものである。これらは，敲石としての目的ではなく，あるいは別の製品の製作途上段階のものの可能性もあるが，判然としないため一応ここに含めておく。

Ⅲ類―礫形態に特徴を有し，いずれも棒状の礫を素材とし，その長軸先端部に強い打撃によるヒンジ・フラクチャーあるいはアバタ状の敲打痕が見られるものである。

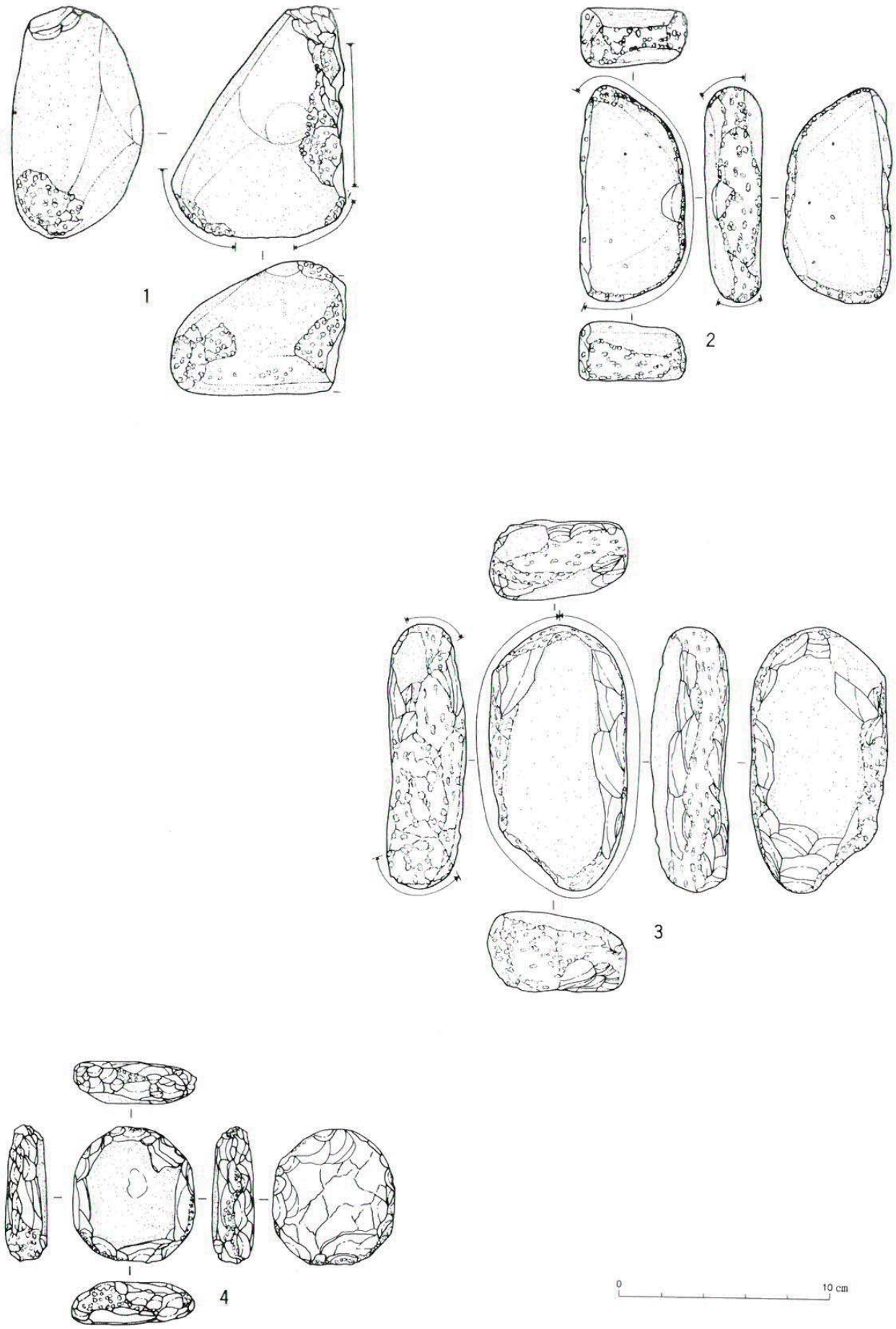
第15表　敲石Ⅰ類観察表

挿図番号	グリッド:層位	石　質	長さ	幅	厚さ	重量	観　察　事　項
第33図1	B-11:Ⅰb	角閃石 安山岩(?)	9.7	8.9	7.1	820	略円形状を呈した，厚みのある礫を使用。右下側面に平坦面をなすほどに潰れた敲打痕が観察される。また，全側面にアバタ状の潰れ痕様のものが認められるが，使用によるものかということについては判然としない。
〃 2	C-4:Ⅱ	砂　岩	7.5	5.9	4.8	310	小型の楕円礫を使用。上下端，両側面に敲打痕を有す。いずれの箇所も面をなすほどに使用。
〃 3	B-11:Ⅳ	角閃石 安山岩	8.7	6.7	5.0	410	断面形が略三角形状を呈する楕円形状の礫を使用。右側面から下端部にかけてと表面部に敲打痕を有す。右側面から下部にかけては間断なく面をなして連続した潰れになっている。また，表面もほぼ頂部に集中して面をなして広がっている。
〃 4	D-10:Ⅰb	砂　岩	7.8	6.6	3.9	260	左上端が角ばった略楕円形状の礫を使用。右側面から下部，および左側面にかけて，連続した潰れが面をなして広がっている。

〃 5	B-11:Ⅰ	砂　岩	6.2	5.4	3.9	200		左側面および上面がやや直線状をなす小型の略円形状の礫を使用。右側面と表面にアバタ状の敲打痕を有す。表面の敲打痕はほぼ中央部に集中するが，比較的軽微。右側面のそれは比較的広範囲にわたり，面をなすほどに使用。
〃 6	B-11:Ⅰ	角閃石や長石の混ざった粘土塊(？)	14.3	(8.6)	(5.1)	(700)		約三分の一を欠く。比較的厚みのある楕円礫を使用。上端，右側面および表面に敲打痕を有す。表面の敲打痕は散在したアバタ状をなし，軽微であるが，上端および右側面のそれは面をなすほどに使用。
〃 7	F-5:Ⅰ	砂　岩	(12.9)	9.4	8.2	(1200)		欠損品。大型の三角柱状の礫を使用。残存部の上面，両側面および表面に敲打敲打痕を有す。表面の敲打痕は散在した軽微なものであるが，上面および両側面のそれは面をなすほどに使用。とりわけ，上面のそれは本来の礫形態を失うほどに潰れており，使用頻度の高さが窺える。
第34図1	D-4:Ⅲb	熔　岩	11.2	8.4	6.3	6400		直角三角形状の破片礫を使用。右側面と左側下部の先端部に敲打痕を有す。右側面部の敲打痕は，一部にヒンジ・フラクチャー様の剥離痕を有すほどに強い打撃と潰れが面をなすほどに使用。左側下部の先端部も同様，面をなすほどに使用。
〃 2	C-4:Ⅰa	砂　岩	10.35	5.15	2.8	240		長D字状を呈した偏平礫を使用。左側面の直線部を除く，弧状部に敲打痕を有す。敲打痕は，間断なく連続して 面をなすほどに潰れている。



第33図　敲石Ⅰ類実測図．1



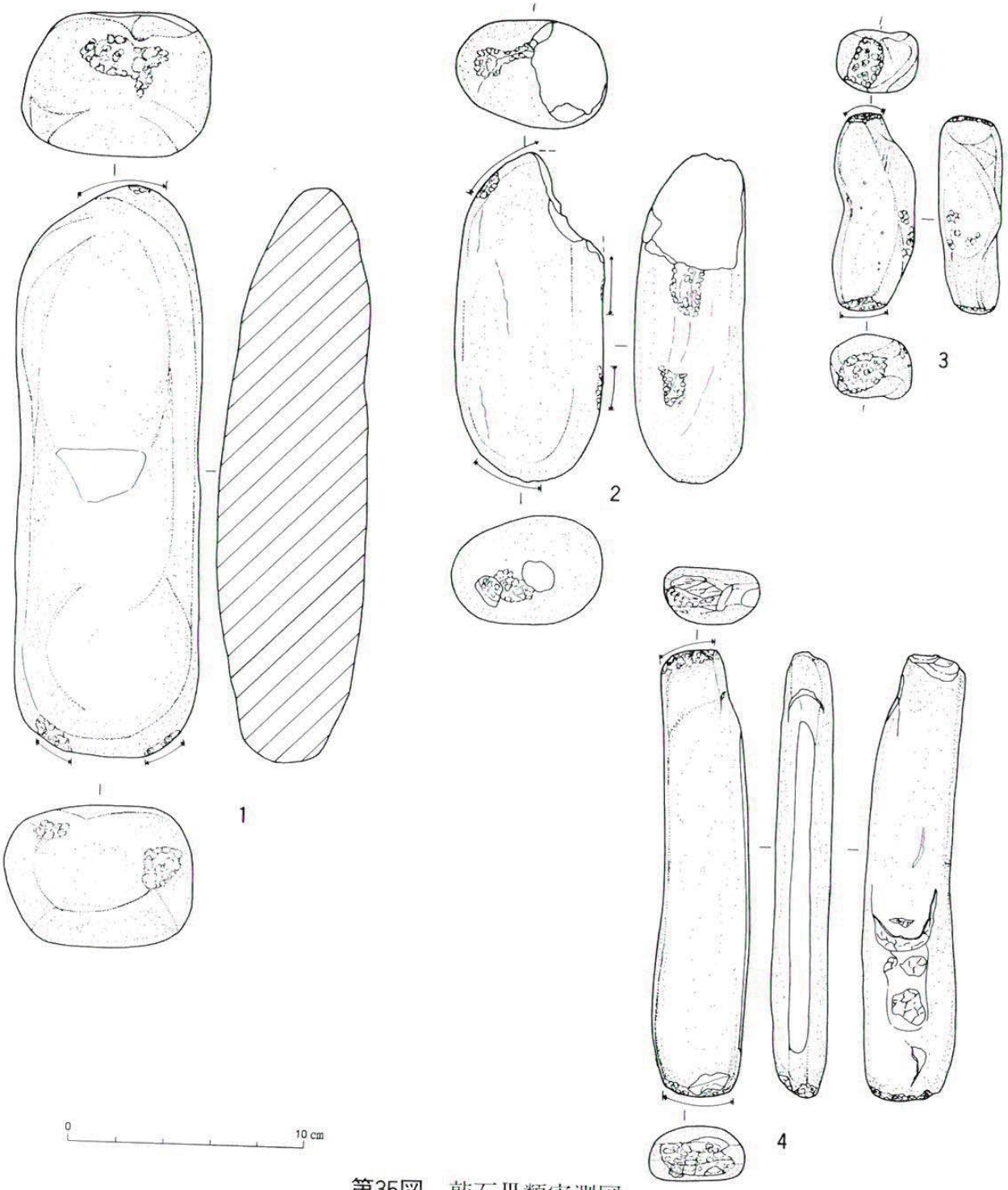
第34図　敲石Ⅰ・Ⅱ類実測図・2（1.2:Ⅰ類，3.4:Ⅱ類）

第16表　敲石Ⅱ類観察表

挿図番号	グリッド:層位	石　質	長さ	幅	厚さ	重量	観　察　事　項
第34図3	C-4:Ⅱ	斑レイ岩	12.7	6.6	3.8	520	河原石や転石などの母岩の表皮部を打剝によって取った偏平の素材を使用。全周縁にわたって強い打撃によるヒンジ・フラクチャーを有すとともに，連続した潰れが面をなすほどに使用。表面には，礫本来の自然面を，裏面には打剝面を残したままである。
〃　4	B-3:Ⅰa	緑色片岩	6.5	5.8	2.0	130	標品も河原石や転石などの母岩の表皮部を打剝によって取った偏平の素材を使用。全周縁にわたって強い打撃によるヒンジ・フラクチャーを有すとともに，上面および右側面から下面にかけては，連続した潰れが面をなすほどに使用。表面には礫本来の自然面を，裏面には打剝面を残したままである。

第17表　敲石Ⅲ類観察表

挿図番号	グリッド:層位	石　質	長さ	幅	厚さ	重量	観　察　事　項
第35図1	C-4:Ⅲa	角閃石安山岩	24.6	9.0	7.4	2150	重量感のある略柱状の棒状礫を使用。上下端に敲打痕を有す。上端の敲打痕は散在し，比較的軽微であるが，下端のそれは面をなして広がり，使用頻度の高さが窺える。
〃　2	B-5:Ⅰb	砂岩(?)	14.2	6.4	4.2	530	右上端部を欠損。比較的厚みのある棒状礫を使用。上下端と右側面の二カ所に敲打痕を有す。いずれの箇も面はなさず，比較的軽微。
〃　3	E-7:Ⅰ	角閃石安山岩	8.45	3.5	2.7	110	緩やかにく字状に曲がった小さめの礫を使用。上下端と右側面の一部に敲打痕を有す。上下端の敲打痕は面をなすほどに使用されているが，右側面のそれは散在し軽微
〃　4	E-3:Ⅰ	石英黒雲母片岩	18.3	4.1	1.9	310	偏平な長めの棒状礫を使用。上下端に強いヒンジ・フラクチャーを有すとともに，連続した敲打痕が面をなして広がる。



第35図　敲石Ⅲ類実測図

4．磨石兼敲石（第36～40図，図版34・35）

磨石と敲石の両機能を兼ね備えたものである。礫形態や使用面の位置などからして，次の3類に分類される。

Ⅰ類―平面形が石鹸状若しくは円形を呈する定形化した石器である。表裏面，あるいはどちらか一方に磨面を有し，上下端および両側面部と表裏面の中央部付近に使用による明瞭な凹み，または敲打痕を有するものである。表裏面の敲打痕は，概して中央部付近に一定の範囲で集中し，連続した潰れで凹みをなす。

Ⅱ類―楕円形状の礫を使用し，使用面の位置などはⅠ類とほぼ同様であるが，両側面部の使用頻度が著しく，弧状に凹んでいるものである。

Ⅲ類―そのほとんどが楕円礫を使用し，磨石としての機能にウェイトが高かったものと思われるものである。そのため，上下端および表裏面の中央部付近に形成された使用による敲打痕は，軽微で凹みをなすまでには至っていない。

第18表　磨石兼敲石Ⅰ類観察表

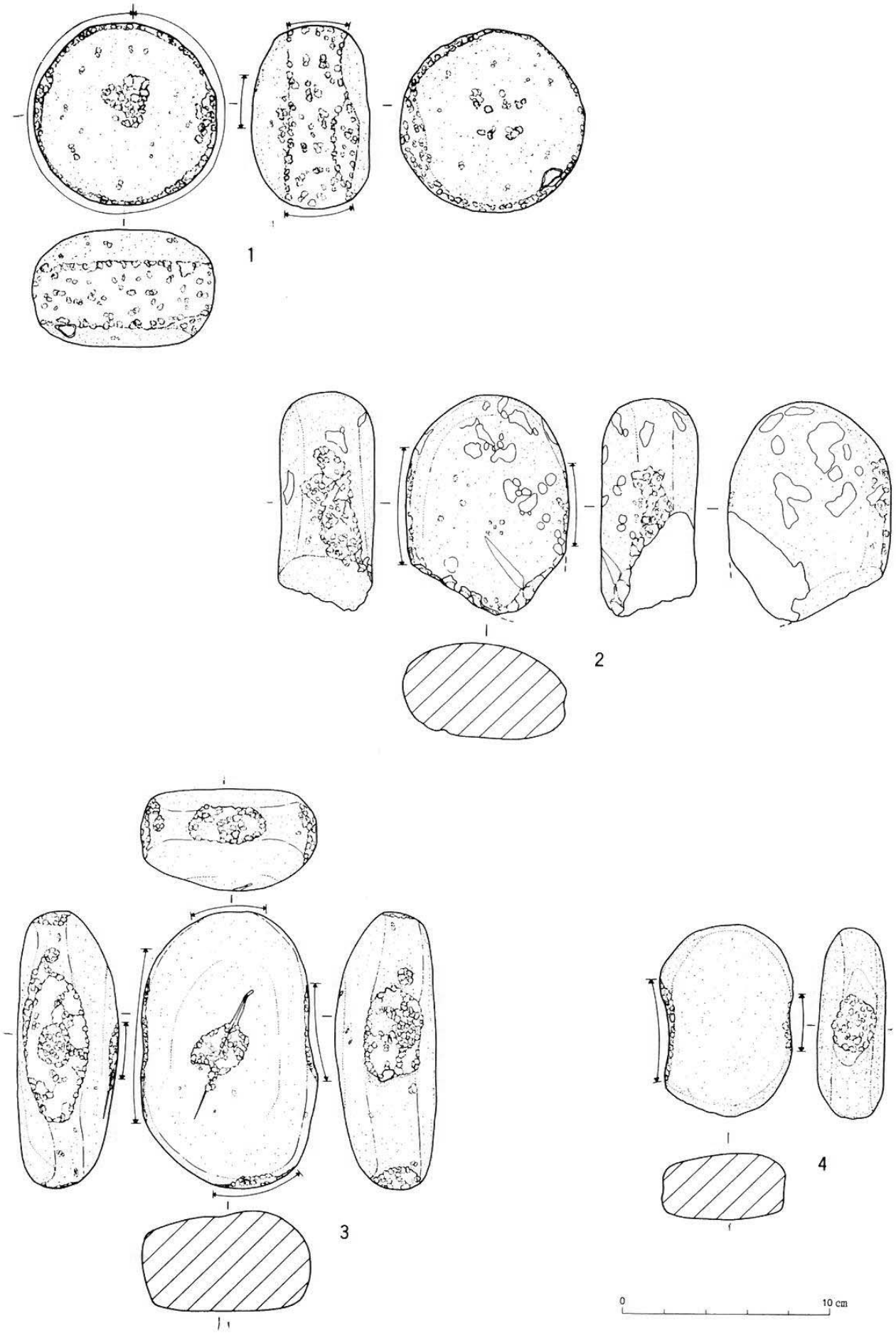
挿図番号	グリッド：層位	石　質	長さ	幅	厚さ	重量	観　察　事　項
第36図1	D-9:Ⅱ	砂　岩	10.3	8.3	5.0	710	楕円礫？を使用。上下端，両側面表裏面中央部に敲打痕を有す。上下端および両側面の敲打痕は平坦をなすほどに使用される。また，表裏面のそれは凹みをなすほどに使用。表裏面は，艶のある磨面をなす。
〃　2	E-7:Ⅰ	輝石安山岩	11.5	(9.4)	4.9	(680)	約三分の一を欠く。楕円礫？を使用。上下端，両側面，表裏面中央部に敲打痕を有す。上下端および両側面の敲打痕は平坦面をなすほどに使用されるが，表裏面のそれは軽微。表裏面は，艶のある磨面をなす。
〃　3	E-9:Ⅰ	石英片岩	7.0	8.6	6.5	590	厚みのある長楕円形状の礫の約半欠した素材を使用。上端，両側面および表面中央部に敲打痕を有す上端および両側面の敲打痕は平坦面をなすほどに使用されるが，表面のそれは比較的軽微。表裏面と下部の折損部は磨面をなすが，素材の特質からか，ザラザラしている。

第37図1	E-3:Ⅲa	砂　岩	8.8	9.0	5.75	720	本来の礫形態は不明。全周および表裏面に敲打痕を有す。周縁部の敲打痕は平坦面をなすほどに使用されるが，表裏面のそれは軽微。表裏面は磨面をなすが，石灰分が付着しているため，艶をなすまでには至っていない。
〃　2	B-4:Ⅱ	凝灰角砂岩（？）	(10.6)	8.0	4.65	(570)	約三分の一を欠損。両側面と表裏面，下端部に敲打痕を有す。両側面の敲打痕は平坦面をなすほどに使用されるが，表裏面および下端部のそれは比較的軽微。表裏面は磨面をなすが，全体的に面が荒れてアバタ状をなすため，さほど滑らかではない。

第19表　磨石兼敲石Ⅱ類観察表

挿図番号	グリッド：層位	石　質	長さ	幅	厚さ	重量	観　察　事　項
第37図3	C-6:Ⅱ	輝緑岩	13.4	8.65	4.9	990	比較的偏平な楕円礫を使用。両側面，上下端，表面に敲打痕を有す。表面の敲打痕は，比較的軽微であるが，両側面および上下端は面をなすほどに使用。とりわけ，両側面は弧状をなして凹むほどに使用頻度の高さが窺える。表裏面は，艶のある磨面をなす。
〃　4	B-11:Ⅰb	角閃石安山岩	9.25	6.6	3.2	310	偏平な楕円礫を使用。両側面に敲打痕を有す。両面とも弧状をなして凹むほどに使用頻度の高さが窺えるが，とりわけ，左側は顕著。表裏面は磨面をなすが，素材の特質からかザラザラしている。

第36図　磨石兼敲石Ⅰ類実測図

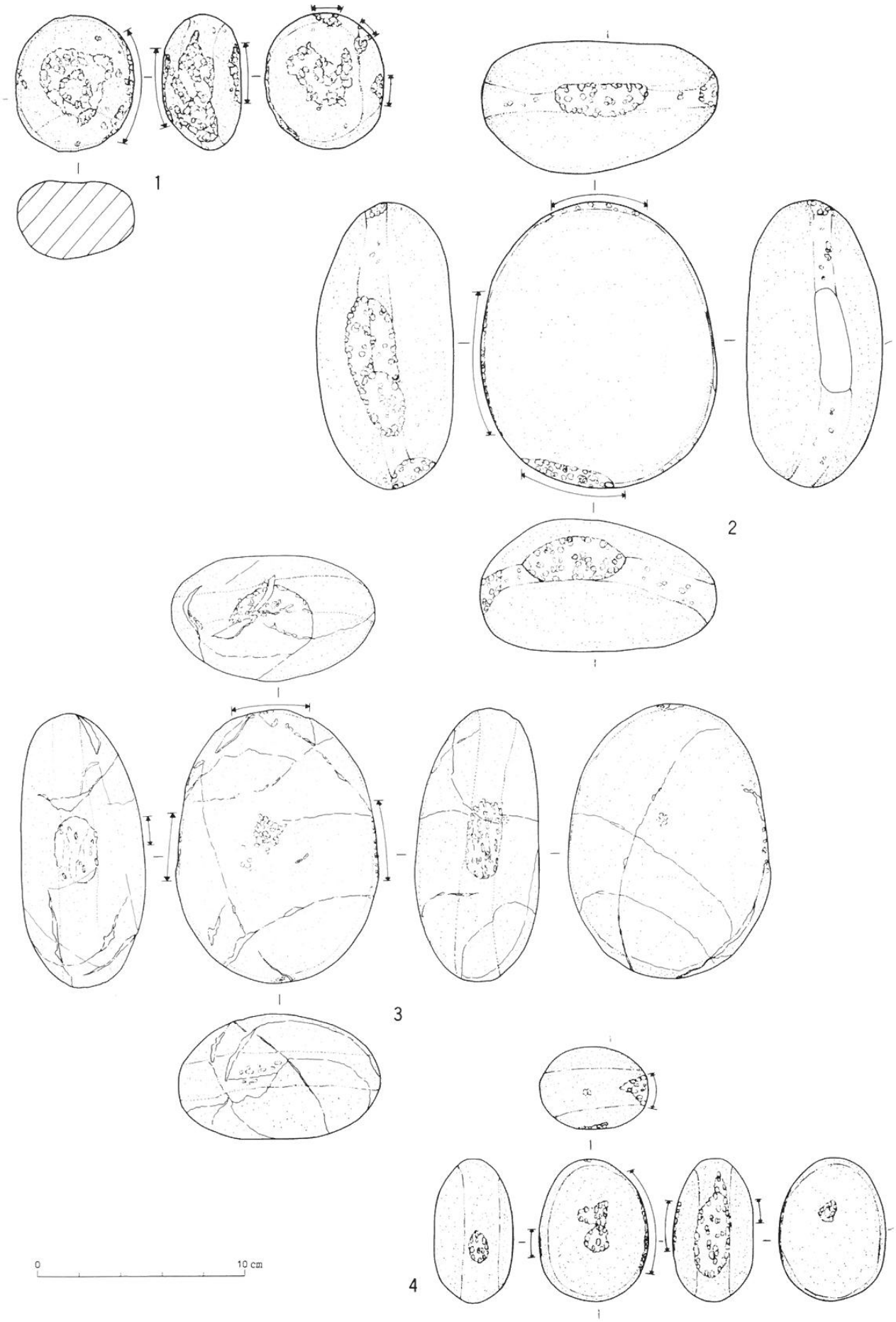


第37図　磨石兼敲石Ⅰ・Ⅱ類実測図（1･2:Ⅰ類，3･4:Ⅱ類）

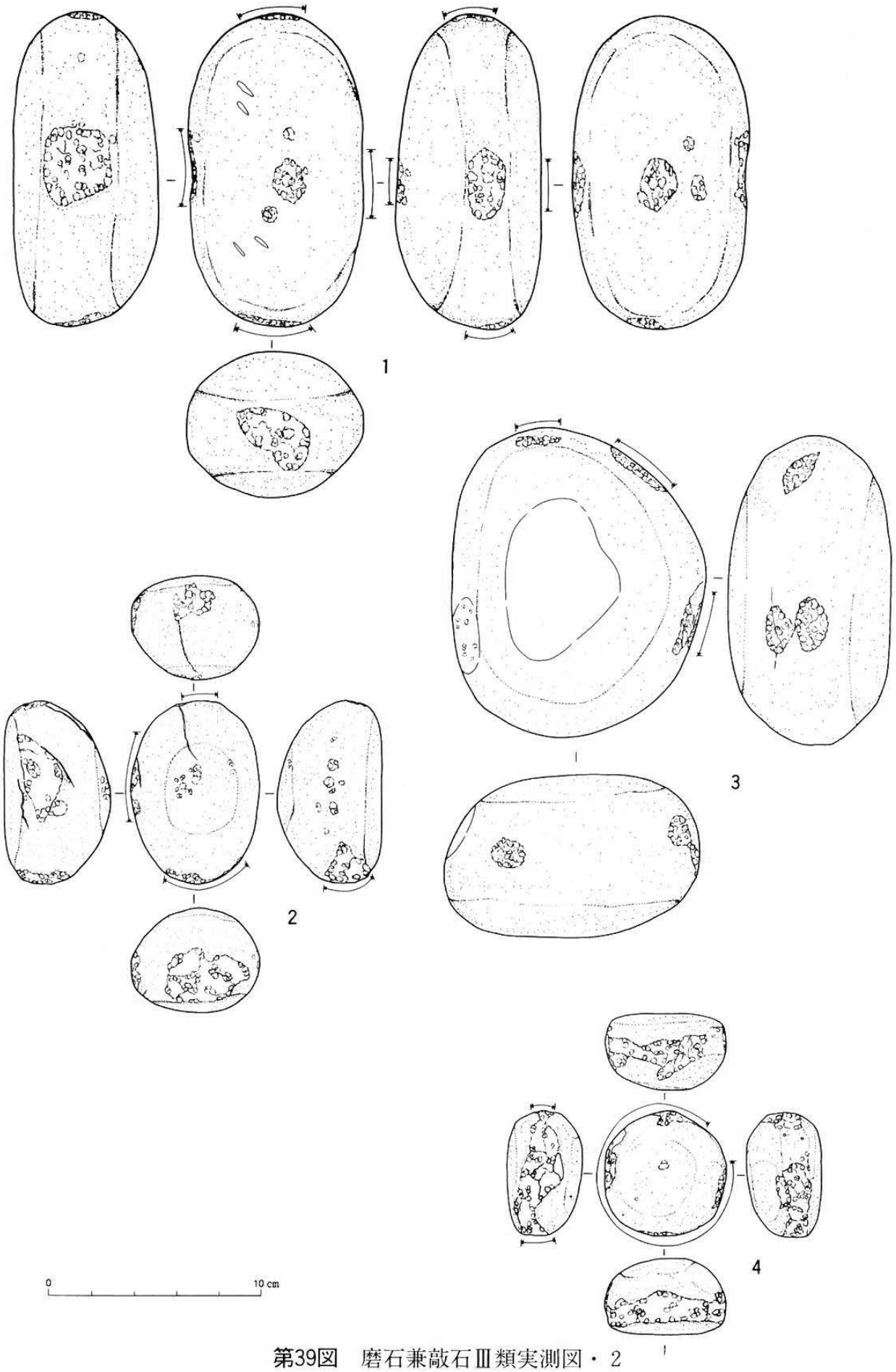
第20表　磨石兼敲石Ⅲ類観察表

挿図番号	グリッド：層位	石　質	長さ	幅	厚さ	重量	観　察　事　項
第38図1	E-3:Ⅲa	角閃石 安山岩	6.6	5.8	3.8	230	比較的小さめの円礫を使用。上下端，両側面，表裏面に敲打痕を有す。上下端，左側面および裏面の敲打痕は比較的軽微であるが，右側面および表面のそれは，面をなして広がる。とりわけ，表面のそれは明瞭な凹みを呈す。表裏面は磨面をなす。
〃　2	D-5:Ⅲb	〃	14.1	11.4	6.6	160	厚みのある楕円礫を使用。上下端および両側面に敲打痕を有す。下端部の敲打痕は軽微であるが，他の部分のそれは面をなすほどに使用。表裏面は，全面とも滑らかな面を呈し，艶のある磨面をなす。
〃　3	E-:Ⅲa	砂　岩	13.3	9.9	6.0	1175	比較的厚みのある楕円礫を使用。上下端，両側面および表裏面に敲打痕を有すが，いずれも比較的軽微。表裏面は，全面とも滑らかな面を呈し，艶のある磨面をなす。
〃　4	B-5:Ⅲ	角閃石	7.0	5.8	4.0	210	小型の楕円礫を使用。上端，両側面，表裏面に敲打痕を有するが，右側面のみが平坦面をなすほどに使用されているものの，他部はいずれも比較的軽微。表裏面は，全面とも滑らかな面を呈す。
第39図1	E-5:Ⅲa	砂　岩 安山岩	15.0	8.4	7.0	1400	厚みのある長楕円形状の礫を使用。上下端，両側面，表裏面に敲打痕を有す。表裏面および上下端の敲打痕は比較的軽微であるが，両側面のそれは，面をなすほどに広がる。とりわけ，左側面のそれは顕著で凹みをなすほどに使用頻度が高かったことが窺える。表裏面は磨面をなすが，素材の特質からか滑らかを呈するほどではない。
〃　2	B-5:Ⅰb	角閃石	8.8	6.1	5.0	390	断面形が略半月状をなす小型の楕円礫を使用。上下端，両側面および表面に敲打痕を有すが，いずれも軽微。表裏面は，磨面をなすが滑らかを呈するほどではない。

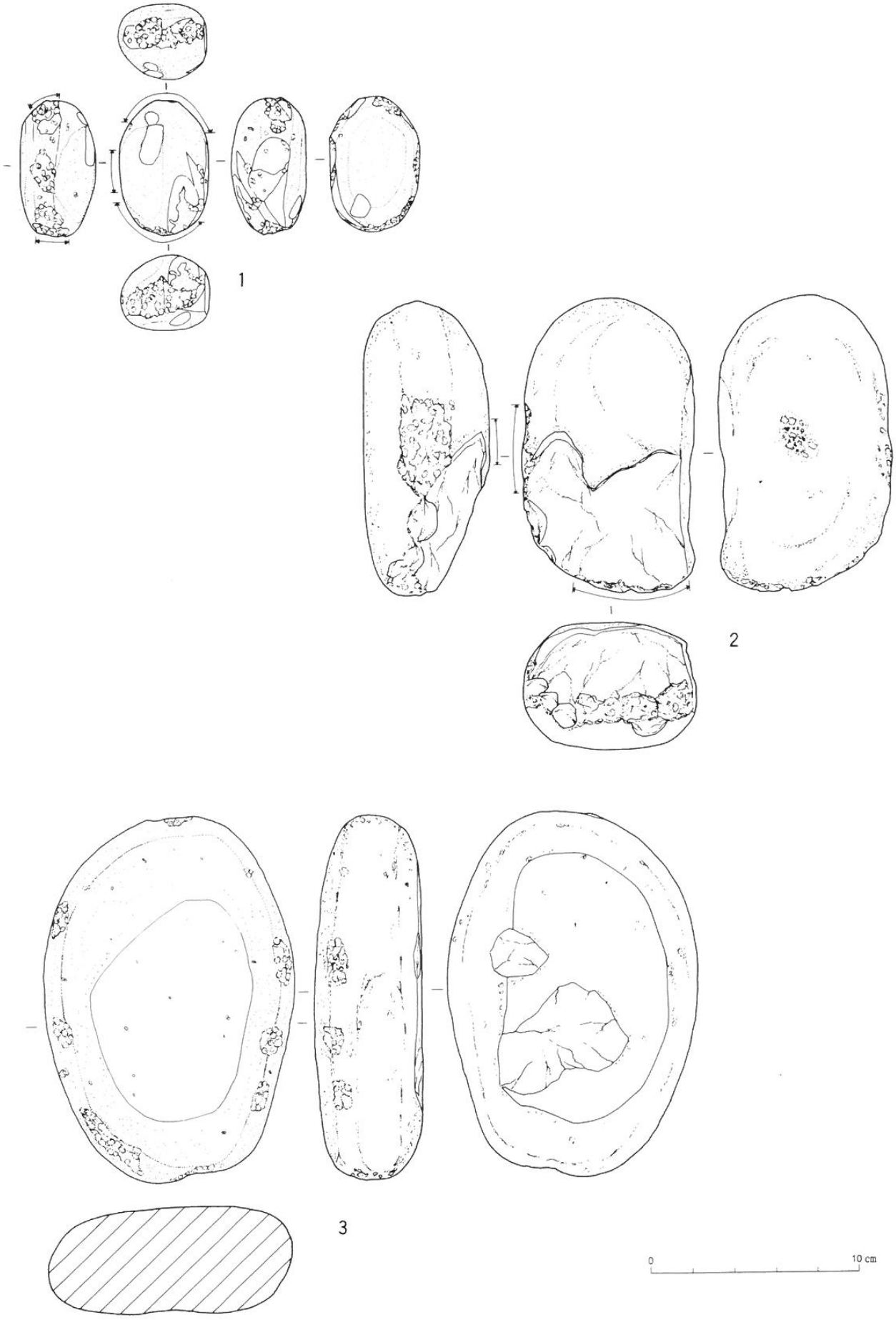
〃 3	表 採	角閃石安山岩	14.7	12.3	7.8	2150		厚みのある略D字状の比較的大型の礫を使用。上下端，両側面に敲打痕を有すが，連続した潰れはなさず，部分的である。これらの中でも左側下部と右側面は面をなすほどに使用されるが，他部は軽微表裏面は滑らかな面を呈し，艶のある磨面をなす。
〃 4	C-6:Ⅲ	角閃石ひん岩	5.95	5.9	3.6	190		比較的厚みのある小型の円礫を使用。上下端，両側面部に敲打痕を有すが，いずれも強い打撃によるヒンジ・フラクチャー様の剝離痕をなすほど，連続した潰れが面をなして見られる。表裏面は滑らかな面を呈し，艶のある磨面をなす
第40図1	E-5:Ⅲa	輝緑岩	6.6	4.3	3.6	150		厚みのある小型の楕円礫を使用。上下端，両側面，に敲打痕を有す上下端の敲打痕は面をなすほどに使用されるが，両側面のそれは軽微。表裏面および側面の一部の平坦面は，磨面をなす。
〃 2	c-11:Ⅰ	角閃石安山岩？溶岩での焼け石？	14.3	8.45	6.1	1100		下方が右側に若干くねった厚みのある長楕円形状の礫を使用。下方からの強い打撃による大きな剝離が表面の約半分ほどに広がる。裏面，左側面，下端部に敲打痕を有す。裏面の敲打痕は比較的軽微であるが，他部のそれは面をなすほどに広がる。表裏面は，磨面をなすが滑らかをなすまでには至っていない。
〃 3	C-8:Ⅱ	〃	17.65	12.2	5.2	1670		厚みのある略楕円形状の礫を使用表面の三カ所ほどに剝落痕が見られる。上下端，右側面に敲打痕を有すが，上下端のそれは軽微であるが，右側面のそれは連続した潰れが広がる。表裏面は，磨面をなすが，裏面のそれは比較的滑らかを呈すが，表面のそれはそれほどではない。



第38図　磨石兼敲石Ⅲ類実測図・1



第39図　磨石兼敲石Ⅲ類実測図・2



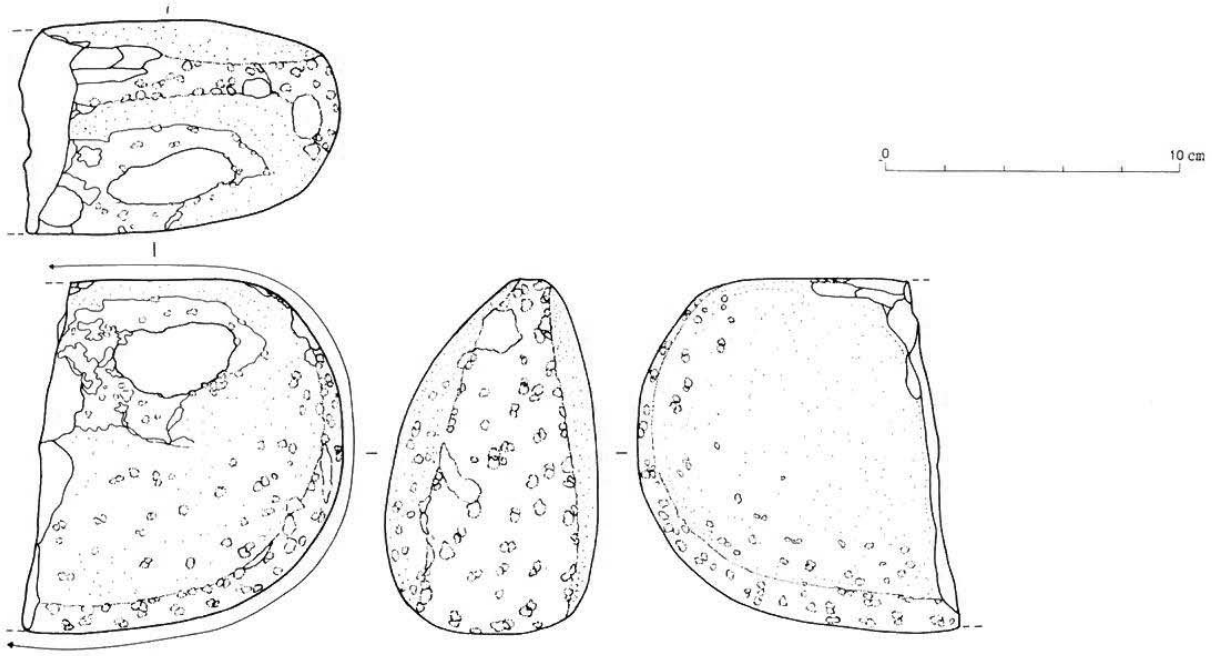
第40図　磨石兼敲石Ⅲ類実測図・3

5．クガニイシ（第41図，図版36・上）

1点のみ得られている。その形態が特徴的で，平面形が略半月状をなし，断面形は「みかん割れ状」を呈す定形化した石器である。名称については，白木原1978に類似するものと思われたので，それを採用した。使用面は「みかん」の外側部分にあたる箇所で，上辺の細くなった部分を握り部としているようである。

標品は，ほぼ半欠した欠損品である。形態からして，白木原氏分類の「B類」に属する。全面に軽微な敲打痕を残すとともに，表面の二カ所ほどに強い打撃による剝落がみられる。下辺部の使用面と上辺の細くなった部分は，面をなして連続した潰れが広がる。また，表裏面には軽い磨面が見られることから，当該面は磨石としての機能をも有していたようである。

高さ12.2cm，残存幅10.5cm，厚さ7.4 cm，残存重量1,610 gを測る。B－11区Ⅰ層出土。

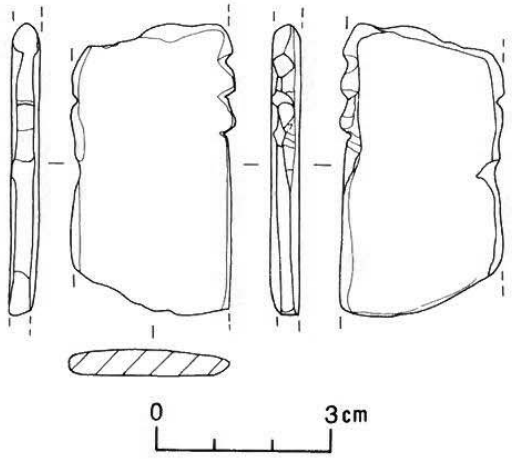


第41図　クガニイシ実測図

第3節　石製品（第42図，図版36・下）

1点のみの出土である。粘板岩を厚さ0.5cmに薄く整形し，一部を鋸歯状に加工したものである。表裏面とも研磨によって仕上げるが，一部に整形時の剝離および切裁痕を残す。

残存長5.0cm，最大幅2.8cm，最大厚0.5cm，残存重量10 gを測る。C－7区：Ⅰ層出土。



第42図　石製品実測図

第4節　貝製品

貝製品は，総数326 点が得られている。出土状況は，そのほとんどが包含層よりの出土である。これらは，大別して装飾品と実用品に分けられる。

装飾品には，丸玉や臼玉の玉類，ヤコウガイ製飾，貝輪などがあり，実用品には鏃，スイジガイ製利器，螺蓋製品，庖丁様製品，ヤコウガイ製杓子状製品，ホラガイ製品，貝皿，貝製漁網錘，フデガイ科製品，イモガイ科製品がある。

この他に，器種あるいは用途不明なものが5点含まれる。

第21表　貝製品組成表

器種	層位	表採	Ⅰ層	Ⅰa層	Ⅰb層	Ⅱ層	Ⅱa層	Ⅲ層	Ⅲa層	Ⅲb層	Ⅳ層	計
玉類	丸玉		2	2	2			2	3		1	10
	臼玉		3		1	1		3	3			11
ヤコウガイ製垂飾			1						1			2
サツマビナガイ製品			1									1
タカラガイ製品			1					1				2
貝輪		1	6			2		3	5			17
鏃			2		1	1		2	5			11
スイジガイ製利器				1	1	1		2	1		1	7
螺蓋製品		13	88	8	12	25		5	17	4	6	178
庖丁様製品						1						1
ヤコウガイ製杓子状製品			5	1		1			1	1		9
ホラガイ製品								1	1			2
貝皿			4		3	1	3	8	19	2		42
貝製漁網錘		1	10	2	2	2	1	4	2		3	27
フデガイ科製品		1	1					1				3
イモガイ科製品				1				1	1			3
計		16	124	15	20	35	4	34	59	7	13	326

第21表は，出土貝製品の器種を層位別に見てみたものである。なお，点数については，明らかに同一個体とみなされるもの以外は，完形品も欠損品も1点とみなして算出した。

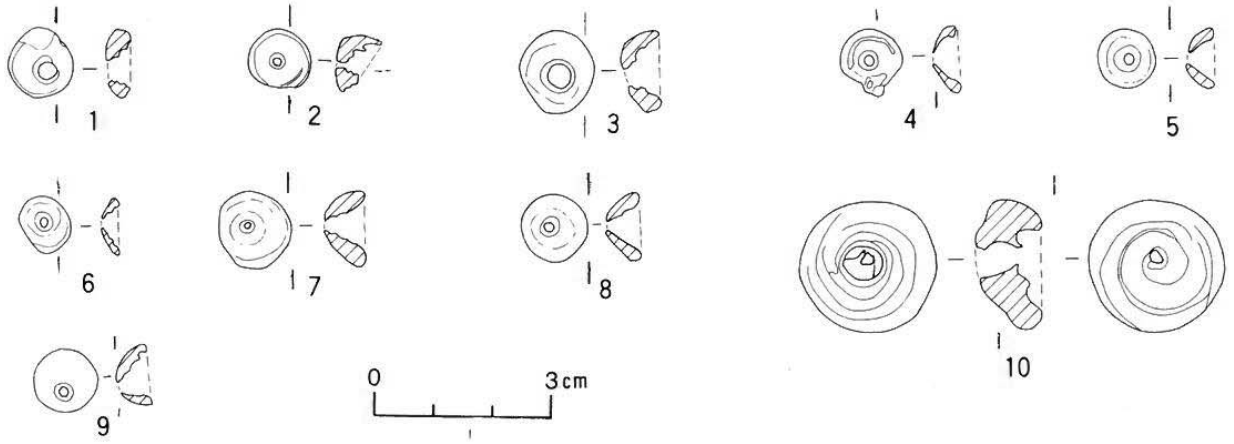
1．玉　類

丸玉と臼玉がある。

a．丸玉（第43図，図版37・上）

小型のイモガイ科Conidae とマガキガイ *Conomurex luchuanus*（LINNÉ）を素材にした径1.3～1.4cm前後の玉である。計10点の出土がある。

1～9が小型のイモガイ科製で，10がマガキガイ製である。これらは，研磨部以外の部分が水磨を受けていることからより，波に洗われて中空になったり，あるいは殻頂部が抜けて孔のあいた螺頭部などが海岸に打ち上げられているものを採集し，利用しているようである。加工は，10のように，周縁部を砥磨したものもあるが，そのほとんどが殻頂部の抜けた孔の外面のみを砥磨しただけである。



第43図　丸玉実測図

第22表　丸玉観察表

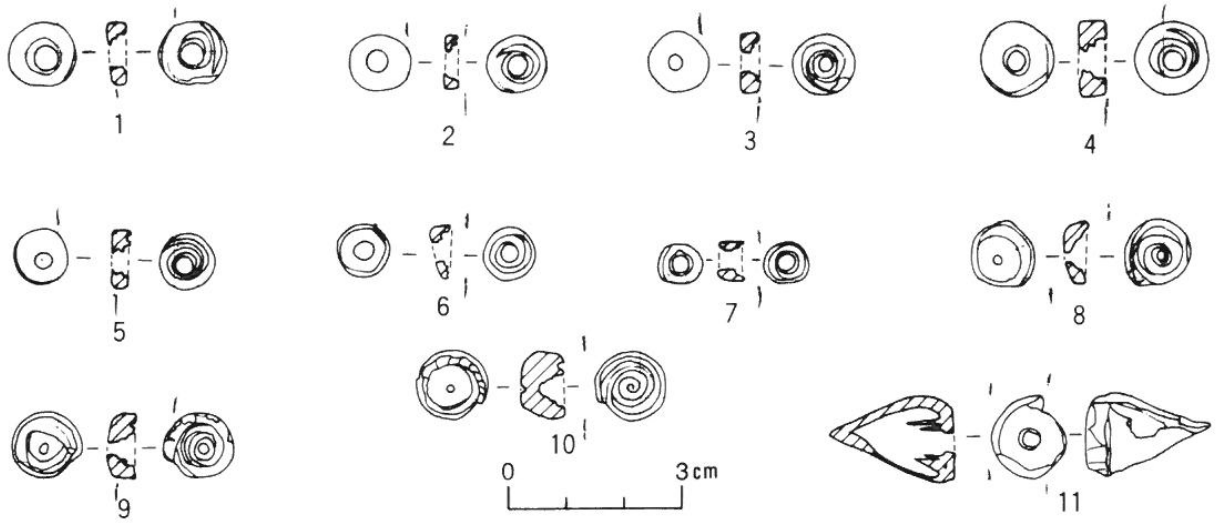
挿図番号	グリッド:層位	縦径	横径	重量	観　察　事　項
第43図1	E-5:Ⅲa	1.0	1.0	0.5	殻頂部と周縁部の大半を砥磨。殻頂部は平坦面をなすほどに，周縁部は素材の形状を失うほど入念に研磨。
〃　2	F-5:Ⅲa	1.0	1.01	0.65	殻頂部のみを砥磨。入念な砥磨により平坦に仕上げる。殻底部は，整形時の打ち欠き状態のままである。
〃　3	D-11:Ⅰ	1.4	1.25	0.95	殻頂部のみを砥磨。他部は採集時のままである。
〃　4	E-4:Ⅳ	1.15	1.01	0.45	殻頂部とかすかに周縁部に磨面がみられる。殻底部は，採集時のままである。
〃　5	F-5:Ⅲa	1.0	1.0	0.5	殻頂部に弱い磨面がみられるのみである。他部は採集時のままである。

〃 6	F-6: Ⅰa	1.0	0.9	0.2	殻頂部に弱い磨面がみられるのみである。他部は採集時のままである。
〃 7	B-10: Ⅰa	1.31	1.22	1.5	殻頂部に弱い磨面がみられるのみである。他部は採集時のままである。
〃 8	E-4: Ⅲ	1.05	1.01	0.6	殻頂部に弱い磨面がみられるのみである。他部は採集時のままである。
〃 9	E-4: Ⅲ	1.18	1.15	0.7	殻頂部に弱い磨面がみられるのみである。他部は採集時のままである。
〃 10	E-8: Ⅰ	2.25	2.35	6.8	殻頂部は比較的平坦をなすほど砥磨しているものの，他部は採集時のままである。

b．臼玉（第44図，図版37・下）

マダライモガイ *Virroconus ebraeus*（LINNÉ）などの小型のイモガイ科 Conidae の貝の殻底部，螺頭部，側面部分を入念な砥磨によって加工し，0.3～1cm 前後の厚さの臼状に仕上げた玉である。

計11点が得られているが，うち3点は製作途上の未製品である。



第44図　臼玉実測図

第23表　臼玉観察表

挿図番号	グリッド：層位	縦径	横径	厚さ	重量	観　察　事
第44図1	C- 6: Ⅲ	1.05	1.1	0.3	0.5	殻底部は平坦面を呈するものの，螺頭部は平坦をなさず，斜位に仕上げている。側面の一部が剝離。側面部には，不鮮明ながら残された斑紋から，マダライモかと推する。

〃 2	B- 4:Ⅰ	0.95	1.05	0.25	0.4	全体として，ほぼ均一な厚みに仕上げている。側面部も入念に砥磨。
〃 3	D- 4:Ⅲa	1.5	1.5	0.3	0.6	殻底部は平坦をを呈するものの，螺頭部は平坦をなさず，斜位に仕上げているため，厚さが不均一。側面部も入念に砥磨。
〃 4	F- 5:Ⅲa	1.3	1.26	0.5	1.2	他に比して，大型の素材を使用。全体として，ほぼ均一な厚みに仕上げている。側面部も入念に研磨。
〃 5	B- 6:Ⅲ	0.98	0.98	0.4	0.5	全体として，ほぼ均一な厚みに仕上げている。側面部も入念に研磨。
〃 6	B- 5:Ⅲ	0.9	0.9	0.4	0.4	殻底部は平坦をを呈するものの，螺頭部は平坦をなさず，斜位に仕上げているため，厚さが不均一。側面部は，かなりの入念な研磨を施したがために，器壁を減じる。
〃 7	F- 5:Ⅰ	0.7	0.85	0.3	0.3	殻底部は平坦をを呈するものの，螺頭部は平坦をなさず，斜位に仕上げているため，厚さが不均一。側面部は，かなりの入念な研磨を施したがために，器壁を減じるとともに，上面観が円形をなさず，緩やかな隅丸方形状を呈す。
〃 8	C- 9:Ⅱ	1.1	1.1	0.3	0.8	殻底部は入念な研磨によって平坦に仕上げているが，螺頭部は整形したのみで，研磨工程を行っていない。側縁部の素材のままのようである。素材そのものがかなりの風化を受けていることより死貝を使用しているようである。
〃 9	B- 3:Ⅰ	1.1	1.2	0.5	0.9	未製品。殻底部は研磨によって平坦に仕上げているものの，螺頭部は整形後，一部のみを研磨しているのみである。
〃 10	C- 4:Ⅰb	1.2	1.2	0.78	1.04	未製品。殻底部は研磨によって平坦に仕上げているものの，螺頭部は整形しているのみで研磨工程は行われていない。
〃 11	E- 3:Ⅲa	1.48	1.3	2.2	1.08	未製品。殻底部は研磨によって平坦に仕上げているものの，体層部は残している。形状などからしてマラダイモのようである。

2．ヤコウガイ製垂飾（第45図1・2，図版38・上）

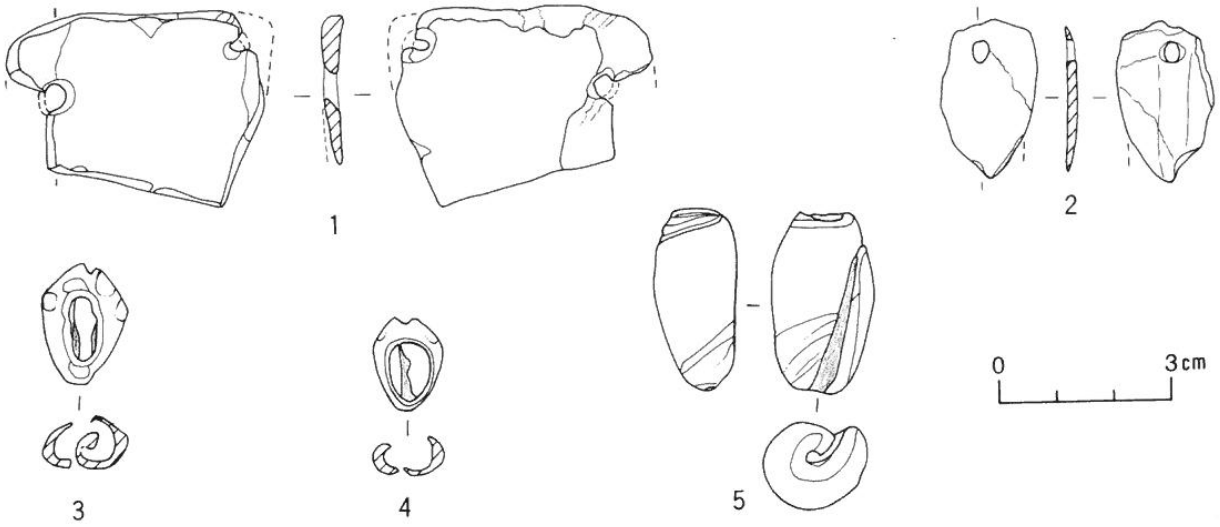
ヤコウガイ *Lunatica marmorata*（LINNÉ）を加工し，紐通しのための孔を有すものである。2点の出土がある。

1は，下辺部を欠失するものの，略隅丸方形状に加工し，上辺部寄りに径2.5 ～ 4 mm程の孔を穿っている。加工は，結節部と体層部の境目の判別が不可能なほど入念な研磨によって仕上げられている。なお，標品は二次的に火を受けたらしく，灰褐色を呈する。残存縦長3.4 cm，残存横長4.1 cm，残存重量7.03 g を測る。D－4：Ⅲa 層出土。

2は，下端部が尖る略小判形状に加工し，上端近くに径3～4 mmの小孔を穿ったものである。素材の特質である薄層を使用し，右側縁部のみを研磨しているだけで，他部は整形時のままである。長さ2.2 cm，幅1.1 cm，重量0.9 g を測る。B－11区：Ⅰ層出土。

3．サツマビナガイ製品（第45図5，図版38・上）

水磨を受けて殻頂部の抜けたマクラガイ科のサツマビナガイ *Oliva* (*Neocylindrus*) *annulata* (Gmerin) の前溝（水管溝）のみを砥磨したものである。標品は，現状では未製品であるが，具志川村清水貝塚例（盛本編1989）では，殻頂部をも砥磨し，体層部に沈線文や凹線文，刺突文などの陰刻による文様を施文し，垂飾とするものである。殻高3.15 cm，殻幅1.78 cm，重量7.75 g である。F－4：Ⅰ層出土。



第45図　ヤコウガイ製垂飾(1･2)，タカラガイ科製品(3･4)，サツマビナガイ製品(5)実測図

4．タカラガイ科製品（第45図3・4，図版38・上）

水磨を受けたタカラガイ科のフジダカキイロダカラガイ *M.m. monetoides* Iredale の背面部を除去し，それによって生じた孔周縁部を研磨したものである。計2点の出土がある。

第24表　タカラガイ科製品観察表

挿図番号	グリッド：層位	殻長	殻幅	重量	観　察　事　項
第45図 3	C- 9: Ⅰ	1.6	1.2	0.75	背面部のみだけではなく，殻軸部まで除去。孔周縁部は，入念な研磨によって仕上げる。
〃　4	E- 5:Ⅲ	2.1	1.5	1.8	背面部を打ち欠くものの，1に比して，その範囲が狭い。孔周縁部は，入念な研磨によって仕上げる。

5．貝輪（第46～48図，図版38・下～40）

素材として使用されている貝には，オオツタノハガイ *Penepatella optima*（PILSBRY），イモガイ科 Conidae の仲間，ゴホウラ *Tricomis latissimus*（LINNÉ），サラサバテイ *Tectus maximus*（PHILIPPI），ウミギクガイ科Spondylidae の仲間，クロチョウガイ *Pinetada magaritifera*（LINNÉ）のが6種以上が含まれている。

a．オオツタノハガイ製（第46図1～3，図版39・下）

素材のオオツタノハガイの背面部を打欠によって除去した後，器表面あるいは孔唇，およびその周辺を研磨仕上げしているものである。孔の平面形は，倒卵形もしくは楕円形状をなす。

計3点が得られているが，いずれも破損品である。加工は，器表面の孔周縁は比較的研磨がゆきとどいているものの，縁辺部にいくにしたがって素材特有の放射筋（従肋）を残すものが多く，研磨された部分と残された部分が茶褐色と白色の縞状をなし，そのコントラストは美麗である。なお，内面は素材のままである。

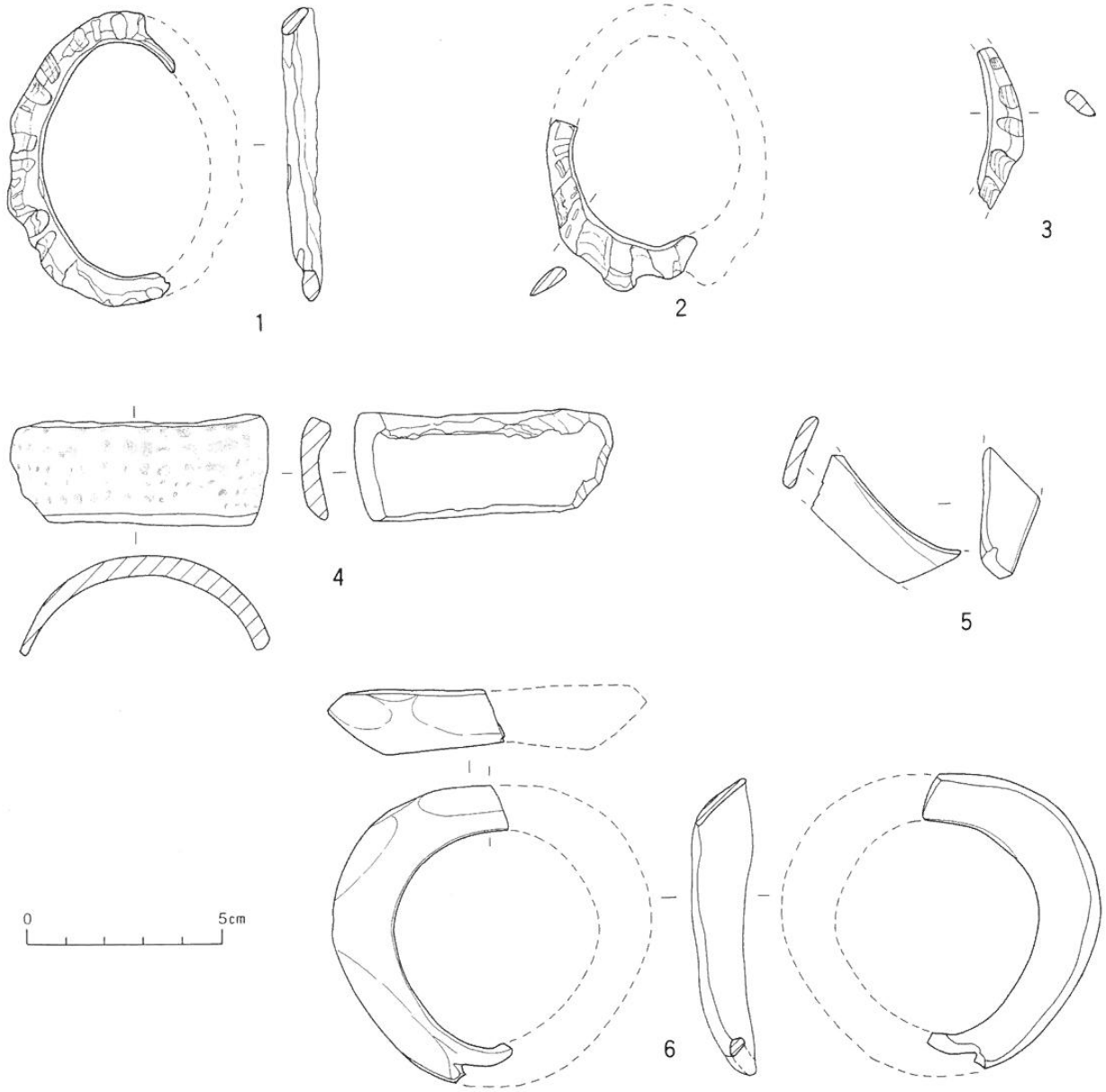
第25表　オオツタノハガイ製貝輪観察表

挿図番号	グリッド：層位	縦長	横長	孔径 縦長	孔径 横長	重量	観　察　事　項
第46図 1	D- 7:Ⅲ	7.5	-	5.9	-	(10)	完成品。約二分の一の残存。器表面下部に製作時の打欠痕を残し，完全に消しきっていないため，該部は他部に比して若干鍔幅を減じている。器表面，孔唇を入念な研磨によって仕上げている。
〃　2	C- 11: Ⅰ	-	-	-	-	(5)	完成品。約四分の一の残存。下方左寄りの鱗片状突起を完全に消しきっていない器表面，孔唇を入念な研磨によって仕上げている。
〃　3	E- 3:Ⅲa	-	-	-	-	(2.7)	完成品。細片資料。器表面，孔唇を入念な研磨によって仕上げている。

b．イモガイ科製（第46図４，図版38・下）

横型の複合使用になるものと思われるタイプの貝輪の製作途上の未製品若しくは失敗品が，１点得られている。標品は，素材となったアンボンクロザメガイ？ *Lithoconus litteratus*（LINNÉ）の螺頭部のもっとも大きい部分を擦り切り？により輪切りにしたものであるが，具志川村清水貝塚例などからすれば（盛本編1989），さらに三分の一，若しくは四分の一に割き，その側縁部には結合のための小孔を穿つようである。

標品は，殻頂部は打欠によって孔を穿った後，周縁を研磨するが，研磨がいきとどかない部分が多く，整形時の剝離痕を各所に残す。側縁部にあたる部分も一方は折損，または打欠時のシャープな面を残し，他方は水磨を受けた面を残したままである。高さ2.8 cm，幅6.6 cm，重量30ｇを測る。表採。



第46図　貝輪実測図・１（1～3:オオツタノハガイ製，4:イモガイ科製，5･6:ゴホウラ製）

c．ゴホウラ製（第46図５・６，図版38・下）

ゴホウラを素材とした貝輪である。２点の出土があるが，両者とも素材の背面を使用したものである。

第26表　ゴホウラ製貝輪観察表

挿図番号	グリッド：層位	縦長	横長	孔径 縦長	孔径 横長	重量	観察事項
第46図５	D- 7:Ⅰ	-	-	5.5	-	(16)	約二分の一を欠く。高さがあり，断面形がハ字状をなす。推定復元器形が略円形状をなし，孔も整った円形状を呈する。鍔幅は側部に比して下部が広く，一定しない。厚さは，３mm前後と比較的薄手である。内面は素材のままであるが，外面および周縁部は入念な研磨によって丁寧に仕上げられている。
〃　６	D- 9:Ⅰ	-	-	-	-	(4.55)	細片資料。その形状などについては，判然としない。内面は素材のままであるが外面および周縁部は入念な研磨によって丁寧に仕上げられている

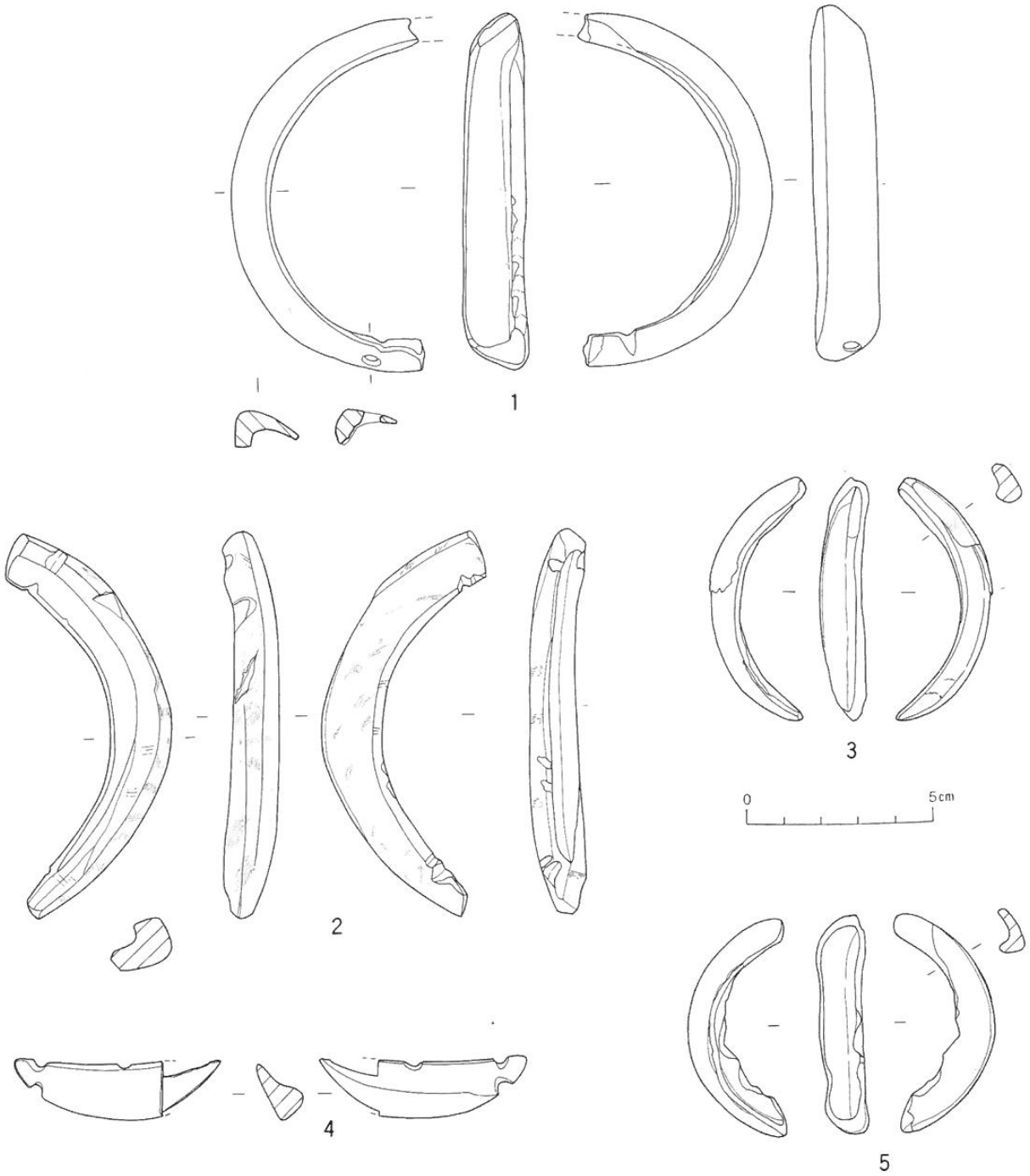
d．サラサバテイ製（第47図，図版39）

サラサバテイの体層部を半環状に仕上げた複合使用の貝輪である。いずれも，打ち欠きにより，螺層の縫合に対して平行にとったものである。４点の完成品と，１点の未製品が得られている。全体的な形状としては，半環状を呈した先端部に紐通しのための小孔（径４mm），若しくは緊縛のためのノッチを入れ，断面が略Ｌ字状をなす。先端部の仕上げには若干のバリエーションがみられ，丸，尖状，平坦をなす。なお，３点の完成品のうち，第47図１と２は，Ｅ－７区：Ⅲa 層より出土したものであるが，両者は原色図版二・上で示すように重なり合って出土していることより，おそらく一対のものであったであろう。

第27表　サラサバテイ製貝輪観察表

挿図番号	グリッド:層位	長さ	幅	高さ	重量	観察事項
第47図１	E-7:Ⅲa	(10.5)	(1.05)	1.7	(32)	完成品。上端部を欠く。下端部表面には紐通しのための小孔（径４mm）を，裏面には緊縛のためのノッチを有す。先端部は，平坦に仕上げる。一部に整形時の打欠痕を残すものの，孔唇および先端部は入念な研磨によって丁寧に仕上げる。
〃　２	E-7:Ⅲa	10.3	1.6	1.2	40	完成品。完形品。上下端部に緊縛のためのノッチを有す。先端部は，平坦に仕上げる。一部に孔整形時の打欠痕を残すのもの，孔唇および先端部は入念な研磨によって丁寧に仕上げる。
〃　３	D-6:Ⅲ	6.6	0.9	1.2	10	完成品。完形品。先端部が尖る。部分的に整形時の打欠痕を残す部分もあるが，全体的に研磨が行きとどく。器表面の約半分は，稜柱層が剝落し，真珠層が露呈。

〃 4	C−13:Ⅰ	5.9	1.05	1.15	11	完成品。端部のみの欠損品。端部は尖りその付け根部に緊縛のためのノッチを有す。孔唇および先端部を入念な研磨によって丁寧に仕上げる。
〃 5	F−4:Ⅰ	-	1.5	1.7		未製品。先端部は丸く仕上げている。殻底部側をはじめ，各所に整形時の打欠痕を残す。



第47図　貝輪実測図・2（サラサバテイ製）

e．ウミギクガイ科製（第48図１～６，図版40）

ウミギクガイ科の中央部に孔を穿ったものである。孔の位置や大きさ，あるいは加工状況からして，本節13．で報告する貝製漁網錘とは明らかに区別されるものである。計６点が得られているが，うち４点は整形時の粗孔段階の未製品であり，研磨仕上げが行われているのは２点のみである。

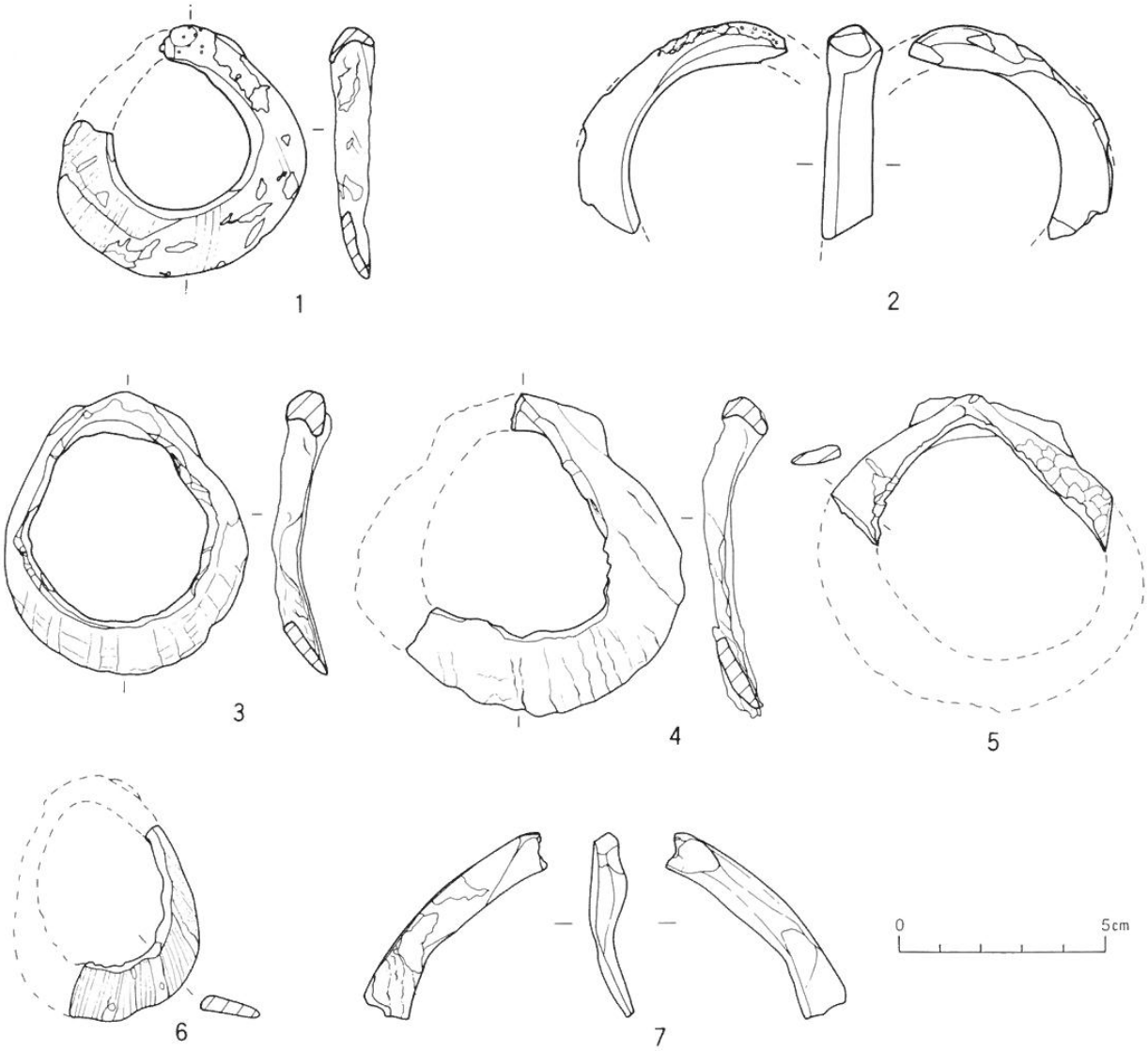
第28表　ウミギクガイ科製貝輪観察表

挿図番号	グリッド：層位	縦長	横長	孔径 縦長	孔径 横長	重量	観察事項
第48図１	B- 5:Ⅱ	6.1	6.1	3.6	3.4	(15)	完成品。約四分の一を欠く。孔形は環状を呈し鍔幅は1.3～1.6cmと幅広い。孔唇および器表面とも入念な研磨によって丁寧に仕上げる。
〃 2	E- 5:Ⅲa	-	-	-	-	(10.8)	完成品。約四分の一の残存。腹縁部に整形時の剝離痕を残すものの，器表面および孔唇とも入念な研磨によって仕上げる
〃 3	D- 4:Ⅱ	6.9	5.9	4.5	4.4	18	未製品。完形品。水磨を受けたものを使用。孔唇部に研磨を施すが，十分に行っておらず，各所に穿孔時の打欠痕を残す。
〃 4	B- 6:Ⅲ	7.0	-	5.0	-	(20)	未製品。約三分の一を欠く。孔唇は穿孔時の打欠器表面は素材のままで，磨面はみられない。
〃 5	D- 11:Ⅰ	-	-	-	-	(10)	未製品。約三分の一の残存。孔唇は穿孔時の打欠器表面は素材のままで，磨面はられない。
〃 6	B- 5:Ⅲ	-	-	-	-	(5.5)	未製品。約三分の一の残存。孔唇は穿孔時のままであるが器表面の放射肋部分に若干の研磨痕？かと思われる部分が観察されるが判然としない。

f．クロチョウガイ製（第48図７，図版40）

細片資料のうえ，管見の限り，当該素材製の出土例を聞かないため，素材からして貝輪に含めて良いかということについて疑問が残るが，形態から判断し，貝輪として扱った。

残存資料の部位は，素材のちょうつがい部近くのようである。比較的鍔幅が小さく，約８～10mmほどしかない。残存資料からする限り，かなり孔経の大きな貝輪になるようである。入念な研磨により，丁寧に仕上げている。Ｅ－５：Ⅲa 層出土。



第48図　貝輪実測図・3（1～6:ウミギクガイ科製，7:クロチョウガイ製）

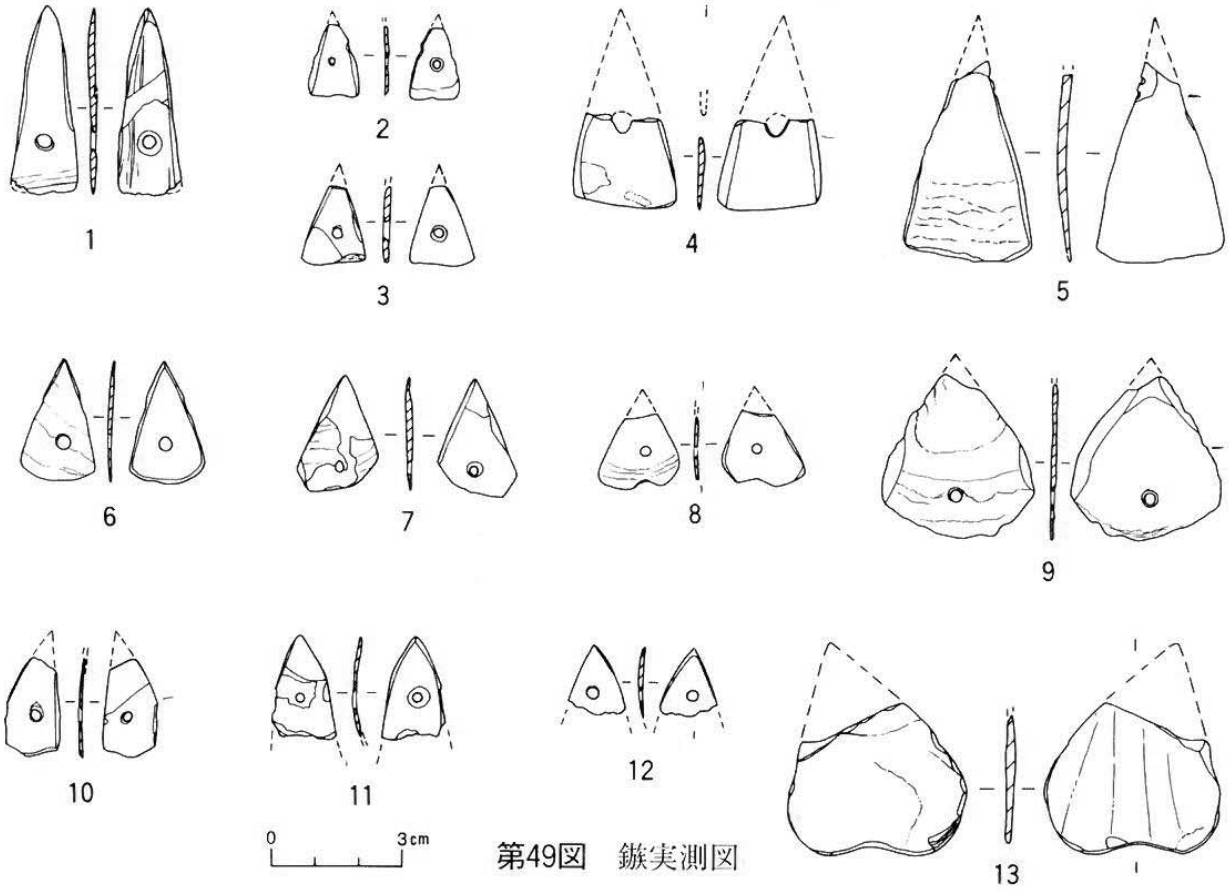
6．鏃（第49図，図版41・上）

そのほとんどが，ウグイスガイ科のクロチョウガイ *Pinctada margaritifera*（LINNÉ）の腹縁部を利用したものであるが，3・10・11のみは異なり，チョウセンサザエ *Marmarostoma argyrum*（FISCHER）か，ヤコウガイ *Lunatica marmorata*（LINNÉ）などのリュウテンサザエ科の仲間の真珠層を有す貝種のようである。全体的な形状は，二等辺三角形および三角形状をなし，中央部に一孔を穿ったものである。左右対称形をなすものがほとんどであるが，10のように一側面は直線状をなし，他の側面は略弧状をなす非対象形のものもある。

これらは，基部の形状の相違から二大別される。

Ⅰ類－基部の形状が平坦をなす，所謂平基式のものである。計4点が得られている（第49図1～5）。

Ⅱ類－基部の形状は平坦をなさず，ほぼ素材の原形のままにし，略弧状あるいは不定形に仕上げているものである。計7点が得られている（第49図6～10・13）。



第49図　鏃実測図

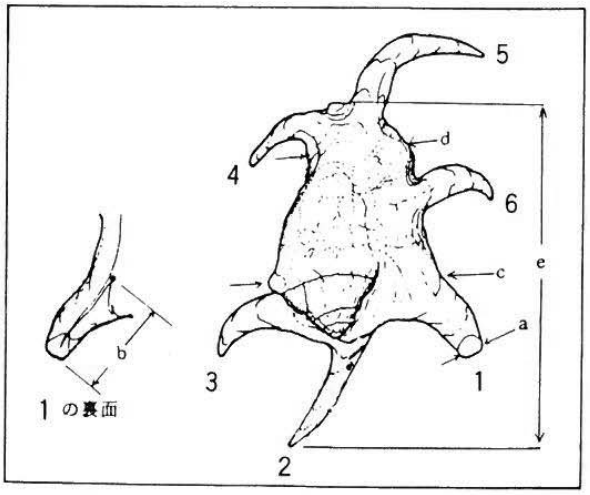
第29表　鏃観察表

挿図番号	グリッド：層位	高さ	幅	厚さ	重量	観　察　事　項
第49図1	E- 5:Ⅲa	4.3	1.4	1.5	1.02	わずかに基部左端を欠くのみで，ほぼ完形。表裏面とも研磨によって仕上げるとともに，先端部，側縁部，基部は表裏面から斜位に仕上げており，シャープ。裏面の孔周辺には，穿孔時の痕跡を残す。

〃	2	E- 6:Ⅲa	(1.65)	1.1	1.0	(0.3)	先端を欠失。両側面とも直線状をなさず，整形時の剝離痕を残し，鋸歯若しくはノッチ状を呈しているが，これが意図的なものか，否か，ということについては不明。裏面の孔周辺には，穿孔時の痕跡を残す。
〃	3	D- 8:Ⅲa	(1.5)	1.5	0.3	(0.6)	先端部を欠失。比較的整った形態をなす。表面の右側縁部と基部右半分に，整形時の剝離痕を，裏面の孔周辺には，穿孔時の痕跡を残す。
〃	4	F- 5:Ⅲa	(1.3)	1.26	0.5	(1.2)	孔の部分より横折れにより身部上部を欠失。表面は，入念な研磨により仕上げる。側縁部は斜位に加工。
〃	5	B- 6:Ⅲ	(0.98)	0.98	0.4	(0.5)	研磨工程を施していない，整形しただけの未製品。
〃	6	B- 5:Ⅲ	0.9	0.9	0.4	0.4	完形品。表面は入念な研磨によって丁寧に仕上げているものの，裏面は素材のままである側縁部は斜位に加工。
〃	7	F- 5:Ⅰ	0.7	0.85	0.3	0.3	完形品。整形後，両側面部を研磨しているのみであるが，研磨工程が弱いため，各所に剝離痕を残す。また，裏面の孔周辺には穿孔時の痕跡を残す。
〃	8	C- 9:Ⅱ	(1.1)	1.1	0.3	(0.8)	先端部と基部中央付近を欠失。整形後，両側面部を研磨しているのみであるが，入念な研磨を施していないため，各所に剝離痕を残す
〃	9	B- 3:Ⅰ	(1.1)	1.2	0.5	(0.9)	先端部を欠失。表面はかなり剝落しており，研磨加工の有無が判然としないが，裏面は素材のままである。しかし，両側縁部のみは裏面から斜位に研磨を施す。
〃	10	D- 4:Ⅰb	(1.2)	1.2	0.78	(1.04)	先端部を欠失。右側縁は直線状をなすが，左側縁部は略弧状をなし，非対象形。研磨は両側縁部のみで，表裏面は凹凸を呈し，研磨工程は施されていない。
〃	11	E- 3:Ⅲa	(1.48)	1.3	2.2	(1.08)	基部を欠失。素材からくる制約からか，先端部が内湾。裏面先端部と両側縁部は，入念な研磨によって丁寧に仕上げるが，他部は素材のままである。
〃	12	E- 5:Ⅲb	(1.6)	1.3	1.0	(0.2)	先端部片。裏面先端部と両側縁部は，入念な研磨によって丁寧に仕上げるが，他部は素材材のままである。
〃	13	D- 7:Ⅲ	(3.5)	4.0	0.3	(0.9)	標品は，先端部を欠いているうえ，形態上からしても当該製品に含めるべきかということについては疑問も残るが，一応含めた。加工は，周縁部を押圧剝離によって成形されたのみであることから，仮に属するにしても未製製品とみるべきかも知れない。

7．スイジガイ製利器(第50～52図,図版42～43)

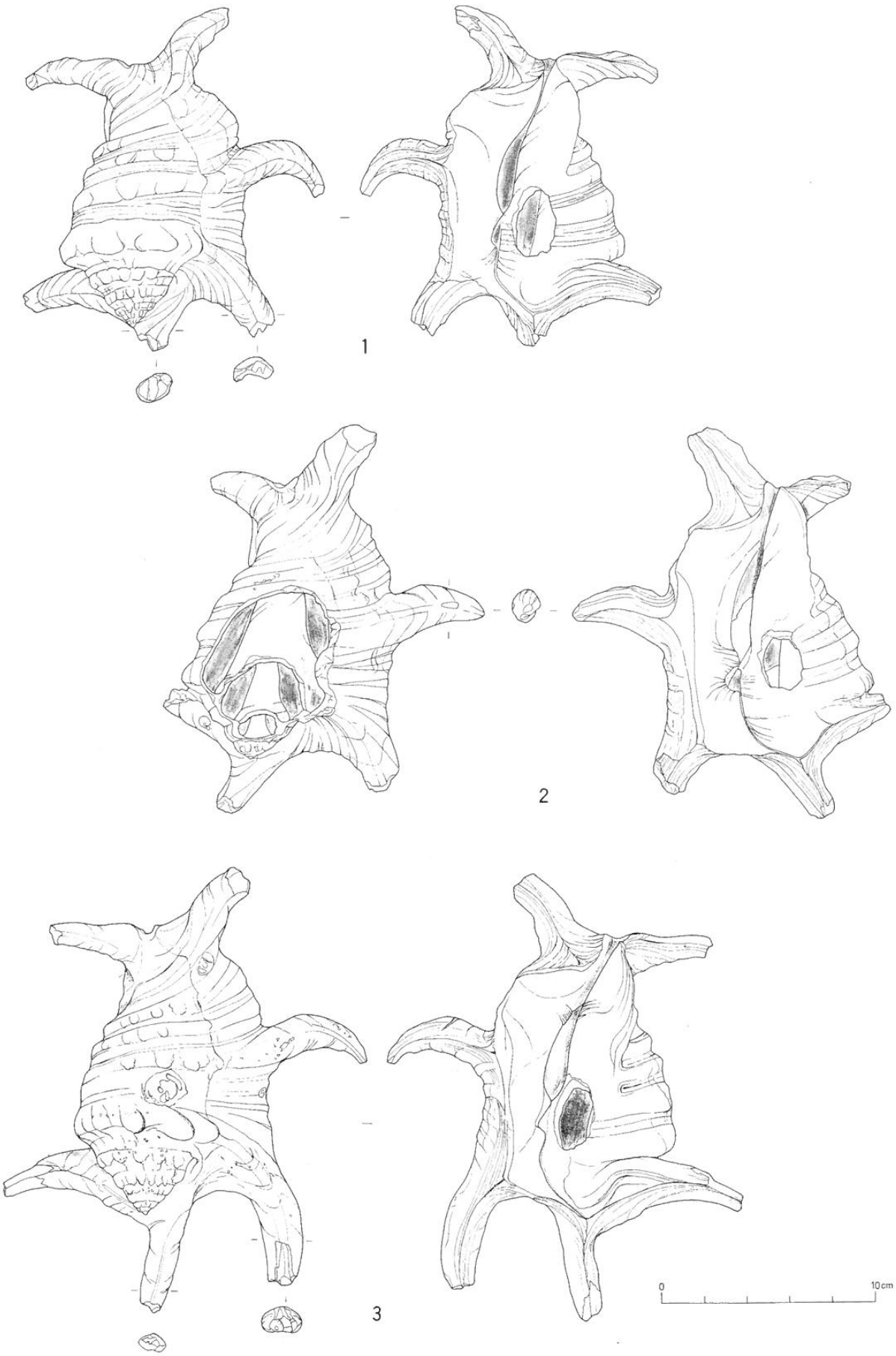
スイジガイ *Harpago chiagra* (LINNÉ) の突起部の先端部をノミ状，あるいはポイント状に研ぎ出したものである。計7点の出土がある。このうち，第52図3は，突起番号6と1の突起部のみの，4は6の突起部のみの資料であるが，他の5点は体層部をも有する。なお，個々の遺物観察における突起番号については，上原1981を基に，殻頂部の左側を始点の1とし，時計廻りの方向で便宜的に番号を付した（第50図参照)。



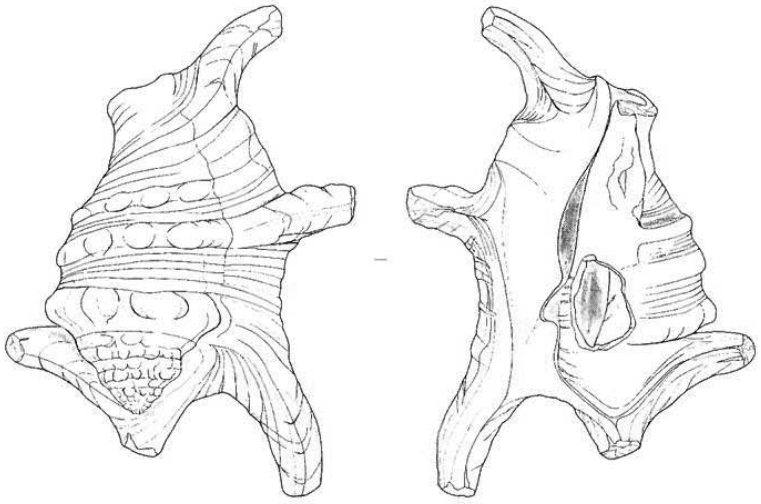
第50図　スイジガイ製利器の突起番号
(上原1981に加筆)

第30表　スイジガイ製利器観察表

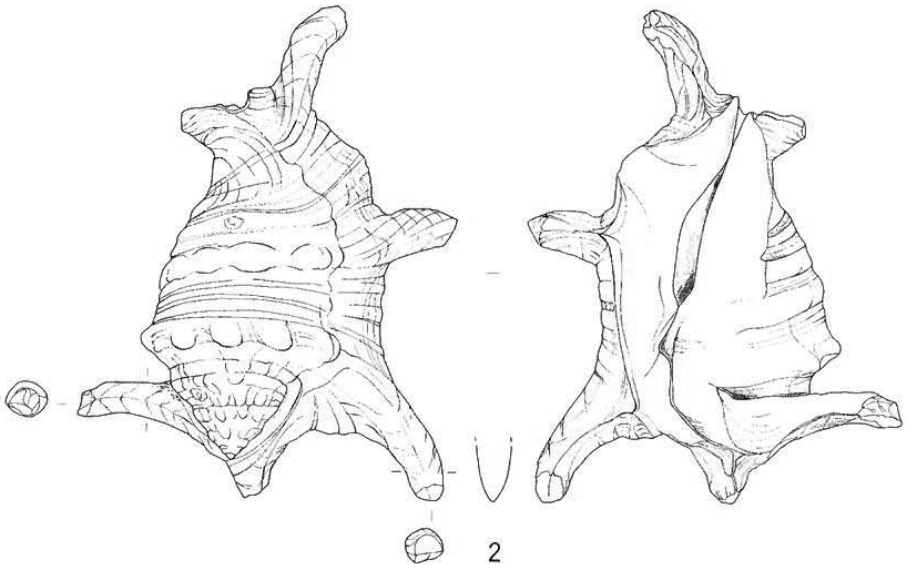
挿図番号	グリッド:層位	殻長	殻幅	重量	観　察　事　項
第51図1	C-11:Ⅰa	13.0	8.4	500	突起番号1・3の先端部をノミ状に研ぎだす。1の刃縁は，刃こぼれなどはみられず，シャープであるが，3は使用による刃こぼれをおこし，端部のみを残す。突起番号2・4は突起付け根部から5・6は先端部を欠失。
〃　2	C-3:Ⅲa	13.2	9.3	630	突起番号1・2の先端部をノミ状に研ぎだす。両者とも刃部作成途上のものかと推される。すなわち，素材の先端部を折り捨て，その後に刃部の加工工程に入るようであるが，その途上のもののようである。突起番号6は，素材の原形の状態であるが，3・4・5は先端部を折り取る。腹面部に2.1cm×2.9cmの縦位の楕円形の粗孔を穿つ。
〃　3	D-9:Ⅳ	12.8	9.7	475	背面部を除去。突起番号6の先端部を素材の形状を生かしながらわずかに研磨し，ピック状に仕上げる。突起番号3は付け根部から，1・2・4・5は付け根に近い部分から欠失。腹面部に2.5cm×2.5cmの円形の粗孔を穿つ。
第52図1	B-5:Ⅲ	12.3	8.7	410	突起番号1・2の先端部を研ぎだしている。1は付け根に近い部分まで折れた箇所にノミ状に加工しているが，鋸歯状に刃こぼれをおこす。2は，付け根部まで折れた箇所に横位からノミ状に加工しているが，片面は欠失。突起番号3は中ほどから4～6は先端部を欠失。腹面部に2.2cm×3.1cmの縦位の楕円形の粗孔を穿つ。
〃　2	B-4:Ⅱ	11.35	8.2	380	いずれの突起も先端が潰れ研ぎだした部分はみられないが，一応当該製品に含めた。しかし，各突起とも類品にみられるような，使用時に折損したと推されるシャープさがみられず，平坦な滑面を呈することを考慮すると，あるいは別の用途に使



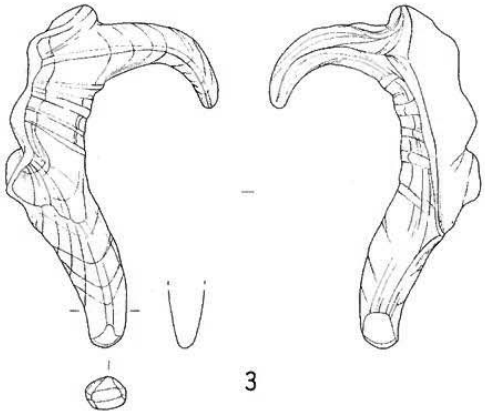
第51図　スイジガイ製利器実測図・1



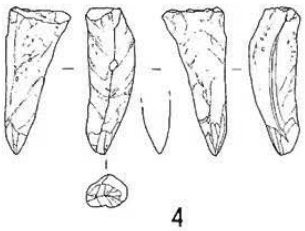
1



2



3



4

0 10cm

第52図　スイジガイ製利器実測図・2

					用，あるいは転用された可能性もある。ちなみに2・4の突起は付け根部から，3・5・6は中ほどから，6は先端から折損。腹面部には2.3cm×2.8cmの不正な隅丸方形を呈する。
〃	3	B-6:Ⅲ	-	-	(115)	突起番号5・6のみの資料である。5は素材の原形の状態であるが，6の先端部をノミ状に研ぎだしているものの，刃縁部は丸みを呈し，シャープさを欠く。
〃	4	B-3:Ⅰb	-	-	(17)	突起番号6？のみの資料である。付け根部より折損。先端部をノミ状に研ぎだしている。刃縁には細かい刃こぼれがみられる。

8．螺蓋製品（第53～58図，図版44・45）

当該製品は，これまで貝斧，貝刃，ヤコウガイの蓋製貝斧，ヤコウガイ蓋製スクレイパー，螺蓋製敲打器，螺蓋製敲打具などの，種々な名称，用途が与えられてきた。

それは，蓋の縁部の薄い方を内側に向けて連続した剝離を施していることから，刃器類と考える説と（國分1973,新田1976,安里1986），刃を意識して剝離したのではなく，細部を敲打器として使用したために，剝離が生じ，その繰り返しで連続した剝離がなされたと考える説（白木原1973,弥栄・他1985,島・他1986,岸本・他1986,長野・他1988,盛本編1989），その両方を兼ね備えるといった説（三島1982・1988）などがある。近年の動向としては，種子島の民俗事例などから敲打器として考える向きが主流のようである。このようなことを鑑みながら，当該貝塚の螺蓋製品を検討してみたところ，利用素材（蓋）の大きさにバラツキが目立ち，小さいものは小型のヤコウガイの蓋だけでなく，同科のチョウセンサザエの蓋を利用したものもある。

これらの類別横幅の平均値をみてみると，Ⅰ類：5.7cm,Ⅱ類：7.7cm,Ⅲ類：7.9cm.Ⅳ類：7.6cm,Ⅴ類：7.3cmとなる。Ⅰ類からⅢ類にかけて大きくなる傾向にあるうえ，Ⅳ・Ⅴ類は原形を留めないほど剝離がおよんでいるにもかかわらず，横幅の大きさは，Ⅲ類とさほど変わらない。

このことは，敲打数が素材の大きさに比例し，素材はⅠ類からⅣ類にかけて大型化することが考えられる。また，素材のサイズのバラツキは，素材不足によるものとは考えられず，むしろ，サイズを変えることによって活用できたのではないかと思われる。さらに，敲打する部分（部位）を見た場合，Ⅰ類にはバラツキがあり，統一性がないのに対し，Ⅱ～Ⅴ類は，その多くが横軸の端から順次に連続して敲打していっていることが判る。これは，敲打する際の持ち方に，影響されているものと考える。このような観点に立脚した場合，Ⅰ類は最初から連続した使用を目的としなかったのかということが疑問として残る。

小型な蓋の剝離痕をみると，そのほとんどが一ないし，二打による剝離で，Ⅰ類に属するものである。中型のものは，Ⅱ類に属する（約三分の一を剝離）ものがほとんどである。また，

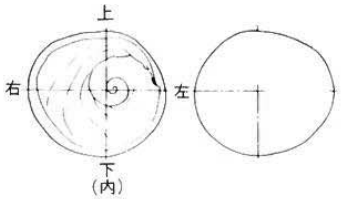
小型に関しては，敲打器としては使用するにはあまりにも貧弱すぎることもあり，打器および打具としての用途のみでは疑問の残る点もあり，他の用途も検討する余地があろう。

上記してきたことは，以下のように要約される。

1．素材のサイズには，大・中・小とバラツキがある。

2．小・中(特に小）は，敲打器として使用するにはあまりにも貧弱である。(素材不足によるものとは考えがたい。)

3．大・中は意図的と思えるほど剝離が連続している。



第53図　部位名

他の用途については，本貝塚をはじめとして，多くのヤコウガイ製杓子状製品を出土する遺跡でその素材を取り除いた残滓が出土している。そして，これらの多くが素材を取り除いた残滓であるにもかかわらず，素材特有の螺旋形状をとどめている。このことは，殻の形を壊すことなく，利用部位を取り出したことを物語っている。

そして，これらが敲打により割り取られていることは，殻の状態から判ることから，どのようにすれば，この状態で素材を取り出せるかを追体験してみた。その結果，そのままの状態で殻の表面から敲打すると，成長線に沿って割れてしまい，意図通りには割れないうえ，内側の真珠層をも剝離してしまう。しかし，殻の内側に何らかの当て具を充て敲打すると（第54図)，その部分のみを割ることができ，思い通りの形を取り出すことができた。

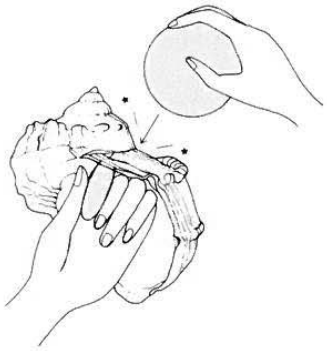
以上のことから，当該製品は敲打器（具）としてだけでなく，ヤコウガイ製杓子状製品などの製作における敲打の際の当て具としての用途としても考慮する必要があるのではなかろうか？。

なお，これらの分類については具志川村清水貝塚(盛本編1989)に準拠し，その剝離痕の位置によって，Ⅰ～Ⅴ類に分類した。

Ⅰ類―ほとんどが素材の原形をとどめ，下上端もしくは左右端に1～2回の打撃による剝離痕がみられるものである。

Ⅱ類―剝離痕が周縁の3分の1程度におよぶものである。

Ⅲ類―Ⅱ類よりさらに使用の度合が進行し，上端周縁を残す程度で，ほとんどの部分に剝離痕がおよんでいる。



第54図　螺蓋製品の使用想定図

Ⅳ類―使用の際の打撃が強かったと思われ，下端部が大きく破損したり，縦割れが生じたりしているものである。使用面も鋭さを欠き，鈍くなる。形状も楕円形状を呈するなど原形をとどめていないのも少くない。

Ⅴ類―素材内面の使用痕は，Ⅱ，Ⅲ，Ⅳ類に属するものであるが，外面にも敲打痕が認められるものである。

第31表　螺蓋製品観察表・1

整理番号	グリッド	層位	長さ	幅	重量	分類	観察事項	挿図番号
1	E−3	Ⅲ	2.7	3	15	Ⅰ類	チョウセンサザエの蓋を利用。右横軸上段に一打による剝離痕が認められる。	第55図1
2	E−11	Ⅰ	3.6	3.9	20	Ⅰ類	縦軸にかかる部分に一打による剝離痕あり。	〃 2
3	表採		3.6	3.9	20	Ⅰ類	横軸の左端に一打による剝離痕を認める。僅かではあるが、横軸の右端にも剝離痕を認める。	〃 3
4	F−6	Ⅰ	4.2	4.6	35	Ⅰ類	横軸の右端上部と左端上部に一打ずつの剝離痕あり。	〃 4
5	C−12	Ⅰ	4.3	4.8	40	Ⅰ類	横軸の右端に一打による剝離痕を認める。	〃 5
6	F−4	Ⅰ	4.7	5.1	50	Ⅰ類	横軸の右端下部より縦軸にかかる部分に二打による剝離痕が認められる。	〃 7
7	B−4	Ⅰ・Ⅱ	4.7	5.2	50	Ⅰ類	横軸の右端に一打による剝離痕を認める。	〃 6
8	C−12	Ⅰ	4.8	5.6	50	Ⅰ類	横軸の右端上部と左端上部に各一打ずつの剝離痕が認められる。	〃 8
9	F−4	Ⅰ	6	6.6	90	Ⅰ類	横軸の右端が打割され縦軸の左側に一打による剝離痕を認める。	〃 9
10	C−10	Ⅰ・Ⅱ	6.2	6.8	100	Ⅰ類	横軸の右端下部に一打による剝離痕を認める。	〃 10
11	D−11	Ⅳ	7.3	8.2	180	Ⅰ類	横軸の右端に一打による剝離痕が見られる。	〃 11
12	B−4	Ⅰ・Ⅱ	7.4	8.2	180	Ⅰ類	横軸の右端に一打による剝離痕を認める。	〃 12
13	C−9	Ⅱ	7.6	8.6	190	Ⅰ類	縦軸より左側に一打による剝離痕を認める。	〃 13
14	B−8	Ⅰ	6.6	7	130	Ⅱ類	横軸の右端上部より縦軸の左側まで剝離が認められる。	〃 16
15	E−5	Ⅲa	7.2	7.1	105	Ⅱ類	縦軸の下方右側より左側にかけて連続した剝離が見られる。	〃 14
16	E−5	Ⅰ	6.7	7.5	120	Ⅱ類	横軸の右端下部から左端下部まで剝離が及ぶものである。	〃 15
17	C−5	Ⅲa	7.7	7.9	200	Ⅱ類	横軸の右端下部より縦軸下方の左側まで連続した剝離痕を認める。	〃 20
18	C−7	Ⅲa	6.7	8.1	165	Ⅱ類	横軸の右端上部より縦軸下方の右側まで剝離が見られる。	〃 17
19	C−9	Ⅰ	7.2	8.1	160	Ⅱ類	横軸の右端下部から縦軸まで剝離が及ぶものである。	〃 18
20	B−10	Ⅰb	7.9	8.6	200	Ⅱ類	横軸の右端下部から縦軸まで剝離が及ぶものである。	〃 19
21	D−10	Ⅰ	4.5	5.1	40	Ⅲ類	横軸の右端より左上部端まで剝離が及んでいる。	
22	D−4	Ⅱ	5.3	6	80	Ⅲ類	横軸の右端上部より左端上部まで剝離している。	
23	F−3	Ⅰ	5.6	6.3	80	Ⅲ類	横軸の右端より左端下部まで剝離が見られる。	
24	B−4	Ⅰa	5.6	6.3	80	Ⅲ類	横軸の下部より左端まで剝離が認められる。	
25	E−8	Ⅰ	5.9	6.4	85	Ⅲ類	横軸の右端上部から左端上部まで剝離が及ぶ。	

第32表　螺蓋製品観察表・2

整理番号	グリッド	層位	長さ	幅	重量	分類	観察事項	挿図番号
26	表採		6	6.6	90	Ⅲ類	横軸の右端上部より左端上部まで剝離が及ぶ。	
27	D−4	Ⅱ	7.2	7.2	130	Ⅲ類	横軸の右端上部より左端上部まで剝離している。	
28	D−3	Ⅱ	6.9	7.8	175	Ⅲ類	横軸の右端上部より左端下部まで連続した剝離が見られる。	第56図1
29	B−11	Ⅰb	6.8	7.9	135	Ⅲ類	横軸の右端から左端下部まで剝離が及ぶ。縦軸の右側は強い衝撃により破損している。	
30	E−5	Ⅲa	6.9	8	170	Ⅲ類	横軸の右端上部より左上部端まで剝離している。縦軸の左側に敲打による潰れが見られる。	第56図3
31	B−5	Ⅰb	7.2	8	170	Ⅲ類	横軸の右端から左端上部まで剝離が及ぶものである。	
32	C−12	Ⅰ	7.1	8	170	Ⅲ類	横軸の右端から左端下部まで剝離が及ぶ。	
33	D−5	Ⅲb	7.1	8.1	170	Ⅲ類	横軸の右端上部より左上部端まで連続した剝離痕が認められる。	第56図4
34	E−3	Ⅲa	7.4	8.1	180	Ⅲ類	横軸の右端上部より左上部端まで剝離している。	〃 6
35	D−12	Ⅰ	7.1	8.1	165	Ⅲ類	横軸の右端下部から左端上部まで剝離が及ぶものである。	〃 2
36	C−13	Ⅰ	7.6	8.2	170	Ⅲ類	横軸の右端上部より左上部端まで剝離が及んでいる。	
37	D−10	Ⅰ	7.6	8.3	180	Ⅲ類	横軸の右端から縦軸下部までと横軸の左端上部に剝離痕が認められる。	
38	F−9	Ⅰa	7.3	8.3	185	Ⅲ類	横軸の右端から左端下部まで剝離が及ぶ。	
39	D−12	Ⅰ	7.3	8.3	180	Ⅲ類	横軸の右端下部より左下部端まで剝離が及んでいる。	第56図8
40	E−3	Ⅰ	7.8	8.3	180	Ⅲ類	横軸の右上端から左端下部まで剝離が及んでいる。	
41	C−6	Ⅴ	7.2	8.4	190	Ⅲ類	横軸の右端、やや上部より左端下部まで連続した剝離痕が認められ横軸の右端に敲打痕が認められる。	第56図12
42	D−5	Ⅲa	7.7	8.5	200	Ⅲ類	横軸の右端上部より縦軸下方の左側まで連続した剝離が認められる。	〃 9
43	C−6	Ⅱ	7.5	8.5	200	Ⅲ類	横軸の右端上部より左端下部まで連続した剝離が見られる。	〃 10
44	表採		7.5	8.5	180	Ⅲ類	横軸の右端より左端上部まで剝離が及ぶ。	〃 5
45	B−6	Ⅲ	7.8	8.6	200	Ⅲ類	横軸の右上部より縦軸下方左側まで剝離が見られ、特に縦軸右側に強い衝撃による破損が見られる。	〃 16
46	F−4	Ⅰ	7.4	8.6	200	Ⅲ類	横軸の右端から左端まで剝離が及ぶものである。	〃 7
47	C−3	Ⅰ	8.1	8.7	230	Ⅲ類	横軸の右端から左端上部まで剝離が及ぶものである。	
48	C−8	Ⅳ	8.3	8.9	180	Ⅲ類	横軸の右端より左端下部まで剝離している。特に縦軸の右側に強い打撃による剝離が見られる。	第56図13

第33表　螺蓋製品観察表・3

整理番号	グリッド	層位	長さ	幅	重量	分類	観察事項	挿図番号
49	C−5	Ⅱ	7.9	8.9	220	Ⅲ類	横軸の右端上部より左端下部まで連続した剝離が見られる。	第56図14
50	F−3	Ⅰ	7.9	8.9	200	Ⅲ類	横軸の右端下部から左端下部まで連続した剝離が及ぶものである。	
51	B−5	Ⅰb	8	8.9	230	Ⅲ類	横軸の右端から左端下部まで剝離が及ぶものである。	第56図11
52	D−4	Ⅱ	8.2	9	230	Ⅲ類	横軸の右端から左端まで剝離が及ぶものである。	〃　15
53	B−7	Ⅰ	8.4	9.2	250	Ⅲ類	横軸の右端下部から左端下部まで剝離が及ぶものである。	
54	E−3	Ⅰa	7.2	6.1	130	Ⅳ類	横軸の右端と左端に一部剝離が残るものの下半分は破損している。	
55	B−6	Ⅰ	4.8	6.3	90	Ⅳ類	横軸の右端上部より左端上部まで剝離が及んでいる。	第57図1
56	E−10	Ⅰ	5.7	6.6	110	Ⅳ類	使用の度合いが激しかったのか、上部の厚みのある部分を残して全て剝離が及んでいる。原形はとどめず三角形を呈する。	〃　3
57	D−3	Ⅱ	5.1	6.7	80	Ⅳ類	横軸の右端上部から左端上部まで剝離している。	
58	D−5	Ⅲb	5.6	7	110	Ⅳ類	横軸の右端上部より左端上部まで剝離している。	第57図2
59	D−10	Ⅰ	5.2	7	100	Ⅳ類	横軸の右端上部から左端上部まで剝離が及び特に下半分が破損している。	
60	C−4	Ⅰb	6.1	7	100	Ⅳ類	横軸より下方は破損している。	
61	C−13	Ⅰ	6.1	7.2	110	Ⅳ類	横軸の右端上部より左端上部まで剝離が及んでいる。特に縦軸の左側は強い衝撃による破損が激しい。	第57図4
62	B−5	Ⅰb	7.8	7.3	160	Ⅳ類	横軸の右端部より左端上部まで剝離が見られる。縦軸の右側は大きく割れ原形をとどめていない。	
63	E−3	Ⅱ	7.1	7.5	150	Ⅳ類	横軸の右端上部から縦軸下方まで強い衝撃により大きく割れ、縦軸下方から上方まで連続した剝離が見られる。	
64	B−5	Ⅰb	6.4	7.6	160	Ⅳ類	横軸の右端上部より左端上部まで剝離している。使用の際の衝撃が強かったのか、原形をとどめていない。	第57図7
65	B−3	Ⅰ	6.1	7.6	150	Ⅳ類	横軸の右端上部より左端上部まで剝離が及んでいる。特に下半分は破損が激しい。	〃　5
66	表採		7	7.7	160	Ⅳ類	横軸の両端と縦軸の下部を結ぶ線上に剝離が及んでいる。	
67	B−7	Ⅳ	6.3	7.8	130	Ⅳ類	横軸の右端、上部より左端上部まで連続した剝離痕を認める。下半分は使用の際の衝撃が強く、破損している。	第57図6
68	E−6	Ⅰ	7	7.9	130	Ⅳ類	縦軸から左の横軸まで連続した剝離が見られ縦軸の右側は大きく割れている。	

第34表　螺蓋製品観察表・4

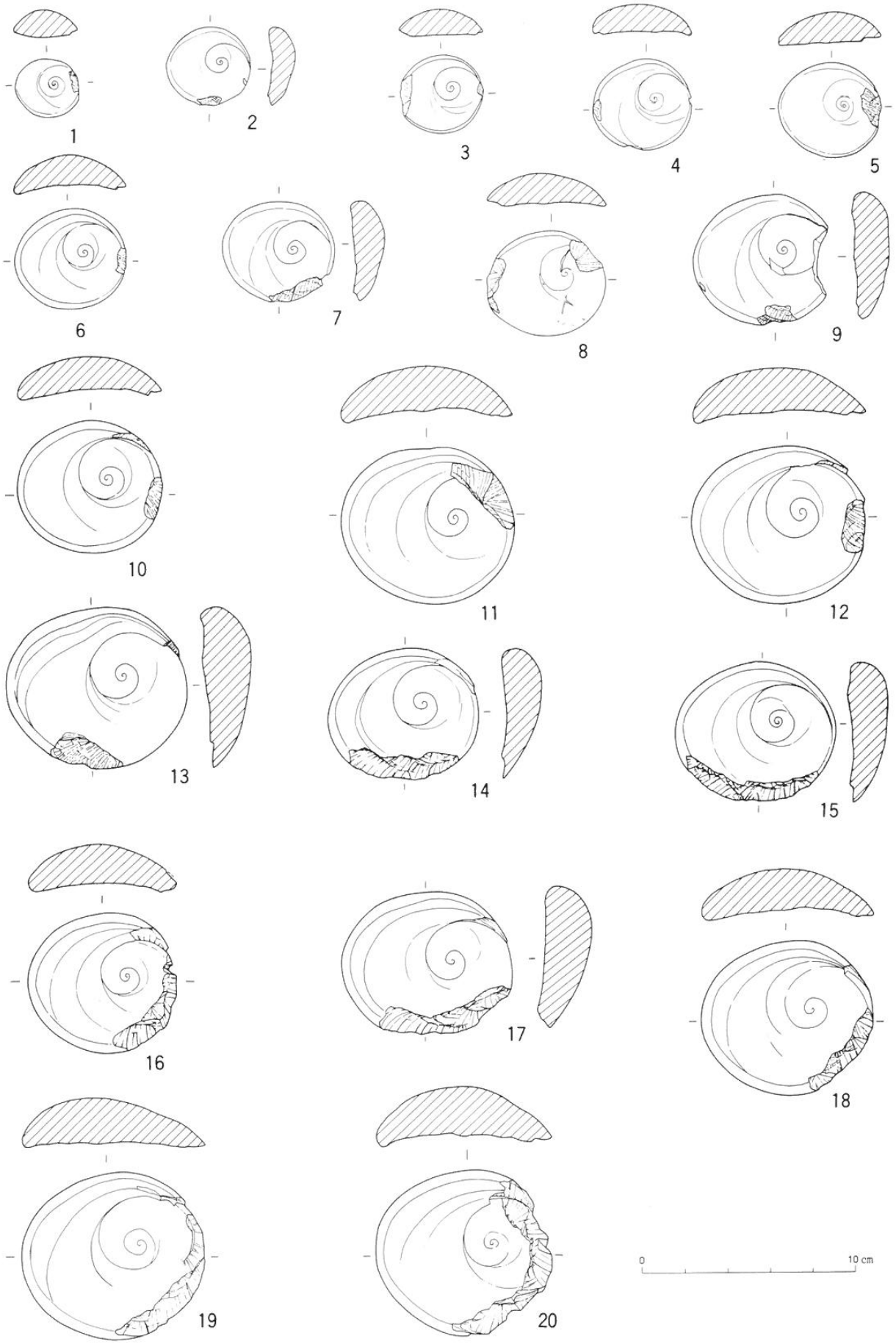
整理番号	グリッド	層位	長さ	幅	重量	分類	観察事項	挿図番号
69	C−4	Ⅰb	6.8	8	150	Ⅳ類	横軸の右端から左端まで剝離が及んでいる。特に下半分は破損が激しい。	第57図8
70	D−11	Ⅰ	6.9	8.1	170	Ⅳ類	横軸の右端から左端まで剝離が及び，特に下半分の破損が激しい。	〃 12
71	D−11	Ⅰ	6.6	8.2	170	Ⅳ類	横軸の右端より左端下部まで剝離が見られる。横軸の下方は大きく割れ原形をとどめていない。	〃 9
72	F−3	Ⅰ	5.5	8.2	130	Ⅳ類	横軸の右端と左端に剝離が僅かに認められるが，横軸より下半分は破損している。	
73	D−6	Ⅲa	6.7	8.3	160	Ⅳ類	横軸の右端上部より左端上部まで剝離し，下部は破損している。	第57図10
74	B−3	Ⅰ	5.7	8.3	180	Ⅳ類	横軸から下半分が大きく割れている。	
75	D−4	Ⅲa	7.4	8.5	180	Ⅳ類	横軸の右端上部より左端上部まで剝離している。縦軸より左は強い衝撃により破損している。	
76	D−5	Ⅲb	6.6	8.6	180	Ⅳ類	横軸の右端より左端まで剝離が及び，特に下半分は強い衝撃により破損している。	第57図11
77	C−9	Ⅰ	7.3	8.8	200	Ⅳ類	横軸から下半分が破損している。	
78	C−10	Ⅰ・Ⅱ	2.9	3.4	10	Ⅴ類	チョウセンサザエの蓋を利用。縦軸を中心に左右に剝離を認める。蓋の外面の厚みのある部分に強い敲打痕が認められる。	第58図3
79	C−3	Ⅰa	7.5	7.3	140	Ⅴ類	横軸の右端上部より左端上部まで剝離が及んでいる。特に右端下部と左端部分は破損が激しい。蓋の外面の厚みのある部分に敲打痕が認められる。	〃 6
80	B−3	Ⅰa	5.3	7.5	140	Ⅴ類	横軸の右端上部より左端上部まで割れている。蓋の外面に敲打痕が認められる。	〃 5
81	E−5	Ⅰ	6.8	7.8	140	Ⅴ類	横軸の右端下部から左端上部まで剝離が及ぶものである。蓋の厚みのある部分に敲打痕を認める。	〃 4
82	E−5	Ⅰ	6.8	7.8	140	Ⅴ類	横軸の右端上部より左端下部まで連続した剝離が見られる。また，蓋の厚みのある部分に敲打痕が認められる。	〃 7
83	D−3	Ⅱ	7.7	8.4	190	Ⅴ類	横軸の右端より左端下部まで剝離しており，特に縦軸の右に強い衝撃による割れが生じている。蓋の厚みのある部分と外面とに敲打痕が認められる。	〃 1
84	E−6	Ⅰ	7.5	8.5	180	Ⅴ類	横軸の右端から縦軸上部の左側まで剝離が及ぶものである。蓋の厚い部分に敲打痕が認められる。	〃 2
85	D−8	Ⅳ					小破片のため詳細は不明。	
86	C−9	Ⅳ					〃	
87	E−3	Ⅲa					〃	
88	E−3	Ⅲa					〃	
89	C−6	Ⅲ					〃	

第35表　螺蓋製品観察表・5

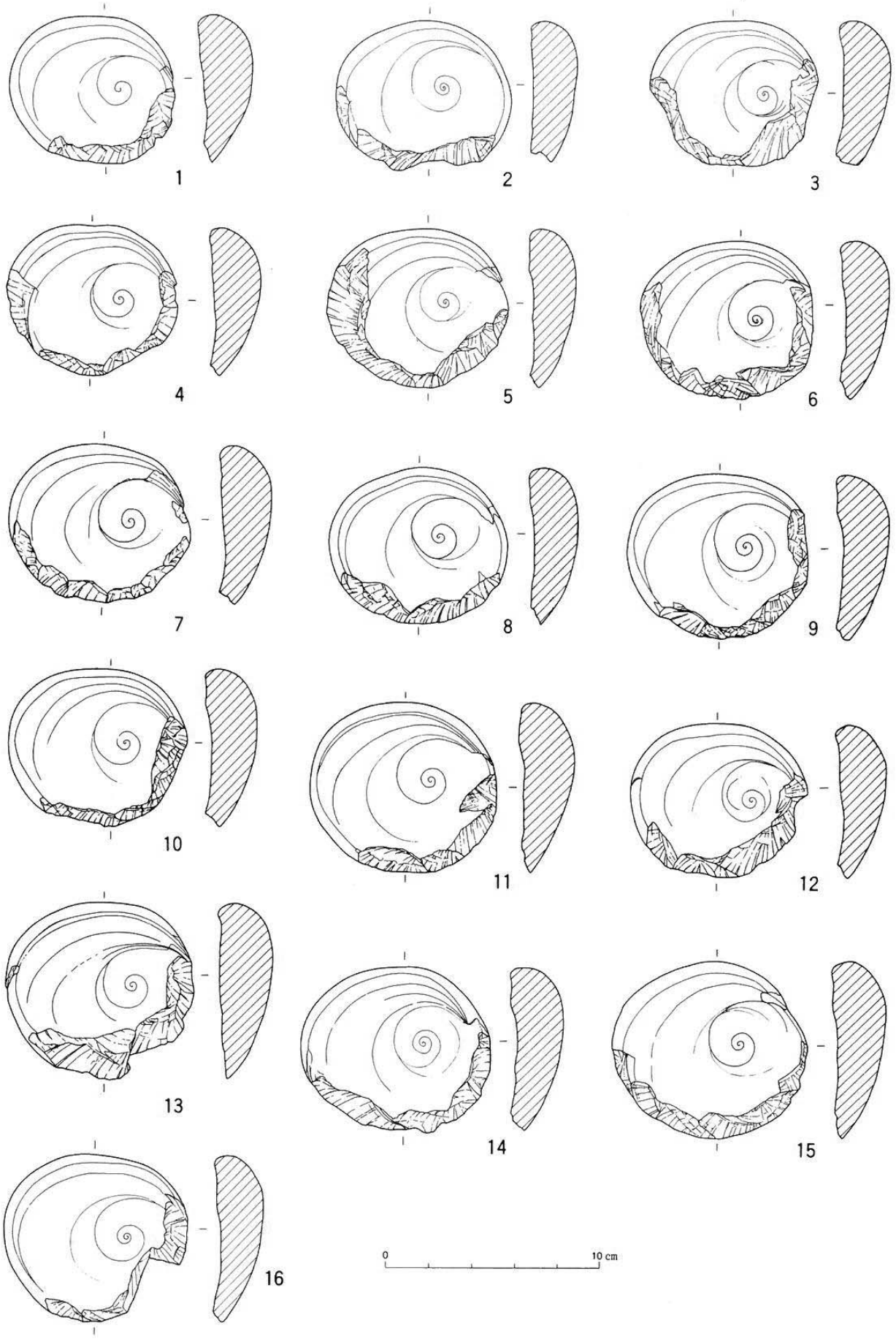
整理番号	グリッド	層位	長さ	幅	重量	分類	観察事項	挿図番号
90	E−6	Ⅲa	−	−	−	不明	小破片のため，詳細は不明。	
91	E−4	Ⅲa	−	−	−	〃	〃	
92	E−4	Ⅲa	−	−	−	〃	〃	
93	E−6	Ⅲa	−	−	−	〃	〃	
94	E−6	Ⅲa					〃	
95	B−7	Ⅲa	−	−	−	〃	〃	
96	E−7	Ⅲa	−	−	−	〃	〃	
97	C−6	Ⅲ	−	−	−	〃	〃	
98	D−5	Ⅲb	−	−	−	〃	〃	
99	D−4	Ⅲ	−	−	−	〃	〃	
100	F−6	Ⅱ	−	−	−	〃	〃	
101	D−3	Ⅱ	−	−	−	〃	〃	
102	D−3	Ⅱ	−	−	−	〃	〃	
103	C−10	Ⅱ	−	−	−	〃	〃	
104	D−3	Ⅱ	−	−	−	〃	〃	
105	D−3	Ⅱ	−	−	−	〃	〃	
106	D−3	Ⅱ	−	−	−	〃	〃	
107	D−4	Ⅱ	−	−	−	〃	〃	
108	B−4	Ⅰ・Ⅱ	−	−	−	〃	〃	
109	B−4	Ⅰ・Ⅱ	−	−	−	〃	〃	
110	B−4	Ⅰ・Ⅱ	−	−	−	〃	〃	
111	E−4	Ⅰ	−	−	−	〃	〃	
112	B−4	Ⅰ	−	−	−	〃	〃	
113	D−10	Ⅰ	−	−	−	〃	〃	
114	F−3	Ⅰ	−	−	−	〃	〃	
115	C−11	Ⅰ	−	−	−	〃	〃	
116	C−4	Ⅰ	−	−	−	〃	〃	
117	D−10	Ⅰ	−	−	−	〃	〃	
118	F−3	Ⅰ	−	−	−	〃	〃	
119	B−3	Ⅰ	−	−	−	〃	〃	
120	F−4	Ⅰ	−	−	−	〃	〃	
121	B−3	Ⅰ	−	−	−	〃	〃	
122	F−5	Ⅰ	−	−	−	〃	〃	
123	B−3	Ⅰ	−	−	−	〃	〃	
124	B−11	Ⅰ	−	−	−	〃	〃	
125	F−3	Ⅰ	−	−	−	〃	〃	
126	E−3	Ⅰa	−	−	−	〃	〃	
127	C−3	Ⅰ	−	−	−	〃	〃	
128	D−8	Ⅰb	−	−	−	〃	〃	
129	F−4	Ⅰ	−	−	−	〃	〃	
130	F−4	Ⅰ	−	−	−	〃	〃	
131	B−6	Ⅰ	−	−	−	〃	〃	
132	E−7	Ⅰ	−	−	−	〃	〃	
133	C−4	Ⅰb	−	−	−	〃	〃	
134	C−11	Ⅰ	−	−	−	〃	〃	
135	E−3	Ⅰ	−	−	−	〃	〃	
136	C−12	Ⅰ	−	−	−	〃	〃	
137	E−9	Ⅰ	−	−	−	〃	〃	
138	C−3	Ⅰ	−	−	−	〃	〃	
139	E−3	Ⅰ	−	−	−	〃	〃	
140	B−11	Ⅰa	−	−	−	〃	〃	
141	E−10	Ⅰ	−	−	−	〃	〃	
142	E−8	Ⅰ	−	−	−	〃	〃	
143	E−4	Ⅰ	−	−	−	〃	〃	

第36表　螺蓋製品観察表・6

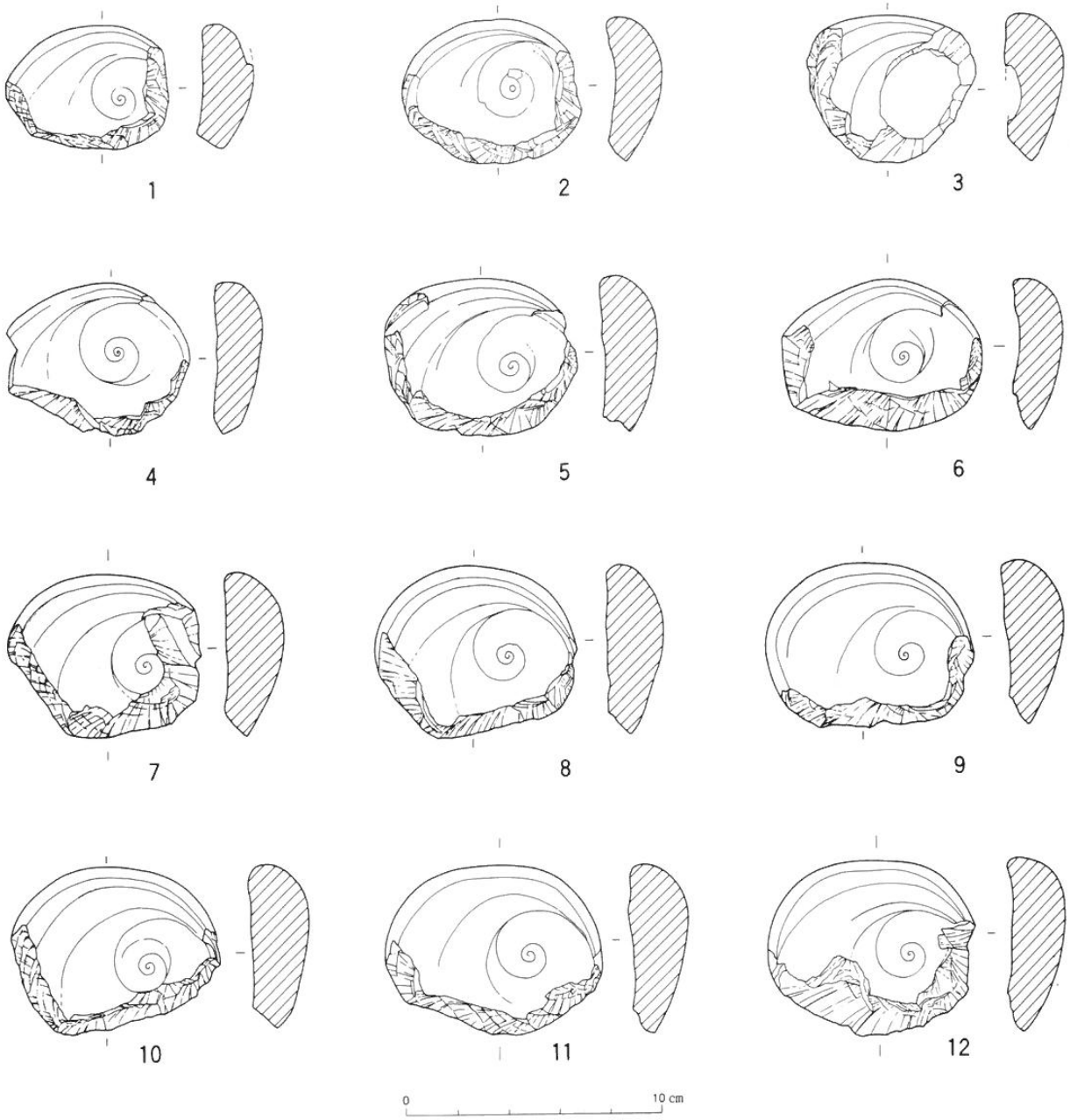
整理番号	グリッド	層位	長さ	幅	重量	分類	観察事項	挿図番号
144	C−11	Ⅰ	−	−	−	不明	〃	
145	E−4	〃	−	−	−	〃	〃	
146	E−6	〃	−	−	−	〃	〃	
147	B−4	Ⅰa	−	−	−	〃	〃	
148	B−10	Ⅰ	−	−	−	〃	〃	
149	C−13	〃	−	−	−	〃	〃	
150	C−11	〃	−	−	−	〃	〃	
151	F−5	〃	−	−	−	〃	〃	
152	B−10	Ⅰb	−	−	−	〃	〃	
153	C−4	〃	−	−	−	〃	〃	
154	E−3	Ⅰ	−	−	−	〃	〃	
155	E−3	〃	−	−	−	〃	〃	
156	D−3	〃	−	−	−	〃	〃	
157	D−10	〃	−	−	−	〃	〃	
158	F−5	〃	−	−	−	〃	〃	
159	E−10	〃	−	−	−	〃	〃	
160	F−4	〃	−	−	−	〃	〃	
161	C−12	〃	−	−	−	〃	〃	
162	B−8	〃	−	−	−	〃	〃	
163	E−3	〃	−	−	−	〃	〃	
164	D−10	〃	−	−	−	〃	〃	
165	D−10	〃	−	−	−	〃	〃	
166	E−4	〃	−	−	−	〃	〃	
167	F−3	〃	−	−	−	〃	〃	
168	E−5	〃	−	−	−	〃	〃	
169	E−8	〃	−	−	−	〃	〃	
170	表採		−	−	−	〃	〃	
171	〃		−	−	−	〃	〃	
172	〃		−	−	−	〃	〃	
173	〃		−	−	−	〃	〃	
174	〃		−	−	−	〃	〃	
175	〃		−	−	−	〃	〃	
176	〃		−	−	−	〃	〃	
177	〃		−	−	−	〃	〃	
178	〃		−	−	−	〃	〃	
179	〃		−	−	−	〃	〃	



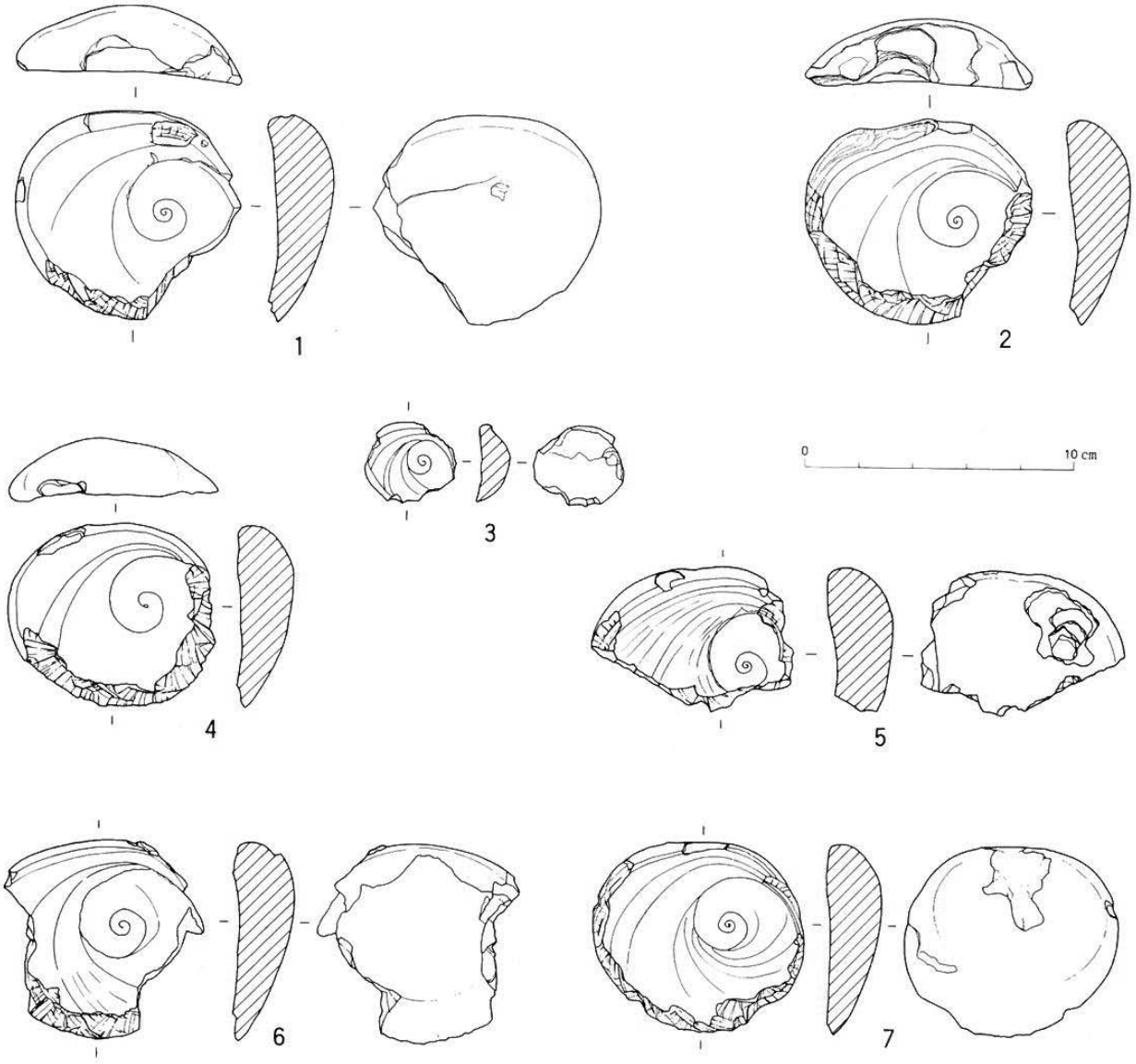
第55図　螺蓋製品実測図・1（Ⅰ類：1～13，Ⅱ類：14～20）



第56図　螺蓋製品実測図・２（Ⅲ類）



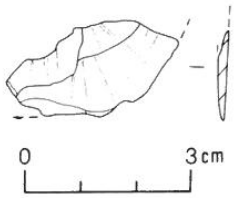
第57図　螺蓋製品実測図・3（Ⅳ類）



第58図　螺蓋製品実測図・4（Ⅴ類）

9．庖丁様製品（第59図，図版41・下）

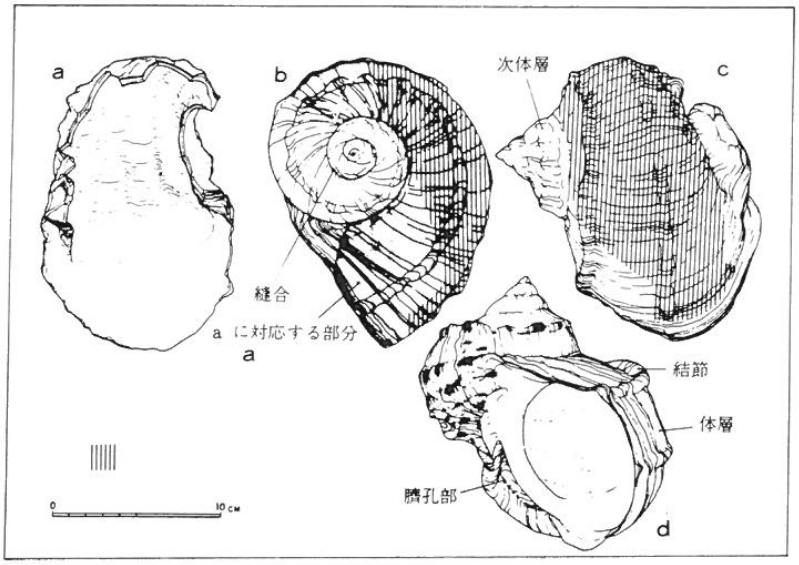
ウグイスガイ科のクロチョウガイ *Pinctada margaritifera*（LINNÉ）の腹縁部を砥磨し，附刃したものである。名称については，拙稿に従った（盛本・比嘉1994）。1点のみ得られている。標品は，刃部のみの細片で，腹縁部を砥磨し，附刃していることがわかる他は，判然としない。残存長1.2 cm，残存幅2.6 cm，残存重量0.9 gである。D－4：Ⅱ層出土。



第59図　庖丁様製品実測図

10．ヤコウガイ製杓子状製品（第60～61図，図版46～47・下）

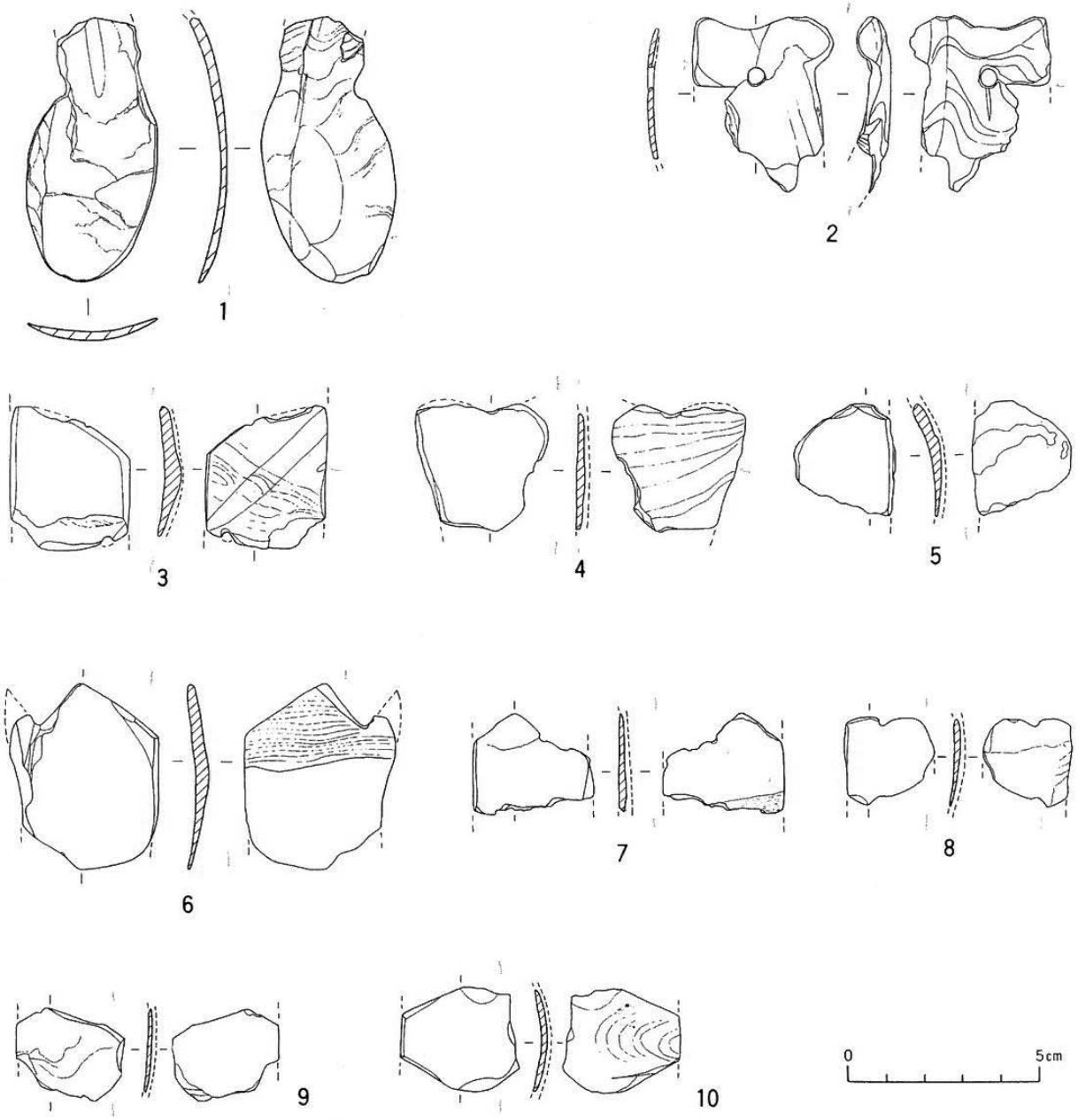
ヤコウガイ *Lunatica marmorata*（LINNÉ）の体層部を利用して（第60図参照），加工した容器である。筆者は，類品のほとんどが有柄で杓子の形態に類似することから，渡辺1985に準拠して杓子状と命名している（盛本編1989）。従来，この種の製品は「貝匙」・「匙状製品」・「匙形加工品」・「ヒシャク状製容器」などと呼称されているが，具志川村清水貝塚（盛本編1989）などでは，それまで報告例の少なかった砂糖匙様の身部の浅い所謂「匙状製品」も得られていることより，その形態などからして，両者は異なった機能・用途を有していたものとの解釈からである。なお，類似する名称としては，「ヒシャク状」がある（木下1981）。当該製品は，概して大型品であることや，研磨が薄層の真珠層までおよぶものがあることから，剝離したり折損したりし易く破損品が多い。本貝塚出土品も全形が窺えるのはわずか1点のみで，他はすべて砕けた破損品であるため，全形については判然としないが，類品からして，上面観が縦長の略長方形状を呈し，身部は長楕円形状をなして柄部へ向けてくびれていく形状をなすのが一般的である。柄部は，端部へ向けて広がっていくものと，直若しくは斜位に延びていくものがあるようである。



第60図　ヤコウガイ各部の名称と杓子状製品の利用部位（木下1981に加筆）

加工は，素材から打欠によって切り取った後（第60図参照），整形し身部の端部や螺肋を中心に，なかには真珠層に至るまでの入念な研磨によって仕上げているものもある。

柄部の形状や端部のモチーフにかなりのバリエーションがみられる。



第61図　ヤコウガイ製杓子状製品

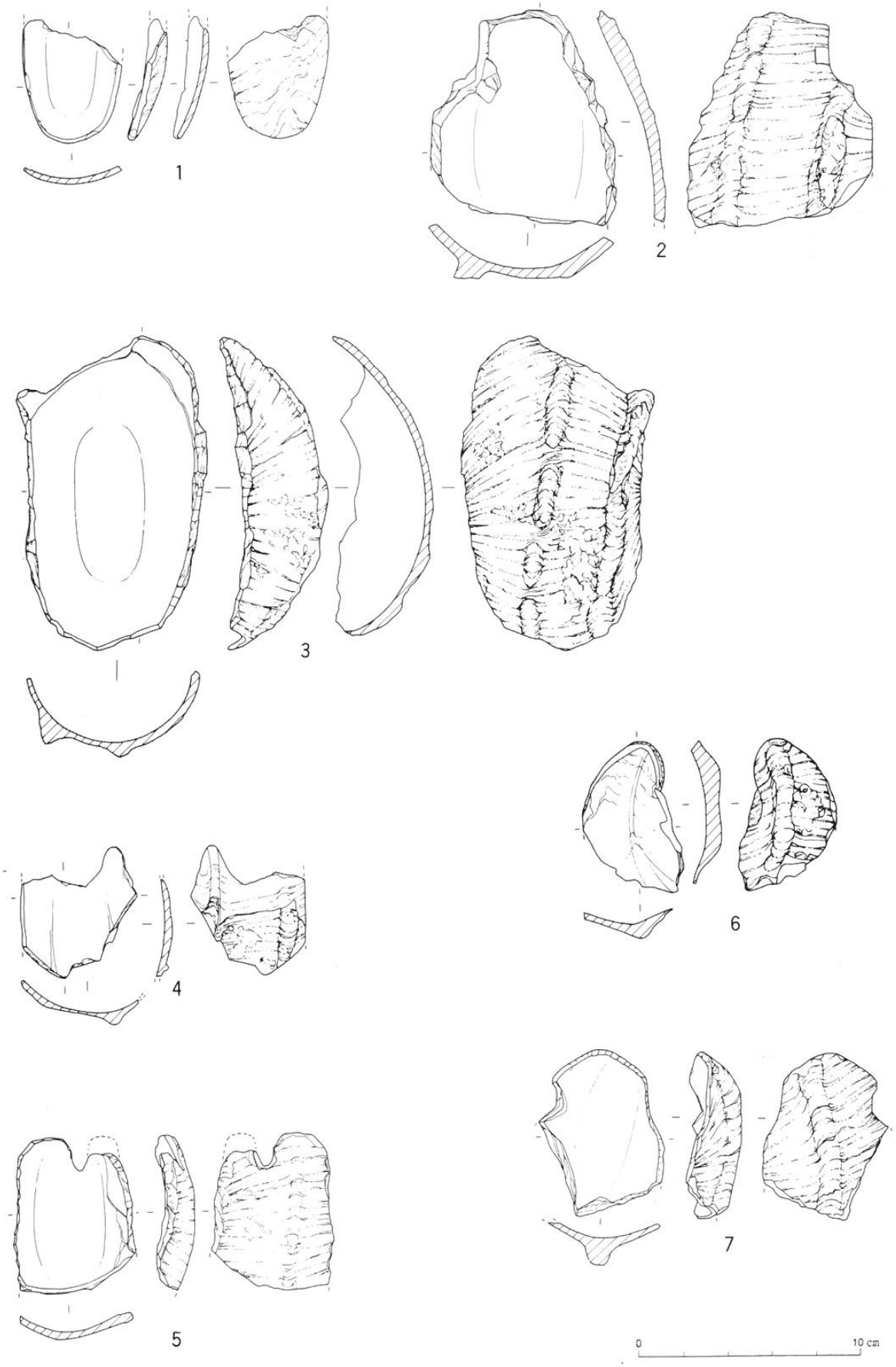
第37表　ヤコウガイ製杓子状製品観察表

挿図番号	グリッド:層位	高さ	幅	深さ	重量	観　察　事　項
第61図1	E- 3:Ⅲb	(6.9)	3.4	0.6	(11)	柄部上端を欠失するが，本貝塚出土品のなかで唯一全形の窺えるものである。身部は，長楕形状なす。素材からくる制約からか，身部に対して柄部が直に延びず，若干傾いた形状をなす。加工は，整形後縁辺部を研磨しているものの，さほど丁寧ではなく，各所に整形時の剝離痕を残す。外面体層部は表皮が剝がれ，真珠層を露呈させているため，加工状況については不明。

〃	2	C- 6:Ⅱ	-	-	-	(4.0)	柄部のみの資料。柄端部上辺を内側へ弧状に抉るとともに，右側面も端部手前でV字状に抉りを入れているが，対峠する左側面も同様な形状をなすかは不明。表裏面は，素材面および本来の加工面が剝がれているため，加工状況については判然としないが，周縁部は研磨仕上げされている。
〃	3	C- 4:Ⅰ	-	-	-	(6.0)	柄部のみの資料。柄上辺を左上がりの斜位に仕上げている。また，端部手前の右側縁寄りには復元径約2㎜の小孔を穿っている。加工は比較的丁寧で，外面は表皮が剝がれている箇所もあるが，残存部は入念な研磨によって仕上げている。また，周縁部も一部に整形時の剝離痕がみられるが，研磨仕上げされている。
〃	4	F- 3:Ⅰ	-	-	-	(4.0)	柄部のみの資料。柄部上辺は緩やかな弧状を描いて内湾する形状をなす。内面は素材のままであるが，外面は剝落が著しく，本来の厚みを保っていない。従って，その加工は判然としないが，側縁部をみる限りにおいては，比較的丁寧といえよう。
〃	5	F- 3:Ⅰ	-	-	-	(3.0)	砕片資料。確実に当該製品かということについては不明。右側縁部に研磨加工がみられる他は，判然としない。
〃	6	D- 9:Ⅰ	-	-	-	(7.0)	柄部のみの資料。柄部上辺が中央部付近で山形状をなし，右側では斜位に下るものの，左側ではさらにV字状の形状をなす。標品も2と同様，内面は素材のままであるが，外面は剝落が著しく，本来の厚みを失っている。そのため,加工状況は判然としないが,側縁部ををみる限りにおいては,比較的丁寧といえよう。
〃	7	E- 4:Ⅲ	-	-	-	(1.0)	破片資料。左側縁部に研磨痕がみられるのみで，外面は表皮が剝落しているため，不明。
〃	8	C- 11:Ⅰa	-	-	-	(2.0)	柄部？の破片資料。両側縁部に研磨痕がみられるのみで，外面は表皮が剝落しているため不明。
〃	9	C- 4:Ⅰ	-	-	-	(1.1)	柄部上端部の破片資料。上辺中央部付近に略V字状の抉りを入れている。加工は，周縁部に研磨がみられるのみで，外面は表皮が剝落しているため不明。
〃	10	D- 3:Ⅲa	-	-	-	(2.0)	破片資料。左側面部に研磨がみられるのみで，外面は表皮が剝落しているため不明。

第38表　ヤコウガイ製杓子状製品の未製品観察表

挿図番号	グリッド：層位	高さ	幅	深さ	重量	観　察　事　項
〃 1	D−3：Ⅲa	(5.5)	4.4	0.3	(11.7)	身部中央部付近から先端部にかけての資料。身部は比較的浅い。標品は，加工状態からして精製品に含めるべきものであろう。整形後，縁辺部を研磨しているが，さほど丁寧ではなく，各所に整形時の剝離痕を残す。外面体層部は，表皮が剝落しているため，加工状況については不明。
〃 2	E−3：Ⅲa	(9.7)	8.4	0.8	(112)	柄部から身部中央付近にかけての欠損資料。成形後，周縁部を比較的粗い剝離によって整形している他は，研磨加工はみられない。
〃 3	C−5：Ⅳ	(14.2)	8.7	0.6	(124)	柄部を欠失する身部のみの資料。成形後，周縁部を比較的粗い剝離によって，整形しているのみで，螺肋部などは素材のままである。
〃 4	F−5：Ⅲa	(6.9)	(4.0)	0.9	(20.3)	柄部を欠失する身部のみの資料。身部が比較的浅い資料になるものと思われる。成形後，右上端部のみに比較的緻密な剝離がみられる他は，素材のままである。
〃 5	E−5：Ⅲb	(7.1)	(5.5)	0.4	(27.9)	柄部のみの資料。形状は，柄端部にノッチ状の抉りを入れるタイプである。成形後，周縁部を剝離によって整形している他は，素材のままである。
〃 6	C−：12Ⅳ	(4.3)	(5.25)	0.4	(16.6)	身部？の破片資料。成形し，当該製品の形状が窺える他は，不明。
〃 7	E−：8Ⅰ	(7.6)	(5.7)	0.5	(40)	柄部から身部中央部にかけての資料。柄部は比較的短い。成形後，柄部のみを比較的細かい剝離によって整形している他は，素材のままである。



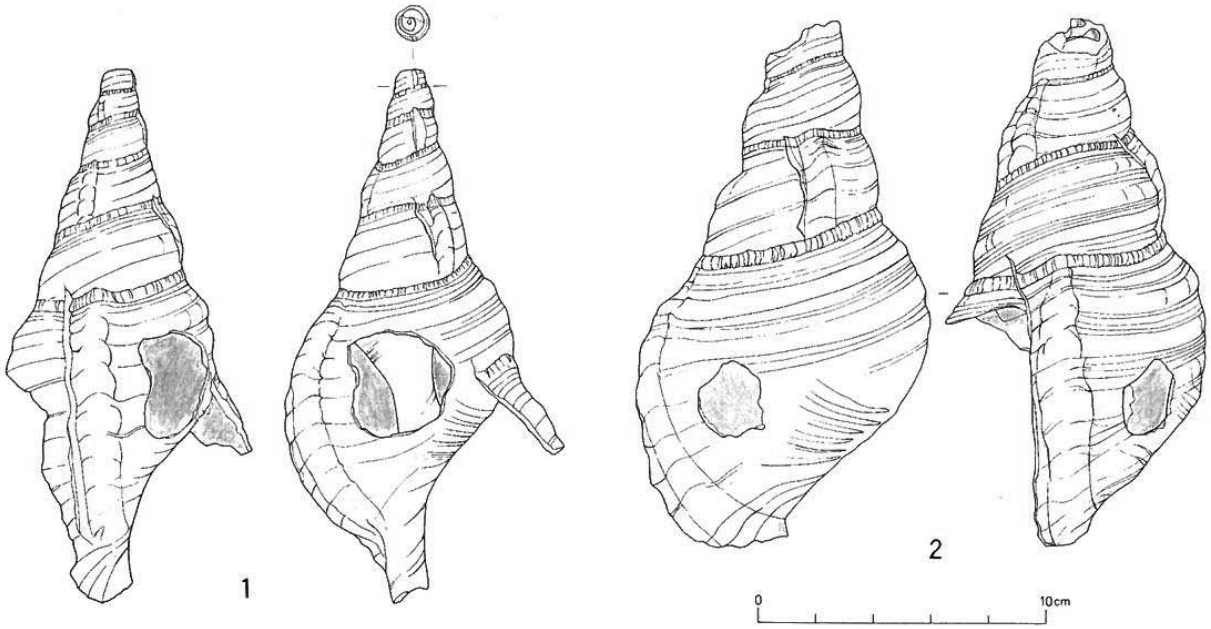
第62図　ヤコウガイ製杓子状未製品実測図

11. ホラガイ製品（第63図，図版47・下）

ホラガイ *Caharonia tritmis*（LINNÉ）の体層背面に1孔が観察される製品である。計2点が得られているが，いずれも欠損品である。

これまでに出土および報告されている当該素材製品は，そのほとんどが体層腹面に孔を有するもので，背面までおよんでいる類品は僅少である。したがって，両者は同一の用途，機能を有してはいなかったであろうと推する。そのため，ここでは容器とは称せず，単に製品とした。

これらの加工は，孔以外には認められない。穿孔は，敲打によって中央部から除々に広げていったようである。孔周縁や唇部には，研磨工程はみられず，穿孔時の打欠痕のみがみられるのみである。



第63図　ホラガイ製品実測図

第39表　ホラガイ製品観察表

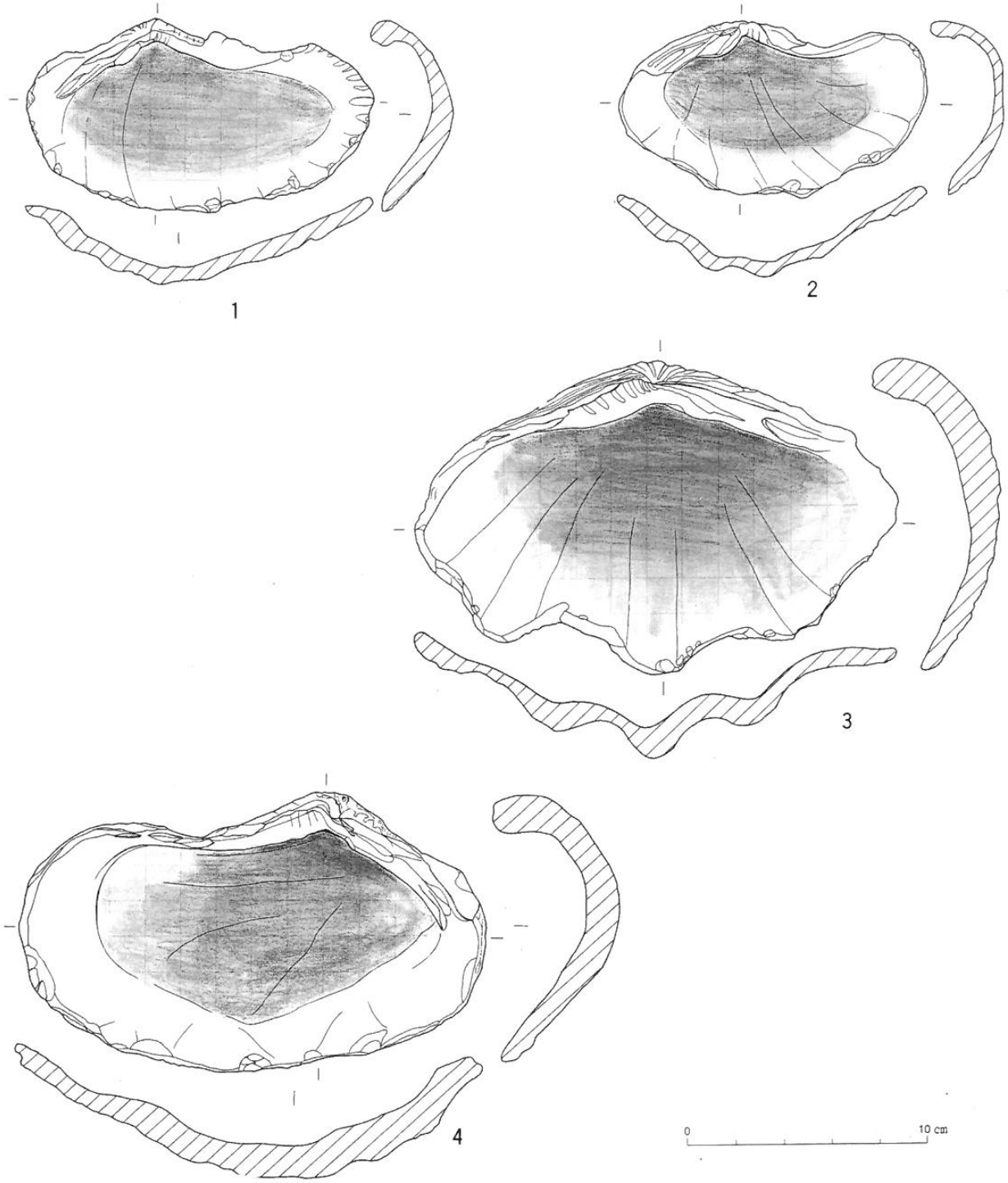
挿図番号	グリッド:層位	殻高	殻径	孔径 縦	孔径 横	重量	観察事項
第63図1	C- 6:Ⅲ	(18.5)	(10.5)	2.7	2.1	325	欠損品。外唇および水管溝（前溝）を欠く。孔は体層背面にみられ，その形状は不正形をなす。
〃 2	E- 6:Ⅲa	(18.7)	9.8	3.5	3.3	(175)	欠損品。軸唇および外唇を欠失。軸唇背面部に不正形を呈した孔を穿つ。孔唇の打欠痕からする限り，敲打によるもののようである。

12. **貝皿**（第64～65図，図版48）

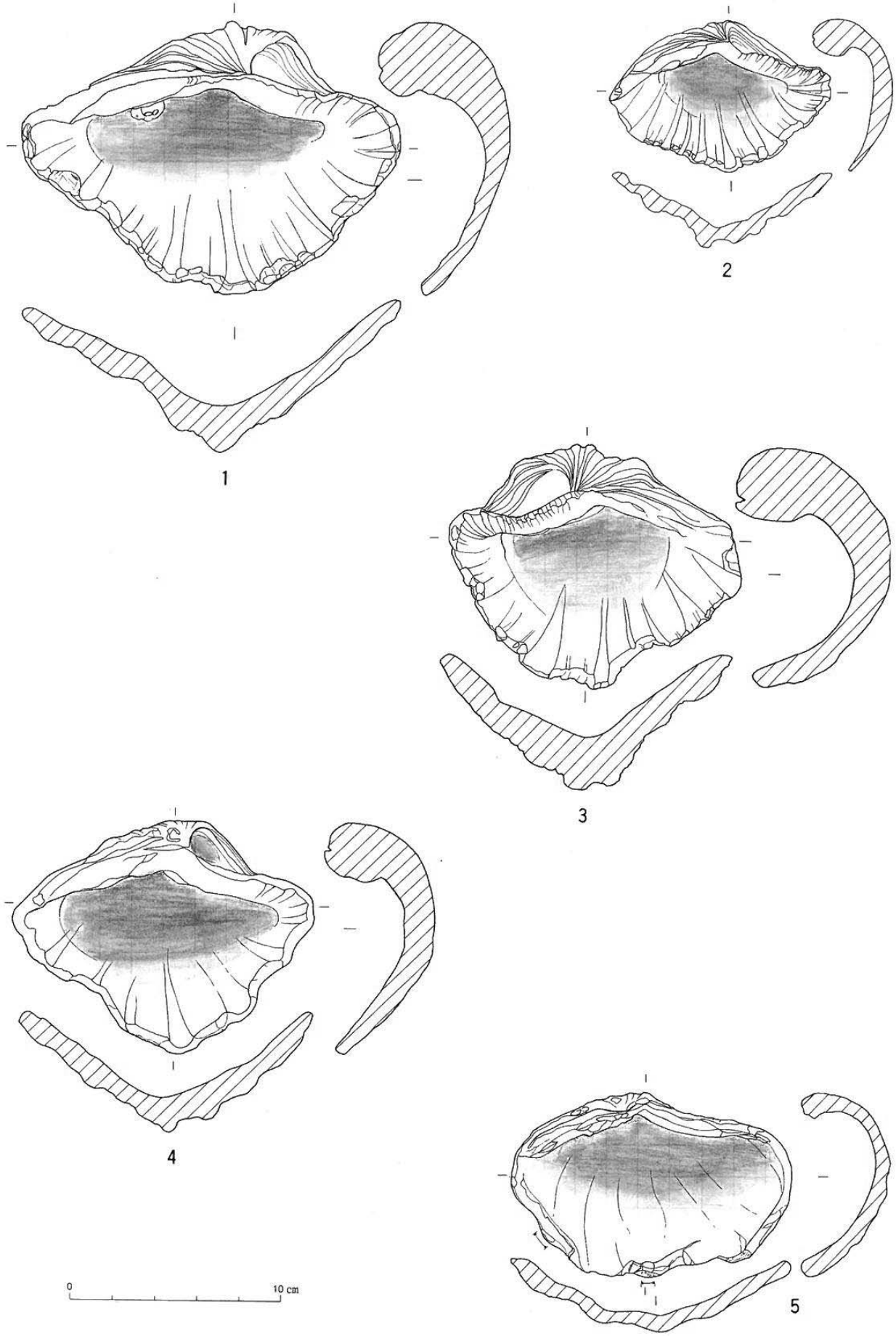
素材となった貝の原形に軽微な加工を加えるだけで，容器としているものである。

素材となっている貝種としては，シャコガイ科のシャゴウ *Hippopus hippopus*（LINNÉ），シラナミガイ *Tridacna*（*Vulgodacna*）*maxima*（RÖDING），ヒレジャコガイ *Tridacna*（*Flodacna*）*squamosa*（LAMARCK），ヒメジャコガイ *Tridacna*（*Frodacna*）*squamosa* がある。このうち，シャゴウとシラナミガイが全体の95％と比較的多い。

これらは，食料残滓としての貝を素材として利用したものは少なく，波打ち際などに打ち上



第64図　貝皿実測図・1



第65図　貝皿実測図・2

がって水磨を受けた貝を素材として利用したものが多い。このことは，水磨を受けたものを利用することによって，加工工程のなかで省力化が可能であるからと推される。

加工過程としては，素材となる水磨を受けた貝を採集してきて，殻表の鰭片状突起や腹縁部の噛み合わせの突起部などを除去し，細かい敲打や軽微な研磨を加え，ルーズな水平の縁に仕上げている。シャゴウ製の３点は，意図的なものかということについては検討を要するが，把手状になるよう抉りを入れてあるものもある。

第40表　貝Ⅲ観察表

整理番号	グリッド	層位	貝種	L/R	殻長	殻幅	重量	水磨の有無	観察事項	挿図番号
1	D−7	Ⅳ	シャゴウ	L	11.1	12.8	420	有	腹縁部を剥離し，平らに仕上げている。	
2	E−4	Ⅳ	シャゴウ	L	12.8	17	630	〃	腹縁部を剥離し，平らに仕上げている。	
3	D−4	Ⅲa	シャゴウ	R	17.6	28.4	1770	無	腹縁部を所々剥離し，平らに仕上げている。	
4	D−4	Ⅲa	シャゴウ	R	11.6	14.3	570	〃	腹縁部を剥離した後，細かい敲打を施し平らに仕上げている。	第65図3
5	D−4	Ⅲa	シャゴウ	R	7.1	10.6	130	〃	腹縁部を剥離した後，細かい敲打を施し平らに仕上げている。	〃 2
6	D−3	Ⅲa	シャゴウ	L	12.9	20.2	700	〃	腹縁部を剥離し平らに仕上げるとともに，意識的かは定かでないが，腹縁部の一部に抉りを入れ把手のようにしている。	
7	D−3	Ⅲa	シャゴウ	L	10	13.7	270	有	いくらか腹縁部を剥離し，平らに仕上げている。	
8	D−4	Ⅲa	シャゴウ	L	12.1	17	700	〃	腹縁部を剥離し，平らに仕上げている。	
9	B−4	Ⅲa	シャゴウ	R	19.7	23.7	1820	〃	腹縁部を剥離した後，さらに部分的に敲打を施し，平らに仕上げている所とそうでない所がある。	
10	B−4	Ⅲa	シャゴウ	R	14.9	20.6	1050	〃	腹縁部を剥離し，さらに細かい敲打仕上げをしている腹縁部の一部に抉りを入れ把手状にしている。	
11	C−4	Ⅲa	シャゴウ	R	13	18.3	670	〃	腹縁部を剥離した後，敲打調整を行なっている。腹縁部の一部に抉りを入れており、把手として使用したと思われる。	第65図1
12	E−5	Ⅲa	シャゴウ	L	12.7	16.5	710	〃	腹縁部を剥離した後，敲打調整を行なっている。	
13	E−5	Ⅲb	シャゴウ	R	11	14.4	390	〃	腹縁部を剥離した後，敲打調整を行ない平らに仕上げている。	第65図4
14	D−3	Ⅲ	シャゴウ	R	16.2	24.5	1780	〃	腹縁部を剥離し平らに仕上げている。	
15	D−3	Ⅲ	シャゴウ	L	15.2	22.4	1050	〃	腹縁部を剥離した後，敲打調整を行ない平らに仕上げている。	

16	B−8	Ⅲ	シャゴウ	L	14.1	23.7	1200	〃	腹縁部を剝離した後，敲打調整を行ない平らに仕上げている。	
17	C−3	Ⅱa	シャゴウ	L	17.6	23.6	1430	〃	腹縁部を剝離し平らに仕上げている。	
18	C−4	Ⅰb	シャゴウ	L	19.8	23.1	2100	〃	腹縁部を剝離し，足糸湾入部も含めた部分を敲打調製し平らに仕上げている。	
19	C−4	Ⅰb	シャゴウ	L	16.7	24.6	1530	〃	腹縁部を剝離し，足糸湾入部も含めた部分を敲打調整し平らに仕上げている。	
20	B−5	Ⅰb	シャゴウ	R	8.7	12.8	340	〃	かなり水磨を受け，丸みを帯びた貝を利用し，腹縁部および足糸湾入部を敲打調整し，平らに仕上げている。	
21	B−11	Ⅰ	シャゴウ	R	13.7	21.3	860	〃	腹縁部を敲打調整し平らに仕上げている。	
22	B−9	Ⅰ	シャゴウ	L	13.4	21.1	1060	〃	腹縁部及び足糸湾入部を剝離した後敲打調整し，平らに仕上げている。	
23	B−5	Ⅰ	シャゴウ	R	20.2	19.2	1180		後背縁，腹縁部，足糸湾入部を剝離した後敲打調整し，平らに仕上げている。	
24	D−4	Ⅲa	シラナミ	L	12.1	19.9	675	〃	腹縁部を剝離した後，軽微な磨きを加え平らに仕上げている。	第64図4
25	D−4	Ⅲa	シラナミ	R	7.6	13.2	145	〃	腹縁部を剝離した後，軽微な磨きを加え平らに仕上げている。	〃 2
26	D−4	Ⅲa	シラナミ	L	9.8	18.4	345	〃	腹縁部を剝離した後，軽微な磨きを加え平らに仕上げている。握手と思われる抉りを有する。	
27	D−7	Ⅲa	シラナミ	L	9	14.7	165	〃	腹縁部を剝離した後，軽微な磨きを加え平らに仕上げている。	
28	D−3	Ⅲa	シラナミ	L	11.7	17	410	〃	腹縁部を軽く剝離し，平らに仕上げている。	
29	B−4	Ⅲa	シラナミ	L	12.7	21.3	1320	〃	腹縁部を剝離した後，軽微な磨きを加えている。	
30	C−7	Ⅲa	シラナミ	L	6.6	9.8	100	〃	シラナミ貝の幼貝を利用，腹縁部，嚙み合わせの突起を研磨している。	
31	B−7	Ⅲ	シラナミ	R	12.6	20.2	770	〃	腹縁部を剝離した後，軽微な磨きを加えている。	
32	D−7	Ⅲ	シラナミ	R	11.6	15.4	520	〃	腹縁部を剝離した後，軽微な磨きを加えている。	
33	B−8	Ⅲ	シラナミ	R	8.8	13.4	230	〃	腹縁部を剝離した後，軽微な磨きを加わえている。	第65図5
34	D−3	Ⅲ	シラナミ	R	4.6	6.2	30	〃	かなり水磨を受けたシラナミ貝の幼貝を利用。背縁部と腹縁部の一部に軽微な磨きを加えている。	
35	C−3	Ⅱa	シラナミ	L	13	20	970	〃	腹縁部を剝離した後，敲打調整を行ない平らに仕上げている。	
36	C−3	Ⅱa	シラナミ	R	9.3	4.5	230	〃	腹縁部，嚙み合わせの突起を剝離した後，軽微な磨きを加え整えている。	
37	C−10	Ⅱ	シラナミ	R	6.7	11.7	100	〃	腹縁部を剝離した後，軽微な磨きを加え整えている。	
38	D−4	Ⅲb	シラミナ	R	8.3	14.7	180	〃	腹縁部，嚙み合わせの突起を剝離し，軽微な磨きで整えている。	第64図1
39	B−7	Ⅲ	ヒレジャコ	L	13.1	20.4	620	〃	腹縁部を剝離し整えている。	〃 3
40	F−5	Ⅰ	ヒメジャコ	L	5.4	7.3	30	〃	腹縁部，嚙み合わせの突起を剝離し，軽微な磨きで整えている。	

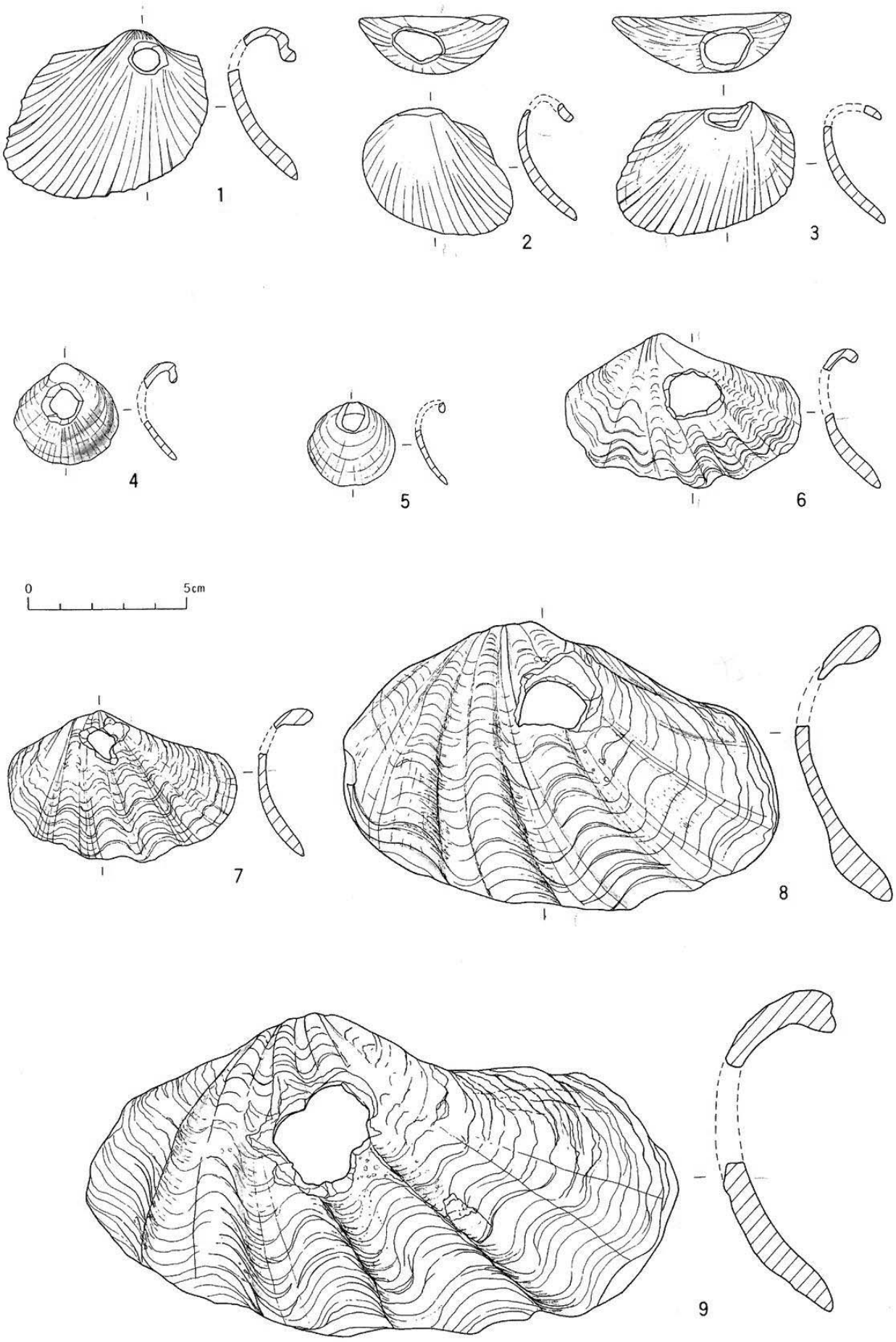
13. 貝製漁網錘（第66～67図，図版49）

二枚貝の殻頂部周辺に粗孔を穿った製品である。穿孔は，そのほとんどが内側から外側に向けて穿たれている。名称は，拙稿に従った（盛本1988）。総数27点が得られている。うち，24点が完形品で，３点は破損品である。

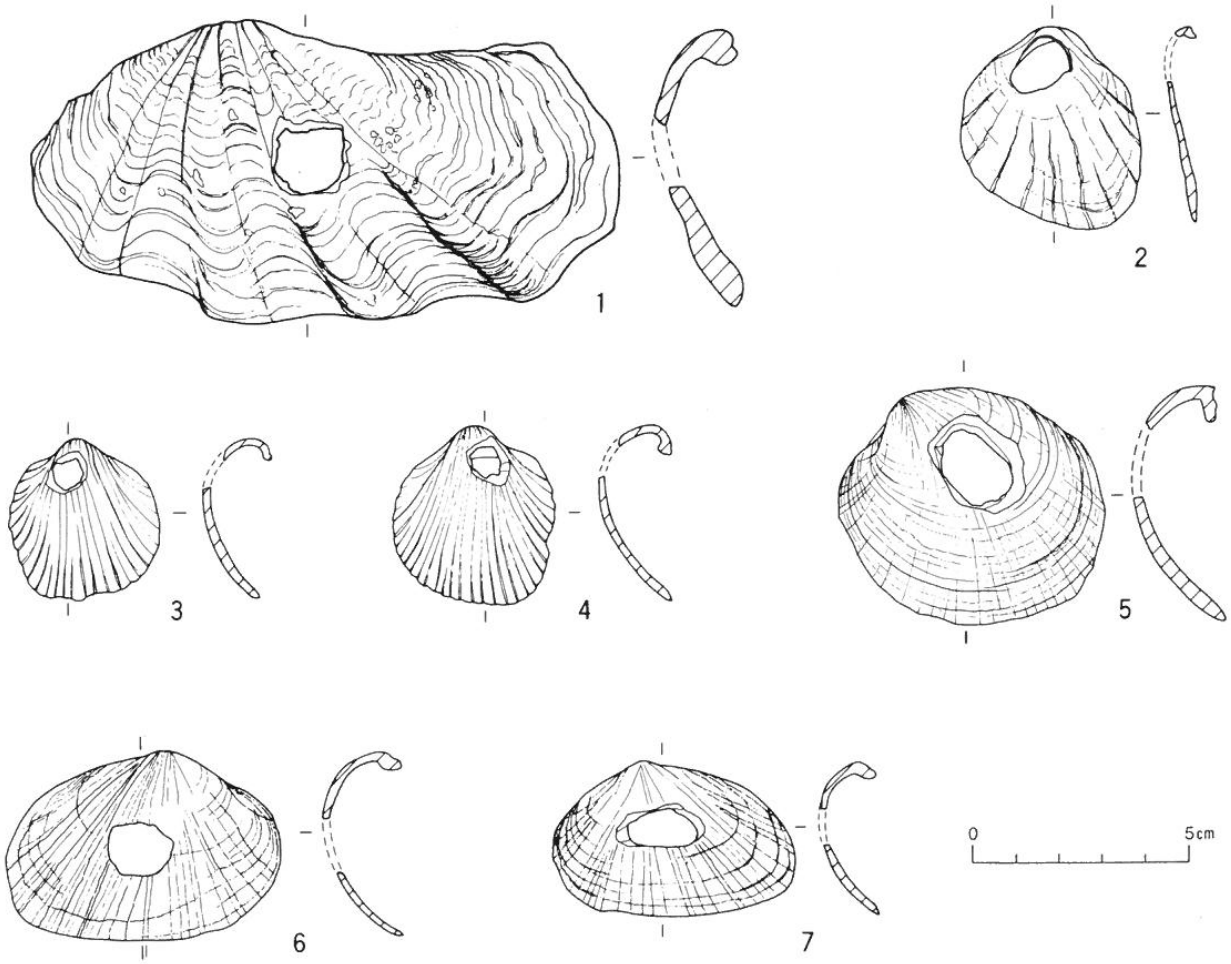
素材となっている貝種は，フネガイ科：リュウキュウサルボウガイ *Anadara antiquata* (LINNÉ)，タマキガイ科：ソメワケグリガイ *Glyeymeris* (*veletuceta*) *reevei* (MAYER)，シャコガイ科：ヒメジャコガイ *Tridacna* (*Flrdacna*) *squamosa* (LAMARCK)・シラナミガイ *Tridacna* (*Vulgodacna*) *maxima* (RÖDING)，ウミギクガイ科Spondylidaeの一種，ザルガイ科：カワラガイ *Fragun unedo* (LINNÉ)，マルスダレガイ科：ヌノメガイ *Periglypta puerpera* (LINNÉ)，シオサザナミ科：リュウキュウマスオガイ：*Asaphis dichotoma* (ANTON) の７科８種がある。その内訳は，リュウキュウサルボウガイ５点，ソメワケグリガイ３点，ヒメジャコ６点，シラナミ７点，ウミギクガイ科の一種１点，カワラガイ２点，ヌノメガイ１点，リュウキュウマスオガイ２点である。

第41表　貝製漁網錘観察表

整理番号	グリッド:層位	貝　種	L/R	殻長	殻幅	重量	孔径 縦	孔径 横	水磨の有無	挿図番号
1	F－10:Ⅳ	メンガイの一種	L	4.6	4.2	10	1.2	1.4	有	第67図2
2	B－6:Ⅳ	リュウキュウマスオガイ	R	4.4	6.3	15	1.3	1.6	無	〃 6
3	C-3:Ⅳ	ヒメジャコガイ	L	9.2	13.8	180	1.5	2.1	有	第66図8
4	C-3:Ⅲa	シラナミガイ	L	7.0	13.5	90	1.5	1.6	無	第67図1
5	B-4:Ⅲa	シラナミガイ	L	10.4	18.8	360	3.1	3.1	無	第66図9
6	C－6:Ⅲ	リュウキュウサルボウガイ	R	5.3	6.5	30	0.7	0.9	無	〃 1
7	B－5:Ⅲ	リュウキュウマスオガイ	L	3.5	5.6	10	0.9	1.6	無	第67図7
8	C－5:Ⅲ	リュウキュウサルボウガイ	L	4.1	4.7	15	1.0	1.5	有	第66図2
9	B－7:Ⅲ	リュウキュウサルボウガイ	R	4.2	5.7	20	0.7	1.3	無	〃 3
10	C-3:Ⅱa	シラナミガイ	R	(8.7)	17.5	260	-	-	有	
11	D-5:Ⅱ	シラナミガイ	L	4.9	7.5	20	1.4	1.6	無	第66図7
12	D-6:Ⅱ	ヒメジャコガイ	L	4.8	7.2	25	0.9	0.9	無	〃 6
13	B-3:Ⅰa	ソメワケグリガイ	R	2.6	2.7	10	1.0	0.7	有	〃 4
14	D-4:Ⅰa	リュウキュウサルボウガイ	R	4.4	5.2	20	1.9	1.6	無	
15	B-3:Ⅰb	カワラガイ	L	3.6	3.4	10	0.8	0.8	無	第67図4
16	B-10:Ⅰb	シラナミガイ	L	9.8	15.8	240	3.0	2.8	無	
17	B-3:Ⅰ	カワラガイ	R	4.1	3.6	15	0.8	0.8	無	第67図3
18	E-4:Ⅰ	ソメワケグリガイ	R	3.1	3.2	10	1.0	0.9	有	第66図5
19	F-5:Ⅰ	ヌノメガイ	L	5.8	5.7	30	1.9	1.5	無	第67図5



第66図　貝製漁網錘実測図・1

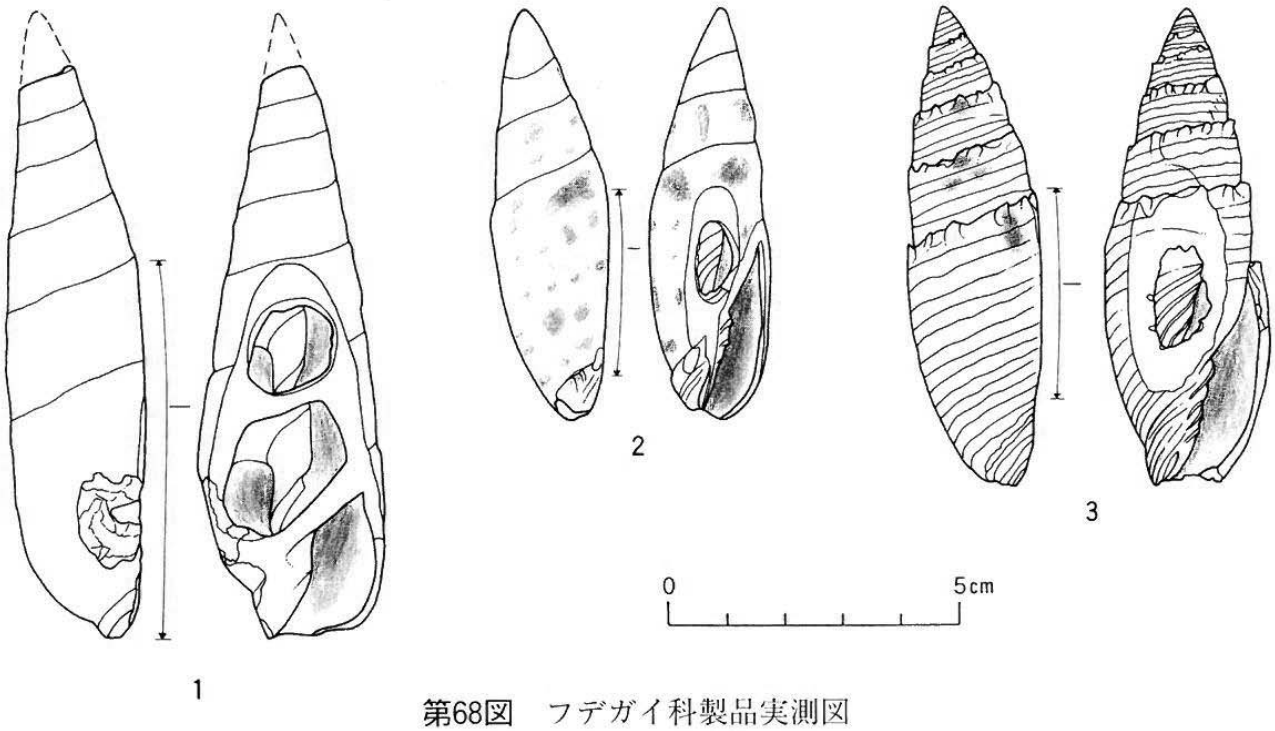


第67図　貝製漁網錘実測図・2

20	C-3:Ⅰ	メジャコガイ	R	5.6	8.0	30	1.6	2.0	有
21	C-9:Ⅰ	ヒメジャコガイ	L	6.5	8.8	50	1.8	2.2	無
22	E-5:Ⅰ	ヒメジャコガイ	L	5.2	7.2	40	1.1	1.8	有
23	F-5:Ⅰ	ソメワケグリガイ	L	3.2	3.3	10	1.2	1.0	有
24	F-4:Ⅰ	シラナミガイ	L	5.2	8.3	30	1.2	1.8	無
25	E-4:Ⅰ	リュウキュウマスオガイ	R	5.0	7.5	20	1.1	2.3	無
26	表採	ヒメジャコガイ	-	-	5.5	(10)	-	-	無
27	F-4:Ⅰ	ヒメジャコガイ	L	5.2	(6.5)	(30)	1.3	2.0	無

14. フデガイ科製品（第68図，図版50・上）

チョウセンフデガイ *Mitra mitra*（LINNÉ）2点と，オニノキバフデガイ *Mitra*（*tiarella*）*papalis*（LINNÉ）1点の殻口部寄りの体層部を研磨したものである。研磨面を平坦に仕上げた後，研磨によって生じた孔の縁辺部を軽い打撃によって打ち欠いている。



第68図　フデガイ科製品実測図

第42表　フデガイ科製品観察表

挿図番号	グリッド:層位	殻長	殻幅	重量	観　察　事　項
第68図1	C- 7:Ⅰ	9.9	3.25	60.4	殻頂部と外唇部を欠失。研磨面は殻口部までおよぶ体層部のかなり広範囲にわたって施す。研磨によって生じた孔の縁辺部を軽い打撃によって打ち欠く。
〃 2	E- 5:Ⅲ	7.1	2.1	22.3	入念な研磨によって，殻口部寄りまで施す。研磨によって生じた孔は，不正な長楕円形を呈し，縁辺部は軽い打撃によって打ち欠く。不鮮明ながら全体に素材特有の斑紋を残す。
〃 3	表　採	8.25	2.98	46.5	外唇の一部を欠失。1・2に比して磨面が広い。研磨によって生じた孔は，不正な長楕円形を呈し縁辺部は軽い打撃によって打ち欠く。

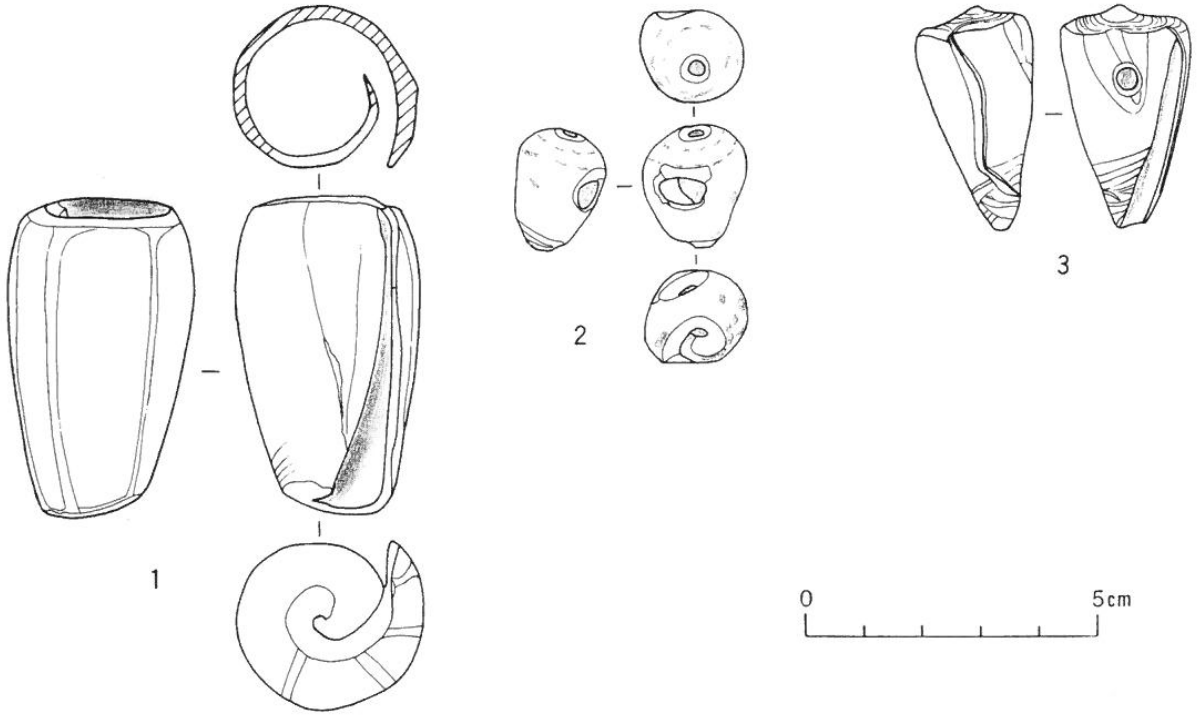
15. イモガイ科製品（第69図，図版50・下）

3点の出土があるが，各々形態が異なるものである。

1は，水磨を受けて螺頭部および殻軸の抜けたニシキミナシガイ *Dendroconus striatus* (LINNÉ)の体層部と，前溝（水管溝）部から外唇部を砥磨したものである。体層部の砥磨は，殻口背面部のみを行っているが，平坦面をなすほど入念な砥磨を施している。殻長5.5 cm，殻幅3.25cm，重量30.2 g を測る。B－7：Ⅲ層出土。

2は，水磨を受けたマダライモガイ *Virroconus chaldeus* (RÖDING)の体層部に打撃により1孔を穿って研磨するとともに，水磨によって抜けた殻頂部をも砥磨している。部分的には不鮮明ながら，素材特有の斑紋を残す。殻長2.1 cm，殻幅1.8 cm，重量2.6 g を測る。E－3：Ⅲa層出土。

3は，サラサミナシガイモドキ *Dauciconus vitulinus* (HWASS)の殻口側の螺頭部近くの体層部から螺頭部にかけて，断面がu字状の溝を彫り，その先端部に径0.35cmの孔を穿ったものである。穿孔は抉り取って穿ったためか，孔周縁は斜位になっている。殻長3.9 cm，殻幅2.2 cm，重量11.55 g を測る。B－4：Ⅰa層出土。



第69図　イモガイ科製品実測図

16. その他の貝製品（第70図，図版51・上）

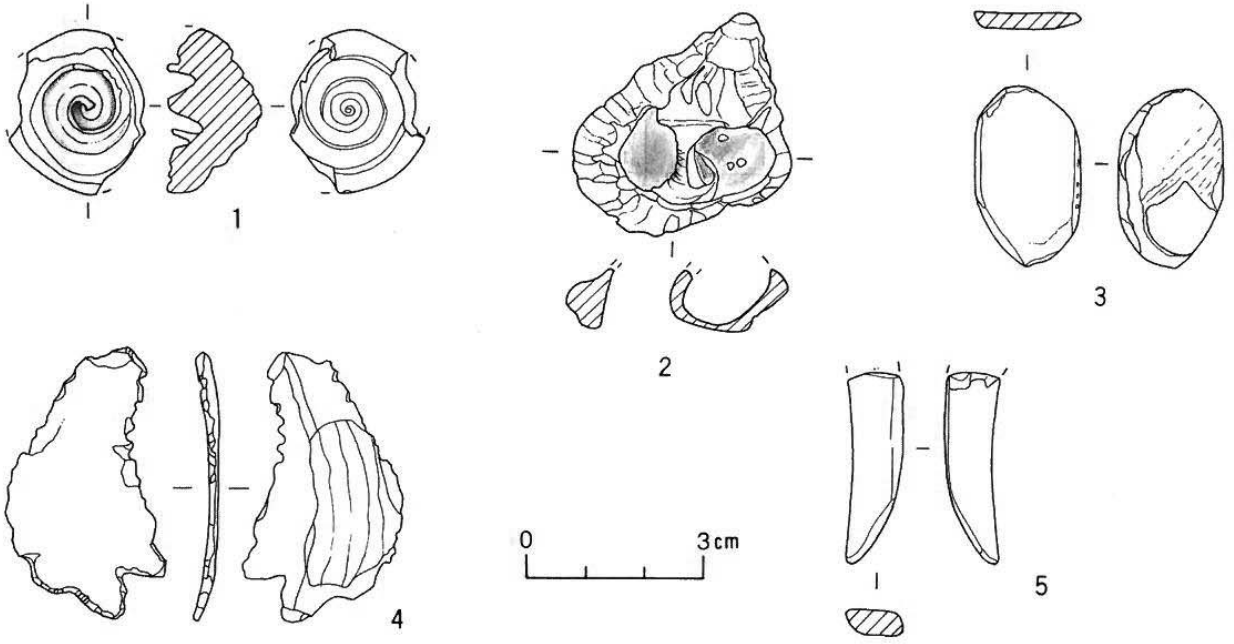
1は，マガキガイ *Conomurex luchanus* (LINNÉ)の螺頭部を打ち欠いただけの未製品である。打ち欠きの際の打撃が広範囲におよんだがため，螺頭部周辺まで欠けており素材本来の円形が崩れ，不正形をなす。殻長2.8 cm，残存殻幅2.3 cm，重量9.4 g を測る。B－5：Ⅲ層出土。

2は，オキニシ *Bursa dunkeri* KIRAの殻口背面の体層部を打ち欠き，その周縁部と殻軸の一部を研磨した未製品である。殻長3.85cm，殻幅4.0 cm，重量10.2 g を測る。F－3：Ⅰ層出土。

3は，ヤコウガイ *Lunatica marmorata*（LINNÉ）の体層部を利用して小判形状に仕上げたものである。主に周縁部を研磨によって仕上げるが，さほど丁寧ではなく，外面の縁辺部には整形時の際の剝離痕を残す。そして，外面体層の表皮はほとんど剝がれ，下方に一部残すのみである。長さ3.0 cm，幅1.8 cm，重量1.01 g を測る。C－6：Ⅲa 層出土。

4は，クロチョウガイ *Pinctada margaritifera*（LINNÉ）の腹縁部を鏃状に加工したものである。全体的な形状が湾曲していることから，一応，鏃からは除外したが，鏃としての可能性が全くない訳ではない。全周縁とも押圧剝離によって整形されているが，身部にあたる部分に比して，茎にあたる部分はさらに細かいピッチで行われている。裏面の一部が剝がれているほかは，表裏面とも素材のままである。長さ4.7 cm，幅2.5 cm，重量2.08 g を測る。D－7：Ⅲ層出土。

5は，具体的な貝種については判然としないが，厚手の二枚貝を利用しているものである。その形状などからして，本来貝輪であったものの破片を再利用して，刺突具様にしたものである。一部に破損時の折れ面を有する以外は，入念な研磨により仕上げている。長さ3.3 cm，幅0.98cm，重量2.2 g を測る。廃土よりの採集品。



第70図　その他の貝製品実測図

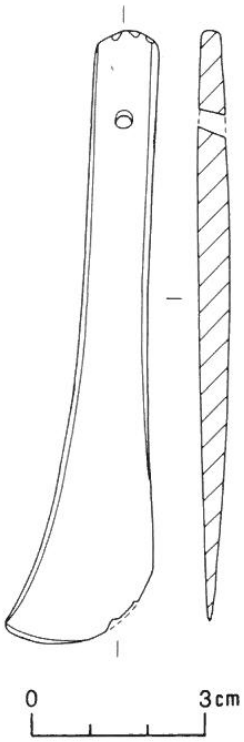
第５節　骨製品（第71図，図版51・下）

裁縫用ヘラが１点得られている。刃縁の一端に刃こぼれが見られる以外，欠失はなく完形品である。全体形としては青龍刀形を呈し，柄部と刃部からなり，柄部には径３㎜の一孔を有している。

柄端部に整形時の剝離痕を残す以外，全体として，入念な研磨により丁寧に仕上げられており，均整のとれた形状をなす。

最大長10.79㎝，最大幅2.55㎝，最大厚0.4㎝，重量8.7ｇを測る。

Ｃ－11区：Ⅰ層の落ち込み部よりの出土。



第71図　骨製品実測図

第6節　動物遺存体

本貝塚から得られた動物遺存体には，各文化層およびⅠ層（表土・撹乱層）より出土した多くのものがある。これらには，貝塚を形成する多くの貝類や獣類，魚類のほか，甲殻類や爬虫類，鳥類などが含まれる。

以下に，各々の遺存体の種名リストを示し，その概要を簡述する。

1．貝類遺存体

北原貝塚出土の貝類遺存体リスト

軟体動物門　MOLLUSCA

a.単板綱　MONOPLACOPHORA

1．ミミガイ科 Haliotidae

1．ミミガイ *Haliotis asinina* LINNÉ
2．マアナゴ *Ovinotis ovina* (GMELIN)

2．ツタノハガイ科 Patellidae

3．ヨメガカサガイ *Cellana toreuma* (REEVE)
4．オオベッコウガサガイ *Cellana testudinaria* (LINNÉ)

3．ユキノカサガイ科 Acmaeidae

5．リュウキュウウノアシ *Patelloida* (*Collisellina*) *saccharina* (LINNÉ)
6．カモガイ Collisella dorsuosa (Gould)

b.腹足綱　POLYPLACOPHORA

1．ニシキウズガイ科 Trochidae

1．ニシキウズ *Trochus maculatus* LINNÉ
2．ムラサキウズ *Trochus stellaris* GMELIN
3．ギンタカハマ *Tectus pyramis* (BORN)
4．サラサバテイ *Tectus* (*Rochia*) *maximus* (PHILIPPI)
5．ベニシリダカ *Tectus* (*Rochia*) *conus* (GMELIN)
6．オキナワイシダタミ *Monodonta labio labio* (Linnaeus)
7．サラサダマ *Chlysostoma paradoxum* (BORN)

2．リュウテンサザエ科 Turbinidae

8．チョウセンサザエ *Marmarostoma argyrostoma* (LINNÉ)
9．チョウセンサザエの蓋 *Marmarostoma argyrostoma* (LINNÉ)
10．カンギク *Lunella coronata granulata* (Gmelin)
11．ヤコウガイ *Lunatica marmorata* (LINNÉ)
12．ヤコウガイの蓋 Lunatica marmorata (LINNÉ)
13．オオウラウズ *Astralium* (*Distellifer*) *rhodostoma* (LAMARCK)
14．コシダカサザエ *Marmorostoma stenogyrum* (FISCHER)
15．リュウテンサザエ *Turbo petholatus* (LINNÉ)

3．アマオブネ科 Neritidae

16．ニシキアマオブネ *Amphinerita* polita (LINNÉ)
17．アマオブネ *Theliostyla albicilla* (LINNÉ)
18．イシダタミアマオブネ *Ritena helicinoides laevilabris* (PILSBRY)
19．カノコガイ *Clithon sowerbianus* (RÉCLUZ)
20．キバアマガイ *Ritena plicata* (LINNÉ)
21．コシダカアマガイ Ritena striata (BURROW)
22．オオマルアマオブネ *Ritena chamaeleon* (LINNÉ)
23．マルアマオブネ *Nerita* (*Theliostyla*) *squamulata* RÉCLUZ
24．リュウキュウアマガイ *Nerita* (*Amphinerita*) *insculpta* (RÉCLUZ)
25．マキミゾアマオブネ *Nerita* (*Theliostyla*) *exuvia Linnaeus*
26．フトスジアマガイ *Ritena costata* (Gmelin)

4．アマガイモドキ科 Neritopsidae

27．アマガイモドキ *Neritopsis radula* (LINNÉ)

5．カワニナ科 Pleuroceridae

28．カワニナ *Semisulcospira bensoni* (PHILIPPI)

6．タマキビガイ科 Littorinidae

29．コンペイトウガイ *Echininus cumingii Luchuanus* (PILSBRY)
30．ウズラタマキビ *Littoraria scabra* (LINNÉ)
31．ホソスジウズラタマキビ *Littoraria undulata* (GRAY)

7．カタベガイダマシ科 Modulidae

32．カタベガイダマシ *Modulus tectum* (GMELIN)

8．ムカデガイ科 Vermetidae

33．オオヘビガイ *Serpulorbis* (*Cladopoma*) *imbricatus* (DUNKER)
34．リュウキュウヘビガイ *Serpulorbis* (*Cladopoma*) *varidus* Kuroda et Habe

9．ゴマフニナ科 Planaxidae

35．ゴマフニナ *Planaxis sulcatus* (BORN)

10．ウミニナ科 Potamididae

36．ヘナタリ *Cerithideopsilla cingulata* (GMELIN)
37．イトカケヘナタリ *Cerithidea rhizophorarum morchii* A.ADAMS
38．イボウミニナ *Batillaria zonalis* (BRUGUIERE)
39．ウミニナ *Batillaria mnltiformis* (LISCHKE)

11．オニノツノガイ科 Cerithiidae

40．ヨコワカニモリ *Rhinoclavis aspera* (LINNÉ)
41．クワノミカニモリ *Clypeomorus chemnitzianus* (PILSBRY)
42．カザリカニモリ *Ochetoclava articulata* (ADAMS et REEVE)
43．ナガタケノコカリモリ *Rhinoclavis fasciatus* (BRUGUIERE)
44．コオニノツノガイ *Cerithium columaum* SOWERBY
45．メオニノツノガイ *Cerithium echinatum* LAMARCK
46．メオニノツノガイ（幼） *Cerithium echinatum* LAMARCK
47．トウガタカニモリ *Ochetoclava sinensis* (GMELIN)
48．ヒメトウガタカニモリ

Rhinoclavis cedonulli (SOWERBY)
49. オニノツノガイ
Cerithium nodulosum BRUGUIERE
12. スズメガイ科 Hipponicidae
50. スズメガイ *Pilosabia pilosa* (DESHAYES)
13. ソデボラ科 Strombidae
51. マガキガイ *Conomurex luchnanus* (LINNÉ)
52. ムカシタモトガイ
Canarium mutabilis (SWAINSON)
53. ヒダトリガイ *Canarium labiatum* (RÖDING)
54. ネジマガキガイ
Gibberulus gibberulus gibbosus (RÖDING)
55. イボソデガイ *Lentigo lentiginosus* (LINNÉ)
56. ゴホウラ *Tricornis latissimus* (LINNÉ)
57. ベニソデガイ *Euprotomus bulla* (RÖDING)
58. アツソデガイ *Tricornis thersites* Swainson
59. クモガイ *Lambis lambis* (LINNÉ)
60. クモガイ (幼) *Lambis lambis* (LINNÉ)
61. スイジガイ *Harpago chragra* (LINNÉ)
62. スイジガイ (幼) *Harpago chragra* (LINNÉ)
63. ラクダガイ *Lambis truncata sebae* (KIENER)
14. タマガイ科 Naticidae
64. リスガイ *Mammilla opaca* (RÉCLUZ)
65. トミガイ *Polynices pyriformis* (RÉCLUZ)
66. ヘソアキトミガイ
Polinices flemingianus (RÉCLUZ)
67. ホウシュノタマガイ
Tectonatica lurida (PHILIPPI)
15. タカラガイ科 Cypraeidae
68. ハナビラタカラ
Monetaria (*Ornamentaria*) *annulus* (LINNÉ)
69. キイロダカラ *Monetaria moneta* (LINNÉ)
70. フシダカキイロダカラ
Monetaria moneta monetoides IREDALE
71. ハナマルユキ
Ravitrona caputserpentis (LINNÉ)
72. ヤナギシボリダカラ
Luria (*Basilitrona*) *isabella* (LINNÉ)
73. ホシダカラ *Cypraea tigris* (LINNÉ)
74. ヒメホシダカラ *Cypraea* (*Lyncina*) *lynx* (LINNÉ)
75. ホシキヌタ
Ponda (*Mastaponda*) *vitellus* (LINNÉ)
76. タルダカラ *Talparia talpa* (LINNÉ)
77. コモンダカラ *Erosaria erosa* (LINNÉ)
78. ヤクシマダカラ *Arabica arabica* (LINNÉ)
79. ホソヤクジマダカラ
Arabica elegantina couturieri (VAYSSIERE)
80. ハチジョウダカラ
Peribolus mauritiana (LINNÉ)
81. サメダカラ *Staphylaea staphylaea* (Linnaeus)
82. メノウチドリダカラ
Pustularia globulus (LINNÉ)
16. トウカムリガイ科 Cassidae
83. ヒナヅルガイ *Casmaria erinacea* (LINNÉ)
17. フジツガイ科 Cymatlldae
84. ホラガイ *Charonia tritonis* (LINNÉ)
85. シオボラ *Gutturnium muricium* (RÖDING)
86. ミツカドボラ *Cymatriton nicobaricus* (RÖDING)
87. ジュセイラ *Septa hepatica* (RÖDING)
18. セコバイ科 Colubrariidae
88. ヒモカケセコバイ *Colubraria cumingii* (DOHRN)
19. オキニシ科 Bursidae
89. オキニシ *Bursa dunkeri* KIRA
90. イワカワウネボラ
Colubrellina (*Dulcerana*) *granularis* (RÖDING)
20. ヤツシロガイ科 Tonnidae
91. スクミウズラガイ *Tonna cepa* (RÖDING)
92. ウズラガイ *Tonna perdix* (LINNÉ)
93. イワカワトキワガイ
Malea (*Quimalea*) *pomum* (LINNÉ)
21. アクキガイ科 Mvricidae
94. ガンゼキボラ
Chicoreus (*Triplex*) *brunneus* (LINK)
95. レイシダマシ *Tenguella granulata* (DUCLOS)
96. レイシダマシモドキ *Morulina fusca* (KÜSTER)
97. ウネレイシダマシ
Cronia margariticola (BRODERIP)
98. アカイガレイシ
Drupa spathulifera (BLAINVILLE)
99. ムラサキイガレイシ *Drupa morum* (RÖDING)
100. ハナワレイシ *Nassa francolina* (BRUGUIÈRE)
101. ツノレイシ *Menathais tuberosa* (RÖDING)
102. テツレイシ
Mancinella distinguenda (DUNKER et ZELEBOR)
103. シラクモガイ *Mancinella armigera* (LINK)
104. ツノテツレイシ
Mancinella hippocastana (Linnaeus)
105. ホソスジテツボラ *Purpura persica* (Linnaeus)
106. シロレイシ *Mancinella siro* (KURODA)
107. キイロイガレイシ
Drupina glossularia (RÖDING)
108. ヒメシロレイシダマシ
Drupella fragum (BLAINVILLE)
22. カブラガイ科 Rapidae
109. カブラガイ *Rapa rapa* (LINNÉ)
23. オリイレヨフバイ科 Nassariidae
110. ヒメオリイレムシロ *Niotha nodifer* (POWYS)
111. サメムシロ *Alectrion papillosus* (Linnaeus)
112. アツムシロ *Niotha semisulcatus* (Jousseaume)
113. リュウキュウムシロ
Zeuxis margaritiferus (Dunker)
114. ヒメヨフバイ *Telasco gaudiosus* (Hinds)
115. ミスジヨフバイ
Zeuxis (*Tarazeuxis*) *zonalis* (A. Adams)
24. エゾバイ科 Buccinidae
116. スジグロホラダマシ *Pollia undosa* (Linnaeus)
117. シマベッコウバイ
Japeuthria cingulata (REEVE)
118. ノシガイ *Pusiostoma mendicaria* (LINNÉ)
119. ヒメホラダマシ *Pollia rubiginosa* (REEVE)
25. イトマキボラ科 Fasciolariidae
120. チトセボラ *Fusinus nicobaricus* (RÖDING)
121. リュウキュウツノマタガイ
Latirus polygonus (GMELIN)
122. ツノマタガイモドキ *Latirus belcheri* (REEVE)
123. イトマキボラ
Pleuroploca trapezium trapezium (Linnaeus)
124. ナガイトマキボラ
Pleuroploca filamentosa (RÖDING)

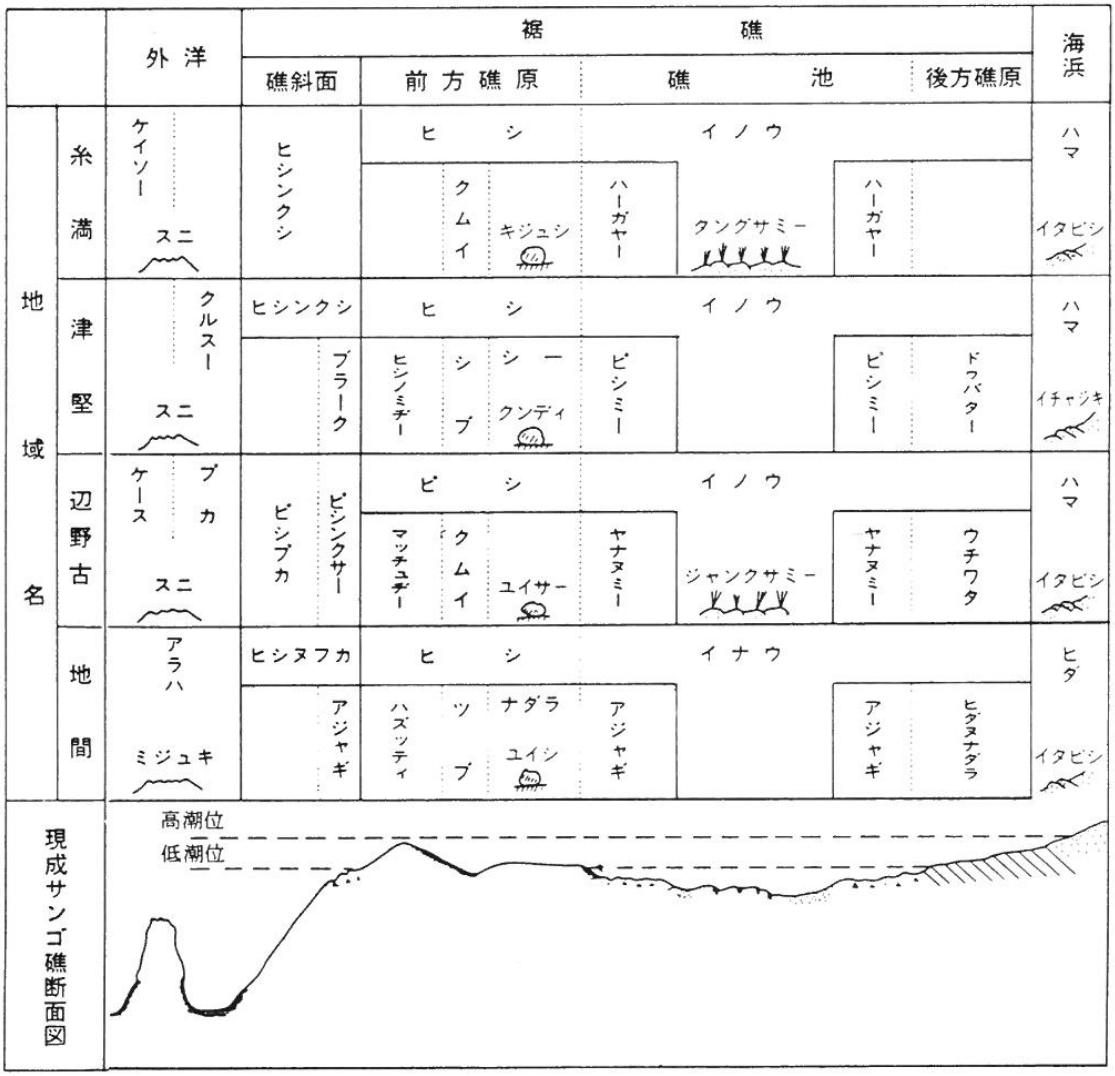
125. マルニシ
Leucozonia (*Latirolagena*) *samaragdula* (Linnaeus)
26. オニコブシ科 Vasidae
126. オニコブシ *Vasum ceramicum* (Linnaeus)
127. コオニコブシガイ *Vasum turbinellum* (LINNE)
27. フデガイ科 Mitridae
128. チョウセンフデガイ *Mitra mitra* (LINNE)
129. イモフデガイ *Pterygia dactylus* (LINNE)
130. ナガシマヤタテガイ
Strigatella paupercula (LINNÉ)
131. マユフデガイ *Chrysame chrysalis* (REEVE)
28. マクラガイ科 Olividae
132. サツマビナ
Oliva (*Neocylindrus*) *annulata* (GMELIN)
29. イモガイ科 Conidae
133. マダライモ *Virroconus ebraeus* (LINNÉ)
134. コマダライモ *Virroconus chaldeus* (RÖDING)
135. ジュズカケサヤガタイモ
Virroconus coronatus (GMELIN)
136. サヤガタイモ *Virroconus fulgetrum* (SOWERBY)
137. クロミナシ *Conus marmoreus* LINNÉ
138. イボシマイモ *Virgiconus lividus* (HWASS)
139. キヌカツギイモ
Virgiconus flavidus (LAMARCK)
140. ゴマフイモ *Puncticulis pulicarius* (HWASS)
141. サラサミナシ *Rhizoconus capitaneus* (LINNÉ)
142. サラサミナシモドキ
Dauciconus vitulinus (HWASS)
143. ミカドミナシ *Rhombus imperialis* (LINNÉ)
144. アンボンクロザメ
Lithoconus litteratus (LINNÉ)
145. クロフモドキ
Lithoconus litteratus pardus (RODING)
146. ニシキミナシ *Strioconus striatus* (LINNÉ)
147. アジロイモ *Darioconus pennaceus* (BORN)
148. イタチイモ *Rhizoconus mustelinus* (HWASS)
149. クロザメモドキ *Lithoconus eburneus* (HWASS)
30. クダマキガイ科 Turridae
150. クダボラ *Turris crispa* LAMARCK
31. タケノコガイ科 Terebridae
151. リュウキュウタケガイ
Oxymeris maculatus (LINNÉ)
152. キバタケガイ *Oxymeris crenulatus* (LINNÉ)
153. ベニタケガイ *Subula dimidata* (LINNÉ)
154. タケノコガイ *Terebra subulaia* (LINNÉ)
32. ナツメガイ科 Bullidae
155. ナツメガイ *Bulla cruentata vernicosa* GOULD
33. アメフラシ科 Aplysiidae
156. タツナミガイ
Dolabella auricularia (LIGHTFOOT)
34. キセルガイ科 Clausiliidae
157. ツヤギセル
Nesiophaeduse praeclara praeclara (GOULD)
158. リュウキュウキセルモドキ
Luchuena enidae luchuana (PILSBRY)
35. 陸産マイマイ
159. オキナワヤマタニシ
Cyclophorus turgidus PFEIFFER
160. オキナワウスカワマイマイ
Acusta despecta despecta (SOWERBY)
161. パンダナマイマイ
Bradybaena circulus circulus (PFEIFFER)
162. オキナワヤマタカマイマイ
Satsuma (*Luchuhadra*) *largillierti* (PFEIFFER)
163. リュウキュウヒダリマキマイマイ
Satsuma(*s*) *perversa* (PILSBRY)
164. シュリマイマイ
Satsuma (*s*) *mercatoria mercatoria* (PFEIFFER)
165. オオカサマイマイ
Videnoida horiomphala (PFEIFFER)
166. アフリカマイマイ *Achatina fulica* (BOWDICH)

C. 斧足綱 PELECYPODA
1. フネガイ科 Arcidae
1. ベニエガイ
Barbatia (*Ustularca*) *bicolorata* (DILLWYN)
2. エガイ
Barbatia (*Abarbatia*) *decussata* (SOWERBY)
3. リュウキュウサルボウ
Anadara antiquata (LINNÉ)
2. タマキガイ科 Glycymeridae
4. ソメワケグリ
Glycymeris (*Veletuceta*) *reevei* (MAYER)
3. イガイ科 Mytilidae
5. リュウキュウヒバリガイ
Modiolus (*modiolus*) *auriculatus* (KRAUS)
4. ウグイスガイ科 Pteriidae
6. クロチョウガイ
Pinctada margaritifera (LINNÉ)
7. ミドリアオリガイ
Pinctada panasesae (Jameson)
5. マクガイ科 Isognomonidae
8. カイシアオリガイ *Isognomon perna* (LINNÉ)
9. シュモクアオリガイ
Isognomon (*Isogonum*) *isognomon* (Linnaeus)
6. イタヤガイ科 Pectinidae
10. チサラガイ *Gloriopallium pallium* (LINNÉ)
7. ウミギクガイ科 Spondylidae
11. メンガイ *Spondylus squamosus* Schreibers
8. イタボガキ科 Ostreidae
12. ニセマガキ
Crassostrea echinata QUOY & GAIMARD
13. イタボガキ科の一種 Ostreidae
9. シジミガイ科 Corbiculidae
14. シレナシジミ *Geloina papua* (LESSON)
10. トマヤガイ科 Carditidae
15. クロフトマヤガイ
Cardita variegata (BRUGUIÉRE)
11. カゴガイ科 Fimbriidae
16. カゴガイ *Fimbria soverbii* (REEVE)
12. ツキガイ科 Lucinidae
17. ウラキツキガイ *Codakia paylenorum* (IREDALE)
18. クチベニツキガイ *Codakia punctata* (LINNÉ)
13. キクザルガイ科 Chamidae
19. キクザルガイの一種 Chamidae
14. シャコガイ科 Tridacnidae
20. シラナミガイ
Tridacna (*Vulgodacna*) *maxima* (RÖDING)
21. ヒレジャコ
Tridacna (*Flodacna*) *squamosa* LAMARCK

22. ヒメジャコ
Tridacna (*Chametrachea*) *crocea* LAMARCK
23. シャゴウ *Hippopus hippopus* (Linnaeus)
15. ザルガイ科 Cardiidae
24. リュウキュウザルガイ
Vasticardium (*Regozara*) *flavum* (LINNÉ)
25. オオヒシガイ *Fragum fragum* (LINNÉ)
26. カワラガイ *Fragum unedo* (LINNÉ)
16. マルスダレガイ科 Veneridae
27. ヌノメガイ *Periglypta puerpera* (LINNÉ)
28. マルオミナエシ *Lioconcha castrensis* (LINNÉ)
29. ホソスジイナミガイ
Gafrarium pectinatum (LINNÉ)
30. ヒメイナミガイ *Gafrarium dispar* (Dillwyn)
31. アラスジケマンガイ
Gafrarium tumidum (RÖDIG)
32. カノコアサリ *Glycydonta marica* (LINNÉ)
17. チドリマスオガイ科 Mesodesmatidae
33. イソハマグリ *Atactodea striata* (GMELIN)
34. ナミノコマスオ *Davila munda* (GOULD)
18. バカガイ科 Mactridae
35. リュウキュウバカガイ
Mactra maculata (GMELIN)
19. シオサザナミ科 Asaphidae
36. リュウキュウマスオガイ
Asaphis dichotoma (ANTON)
20. ニッコウガイ科 Tellinidae
37. サメザラガイ
Scutarcopagia scobinata (LINNÉ)
38. リュウキュウシラトリガイ
Quidnipagus palatum IREDALE
39. ヒメニッコウガイ
Tellinella staurella (LAMARCK)
40. モチヅキザラ *Cyclotellina remies* (Linnaeus)

D. 多板綱 POLYPLACOPHORA
1. クサズリヒザラガイ科 Chitonidae
1. ヒザラガイ *Liolophura japonica* (LISCHKE)

E. 四鰓亜綱 TETRABRANCHIA
1. オウムガイ科 Family nautilidae
1. オウムガイ *Nautilus pompilius* LINNÉ



第72図　沖縄のサンゴ礁海域の模式図と地方名（島袋1983より）

種名リストに記したように，貝類遺存体は単板網３科６種，腹足網（巻貝）34科と陸産マイマイで164種，斧足網（二枚貝）20科40種多板網１科１種，四鰓亜網１科１種の計60科211種を同定し得ている。

なお，第43～47表に示した組成表におけるこれらの最小個体数の算出にあたっては，下記の基準に基づいて行った。

腹足網―巻貝は殻頂部を有する貝と殻頂は欠損している四分の三以上残存している完形に近い資料を１個体とした。また，ヤコウガイやチョウセンサザエなどのリュウテンサザエ科の仲間で，そのフタにおいても種の同定が可能なものについては，両者のうち数量の多い方を最小個体数として採用した。

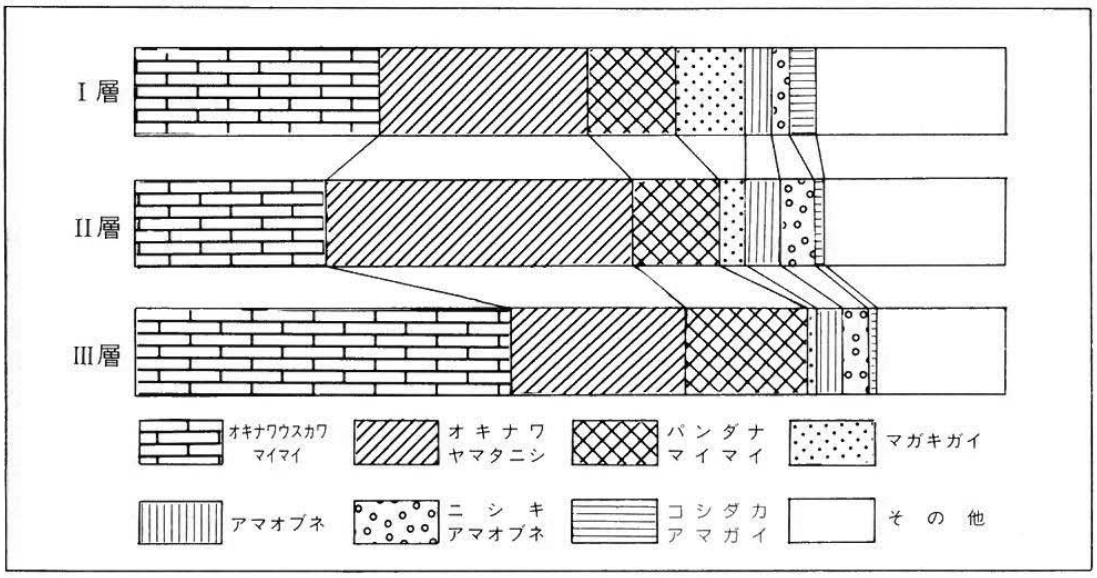
斧足網―二枚貝は殻頂を有する貝を左右それぞれ集計し，その多い方を最小個体とした。

また，これらの基準条件を満たさない砕片でも，各々の層において１個しか得られていかない場合は，１個体として扱った。

これらの出土状況をみると，種名リストおよび第43～47表から明らかなように，各層ともその種類，個体数ともにおいて腹足網（巻貝）が圧倒的多数を占めていることが明らかである。

棲息地の判明しているものでは，鹹水産，汽水産，陸産に限られ，淡水産がみられないことは，貝塚の近くに河川などがみられないことから首肯される。

これらのうち，圧倒的主体を占めているのは，オキナワウスカワマイマイ，オキナワヤマタニシ，パンダナマイマイなどの陸産マイマイ類であり，全体の68％を占める。これらの，陸産マイマイ額については，食料に供されたものかということについては，評価の分かれるところであり，目下検討課題である。筆者は，食料の対象としてみるよりも，自然死としての立場にあり，これらを調査研究することにより，貝塚が形成された一帯の微地形環境を復元する資料としての価値を有しているものと考えたい。



第73図　各層における主体貝の出現頻度

このようなことから，本貝塚の食料の対象となったのは，鹹水産，汽水産のみを捉えている。両者のうちで圧倒的主体をなすのは，鹹水産全体の29.7％を占める。

鹹水産は，腹足網33科153種，斧足網20科40種があるが，そこの主体を占めるのは，やはり前者である。

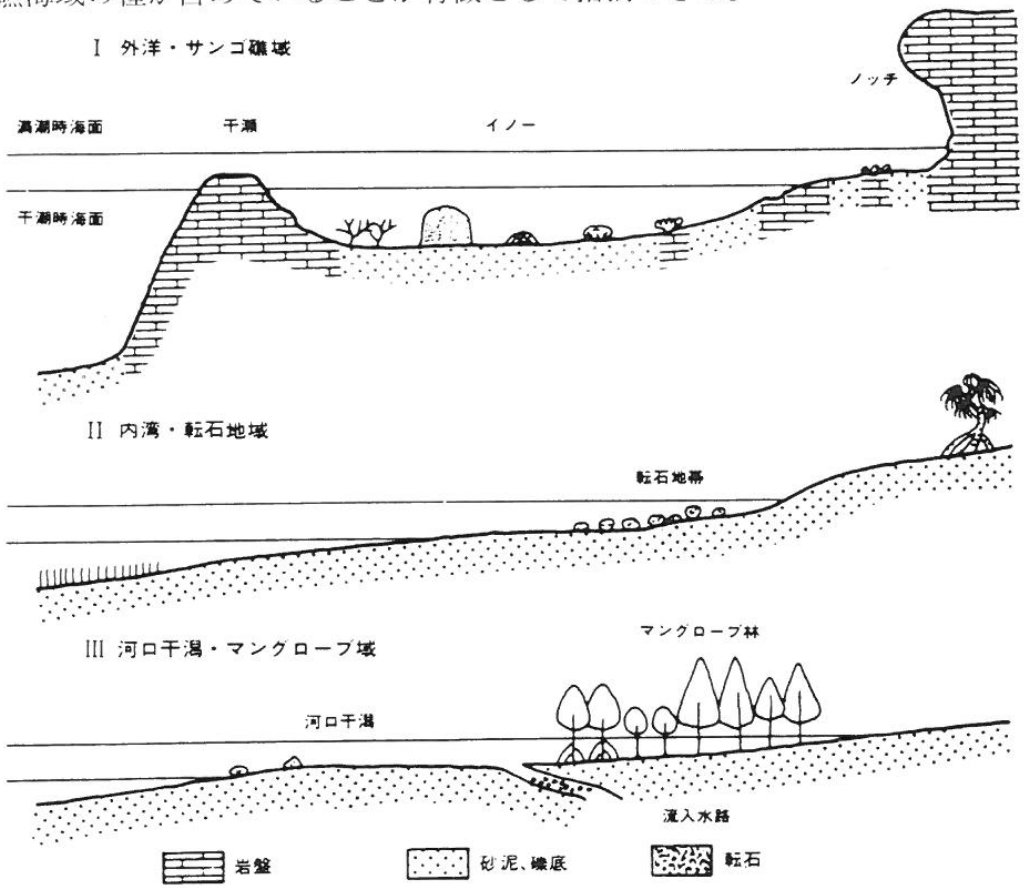
これを，さらに海岸の地形区分によって（第72・74図），もう少し詳細に検討してみると，潮間帯下・岩礁に棲息する種類が多く，これに次ぐのが潮間帯・岩礁である。

そして，種別では，潮間帯から水深20ｍまでの砂礫底に棲息するマガキガイが各層において平均3.5％以上と圧倒的主体を占めている。これに次ぐのが，潮間帯・岩礫底に棲息するアマオブネ，ニシキアマオブネ，潮間帯・岩礁に棲息するコシダカアマガイなどがあり，食料の主対象としては，ほぼこれらに限定されていたようである。

陸産マイマイ類を含めたこれらの主体貝の各層における出現頻度の変遷をみてみたのが，第63図である。ただし，これは第３章の「層序」でも述べたように，各層とも同様な堆積状況を呈してはいないことから，単純に比較できるものではないが，大まかな傾向は把握できよう。

これをみると，各層とも種別の出現頻度にさほど大きな変化はみられず，食料の対象となったもので主体を占めているのはマガキガイである。

このように，本貝塚の貝類組成をみた場合，食料の対象となったものは，そのほとんどが外洋・珊瑚礁海域の種が占めていることが特徴として指摘できる。



第74図　波浪の変化に基づく海洋地形の３タイプ（模式図）

第43表　北原貝塚貝類組成表・1

	層位 / 数% / 種名	表採		Ⅰ層		Ⅰa層		Ⅰb層		Ⅱ層		Ⅱa層		Ⅲ層		Ⅲa層		Ⅲb層		Ⅳ層		Ⅴ層		Ⅵ層		不明		合計		棲息地
		数	%	数	%	数	%	数	%	数	%	数	%	数	%	数	%	数	%	数	%	数	%	数	%	数	%	数	%	
腹足	ミミガイ	0	0	3	0	0	0	1	0	1	0	0	0	0	0	6	0.1	0	0	4	0	0	0	1	0.2	0	0	16	0	潮間帯付近　岩礁
	マアナゴ	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	3	0	〃　〃
	ヨメガカサガイ	0	0	1	0	0	0	0	0	11	0.1	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	1	0.1	0	0	0	0	14	0	潮間帯　岩礁
	オオベッコウカサガイ	0	0	5	0	1	0	0	0	1	0	0	0	5	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	12	0	〃　〃
	リュウキュウノアシ	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	〃　〃
	ニシキウズ	12	0.2	97	0.3	7	0.1	27	0.2	52	0.3	0	0	19	0.3	0	0	3	0.1	18	0.2	7	0.9	1	0.2	6	0.3	249	0.2	潮間帯下　岩礁
	ムラサキウズ	2	0	11	0	2	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2	0.1	18	0	〃　〃
	ギンタカハマ	0	0	0	0	2	0	4	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	6	0	潮間帯付近　岩礁
	サラサバテイ	41	0.8	340	1.1	31	0.3	36	0.2	67	0.4	1	1.3	19	0.3	0	0	5	0.2	23	0.2	4	0.5	1	0.2	34	1.7	602	0.5	潮下部　〃
	ベニシリダカ	0	0	1	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2	0	潮間帯下　岩礁
	オキナワイシダタミ	9	0.2	39	0.1	7	0.1	12	0.1	31	0.2	0	0	15	0.2	0	0	7	0.3	18	0.2	3	0.4	0	0	2	0.1	143	0.1	潮間帯　内湾転石　岩礁
	サラサダマ	0	0	0	0	7	0.1	18	0.1	0	0	0	0	0	0	0	0	6	0.3	0	0	0	0	0	0	5	0.2	36	0	潮間帯　岩礫地
	チョウセンサザエ	90	1.8	730	2.4	66	0.7	223	1.5	430	2.6	3	3.8	150	2.2	128	1.1	44	1.9	232	2.3	21	2.6	5	1.2	66	3.3	2,188	2.0	潮間帯下　岩礁
	〃　の蓋	29	0.6	210	0.7	26	0.3	23	0.2	30	0.2	0	0	47	0.7	19	0.2	3	0.1	5	0	1	0.1	1	0.2	22	1.1	416	0.4	〃　〃
	カンギク	17	0.3	99	0.3	17	0.2	24	0.2	67	0.4	0	0	13	0.2	16	0.1	6	0.3	20	0.2	4	0.5	0	0	5	0.2	288	0.3	潮間帯～5m岩礫地
	ヤコウガイ	27	0.5	116	0.4	9	0.1	18	0.1	22	0.1	0	0	5	0.1	6	0.1	7	0.3	8	0.1	0	0	0	0	20	1.0	238	0.2	浅海の岩礁
	〃　の蓋	5	0.1	35	0.1	3	0	3	0	5	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	6	0.3	58	0.1	〃　〃
	オオウラウズ	7	0.1	31	0.1	5	0.1	8	0.1	16	0.1	0	0	4	0.1	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	3	0.1	75	0.1	潮間帯　岩礫地
	コシダカサザエ	13	0.3	73	0.2	22	0.2	55	0.4	36	0.2	0	0	14	0.2	15	0.1	3	0.1	14	0.1	2	0.3	0	0	9	0.4	256	0.2	〃　30m岩礁
	リュウテンサザエ	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	サンゴ礁
	ニシキアマオブネ	184	3.7	581	1.9	76	0.8	274	1.9	591	3.5	6	7.7	321	4.6	182	1.6	73	3.2	355	3.4	45	5.6	19	4.5	63	3.1	2,770	2.5	潮間帯　岩礫底
	アマオブネ	228	4.6	872	2.8	168	1.7	316	2.2	687	4.1	6	7.7	332	4.8	254	2.3	111	4.8	418	4.1	50	6.3	13	3.1	80	4.0	3,535	3.2	〃　〃
	イシダタミアマオブネ	25	0.5	136	0.4	74	0.8	122	0.8	32	0.2	0	0	9	0.1	21	0.2	7	0.3	30	0.3	3	0.4	1	0.2	6	0.3	466	0.4	浅海
	カノコガイ	0	0	0	0	0	0	5	0	5	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	1	0	12	0	汽水域
	キバアマガイ	19	0.4	117	0.4	43	0.4	54	0.4	63	0.4	0	0	34	0.5	24	0.2	4	0.2	0	0	5	0.6	4	1.0	10	0.5	377	0.3	潮間帯　岩礁
	コシダカアマガイ	86	1.7	666	2.2	430	4.4	468	3.2	220	1.3	1	1.3	84	1.2	62	0.6	18	0.8	137	1.3	8	1.0	7	1.7	30	1.5	2,217	2.0	潮間帯　岩礫地
	オオマルアマオブネ	4	0.1	68	0.2	44	0.5	37	0.3	21	0.1	0	0	6	0.1	7	0.1	6	0.3	2	0	0	0	0	0	2	0.1	197	0.2	〃　岩礫
	マルアマオブネ	10	0.2	51	0.2	19	0.2	11	0.1	11	0.1	0	0	4	0.1	6	0.1	2	0.1	12	0.1	0	0	0	0	0	0	126	0.1	内湾に面した潮間帯　転石
	リュウキュウアマガイ	0	0	11	0	4	0	3	0	6	0	0	0	6	0.1	3	0	2	0.1	3	0	0	0	0	0	3	0.1	41	0	潮間帯　岩礫地
	マキミゾアマガイ	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	潮間帯　岩礁やマングローブ帯
	フトスジアマガイ	0	0	0	0	2	0	1	0	2	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	6	0	潮間帯　岩礁
	アマガイモドキ	1	0	1	0	2	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	1	0	7	0	潮間帯、岩礫やサンゴ礁域
	カワニナ	0	0	0	0	6	0.1	2	0	1	0	0	0	0	0	10	0.1	1	0	0	0	1	0.1	0	0	0	0	21	0	砂や小石底
	コンペイトウガイ	5	0.1	19	0.1	16	0.2	29	0.2	33	0.2	0	0	5	0.1	9	0.1	1	0	7	0.1	0	0	0	0	2	0.1	126	0.1	高潮帯　岩礫
	ウズラタマキビ	0	0	0	0	4	0	4	0	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	11	0	潮間帯　岩や小石地
	ホソスジウズラタマキビ	0	0	1	0	1	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	3	0	高潮帯　岩礁
	カタベガイダマシ	1	0	2	0	1	0	1	0	4	0	0	0	0	0	1	0	1	0	3	0	0	0	0	0	1	0	15	0	水深30m～300m砂泥底
	オオヘビガイ	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	潮間帯～10m　岩礁礫
	リュウキュウヘビガイ	1	0	0	0	1	0	1	0	3	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	7	0	潮間帯～20m　岩礁
網	ゴマフニナ	3	0.1	44	0.1	41	0.4	26	0.2	12	0.1	0	0	1	0	2	0	0	0	3	0	1	0.1	0	0	3	0.1	136	0.1	潮間帯　岩礁
	ヘナタリ	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	潮間帯　アシの泥底
	イトカケヘナタリ	14	0.3	131	0.4	91	0.9	46	0.3	14	0.1	0	0	4	0.1	1	0	0	0	19	0.2	1	0.1	0	0	4	0.2	325	0.3	潮間帯　アシの間
	イボウミニナ	3	0.1	16	0.1	14	0.1	17	0.1	2	0	0	0	1	0	0	0	0	0	6	0.1	0	0	0	0	1	0	60	0.1	潮間帯　砂泥底
	ウミニナ	13	0.3	75	0.2	64	0.7	71	0.5	3	0	0	0	1	0	3	0	0	0	27	0.3	0	0	0	0	0	0	257	0.2	潮間帯、砂や小石のところ
	ヨコワカニモリ	2	0	10	0	5	0.1	5	0	7	0	0	0	3	0	5	0	3	0.1	6	0.1	2	0.3	0	0	0	0	48	0	潮間帯付近　砂底
	クワノミカニモリ	2	0	4	0	1	0	1	0	4	0	0	0	0	0	0	0	0	0	3	0	1	0.1	0	0	0	0	16	0	潮間帯の砂や小石
	カザリカニモリ	0	0	3	0	0	0	3	0	4	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	11	0	潮間帯下砂底
	ナガタケノコカニモリ	0	0	3	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	2	0	0	0	2	0	0	0	0	0	0	0	8	0	浅海の砂底
	コオニノツノガイ	31	0.6	92	0.3	10	0.1	35	0.2	76	0.5	0	0	19	0.3	26	0.2	9	0.4	21	0.2	5	0.6	1	0.2	11	0.5	336	0.3	潮間帯下岩礁
	メオニノツノガイ	12	0.2	39	0.1	5	0.1	10	0.1	21	0.1	0	0	8	0.1	12	0.1	1	0	8	0.1	0	0	0	0	2	0.1	118	0.1	〃　〃
	メオニノツノガイ(幼)	0	0	0	0	0	0	1	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2	0	
	トウガタカニモリ	5	0.1	21	0.1	2	0	5	0	13	0.1	0	0	4	0.1	10	0.1	2	0.1	8	0.1	1	0.1	0	0	1	0	72	0.1	潮間帯砂礫底
	ヒメトウガタカニモリ	0	0	3	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	4	0	潮間帯～23m　砂礫地
	オニノツノガイ	58	1.2	430	1.4	48	0.5	61	0.4	217	1.3	0	0	50	0.7	56	0.5	11	0.5	63	0.6	4	0.5	2	0.5	49	2.4	1,049	0.9	潮間帯下岩礁
	小　計	959		5,191		1,378		2,063		2,829		17		1,185		890		337		1,479		170		56		450		17,004		

第44表　北原貝塚貝類組成表・2

	層位 / 数% / 種名	表採		Ⅰ層		Ⅰa層		Ⅰb層		Ⅱ層		Ⅱa層		Ⅲ層		Ⅲa層		Ⅲb層		Ⅳ層		Ⅴ層		Ⅵ層		不明		合計		棲息地
		数	%	数	%	数	%	数	%	数	%	数	%	数	%	数	%	数	%	数	%	数	%	数	%	数	%	数	%	
腹足網	スズメガイ	0	0	1	0	1	0	3	0	2	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	8	0	潮間帯岩礁
	マガキガイ	626	12.7	3.683	12.0	414	4.2	336	2.3	493	3.0	1	1.3	82	1.2	56	0.5	10	0.4	56	0.5	11	1.4	12	2.9	579	28.9	6.359	5.6	潮間帯水深 20m、砂や小石
	ムカシタモトガイ	5	0.1	20	0.1	9	0.1	10	0.1	15	0.1	0	0	3	0	7	0.1	2	0.1	5	0	1	0.1	0	0	2	0.1	79	0.1	潮間帯下　砂礫底
	ヒダトリガイ	1	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2	0	〃　〃
	ネジマガキガイ	9	0.2	48	0.2	6	0.1	6	0	12	0.1	0	0	2	0	6	0.1	1	0	6	0.1	0	0	0	0	4	0.2	100	0.1	潮間帯下　岩礫地
	イボソデガイ	2	0	11	0	3	0	1	0	1	0	0	0	1	0	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2	0.1	23	0	潮間帯下
	ゴホウラ	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	潮間帯下　岩礫底
	ベニソデガイ	1	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2	0	〃　〃
	アツソデガイ	1	0	3	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	4	0.2	8	0	潮下部　砂底
	クモガイ	6	0.1	29	0.1	1	0	8	0.1	0	0	0	0	7	0.1	9	0.1	1	0	0	0	0	0	1	0.2	5	0.2	67	0.1	潮間帯 20m 岩礁、サンゴ礁の間の砂地
	クモガイ（幼）	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	〃　〃
	スイジガイ	6	0.1	8	0	2	0	1	0	2	0	0	0	4	0.1	3	0	0	0	0	0	0	0	0	0	3	0.1	29	0	潮間帯下　岩礫底
	スイジガイ（幼）	0	0	1	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	3	0	潮間帯下　岩礫底
	ラクダガイ	2	0	1	0	0	0	1	0	0	0	0	0	3	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	2	0.1	10	0	サンゴ礁の死サンゴ礁原
	リスガイ	6	0.1	40	0.1	9	0.1	8	0.1	30	0.2	0	0	11	0.2	10	0.1	6	0.3	14	0.1	5	0.6	1	0.2	1	0	141	0.1	水深 10m～30m の砂底
	トミガイ	8	0.2	27	0.1	5	0.1	13	0.1	23	0.1	1	1.3	8	0.1	5	0	1	0	18	0.2	1	0.1	0	0	4	0.2	114	0.1	浅海の砂底
	ヘソアキトミガイ	1	0	6	0	1	0	2	0	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2	0	0	0	0	0	1	0	15	0	潮間帯～20m　砂底
	ホウシュノタマガイ	0	0	28	0.1	33	0.3	31	0.2	8	0	0	0	4	0.1	2	0	0	0	6	0.1	0	0	1	0.2	0	0	113	0.1	潮間帯下の砂底
	ハナビラダカラ	43	0.9	348	1.1	93	1.0	84	0.6	76	0.5	0	0	53	0.8	42	0.4	8	0.3	24	0.2	6	0.8	2	0.5	24	1.2	803	0.7	潮間帯の岩礫地
	キイロダカラ	4	0.1	11	0	3	0	2	0	2	0	0	0	1	0	2	0	0	0	2	0	0	0	1	0.2	1	0	29	0	潮間帯～20m 岩礁
	フシダカキイロダカラ	5	0.1	51	0.2	11	0.1	9	0.1	11	0.1	0	0	22	0.3	17	0.2	1	0	10	0.1	0	0	0	0	4	0.2	141	0.1	潮間帯、岩礁やサンゴ礁下
	ハナマルユキ	3	0.1	21	0.1	2	0	0	0	2	0	0	0	0	0	3	0	0	0	0	0	0	0	0	0	3	0.1	34	0	潮間帯　岩礫地
	ヤナギシボリダカラ	0	0	4	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	5	0	潮間帯　岩礁
	ホシダカラ	7	0.1	22	0.1	1	0	2	0	2	0	0	0	4	0.1	5	0	0	0	2	0	0	0	0	0	7	0.3	52	0.1	潮間帯下　岩礁
	ヒメホシダカラ	1	0	2	0	0	0	0	0	3	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	8	0	潮間帯付近　岩礁
	ホシキヌタ	1	0	5	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	7	0	潮間帯下　岩礁
	タルダカラ	0	0	1	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	1	0	0	0	0	0	0	0	4	0	潮間帯付近　岩礁
	コモンダカラ	0	0	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	4	0	潮間帯付近　岩礁底
	ヤクシマダカラ	1	0	6	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2	0	1	0	0	0	1	0	0	0	0	0	1	0	12	0	潮間帯 20m　岩礁、サンゴ礁の下
	ホソヤクシマダカラ	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	1	0	2	0.1	0	0	0	0	0	0	0	0	4	0	潮下部～ 20m　岩礁
	ハチジョウダカラ	0	0	6	0	0	0	0	0	1	0	0	0	5	0.1	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	13	0	潮間帯下　岩礁
	サメダカラ	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	潮間帯～ 20m　岩礁
	メノウチドリダカラ	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0.1	0	0	0	0	1	0	5～ 10m岩礁及びサンゴ礁
	ヒナヅルガイ	0	0	0	0	0	0	0	0	3	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	4	0	水深 10 ～ 30m　細砂底
	ホラガイ	1	0	4	0	1	0	1	0	3	0	0	0	3	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	15	0	潮間帯下　岩礁
	シオボラ	0	0	18	0.1	0	0	4	0	14	0.1	0	0	3	0	1	0	0	0	5	0	0	0	0	0	0	0	45	0	〃　〃
	ミツカドボラ	2	0	15	0	1	0	2	0	0	0	0	0	3	0	1	0	0	0	4	0	0	0	0	0	0	0	28	0	〃　〃
	ジュセイラ	0	0	0	0	0	0	1	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2	0	〃　〃
	ヒモカケセコバイ	0	0	3	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	1	0	1	0	0	0	0	0	0	0	6	0	潮間帯下の岩や小石ところ
	オキニシ	5	0.1	53	0.2	3	0	9	0.1	15	0.1	0	0	5	0.1	2	0	0	0	6	0.1	0	0	0	0	5	0.2	103	0.1	潮間帯下　岩礁
	イワカワウネボラ	3	0.1	9	0	1	0	4	0	6	0	0	0	1	0	3	0	0	0	7	0.1	1	0.1	1	0.2	2	0.1	38	0	潮間帯下の岩や小石ところ
	スクミウズラガイ	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	水深 5m ～30m 細砂底
	ウズラガイ	4	0.1	42	0.1	5	0.1	9	0.1	23	0.1	0	0	4	0.1	7	0.1	6	0.3	17	0.2	1	0.1	0	0	2	0.1	120	0.1	水深10m ～50m 細砂底
	イワカワトキワガイ	0	0	8	0	0	0	0	0	5	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	13	0	水深 5m ～20m の砂底
	ガンゼキボラ	2	0	24	0.1	1	0	4	0	5	0	0	0	5	0.1	1	0	1	0	8	0.1	0	0	1	0.2	2	0.1	54	0.1	潮間帯～20m 岩礁
	レイシダマシ	0	0	7	0	4	0	2	0	4	0	0	0	0	0	1	0	0	0	5	0	1	0.1	0	0	0	0	24	0	潮中部～下部　岩礁
	レイシダマシモドキ	1	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	2	0.1	0	0	0	0	0	0	0	0	5	0	潮間帯の岩礁
	ウネレイシダマシ	3	0.1	14	0	2	0	9	0.1	19	0.1	0	0	5	0.1	15	0.1	0	0	17	0.2	1	0.1	0	0	1	0	86	0.1	潮間帯　岩礁
	アカイガレイシ	2	0	17	0.1	0	0	2	0	5	0.1	0	0	0	0	0	0	0	0	2	0	0	0	0	0	0	0	28	0	潮間帯 10m　岩礁
	ムラサキイガレイシ	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	潮間帯～10m
	ハナワレイシ	3	0.1	2	0	0	0	0	0	5	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2	0	0	0	0	0	1	0	13	0	潮間帯下　岩礁
	ツノレイシ	9	0.2	60	0.2	0	0	0	0	25	0.2	0	0	2	0	0	0	0	0	4	0	0	0	0	0	0	0	100	0.1	潮間帯　岩礁
	テツレイシ	6	0.1	37	0.1	0	0	0	0	12	0.1	0	0	3	0	1	0	0	0	3	0	0	0	0	0	0	0	62	0.1	潮中部～下部　岩礁
	シラクモガイ	6	0.1	55	0.2	0	0	0	0	22	0.1	0	0	3	0	0	0	0	0	7	0.1	0	0	0	0	0	0	93	0.1	潮間帯　岩礁
	小　計	786		4,757		613		566		857		2		254		207		43		238		29		20		662		9,034		

第45表　北原貝塚貝類組成表・3

	層位 / 数% / 種名	表採		Ⅰ層		Ⅰa層		Ⅰb層		Ⅱ層		Ⅱa層		Ⅲ層		Ⅲa層		Ⅲb層		Ⅳ層		Ⅴ層		Ⅵ層		不明		合計		棲息地
		数	%	数	%	数	%	数	%	数	%	数	%	数	%	数	%	数	%	数	%	数	%	数	%	数	%	数	%	数	%	
腹足網	ツノテツレイシ	11	0.2	98	0.3	9	0.1	13	0.1	22	0.1	0	0	3	0	2	0	0	0	14	0.1	0	0	0	0	5	0.2	177	0.2	潮中部～下部　岩礁
	ホソスジテツボラ	0	0	1	0	0	0	1	0	3	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	1	0.1	0	0	0	0	7	0	潮間帯　岩礁
	シロレイシ	0	0	0	0	0	0	0	0	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2	0	潮間帯付近　岩礁
	キイロイガレイシ	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	潮間帯　岩礁
	ヒメシロレイシダマシ	8	0.2	8	0	1	0	5	0	4	0	0	0	3	0	3	0	1	0	11	0.1	0	0	1	0.2	0	0	45	0	潮間帯 20m　サンゴ礁
	カブラガイ	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	潮間帯～ 20m
	ヒメオリイレムシロ	5	0.1	43	0.1	23	0.2	20	0.1	10	0.1	0	0	8	0.1	4	0	1	0	9	0.1	0	0	0	0	0	0	123	0.1	潮間帯 10m　砂泥底
	サメムシロ	0	0	7	0	0	0	0	0	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2	0	1	0.1	0	0	0	0	12	0	潮下部　細砂底
	アツムシロ	1	0	1	0	0	0	0	0	3	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	5	0	潮間帯　岩礁の間の砂地
	リュウキュウムシロ	0	0	1	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2	0	潮間帯　砂泥地
	ヒメヨフバイ	6	0.1	13	0	10	0.1	12	0.1	12	0.1	0	0	2	0	2	0	1	0	6	0.1	1	0.1	1	0.2	1	0	67	0.1	潮間帯下
	ミスジヨフバイ	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0.1	0	0	0	0	1	0	潮間帯　岩礫地
	スジグロホラダマシ	0	0	3	0	0	0	2	0	3	0	0	0	1	0	0	0	0	0	2	0	0	0	0	0	0	0	11	0	潮間帯　岩礁
	シマベッコウバイ	2	0	16	0.1	3	0	3	0	8	0	0	0	1	0	2	0	0	0	3	0	0	0	0	0	1	0	39	0	潮間帯　岩礫底
	ノシガイ	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	3	0	1	0	1	0	0	0	0	0	0	0	1	0	6	0	潮間帯　岩礫地
	ヒメホラダマシ	1	0	3	0	0	0	0	0	3	0	0	0	1	0	1	0	0	0	1	0	0	0	0	0	1	0	11	0	潮間帯　岩礁
	チトセボラ	11	0.2	19	0.1	1	0	5	0	27	0.2	0	0	7	0.1	6	0.1	1	0	15	0.1	1	0.1	0	0	3	0.1	96	0.1	潮間帯付近　岩礁
	リュウキュウツノマタガイ	2	0	3	0	2	0	2	0	3	0	0	0	2	0	1	0	1	0	4	0	0	0	0	0	1	0	21	0	潮間帯下　岩礁
	ツノマタガイモドキ	0	0	6	0	1	0	5	0	5	0	0	0	0	0	3	0	1	0	4	0	0	0	0	0	1	0	26	0	〃
	イトマキボラ	4	0.1	6	0	1	0	9	0.1	35	0.2	0	0	4	0.1	6	0.1	4	0.2	10	0.1	1	0.1	0	0	3	0.1	83	0.1	潮間帯～ 30m　岩礁
	ナガイトマキボラ	2	0	17	0.1	2	0	7	0	13	0.1	0	0	2	0	5	0	3	0.1	4	0	0	0	0	0	2	0.1	57	0.1	潮間帯～ 50m　岩礁
	マルニシ	1	0	3	0	0	0	0	0	3	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	8	0	潮間帯　岩礁
	オニコブシ	1	0	2	0	1	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	5	0	潮間帯～10m　岩礁
	コオニコブシ	28	0.6	264	0.9	45	0.5	36	0.2	34	0.2	0	0	3	0	5	0	0	0	6	0.1	1	0.1	1	0.2	24	1.2	447	0.4	潮間帯　岩礁
	チョウセンフデガイ	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	潮間帯～60m サンゴ礁間砂地
	イモフデガイ	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	潮間帯岩や小石の間砂底
	ナガシマヤタテガイ	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	1	0	潮間帯～4m岩礁・サンゴ礁礫地
	マユフデガイ	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	潮間帯下　岩礁
	サツマビナ	0	0	3	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	4	0	浅海の砂底
	マダライモ	5	0.1	38	0.1	5	0.1	7	0	9	0.1	0	0	6	0.1	4	0	0	0	1	0	0	0	0	0	6	0.3	81	0.1	潮間帯付近　岩礁
	コマダライモ	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	1	0	1	0.1	0	0	0	0	4	0	潮間帯へ20m　岩礁
	ジュズカケサヤガタイモ	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2	0	潮間帯下　岩礁
	サヤガタイモ	4	0.1	29	0.1	8	0.1	7	0	7	0	0	0	14	0.3	4	0	1	0	4	0	2	0.3	0	0	4	0.2	84	0.1	潮間帯　岩礁
	クロミナシ	1	0	6	0	1	0	0	0	2	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	11	0	〃
	イボシマイモ	6	0.1	29	0.1	1	0	7	0	4	0	0	0	5	0.1	1	0	0	0	3	0	3	0.4	0	0	7	0.4	66	0.1	潮間帯下　岩礁
	キヌカツギイモ	1	0	5	0	0	0	0	0	1	0	0	0	2	0	1	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	11	0	〃
	ゴマフイモ	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	2	0	潮間帯　岩礁
	サラサミナシ	0	0	2	0	0	0	0	0	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	4	0	潮間帯付近　岩礁
	サラサミナシモドキ	0	0	5	0	0	0	0	0	2	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	8	0	潮間帯へ 20mサンゴ礁砂
	ミカドミナシ	0	0	3	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	4	0	潮間帯下　サンゴ礁砂中
	アンボンクロザメ	2	0	12	0	2	0	0	0	5	0	0	0	2	0	1	0	0	0	2	0	1	0.1	0	0	2	0.1	29	0	潮間帯　岩礁
	クロフモドキ	0	0	8	0	0	0	0	0	1	0	0	0	1	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	11	0	〃
	ニシキミナシ	0	0	2	0	0	0	1	0	1	0	0	0	5	0.1	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	10	0	潮間帯水深 10m浅底
	アジロイモ	0	0	6	0	1	0	2	0	4	0	0	0	5	0.1	1	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	20	0	潮間帯～ 20m　砂底
	イタチイモ	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0.1	0	0	0	0	1	0	〃
	クロザメモドキ	0	0	1	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2	0	潮間帯　岩礁間の砂中
	クダボラ	0	0	1	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	3	0	10～20m　砂底
	リュウキュウタケガイ	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	浅海　砂底
	キバタケガイ	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0.1	0	0	0	0	1	0	〃
	ベニタケガイ	4	0.1	5	0	1	0	2	0	3	0	0	0	1	0	1	0	1	0	0	0	0	0	2	0.5	0	0	20	0	〃
	タケノコガイ	0	0	2	0	0	0	1	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0.1	0	0	2	0.1	7	0	〃
	ナツメガイ	1	0	11	0	0	0	2	0	8	0	0	0	1	0	0	0	0	0	5	0	0	0	0	0	1	0	29	0	潮間帯下　海藻の間
	タツナミガイ	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2	0	潮間帯下　砂や小石底
	ツヤギセル	30	0.6	552	1.8	161	1.6	167	1.2	214	1.3	0	0	16	0.2	18	0.2	10	0.4	33	0.3	1	0.1	0	0	13	0.6	1,215	1.1	陸産
	小　計	137		1,238		281		319		460		0		104		77		27		144		18		5		79		2,889		

第46表　北原貝塚貝類組成表・4

	層位 / 数% / 種名	表採		Ⅰ層		Ⅰa層		Ⅰb層		Ⅱ層		Ⅱa層		Ⅲ層		Ⅲa層		Ⅲb層		Ⅳ層		Ⅴ層		Ⅵ層		不明		合計		棲息地
		数	%	数	%	数	%	数	%	数	%	数	%	数	%	数	%	数	%	数	%	数	%	数	%	数	%	数	%	
腹	ジュウキュウキセルモドキ	7	0.1	21	0.1	1	0	0	0	17	0.1	0	0	2	0	4	0	1	0	5	0	0	0	0	0	1	0	59	0.1	陸産
腹	オキナワヤマタニシ	1,071	21.7	7,969	26.0	1,529	15.6	3,451	23.8	5,853	35.1	23	29.5	1,709	24.5	2,302	20.6	486	21.0	1,881	18.3	165	21.0	154	36.8	255	12.7	26,848	24.3	〃
腹	オキナワウスカワマイマイ	967	20.0	5,272	17.2	3,946	40.4	5,983	41.2	3,597	21.6	13	16.7	2,311	33.1	5,504	49.3	978	42.2	4,832	46.9	221	28.0	127	30.4	171	8.5	33,922	30.7	〃
腹	バンダナマイマイ	551	11.2	3,287	10.7	1,307	13.4	1,270	8.8	1,804	10.8	16	20.5	1,077	15.4	1,517	13.6	298	12.9	1,459	14.2	149	18.7	42	10.0	135	6.7	12,912	11.7	〃
腹	オキナワヤマタカマイマイ	85	1.7	579	1.9	59	0.6	119	0.8	609	3.7	2	2.6	59	0.8	214	1.9	68	2.9	70	0.7	6	0.8	2	0.5	34	1.7	1,906	1.7	〃
足	ジュウキュウヒダリマキマイマイ	7	0.1	63	0.2	23	0.2	19	0.1	32	0.2	0	0	9	0.1	8	0.1	0	0	18	0.2	2	0.3	0	0	1	0	182	0.2	〃
足	シュリマイマイ	45	0.9	26	0.1	2	0	8	0.1	52	0.3	0	0	8	0.1	2	0	2	0.1	23	0.2	0	0	0	0	0	0	168	0.2	〃
足	オオカサマイマイ	1	0	15	0	9	0.1	4	0	6	0	0	0	1	0	1	0	1	0	2	0	0	0	0	0	0	0	40	0	〃
足	アフリカマイマイ	9	0.2	12	0	5	0.1	6	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	32	0	〃
網	カモガイ	0	0	0	0	0	0	2	0	0	0	0	0	2	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	5	0	潮間帯　岩礁
	小　計	2,743		17,244		6,881		10,862		11,970		54		5,178		9,552		1,834		8,291		543		325		597		76,074		
	腹　足　網	4,625		28,430		9,153		13,810		16,116		73		6,721		10,726		2,241		10,152		762		404		1,788		105,001		

第47表　北原貝塚貝類組成表・5

	層位 / 数% / 種名	表採		Ⅰ層		Ⅰa層		Ⅰb層		Ⅱ層		Ⅱa層		Ⅲ層		Ⅲa層		Ⅲb層		Ⅳ層		Ⅴ層		Ⅵ層		不明		合計		棲息地
		数	%	数	%	数	%	数	%	数	%	数	%	数	%	数	%	数	%	数	%	数	%	数	%	数	%	数	%	数	%	
斧足網	ベニエガイ	0	0	0	0	0	0	1	0	1	0	0	0	1	0	0	0	1	0	1	0	0	0	0	0	0	0	5	0	潮間帯　岩礫地
	エガイ	2	0	7	0	1	0	0	0	7	0	0	0	5	0.1	2	0	0	0	1	0	0	0	0	0	1	0	26	0	潮間帯　岩礫地
	リュウキュウサルボウ	0	0	2	0	0	0	2	0	1	0	0	0	3	0	1	0	0	0	0	0	1	0.1	0	0	0	0	10	0	浅海　砂底
	ソメワケグリ	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	浅海　砂底
	リュウキュウヒバリガイ	7	0.1	37	0.1	16	0.2	20	0.1	27	0.2	0	0	3	0	7	0.1	0	0	3	0.1	0	0	0	0	5	0.2	128	0.1	潮間帯～20m岩礁に付着
	クロチョウガイ	1	0	9	0	0	0	0	0	10	0.1	0	0	3	0	10	0.1	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	34	0	潮間帯下　岩礁地
	ミドリアオリガイ	69	1.4	783	2.6	352	3.6	407	2.8	131	0.8	0	0	10	0.1	37	0.3	5	0.2	30	0.3	1	0.1	0	0	41	2.0	1,866	1.7	潮間帯～20m　岩礁底
	カイシアオリガイ	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	潮間帯～20m　岩礁
	シュモクアオリガイ	0	0	5	0	2	0	0	0	0	0	0	0	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	9	0	〃
	チサラガイ	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2	0	潮間帯下　岩礁
	メンガイ	4	0.1	7	0	0	0	5	0	3	0	1	1.3	4	0.1	2	0	0	0	3	0	2	0.3	0	0	4	0.2	35	0	潮間帯　岩礁　サンゴ礁
	ニセマガキ	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	潮間帯～20m　岩礁
	イタボガキ科の一種	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	
	シレナシジミ	2	0	15	0	0	0	7	0	8	0	0	0	14	0.2	2	0	1	0	6	0.1	3	0.4	0	0	2	0.1	60	0.1	マングローブの泥地
	クロフトマヤガイ	1	0	6	0	3	0	2	0	0	0	0	0	1	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	14	0	潮間帯の岩礁
	カゴガイ	0	0	1	0	1	0	0	0	1	0	0	0	3	0	1	0	1	0	0	0	1	0.1	0	0	1	0	10	0	潮間帯下水深20m 砂底
	ウラキツキガイ	1	0	20	0.1	1	0	1	0	5	0	1	1.3	2	0	5	0	0	0	2	0	2	0.3	0	0	0	0	40	0	潮間帯20m 砂底
	クチベニツキガイ	0	0	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	4	0	潮間帯水深20m 砂底
	キクザルガイの一種	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	
	シラナミガイ	41	0.8	212	0.7	20	0.2	34	0.2	58	0.3	1	1.3	25	0.4	27	0.2	2	0.1	32	0.3	7	0.9	5	1.2	35	1.7	499	0.5	潮間帯　サンゴ礁
	ヒレジヤコ	1	0	6	0	3	0	0	0	3	0	0	0	3	0	2	0	1	0	11	0.1	1	0.1	0	0	1	0	32	0	潮間帯20m サンゴ礁
	ヒメジヤコ	60	1.2	328	1.1	26	0.3	46	0.3	39	0.2	0	0	7	0.1	5	0	1	0	3	0	0	0	0	0	52	2.6	567	0.5	〃
	シヤゴウ	13	0.3	54	0.2	4	0	5	0	7	0	2	2.6	10	0.1	5	0	2	0.1	2	0	2	0.3	1	0.2	12	0.6	119	0.1	〃
	リュウキュウザルガイ	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	潮間帯下、砂や小石 海底
	オオヒシガイ	2	0	7	0	1	0	7	0	12	0.1	0	0	3	0	10	0.1	2	0.1	1	0	0	0	0	0	1	0	46	0	浅海　砂底
	カワラガイ	8	0.2	27	0.1	1	0	7	0	13	0.1	0	0	10	0.1	7	0.1	4	0.2	7	0.1	2	0.3	2	0.5	6	0.3	94	0.1	〃
	ヌノメガイ	0	0	3	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	1	0.1	0	0	0	0	5	0	〃
	マルオミナエシガイ	2	0	5	0	0	0	1	0	0	0	0	0	5	0.1	2	0	1	0	2	0	1	0.1	0	0	0	0	19	0	〃
	ホソスジイナミガイ	6	0.1	47	0.2	10	0.1	8	0.1	8	0	0	0	3	0	5	0	1	0	11	0.1	1	0.1	2	0.5	5	0.2	107	0.1	〃
	ヒメイナミガイ	0	0	1	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2	0	潮間帯20m 砂礫底
	アラスジケマンガイ	0	0	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2	0	潮間帯　砂礫底
	カノコアサリ	1	0	2	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	4	0	潮間帯下　砂泥底
	イソハマグリ	50	1.0	355	1.2	149	1.5	107	0.7	111	0.7	0	0	64	0.9	145	1.3	33	1.4	11	0.1	5	0.6	0	0	32	1.6	1,062	1.0	潮間帯上部砂底
	ナミノコマスオ	0	0	3	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	4	0	潮間帯　砂地
	リュウキュウバカガイ	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2	0	10～30m 砂底
	リュウキュウマスオガイ	26	0.5	143	0.5	28	0.9	31	0.2	83	0.5	0	0	59	0.8	142	1.3	18	0.8	14	0.1	5	0.6	1	0.2	15	0.7	565	0.5	潮間帯　砂や小石の海底
	サメザラガイ	2	0	11	0	0	0	0	0	0	0	0	0	7	0.1	0	0	0	0	3	0	2	0.3	1	0.2	0	0	26	0	浅海　砂底
	リュウキュウシラトリガイ	1	0	31	0.1	1	0	5	0	9	0.1	0	0	4	0.1	8	0.1	0	0	2	0	0	0	0	0	0	0	61	0.1	〃
	ヒメニツコウガイ	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	1	0	0	0	0	0	0	0	3	0	〃
	モチヅキザラ	0	0	0	0	0	0	0	0	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2	0	潮間帯～20m　砂底
	ヒザラガイ	0	0	53	0.2	2	0	4	0	19	0.1	0	0	1	0	0	0	0	0	2	0	0	0	0	0	0	0	81	0.1	潮間帯の岩や小石底
	オウムガイ	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	2	0	熱帯のサンゴ礁 水深200m海底
	斧足網	300		2,191		622		702		559		5		255		429		74		152		37		12		215		5,553		
	腹足網	4,625		28,430		9,153		13,810		16,116		73		6,721		10,726		2,241		10,152		762		404		1,788		105,001		
	斧足網	300		2,191		622		702		559		5		255		429		74		152		37		12		215		5,553		
	総合計	4,925	98.9	30,621	98.8	9,775	100.2	14,512	98.9	16,675	99.1	78	100.2	6,976	99.1	11,155	99.1	2,315	98.8	10,304	99.2	799	100.2	416	99.4	2,003	97.4	110,554		

2．脊椎動物

脊椎動物遺存体には，陸生哺乳類のイノシシ，家畜獣のウシ，ウマ，ヤギ，齧歯歯類のネコ，ネズミ，爬虫類のウミガメ，ヘビ類，鳥類と，多くの魚類骨がある。

はじめに，これらの種名リストを掲げ，その概要を簡記する。

脊椎動物遺存体種名一覧

脊椎動物門　phylum VERTEBRATA

Ⅰ．軟骨魚綱　Class Chondrichthyes

サメ目　Order Lamniformes

属・種不明　Gen. et sp. indet.

Ⅱ．硬骨魚綱　Class Osteichthyes

1．スズキ目　Order Perciformes

a.ハタ科　Family Serranidae

マハタ属　*Epinephelus sp.*

b.フエフキダイ科　Family Ltjanidae

ハマフエフキ　*Lethrinus Choerorhynchus*

コショウダイ属　*Temminck et Schlegel sp.*

コショウダイ　*Plectorhynchus cinctus*

ヨコシマクロダイ　*Monotaxis grandoculis* (Forsskal)

c.ベラ科　Family Labridae

カンムリベラ属　*Coris sp.*

コブダイ　*Semicossyphus reticulatus*

d.ブダイ科　Family Scaridae

ナガブダイ属　*Scarops sp.*

ナガブダイ　*Scarops rubroviolaceus*

イロブダイ属　*Bolbojetopon sp.*

イロブダイ　*Bolbometopon bicolor*

ナンヨウブダイ　*Scarus gibbus*

E.ニザダイ科　Family Acanthuridae

属・種不明　Gen. et sp. indet.

2．フグ目　Order Tetraodontiformes

a.カワハギ科　Family　Aluteridae

モンガラカワハギ属　*Balistes sp.*

b.ハリセンボン科　Family Diodontiad

属・種不明　Gen. et sp. indet.

Ⅲ. 爬虫綱　Class Reptilia

1. カメ目　Order Chelonia

a.ウミガメ科　Family Chelonidae

2. 有鱗目（ヘビ亜目）　Order Ophidie

科・属不明　Fam. et gen. indet.

Ⅳ. 鳥綱　Class Aves

1. ワシ・タカ目　Order Falconiformes

a.カモメ科　Laridae

Ⅴ. 哺乳綱　Class Mammalia

1. 齧歯目　Order Rodentia

a.ネズミ科　Family Muridae

属・種不明　Gen. et sp. indet.

2. 食肉目　Order Canirora

a.ネコ科　Family Felidae

ネコ　*Felis catus*

3. 奇蹄目　Order Perissodactyla

a.ウマ科　Family Equidae

ウマ　*Equus caballus*

4. 偶蹄目　Order Artiodactyla

a.イノシシ科　Family Suidae

リュウキュウイノシシ　*Sus leucrmystax riukiuanus*

b.ウシ科　Family Boidae

ヤギ　*Capra hircus*

ウシ　*Bas taurus*

節足動物門　Phylum Arthropoda

Ⅰ. 甲殻綱　class Crustacea

1. 十脚目　Decapoda

a.ワタリガニ科　Family portunidae

ノコギリガサミ　*Scyily serrata*（Forskal）

タイワンガサミ　*Portunus pelagicus*（Linne）

軟体動物門　Mollusca

Ⅰ. 頭足綱　Cephalopoda

二鰓亞綱　Dibranchia（Coleoidea）

1．コウイカ目　Sepioidea

a.コウイカ科　Family Sepiidae

棘皮動物門　Echinodermata

Ⅰ．ウニ綱　Echinoidea

1）魚類（第48表，図版58，59・上）

同定できた魚類骨は，第48表に示したように，軟骨魚綱で1目，硬骨魚綱で7科9種ある。発掘調査面積に比して出土量としては決して多くはないが，各層とも主体をなしているのは，ブダイ科，ハリセンボン科，ハタ科などである。

a）軟骨魚綱

サメ類

Ⅰ層にて3点，Ⅱ層にて1点，出土不明1点の計5点の椎体が出土しているのみである。

b）硬骨魚綱

1．ハタ科―マハタの仲間に属すると思われるものが，Ⅱ層で右前上顎骨1点が出土している。

2．フエフキダイ科―ハマフエフキと思われるものと，ヨコシマクロダイと思われるものの他に，他種が含まれるようであるが，不明。出土資料の個体差にもバラツキがみられるが，計測可能な資料をみる限り，2.5～3.5cm前後のものが多いようである。

ハマフエフキは，表採の左前顎骨1点の他に，右前顎骨が3点，左前上顎骨が1点，左歯骨1点がⅠ・Ⅰa・Ⅲb層で出土している。

3．ベラ科―比較的出土量は少ない。同定できたのはカンムリベラとコブダイの2種であるが，他にもいくつかの種が含まれるようであるが，あまりにも砕片のため，詳細については判然としない。

出土資料は両者とも歯骨で，カンムリベラはⅢb 層にて，コブダイはⅡおよびⅢa 層で各々1点づつ出土している。

4．ブダイ科―最も出土量が多く，本貝塚の主体魚種の一つである。ブダイ科は，種類が多い魚の種一つであるが，同定できたのはナガブダイ属のナガブダイと，イロブダイ属のイロブダイ，ナンヨウブダイの2属3種である。

出土量としては，3種ともほぼ同数である。部位別では，前上顎骨や歯骨などが多いが，それらの大きさにはバラツキがみられる。歯骨をみた場合，その咬合

面長が1cm前後のものから3cmに達するものがあるが，主体を占めるのは1.5～2.5 cm前後のものである。これらからして，その体長は20～30cm前後のものが主体であったであろうと推する。

5．ニザダイ科―出土量は，極少である。尾部棘状の鱗がⅠ層で2点，Ⅱ層で3点，Ⅲ層で2点出土しているのみである。

6．カワハギ科―Ⅰb 層より右前顎骨1点が出土している。モンガラカワハギ属に属するもののようである。

7．ハリセンボン科―ハリセンボンの上・下歯板や棘が比較的多く出土している。上・下歯板の大きさからして，30～40cm程の体長になるほどのかなり大型のものであったと思われる。

以上，簡記したように，本貝塚の主体となっているのは，ブダイ科，フエフキダイ科，ハリセンボン科などのラグーン内の中・底層に棲息する魚類である。これらは，満潮とともに岩場の藻場に休息あるいは休眠にきて，干潮とともにラグーン内に活動に出るという習性をもっている。

そして，本貝塚からは釣針などが得られていないことより，貝製品の項で報告した貝製漁網錘を使用した漁法などによって捕獲されたであろう。

第48表　骨部位別数量表

部位			層位	表採	Ⅰ層	Ⅰa層	Ⅰb層	Ⅱ層	Ⅲ層	Ⅲa層	Ⅲb層	Ⅳ層	Ⅴ層	不明	合計
サメ目			脊椎		3			1						1	5
スズキ目	イサキ科	コショウダイ	R┼L	┼/1				┼/2	┼/1	1/┼		3/3 / 3/1			4/3 / 5/3
	フェフキダイ科	ヨコシマクロダイ	R┼L	┼/1				1/┼/1		1/┼					2/ / 2/1
		ハマフェフキ	R┼L	┼/1	1/┼/1	1/┼					1/┼				3/1 / ┼/1
		種不明	R┼L					┼/1	┼/1						┼/1 / 1/┼
	ベラ科	カンムリベラ	R┴L								┼/1				┼/1
		コブダイ	R┴L					┼/1		┼/1					┼/2
	ブダイ科	イロブダイ	R┼L						┼/1	┼/1	┼/1	1/┼			1/2 / 1/
		ブダイ	R┼L		2/1 / 2/5			┼/1 / 1/1	1/┼/1	1/┼/1		1/1	┼/1	┼/1	5/5 / 3/8
		ナンヨウブダイ	R┴L	┴/1	2/1 / 2			┼/1 / 2	┼/ / 2	┼/ / 2		┼/ / 1		┼/1 / 2	2/4 / 11
		イロブダイ	R┴L		1/ / 1	┼/ / 1		┼/1 / 1	1/┼ / 3	1/┴		┼/1 / 1			3/2 / 7
		ナガブダイ	R┴L		2/1 / 2			1/┼ / 2	3/┴			1/┴		1/┴	8/1 / 4
	ニザダイ科尾部棘状の鱗				2			3	2						7
	ハタ科	マハタ属	R┼L						1/┼						1/┼
フグ目	モンガラカワハギ科	モンガラカワハギ	R┼L				1/┼								1/┼
	モンガラカワハギ科の棘				1										1
	ハリセンボン科	ハリセンボン	上/下 破片		7/2 3	— 1	— 1	3/2	— 1	2/1 1	1	1			14/5 4
ハリセンボン科			棘						1			19			20
椎体突起				1				3			1	1			6
主上顎骨										1		7			8
主鰓蓋骨							1	1	1	1		6		1	11
間接骨			L		1				1			3		1	6
			不	1	1										2
尾舌骨			R					1				1			2
			L									2			2
尾椎骨					1		1	2		1					5
腹鰭軟条					1			1		1		1			4
腰帯								1							1
突起				1	6		1	4	4	1		1			18

2）ウミガメ類（第49表，図版60・上）

ウミガメ類の遺存体は，計23点得られている。その半数以上が背甲板，縁甲板である。それ以外の部位としては，烏口骨，上腕骨，寛骨，大腿骨などがある。

各層よりの出土があるが，Ⅱ層で半数近くの12点と最も多く，Ⅲａ層がこれに次ぐ。他層の出土は，僅少である。

第49表　ウミガメ類部位別数量表

部位＼層位			表採	Ⅰa層	Ⅱ層	Ⅲ層	Ⅲa層	Ⅳ層	合計
烏口骨							1		1
上腕骨		L		1					1
寛骨	上	L					1		1
	下	L			1		1		2
大腿骨		R						1	1
縁甲板					2				2
背甲板			1		9		3	1	14
破片						1			1
合計			1	1	12	1	6	2	23

3）ヘビ類（第50表）

Ⅰ層より椎骨が１点が出土しているのみである。

第50表　ヘビ類部位別数量表

層位	部位	個数
Ⅰ層	脊椎	1

4）鳥類（第51表，図版66・上）

カモメ科の仲間と，ワシ・タカ目の仲間が出土しているが，具体的な種レベルまで堀り下げて，同定するまでには至っていない。

a．カモメ科ーカモメ科の遺存体は，計15点出土している。Ⅱ層以外の各層より出土しているが，Ⅴ層に最も多い。ほぼ各部位にわたって出土がみられるが，各部位ごとの出土数は，1～2点と断片的に出土しているにすぎない。

b．ワシ・タカ目ーワシ・タカ目の遺存体は，計11点出土している。Ⅴ層を除く各層で出土しているが，いずれも1～2点と断片的な出方である。また，部位別の出土数も同様である。

第51表　鳥類部位別数量表

目・科名	部位＼層位			表採	Ⅰ層	Ⅱ層	Ⅲa層	Ⅳ層	Ⅴ層	不明	合計
カモメ科	烏口骨		L						1		1
	上腕骨（完存）		R						1		1
	橈骨	近位部	不						2		2
		骨体	R						1		1
	尺骨	近位部	L						1		1
		骨体	R					1			1
			L						1		1
		遠位部	L						1		1
	中手骨	完存	L				1				1
		近位端	L						1		1
		遠位部	L	1							1
	脛骨（骨体）		L						1		1
	中足骨	近位部	R				1				1
		遠位部	R		1						1
	小計			1	1	0	2	1	10	0	15
ワシ・タカ目	烏口骨		L					1			1
	上腕骨	完存	R	1							1
		遠位部	R		1						1
			L							1	1
	尺骨（完存）		L		1						1
	脛骨	骨体	L				1				1
		遠位端	L	1		1	2				4
	趾骨									1	1
	小計			2	2	1	3	1	0	2	11
	合計			3	3	1	5	2	10	2	26

5）ネズミ（第52表，図版66）

ネズミの遺存体は，計14点出土している。各層より出土しているが，いずれも１～２点の出土である。部位別では，大腿骨９点と多数を占めている他は，下顎骨，上腕骨，尺骨が各１点と，寛骨が２点となる。

第52表　ネズミ部位別数量表

部位＼層位			Ⅰ層	Ⅱ層	Ⅲ層	Ⅲa層	Ⅳ層	不明	合計
下顎骨		R					1		1
上腕骨		R						1	1
尺骨（近位部）		R	1						1
寛骨		L	1	1					2
大腿骨	完存	L			1				1
	近位部	L		2				1	3
	骨体	L	1						1
	遠位骨端のみ	R						1	1
脛骨（近位部）		R				1	1		2
		L				1			1
合計			3	3	1	2	2	3	14

6）ネコ（第53・54表，図版65）

幼児骨が出土している。出土量は，計99点と比較的多く，ほぼ各部にわたって出土しているが，そのほとんどが表採資料とⅠ層出土であるうえ，骨面に多少の光沢面が観察され風化が進行していないことなどからして，貝塚に伴うものではなく，後世の紛れ込みであろう。

これらの他に，Ⅱ・Ⅳ・Ⅴ層より各１点づつの出土があるが，各所に攪乱土壙がみられた南側地区よりの出土であることから，発掘時の採取エラーの可能性もある。

第53表　ネコ部位別数量表

部位		層位	表採	Ⅰ層	Ⅰa層	Ⅱ層	Ⅳ層	Ⅴ層	不明	合計
頭蓋骨	頭蓋骨			2						2
	前頭骨片			1						1
	側頭鼓室部	R		1						1
		L	1							1
脊椎骨	頚椎			4					1	5
	環椎			2						2
	軸椎			1						1
	胸椎			5		1			1	7
	腰椎			9					1	10
	仙椎			1						1
	椎体突起片			2					1	3
	尾椎		3							3
肋骨			13	12						25
肩甲骨		R		1						1
		L		1						1
上腕骨	完存	R		1						1
	近位骨端のみ	L		1						1
	近位端～遠位部	L		1					1	2
	骨体	L						1		1
橈骨（完存）		R		1						1
尺骨		R		1						1
中手骨				3						3
寛骨		R		1						1
		L		1					1	2
大腿骨	完存	R		1						1
	近位骨端のみ	不	2							2
	骨体	L					1			1
	遠位骨端はずれ			1						1
脛骨	完存	R		1						1
	近位骨端はずれ	L		1						1
腓骨					1					1
踵骨（完存）		R		1						1
中足骨				4						4
指趾骨	基節骨		5							5
	中節骨		4							4
合計			28	61	1	1	1	1	6	99

第54表　ネコの歯牙数量表

出土層位 ＼ 部位		右														左														合計
		I_1	I_2	I_3	C				P_1	P_2	P_3	P_4	M_1	M_2	M_3	I_1	I_2	I_3	C				P_1	P_2	P_3	P_4	M_1	M_2	M_3	
		i_1	i_2	i_3	c	m_2	m_3	m_4								i_1	i_2	i_3	c	m_2	m_3	m_4								
上顎	1層																		1											1
							1														1	1								3
下顎	1層				2			1					2						4		1	1					3			14
								1													3	3								7
合　計					2		1	2					2						5		5	5					3			25

7）ウマ（第55表，図版60・下）

Ⅰ層より右中足骨（近位部）１点と，攪乱土壙を含む出土区不明の左肩甲骨，右大腿骨，踵骨が各１点の出土があるが，骨面に風化が進行していないことなどからして，貝塚に伴うものではなく，後世の紛れ込みであろう。

第55表　ウマ部位別数量表

部位＼層位		Ⅰ層	不明	合計
肩甲骨（遠位部）	L		1	1
大腿骨	R		1	1
踵骨			1	1
中足骨（近位部）	R	1		1
合計		1	3	4

10）ヤギ（第56表）

Ⅰｂ層より左・右下顎骨が各１点づつ出土している。標品もウマやウシと同様，Ⅰｂ層出土であるうえ，さほど風化が進行していないことなどからして，貝塚に伴うものではなく，後世の紛れ込みであろう。

第56表　ヤギの歯数量表

部位＼層位		Ⅰb層	合計
下顎骨	R	1	1
	L	1	1
合計		2	2

8）イノシシ（第57表，図版61・上，62）

計146点が得られている。ほぼ各層より出土しているが，Ⅰ層に最も多く，Ⅱ層がこれに次ぐ。他層は，ほぼ同数である。

部位別では，歯・牙をはじめ，顎骨，四肢骨などとほぼ各部位にわたって出土しているが，いずれも１～５点前後と断片的である。

下顎骨において，その最小個体数をみてみると，Ⅲ層２，Ⅰ層１である。

第57表　イノシシ部位別数量表

部位		層位	Ⅰ層	Ⅰa層	Ⅰb層	Ⅱ層	Ⅲ層	Ⅲa層	不明	合計
下顎骨	下顎骨片	R	1							1
	関節突起	L	1							1
		不					1			1
脊椎骨	頚椎		△							△
	椎体			△10						△10
	椎体突起片			△						△
	仙椎								△2	△2
助骨			2	△1					△2	2 △10
		破片	〈3〉	〈△〉	〈1〉				〈2〉△3	〈6〉△20
肩甲骨（完存）		R							①	①
上腕骨	完存	R	②							②
		L	②						①	③
	骨体	L				①				①
	遠位端	R			△					△
		L			①					①
橈骨	橈骨	L	①							①
	遠位端	R					①			①
尺骨	尺骨	L	1 ②							1 ②
	骨体	R							1	1
	近位端	R			1					1
中手骨Ⅲ		R				1		1		2
中手Ⅳ		R	②Ⅳ	△						②△
		L	△Ⅳ	△						△
寛骨		R	①	△						①△
		L	①	△					①	②△
大腿骨	完存	R	②	△					①	③△
		L	①	△	①					△②
	骨体	R	1							1
		L	①							①
脛骨	完形	L		△						△
	近位骨端はずれ	R	②	△					①	③△
		L	②						①	③
	遠位端	L	1			1				2
	骨端破片		〈△〉							〈△〉
腓骨						1				1
膝蓋骨	完形	L				1				1
	破片	L							〈1〉	〈1〉
距骨		R		△						△
		L		△						△
踵骨		R		△						△
		L		△						△
指趾骨	基節骨								△	△
		破片	〈1〉	〈1〉		〈1〉		〈1〉	〈1〉	〈5〉
	中節骨								△	△
中手、中足骨、骨端のみ									△	△
合計		幼	19		2	1	1		6	29
		若	3	66	1				19	89
			11	2	2	5	1	2	5	28

注：○→幼△→若〈　〉→破片

第58表　インシシの歯牙数量表

出土地層位 ＼ 部位		右														左														合計
		I1 i1	I2 i2	I3 i3	C c	m2	m3	m4	P1	P2	P3	P4	M1	M2	M3	I1 i1	I2 i2	I3 i3	C c	m2	m3	m4	P1	P2	P3	P4	M1	M2	M3	
表採	上顎																													
	下顎												1																	1
Ⅰ層	上顎				1♀																									1♀
	下顎	1																			1	2					2①	2		9
Ⅰa層	上顎																					1					1			2
	下顎																													
Ⅰb層	上顎				1									1																2
	下顎																					1								1
Ⅲa層	上顎										1	1	1	1																4
	下顎																													
Ⅲb層	上顎																													
	下顎		1																											1
不明	上顎																		1♂											1♂
	下顎	1					1	1		1						1														5
合計		2	1		2		1	1		1	1	1	2	2		1			1		1	4					4	2		27

凡例：♂雄　♀雌

9）ウシ（第59表，図版61・下，）

幼・若骨が出土している。幼児骨が計67点，若い個体の骨が計11点ある。これらもウマと同様，Ⅰ層出土と攪乱土壙を含む出土不明がほとんどであるうえ，骨面に風化が進行していないことなどからして，貝塚に伴うものではなく，後世の紛れ込みであろう。

第59表　ウシ部位別数量表

部位＼層位			Ⅰ層	不明	合計
頭蓋骨	頭頂骨			1	1
	側頭骨鼓室部	R		1	1
		L		1	1
	側頭骨頬骨突起	R		1	1
		L		1	1
	蝶形骨体			1	1
	側頭鱗	L		1	1
	後頭顆	R		1	1
		L		1	1
	後頭骨底部			1	1
上顎骨		片		2	2
下顎骨		R		1	1
		L		1	1
		不	1		1
		片		2	2
脊椎骨	環椎		1	1	2
		片		2	2
	軸椎			2	2
	椎体	片		1	1
上腕骨		L	△		△
橈骨	近位部	L	△		△
		片	1		1
	遠位部	R		1	1
		L		1	1
尺骨		L	△		△
中手骨		R		1	1
		L		1	1
大腿骨	近位部	L	1		1
	骨体	R	1		1
胫骨	遠位	R		△	△
		L		1	1
距骨		R		△	△
		L		△	△
踵骨		R		1	1
		L		1	1
中足骨	完存	L		1	1
	近位部	R		1	1
	骨体～遠位端			1	1
指趾骨	基節骨			8	8
	中節骨			4	4
	末節骨	R		2	2
手根・足根骨			2	7	9
中手・中足骨骨端のみ				7	7
合計		幼	7	60	67
		若	△	△	△
個体数					

3．節足動物

甲殻網のカニ類のはさみや脚が78点出土している（図版59・下）。詳細な種については，未だ検討の余地があるが，遺存体が比較的大型であることから，ワタリガニ科のノコギリガサミとタイワンガサミに比定した。

4．軟体動物

頭足網のイカ類の甲が８点出土している（図版59・下）。形態上の特徴からして，コウイカ科に比定したが，これらも詳細な種については未だ検討の余地が残されており，さらに調査を進めて行きたい。

第6章　まとめ

以上，前章までにて今回の調査内容について述べてきた。ここでは，その主な内容を整理し，まとめとしたい。

1．本貝塚の従前の調査抄

すでに述べてきたように，本貝塚の調査は，今回で3度目にあたり，本貝塚は今回の調査でそのほとんどが壊滅したことになる。

まずはじめに，これまでの調査内容と成果について，その概要を簡述する。

1回目の調査は，1971年にカナダ・ブリテイ シュコロンビア大学のR．ピアソン教授らが行った学術的解明を目的とした調査である（R.Peason1981，リチャードピアソン・他1990）。

調査地点は，貝塚の南側部分で，今回の調査地点と旧ターミナルビルの間付近で実施されている。報告によると，表土下約40cm下に遺物包含層があり，沖縄後期の土器とともに，貝製漁網錘，ヤコウガイ製杓子状製品，螺蓋製敲打器，石斧などの人工遺物と貝類，魚類などの動物遺体のほか，開元通寶が1点出土している。

また，包含層の最下部からは，コーラル（珊瑚）を敷き詰めた面が確認されるとともに，柱穴も検出されていることから，当該部分が住居址であろうと推定している。

二度目の調査は，1973年に実施された沖縄県教育委員会によるものである。この調査の契機は，前年（1972年）の沖縄県の本土復帰に伴い，離島の空港が本土の基準に合わないということから，その拡張，整備が計画され，これに先だって記録保存を目的とした事前調査である。

調査地点は，現在の駐機場（エプロン）を含めた北側へ延びた部分である。正式な発掘調査報告書が未刊なため，詳細な内容については判然としないが，調査担当者の知念勇の報文によれば（知念1976，1993），下記のような内容のようである。

貝塚の堆積層は，基盤層まで含めて5枚確認されているが，Ⅰ層は1967年の空港拡張工事の際に滑走路部分を削って積み上げられた表土・撹乱層である。Ⅱ層は，旧来の表土層で，砂層にマージ（赤土）を混じた褐色砂層をなす。Ⅲ層は，未撹乱の遺物包含層である。層厚30～40cmを測る。Ⅳ層は，基盤の白砂層（Ⅴ層）への移行層で，層色は黄褐色を呈す。Ⅴ層は，基盤の白砂層である。

出土遺物は，沖縄後期土器を主体に，石器，貝製品，骨製品，鉄製品，古銭などがある。土器は，沖縄後期後半に一般的な無文の甕形土器で，底部はくびれ平底が主体をなし，少量の壺形や片口の器形を含む。石器では，石皿や磨石，敲石などの二次的な生産用具が主体を占め，石斧などは僅少である。貝製品としては，ヤコウガイ製杓子状製品やシャコガイ製を中心とした貝製漁網錘，ホラガイ製容器などの当該期に比較的ポピュラーな製品のほか，所謂広田上層タイプの貝符（貝札）も5点出土している。

この他に，注目されるものとして，中国唐代の古銭・開元通寶（A.D.621～ ）が13点，五銖銭（後漢代B.C.119）が１点と，青銅器片も得られているようである。

検出遺構には，Ⅲ層下部に３ｍ×４ｍの長方形プランをもつ石組遺構がある。当該遺構の中央部には，長さ約１ｍ，幅50cmの比較的大型の石皿が据え置かれ，北側に隣接するところには，柱穴も数カ所検出されている。

そして，３度目が今回の調査であり，調査地点は１度目のリチャード.ピアソン教授らの調査地点に東接し，２度目の沖縄県教育委員会調査地点に南接した地点である。

２．今回の調査成果

今回の調査成果の１つにあげられるのが，２時期わたる遺物包含層の確認で，前２回までの調査結果から本貝塚は，沖縄後期の貝塚として周知されていた。しかし，今回の調査で上層の沖縄後期の遺物包含層下に，沖縄前期前半（縄文後期前半）に位置づけられている伊波式土器を主体とした遺物包含層が確認された。久米島で当該形式土器がこのように比較的まとまって出土した例は希少であることから，当該期の島の文化解明に資するであろう。

出土した伊波式土器は，文様のバリエションに富み，従来未見のタイプの資料なども含まれている。伊波式土器は，胴の最大径より口径が大きくなる器形をなすことが特徴であるが，本貝塚の伊波式土器は，両者がほぼ等しく，どちらかと言えば後続する荻堂式土器に近似した特徴を有するものもみられた。口縁部から底部にいたるほぼ完形品に近い資料も２点含まれるが，両者とも口径，器高，底径の比は従来知られているものとほぼ一致するようである。その他に，綾杉文を主文様構成とした所謂奄美系土器にみられるような文様展開の土器も出土している。後期系土器は，良好な資料に恵まれず，そのほとんどが砕片であり，全形を窺えるような資料は僅少であった。これらは，諸特徴からして，二大別されたが，その主体をなすのはⅡ類である。その特徴は，無文化の進んだ甕形（深鉢形）が主体をなし，器形は胴部が張るタイプのものが多く，少量の壺形を伴うが，これらは無頸のものがほとんどである。底部は尖底が主体を占め，くびれ平底が少ないことは，二度目の沖縄県教育委員会調査地点の内容とは異なる成果であり，同一貝塚内で生活拠点を移動している可能性を示唆している。

石器は，器種組成からみた場合，５種ある。これらのなかで主体を占めているのは，加工・調理具としての敲石と磨石類である。

石斧は，14点の出土があるが，形態や製作技法，あるいはこれまでの報告例などからして，沖縄前期（縄文相当期）と後期（弥生～平安前期）では異なることが判明している。つまり，沖縄前期段階には，その形態や法量もバラエティーに富み，比較的重厚なものが多く，製作も丁寧であるのに対し，後期のそれは厚みを減じ，偏平化の傾向にあるとともに，粗造の感を受ける。このような一般的特徴に照らし併せてみた場合，打剝片を使用した第30図６のみは，上層の後期に属し，他は伊波式土器を主体とした前期に伴うものであろう。

敲石と磨石類のうち，敲石のⅢ類は使用面の観察結果から石器製作用のハンマーとして用途・機能を有したものであろうということは，既述した通りである。他類には，いずれもアバタ状の敲打痕を有することから，植物質食料，あるいは貝類などの加工・調理具として使用されたものと推する。この両者は，単独で使用されている資料は極少で，そのほとんどが磨石兼敲石としたように両者の用途，機能を兼備したものである。

貝製品は比較的多数出土しており，装飾品と実用品に大別されることは既述した通りである。その多くが他の同期の貝塚でも出土しているポピュラーなものがであるが，特記されるものとしては鏃がある。当該製品は，クロチョウガイおよびヤコウガイなどのリュウテンサザエ科の仲間の貝の内面が真珠層の光沢を有する素材を使用し，鏃として加工した製品である。全体形状は二等辺三角形，または三角形状をなし，基部は平坦に仕上げたものと略弧状，あるいは不定形に仕上げたものがある。そして，そのほとんどが中央部か，基部寄りに径２mm前後の正円形の穿孔があるという特徴を具備している。

類品は，これまで奄美諸島から沖縄諸島にかけての縄文相当期遺跡よりの出土・報告例があるが，各遺跡とも出土点数は少ない。本貝塚では13点と比較的まとまって出土しているうえ，形態上のバリエションも多く，そのほとんどが伊波式土器を主体的に出土しているⅢ層より出土していることから，当該製品の帰属時期や用途・機能を考えるうえで重要な資料と言えよう。

他に記しておきたいことは，サラサバテイ製貝輪の出土状態である。当該製品は，その形態から複合使用の貝輪であろうことは従前から指摘されていたことではあるが，本貝塚では原色図版に示したように，これらが重なり合って出土したことである。この出土状態から，その端部の穿孔，あるいはノッチ状の抉りに紐を結んで複合使用したであろうことの確証が得られたと言えよう。

参考文献

〈あ〉

安里　進、1974：沖縄における原始共同体の解体過程（試論）－沖縄本島南部・久米島を中心として－。沖縄歴史研究。11号。P65～83。沖縄歴史研究会。那覇。

———，1975：グシク時代開始期の若干の問題について—久米島ヤジヤ—ガマ遺跡の調査から—。沖縄県立博物紀要。第1号。P36～54。沖縄県立博物館。那覇。

安里嗣淳・他，1979：伊江島ナガラ原西貝塚緊急発掘調査報告。伊江村文化財調査報告書第8集。伊江村教育委員会。沖縄県伊江村。

———・他，1983：伊江島阿良貝塚発掘調査報告書。沖縄県文化財調査報告書第48集。沖縄県教育委員会。那覇。

———，他，1985：伊江島具志原貝塚の概要。沖縄県文化財調査報告書第61集。沖縄県教育委員会。那覇。

〈う〉

上原　静，1982：渡名喜村東貝塚採集の貝輪。南島考古だより。第27号。P2。沖縄考古学会。那覇。

———、1981：いわゆる南島出土の貝製利器について。南島考古。No.7。p4～46。沖縄考古学会。那覇。

〈お〉

大城逸朗，1976：久米島の地質－特に琉球石灰岩と完新世イリビシ海岸について－。『沖縄県立博物館紀要』。第2号。P1～17。沖縄県立博物館。那覇。

沖縄地学会・編，1982：7－久米島〈金のとれる島〉。『沖縄の島じまをめぐって』。P120～130。築地書館。東京。

沖縄県土木建築部，1991：久米島空港－整備計画概要－。沖縄県。

〈か〉

河口貞徳，1973：鍬形石の祖形－松ノ尾遺跡出土の貝製腕輪－。古代学研究。第70号。P1～14。古代学研究会。大阪。

〈き〉

木崎甲子郎・編，1975：沖縄の自然－その生いたちを訪ねて－。平凡社。東京。

————，1985：12　久米島。『琉球孤の地質誌』。P129～135。沖縄タイムス社。那覇。

木下尚子，1981：貝製容器小考。南島考古。No.7。P47～60。沖縄考古学会。那覇。

———，1992：南島の古代貝文化。MUSEUM。P 4 ～15。東京国立博物館。東京。

木村幾太郎，1980：所謂広田型貝輪の細分について。史淵。117輯。P91～124。九州大学文学部。福岡。

吉良哲明，1982：原色日本貝類図鑑。保育社。東京。

金城亀信・久手堅稔，1992：久米島ウルル貝塚採集の鉄釘と五銖銭。文化課紀要。第8号。p99～107。沖縄県教育庁文化課。那覇。

〈く〉

具志川村役場，1993：平成5年　具志川村村勢要覧－ぐしかわ－。具志川村役場総務課。沖縄県久米島具志川村。

久手堅稔，1979：字具志川周辺の遺跡。宮里静光編『具志川部落史』所収。P26～38。久米島具志川村字具志川。久米島新聞社。

———，1982，久米島具志川村北西海岸の先史遺跡。沖縄久米島調査委員会編。『沖縄久米島』。「沖縄久米島の言語・文化・社会の総合的研究」報告書。P105～126。弘文堂。東京。

黒住耐二，1987：第6節3　遺跡出土貝類の生息場所類系化の試み。古我知原貝塚—沖縄自動車道（石川～那覇間）建設工事に伴う緊急調査報告書（6）—。沖縄県文化財調査報告書第84集。沖縄県教

育委員会。那覇。

〈こ〉

國分直一，1972：南島先史時代の研究。慶友社。東京。

〈し〉

島袋伸三，1983：沖縄のサンゴ礁海域の地名。季刊「自然と文化」－特集：渚と日本人－。夏季号。P53～55。日本ナショナルトラスト。東京。

白木原和美，1973：夜光貝の匙。熊本日新聞。熊日新聞社。熊本。

————，1978：クガニイシ。法文論叢。第41号。P104～123。熊本大学法文学会。熊本大学。熊本。

〈せ〉

関　俊彦・1975：Cmplex Adaptive Subsistence Systems in RyuKyu Prehistory /Richad Pearson.Circum-Pacific.2. P17～28。環太平洋学会。東京。

宋　文薫，1957：凹石の用途。民族学研究。第22巻第1・2号。P120～122。日本民族学会。東京。

〈た〉

高宮廣衛，1960a：野国海岸発見の石器について。沖大論叢。第1巻第1号。沖縄。那覇。

———，1960b：具志川村アカジャンガー遺跡調査概報。沖縄県教育委員会監修　『沖縄文化財報告書1956～1962』所収。P208～236。沖縄県教育委員会文化課。那覇。

———，1978：沖縄諸島における新石器時代の編年（試案）－沖縄考古学会研究発表要旨－。南島考古。No.6。p11～22。沖縄考古学会。那覇。

———，1982：先史時代の久米島。沖縄久米島調査委員会編。『沖縄久米島』。「沖縄久米島言語の文化・社会の総合的研究」報告書。p89～104弘文堂。東京。

———，1983：1　沖縄諸島。森浩一編『三世紀の考古学－　倭人伝の実像をさぐる－』。下巻。「三世紀の日本列島」。p13～30。学生社。

———，1984：暫定編年（沖縄諸島）の第３次修正。沖縄国際大学部紀要社会学科編。第12巻1号。p33～49。沖縄国際大学文学部。宜野湾。

———，1985：沖縄編年のいわゆる後期遺跡について－弥生文化との関連において－。八幡一郎先生頌寿記念考古学論集。『日本史の黎明』。p311～333。六興出版。東京。

多和田真淳，1958：琉球列島の貝塚分布と編年概念。文化財要覧。琉球政府文化財保護委員会。那覇。

〈ち〉

知念　勇，1976：第一章　先史時代。具志川村史編集委員会編『久米島具志川村史』。p5～26。沖縄県久米島具志川村。

———，1993：北原貝塚－飛行場の下に眠る新石器時代の遺跡－。高宮廣衛・中山満監修『沖縄県風土記』。p115。旺文社。東京。

〈と〉

当真嗣一・他，1980：大原－久米島大原貝塚群発掘調査報告－。沖縄県文化財調査報告書第32集。沖縄県教育委員会。那覇。

〈な〉

長野真一・他，1988：下山田遺跡・和野トルフ墓－竜郷－新奄美空港線の改良工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書－。鹿児島県埋蔵文化財発掘調査報告書(45)。鹿児島県教育委員会。鹿児島。

〈に〉

西里武雄・他，1968：久米島における先史及び原史遺蹟概要。郷土。第７号。p92～131。沖縄大学沖縄学生文化協会。沖縄大学。那覇。

〈は〉

波部忠重・小菅貞男，1968：貝。標準原色図鑑全集。３。保育社。東京。

――――――――, 1981：原色世界貝類図鑑（Ⅱ）－熱帯太平洋編－。保育社。東京。
波部忠重・奥谷喬司, 1983：貝Ⅰ〔巻貝〕。学研生物図鑑。学習研究社。東京。
――――――――, 1983：貝Ⅱ〔二枚・陸貝・イカ・タコほか〕。学研生物図鑑。学習研究社。東京。

〈ひ〉

東中川忠美・藤田　等・他：1981：大友遺跡。呼子町郷土史研究会。佐賀県呼子町。
肥後俊一・後藤芳英・編, 1993：日本及び周辺地域産軟体動物総目録。エル貝類出版局。大阪。
pearson R.1981:chapter 3 Excavations at the AirPort site kume Island Subsistence and Settlement in Okinawa Prehisitory-Kume and Iriomote. p21～48.RyuKyu Archaeolo-gical Research Team. Laboratory University of British Columbia Vancouver,Canada.
ピアソン・リチャード, 安里進, モンクスグレゴリ・ポコティデビッド, 1990：久米島と西表島における発掘。文化課紀要。第6号。P95～100。沖縄県教育庁文化課。那覇。

〈ま〉

松村　暸, 1920：琉球荻堂貝塚。東京帝国大学理学部人類学研究報告。第三編。p39。東京帝国大学。東京。

〈み〉

三島　格, 1982：螺蓋製斧。『賀川光夫先生還暦記念論集』。p95～127。賀川光夫先生還暦記念会。別府。
――――, 1988：南島資料(16･17)九州考古学。第62号。p53～56。九州大学考古学研究室。福岡。
弥栄久志・他, 1985：長浜兼久遺跡－新奄美空港建設に伴う埋蔵文化財報告書－。鹿児島県埋蔵文化財発掘調査報告書(32)。鹿児島県教育委員会。鹿児島。

〈め〉

目崎茂和, 1988：南島の地形－沖縄地方の風景を読む－。沖縄出版。那覇。

〈も〉

盛本　勲, 1988：琉球列島の貝製魚網錘。季刊考古学。第25号。p71～78。雄山閣。東京。
――――・編, 1989：清水貝塚発掘調査報告書。具志川村文化財調査報告書第1集。具志川村教育委員会。沖縄県具志川村。
――――・編, 1992：新空港・空港拡張建設計画予定地内の遺跡一新石垣空港・久米島空港拡張建設計画予定地の分布調査報告書―。沖縄県文化財調査報告書第106集。沖縄教育委員会。那覇。
――――・比嘉優子, 1994：沖縄出土の貝庖丁様製品について。南島考古。No14。p65～82。沖縄考古学会。那覇。

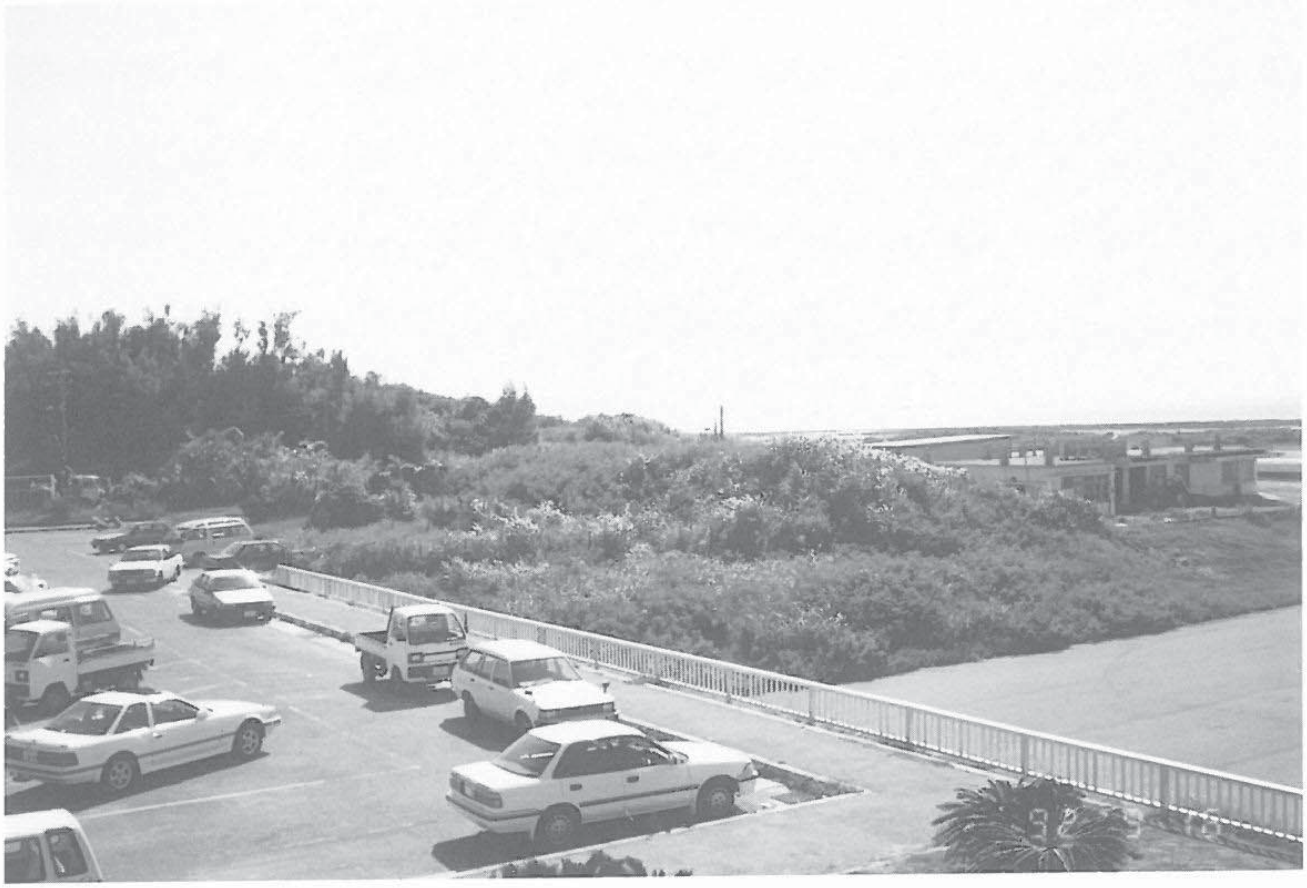
〈よ〉

吉浜　忍, 1976：久米島－その歴史との対話を求めて－。第14回学園祭展示資料パンフレット〈ガリ刷り〉。沖縄県立久米島高等学校3年5組。

〈わ〉

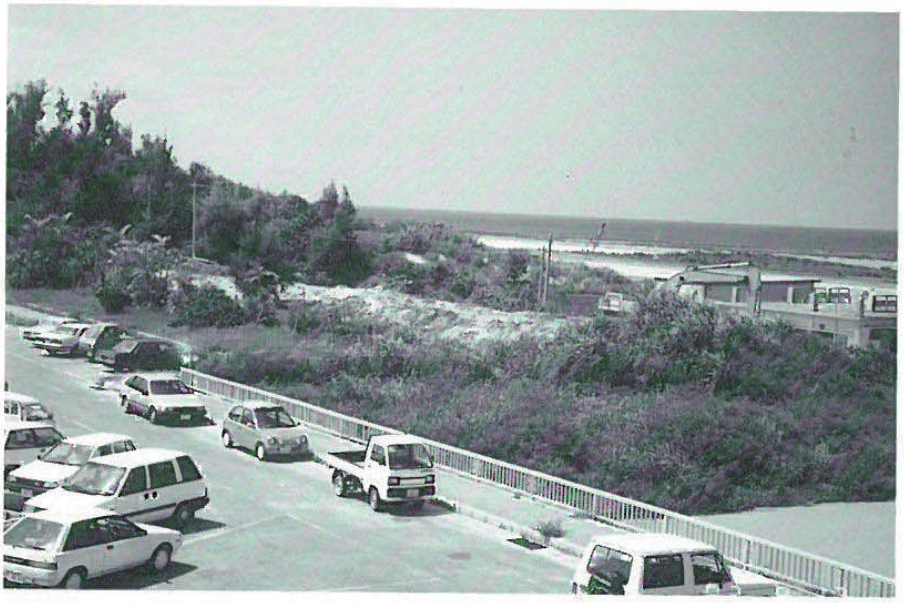
渡辺　誠, 1985：杓子型土製品の研究。『日高見国－菊池啓治郎学兄還暦論文集』。p147～194。北上市。

図　　版



上・下：貝塚近景（上：北東より，下：西より）

図版二



表土層の除去（北東より）

同　上（南より）

同　上（北より）

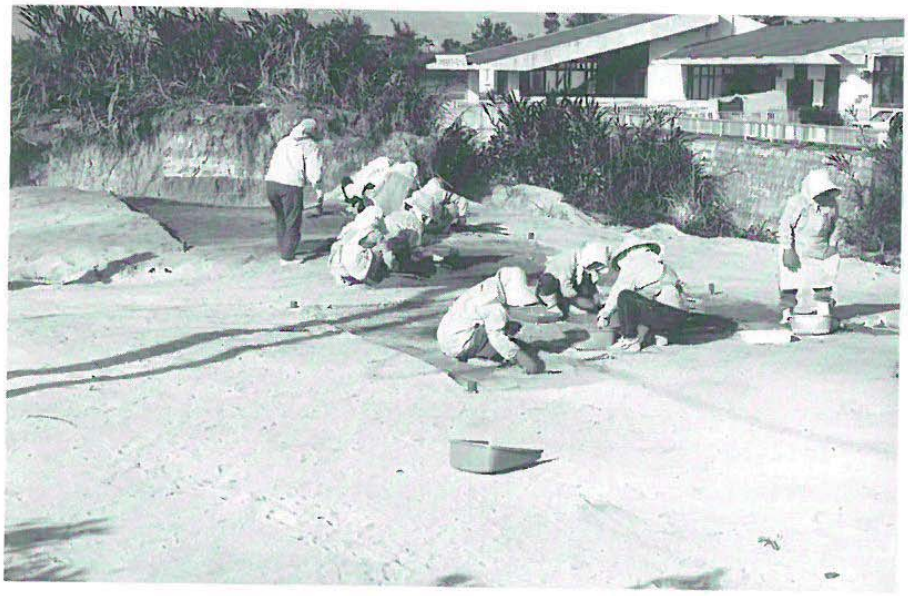
調査光景・1

図版三

上・下：試掘トレンチの状況（上：南より，下：西より）

図版四

発掘光景（南より）



同　上（南西より）

同　上（南より）

調査光景・2

発掘光景（南より）

同　上

同　上

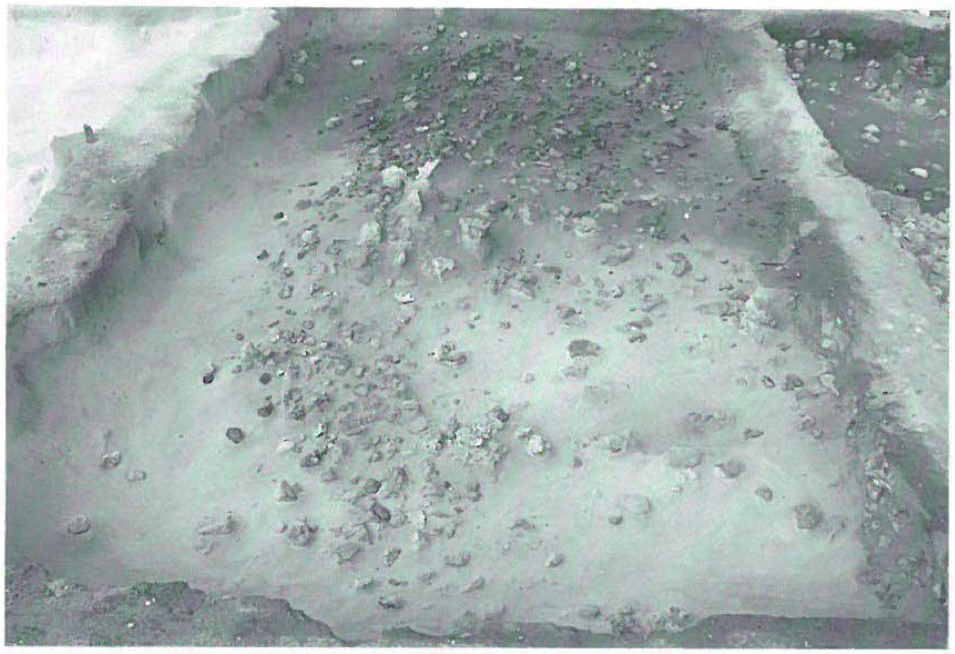
調査光景・3

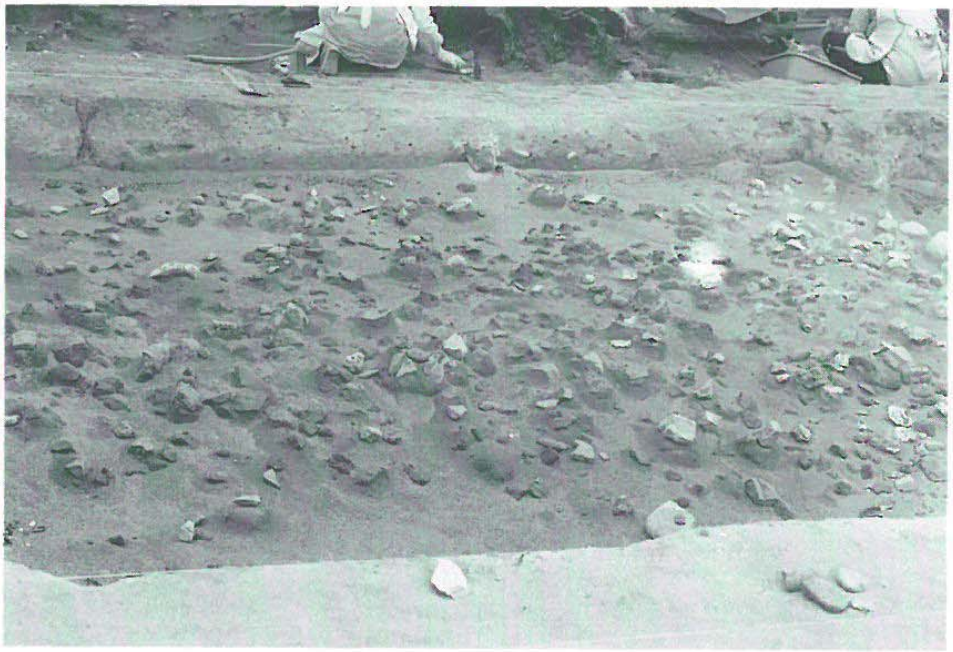
図版　六

上・下：堆積層序・1

上・下：堆積層序・2

図版 八



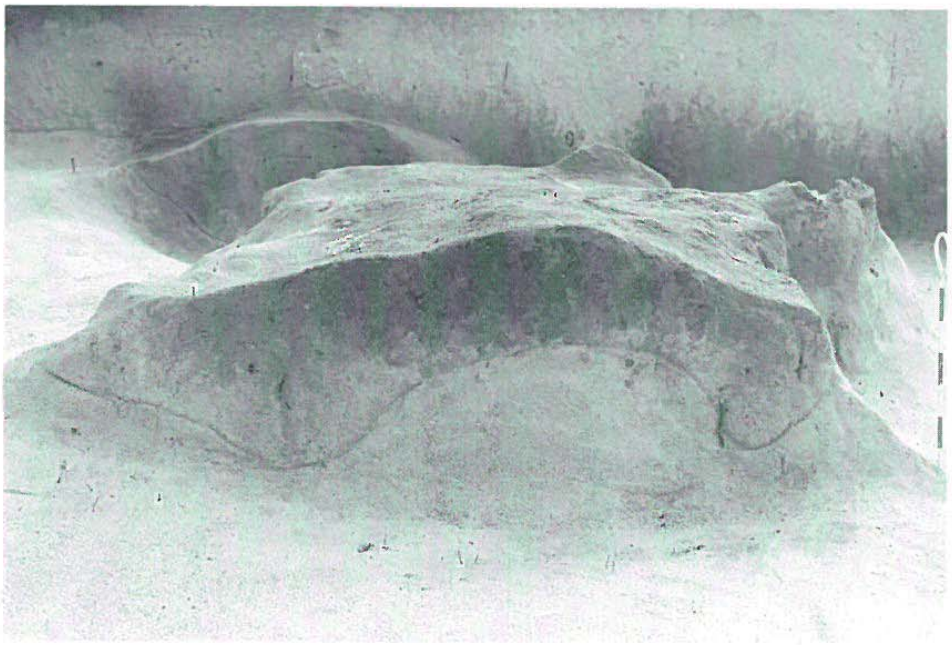


上・下：礫群の出土状態

図版 九

上・下：集石遺構・１（上：検出状態，下：四分割した状態）

図版十



上：集石遺構・2（掘り上げた状態）　下：焼土遺構断面

前期の無文土器出土状態

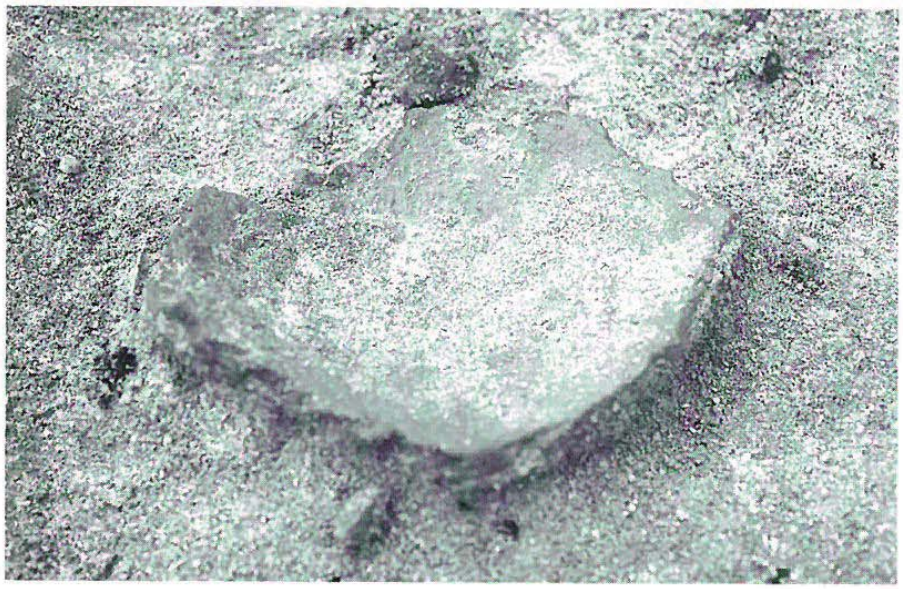
同　上

伊波式土器出土状態

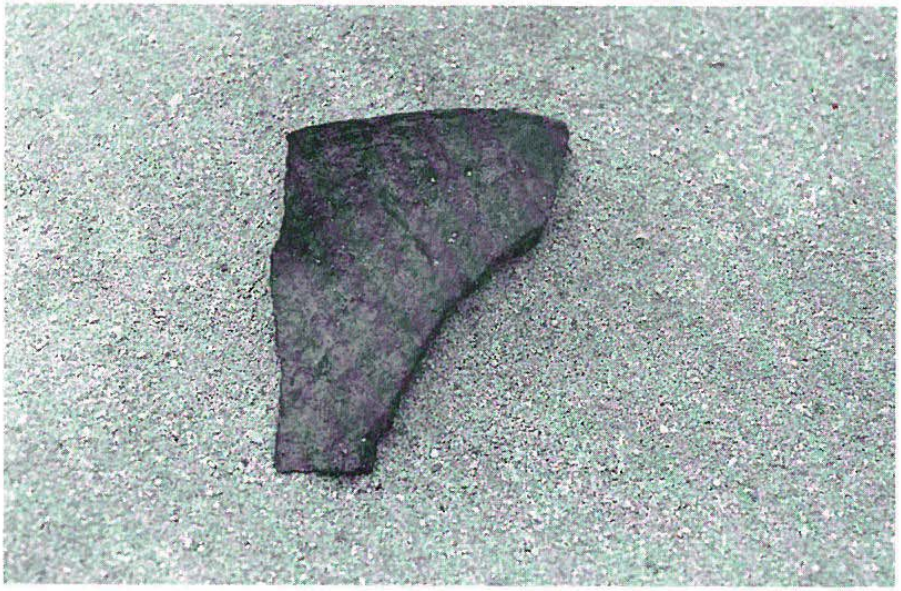
遺物の出土状態・1

図版 十二

伊波式土器口縁部出土状態



伊波式土器底部出土状態

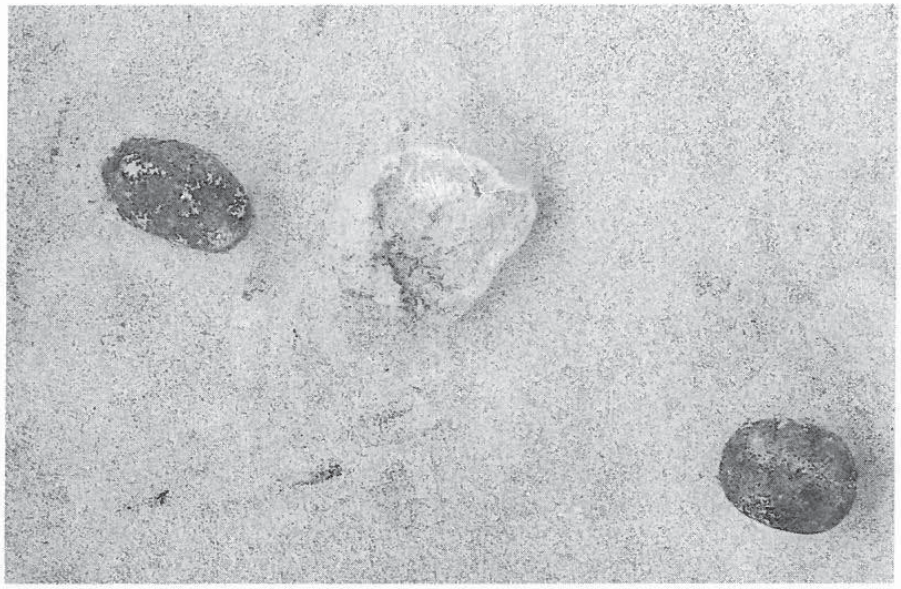


後期系土器出土状態

遺物の出土状態・2

石斧出土状態

同　上

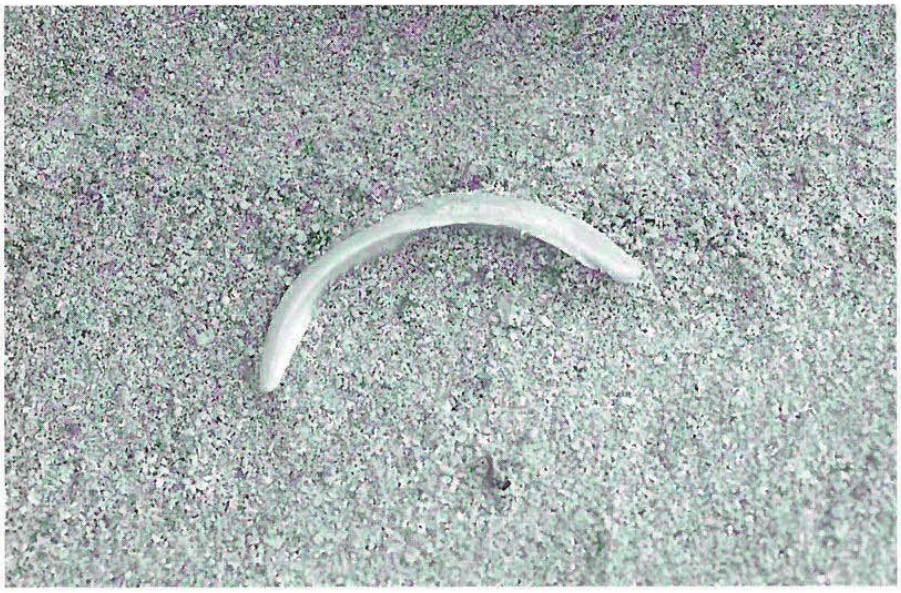


磨石兼敲石出土状態

遺物の出土状態・3

図版　十四

磨石兼敲石出土状態

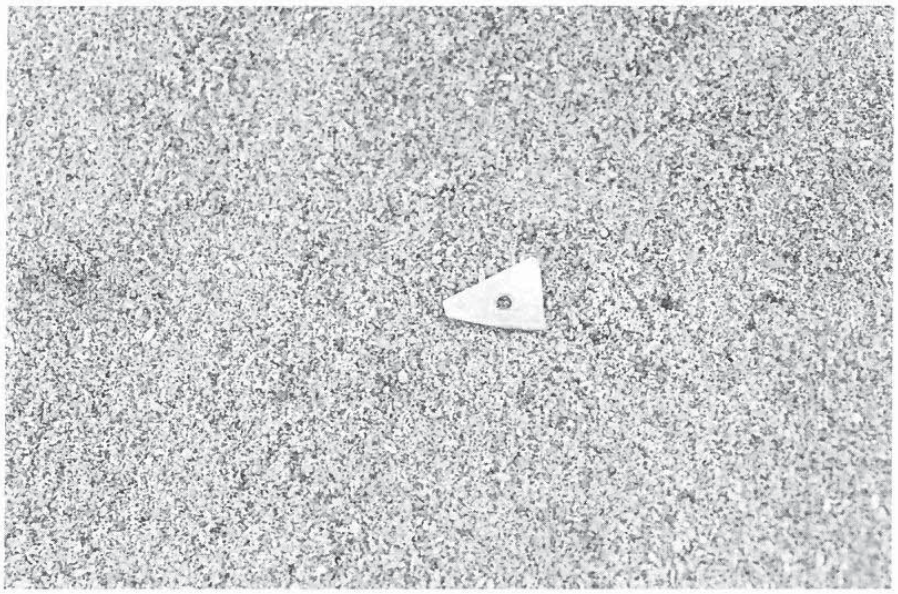


サラサバテイ製貝輪
出土状態

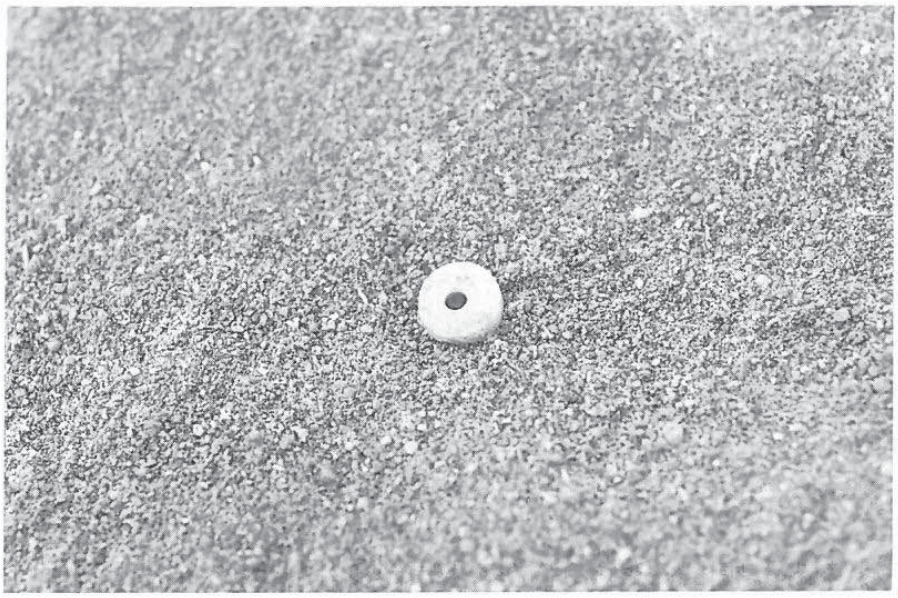
ウミギクガイ科製貝輪
出土状態

遺物の出土状態・4

螺蓋製品出土状態



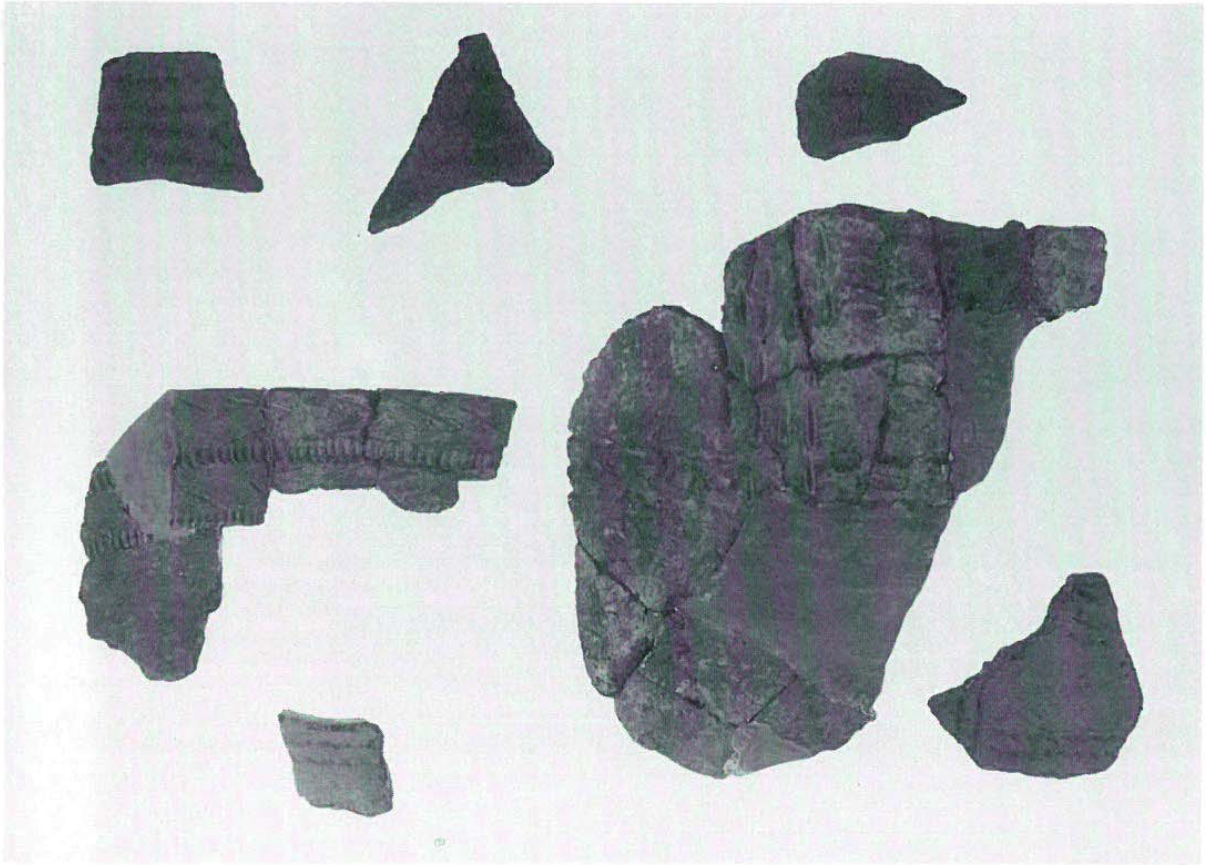
鏃出土状態

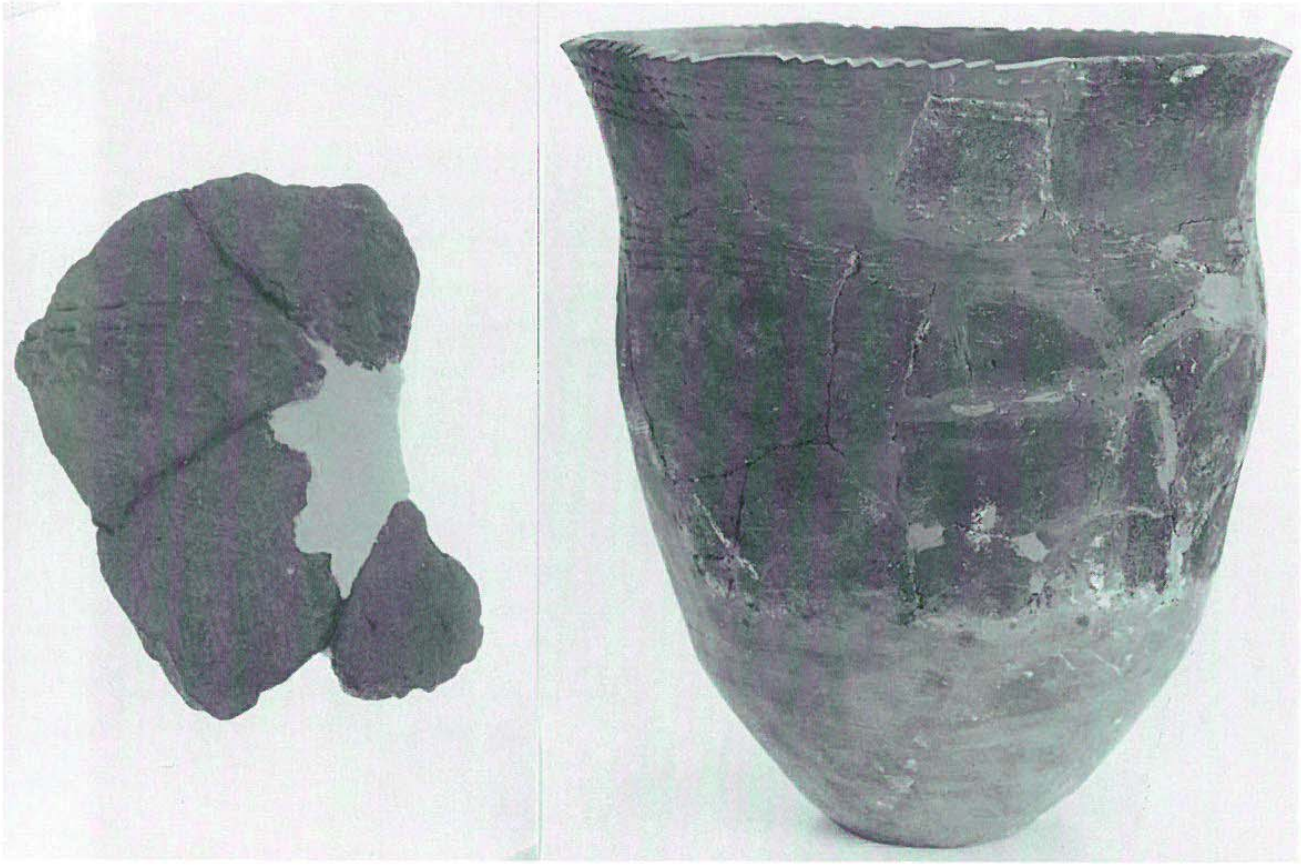


臼玉出土状態

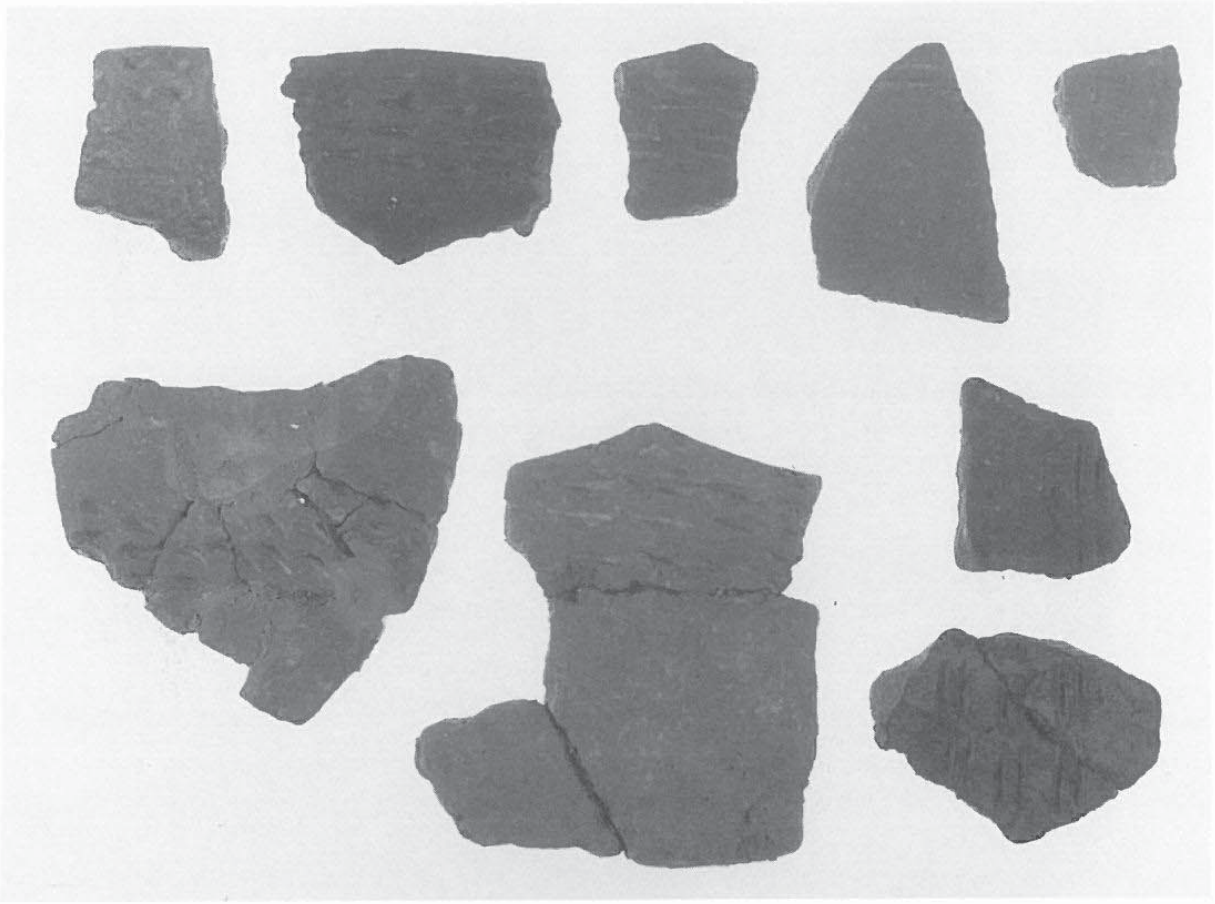
遺物の出土状態・5

図版　十六





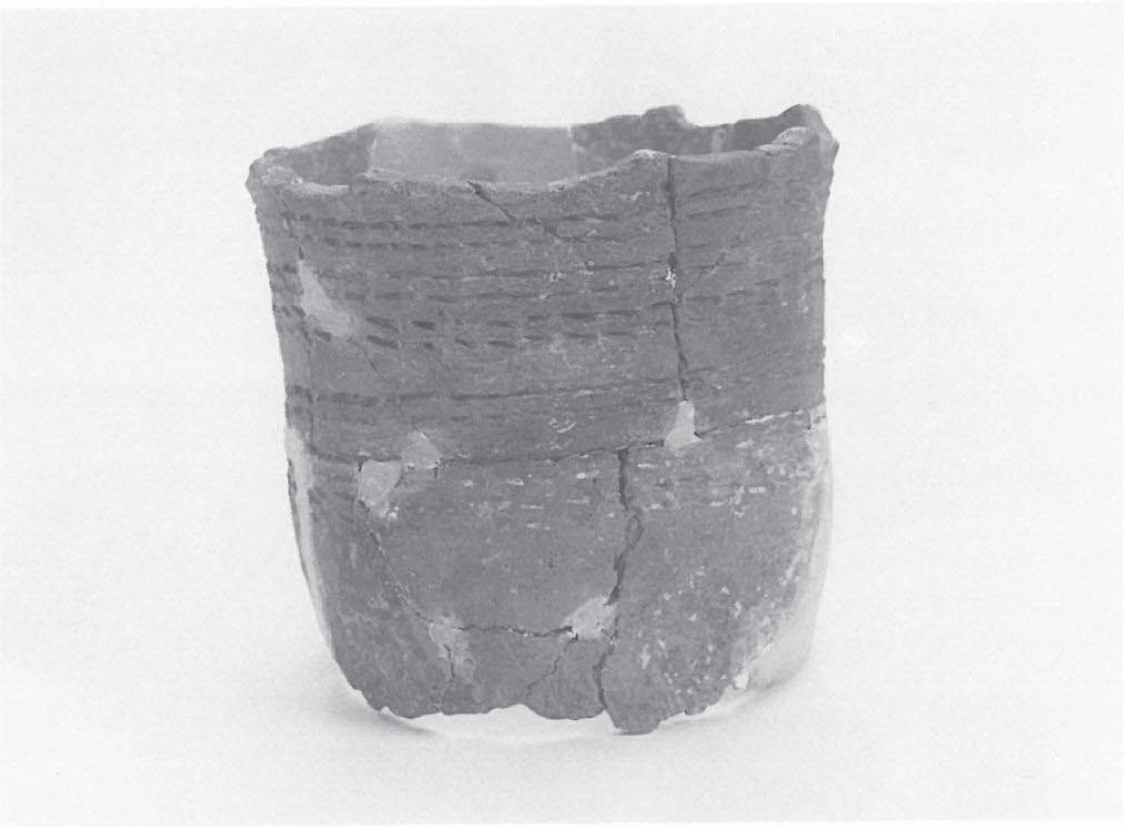
上：奄美系および伊波式土器・1　下：伊波式土器・2

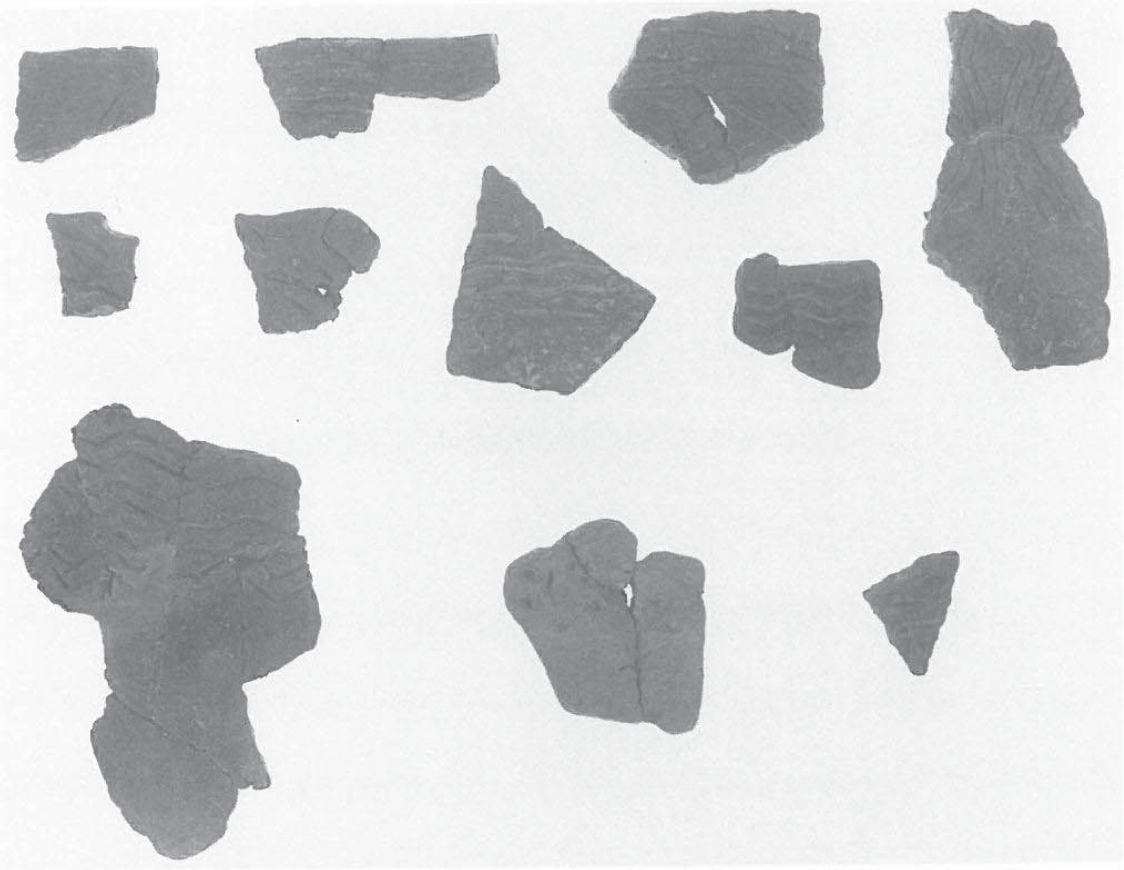


上・下：伊波式土器・3

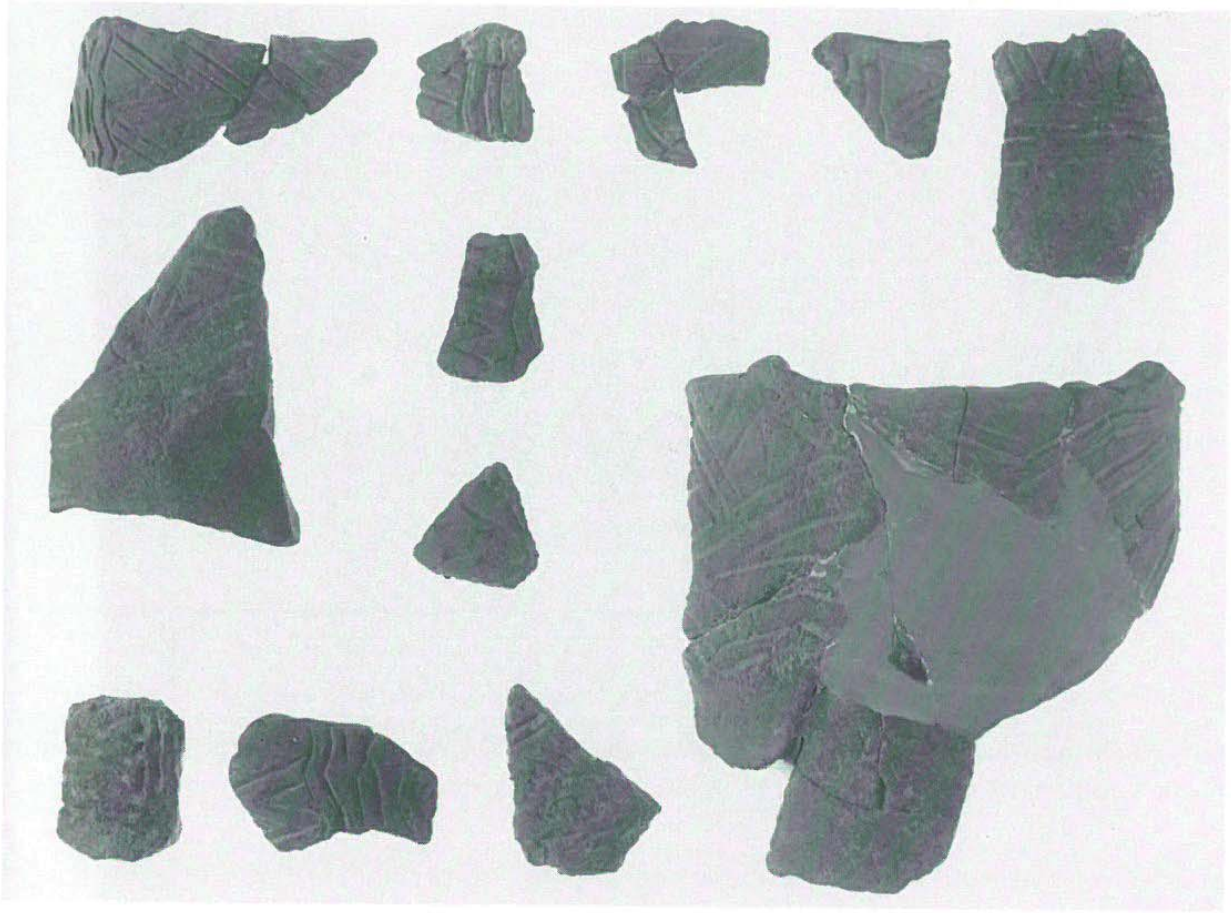
図版　十八

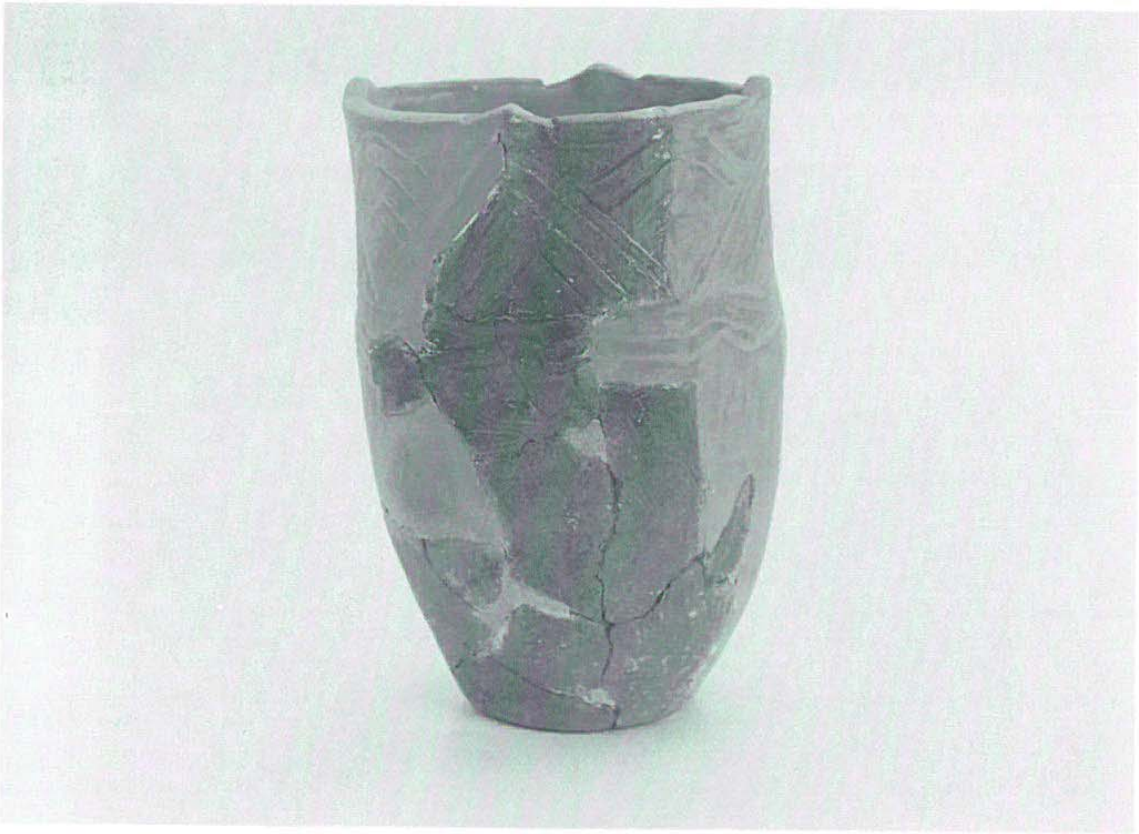
伊波式土器・4



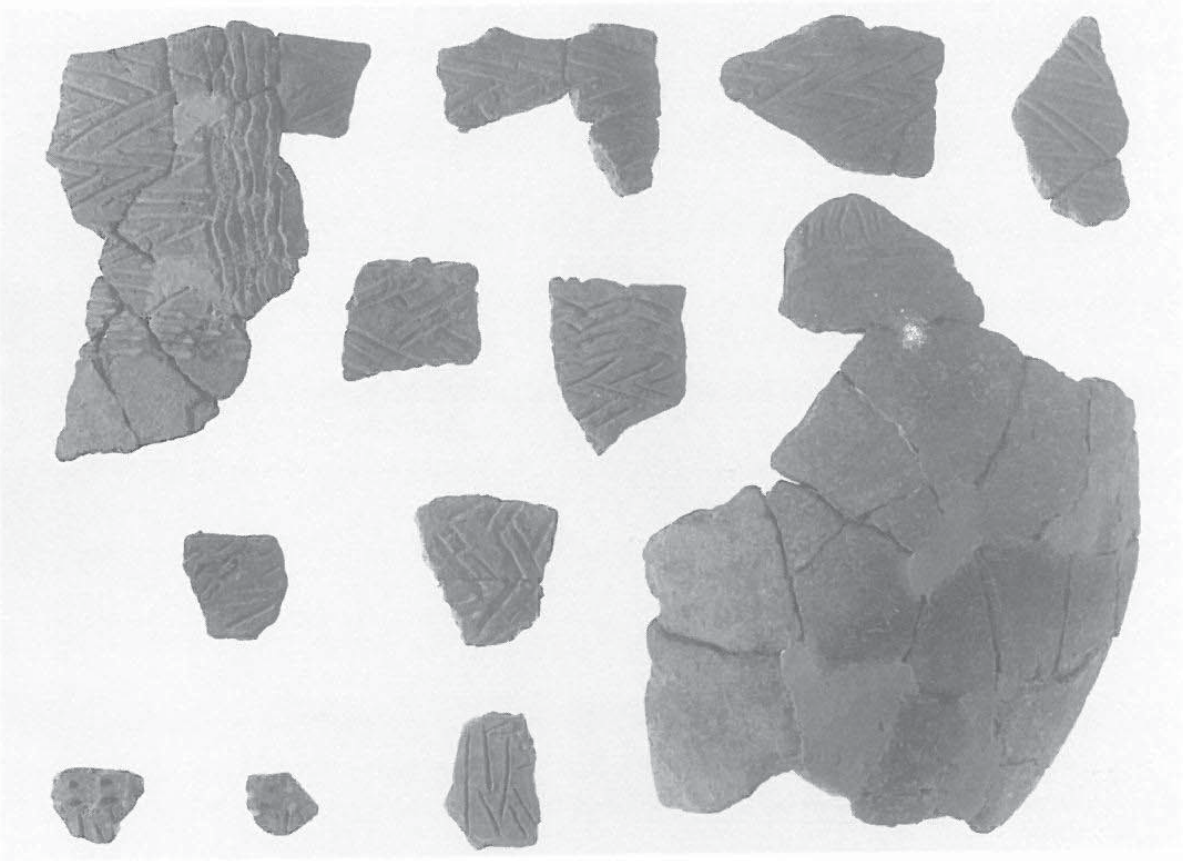


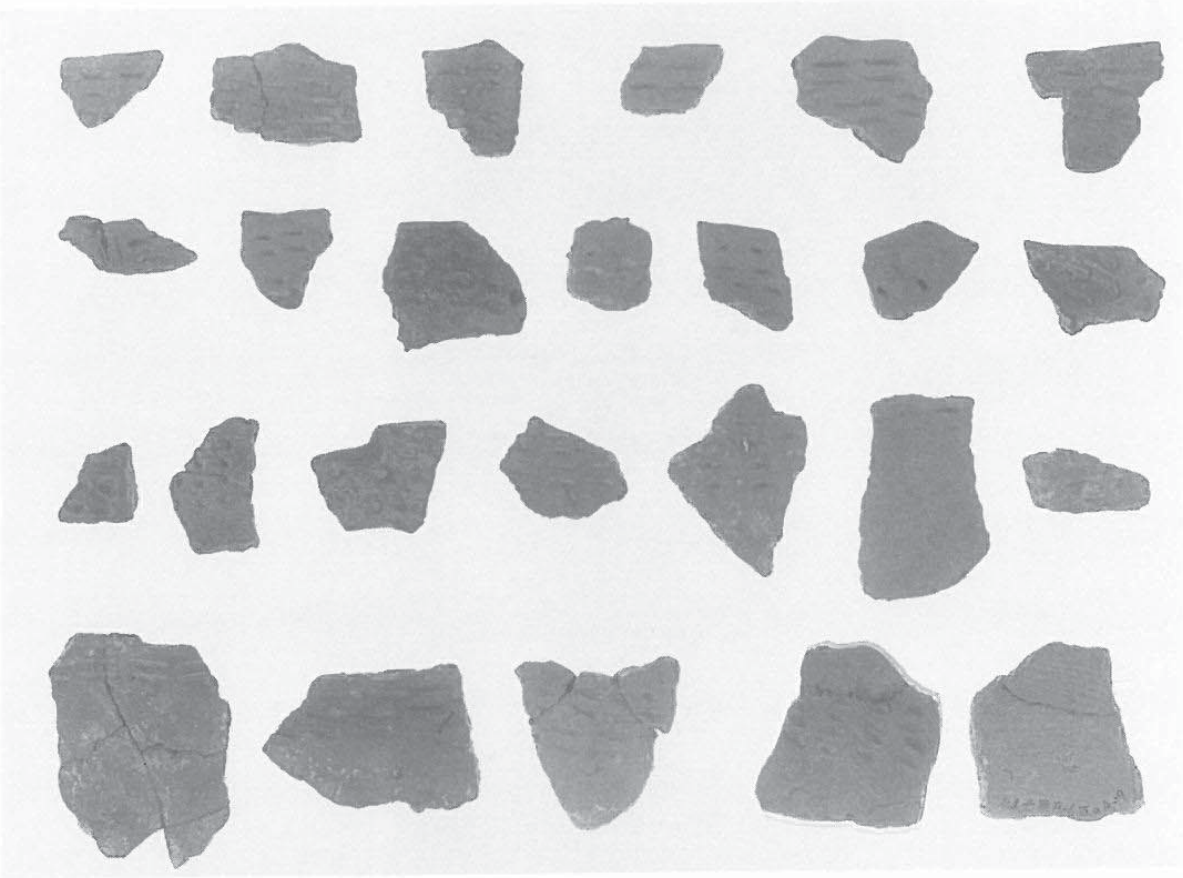
上・下：伊波式土器・5





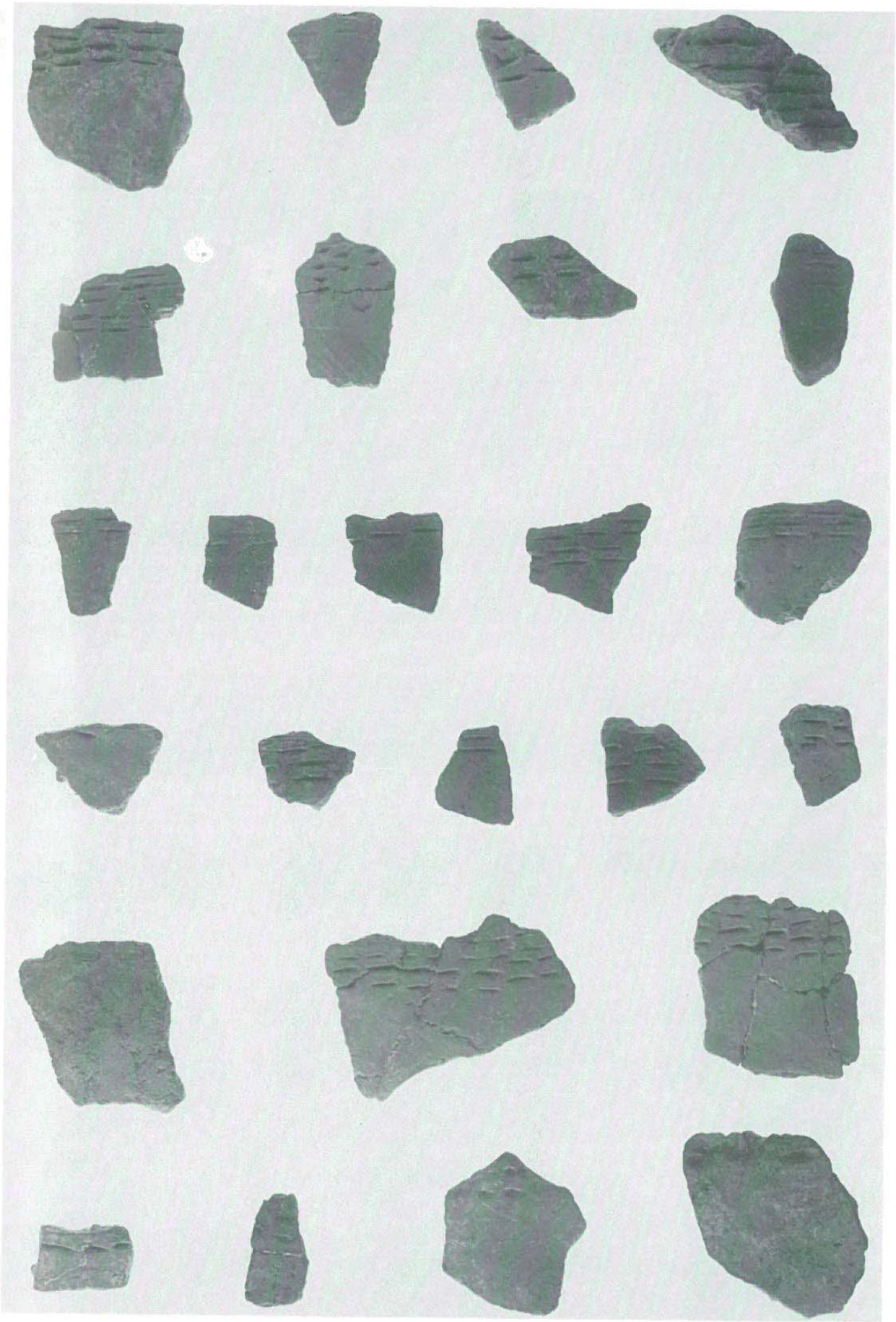
上・下：伊波式土器・6



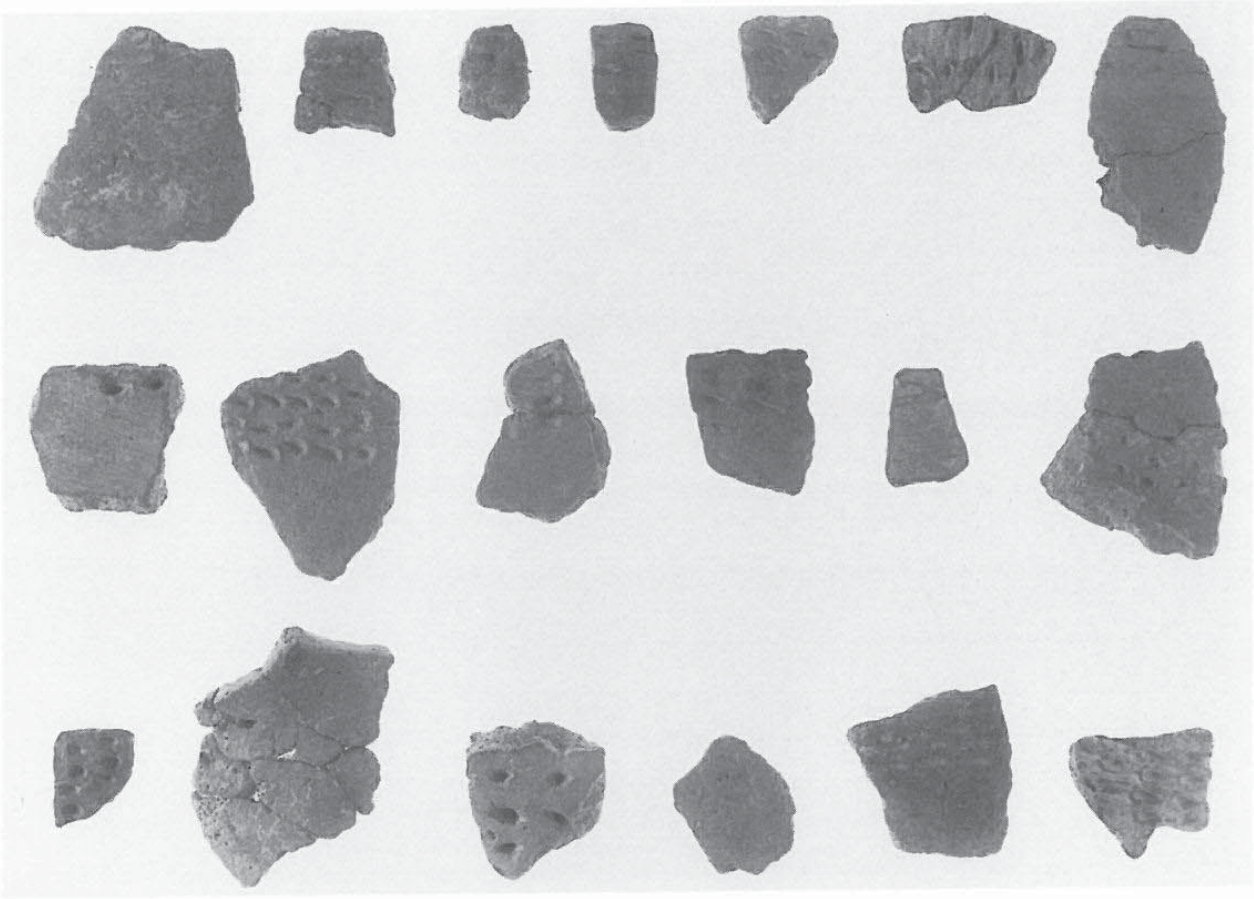


上：伊波式土器・7　下：伊波式土器・8

図版 二十二

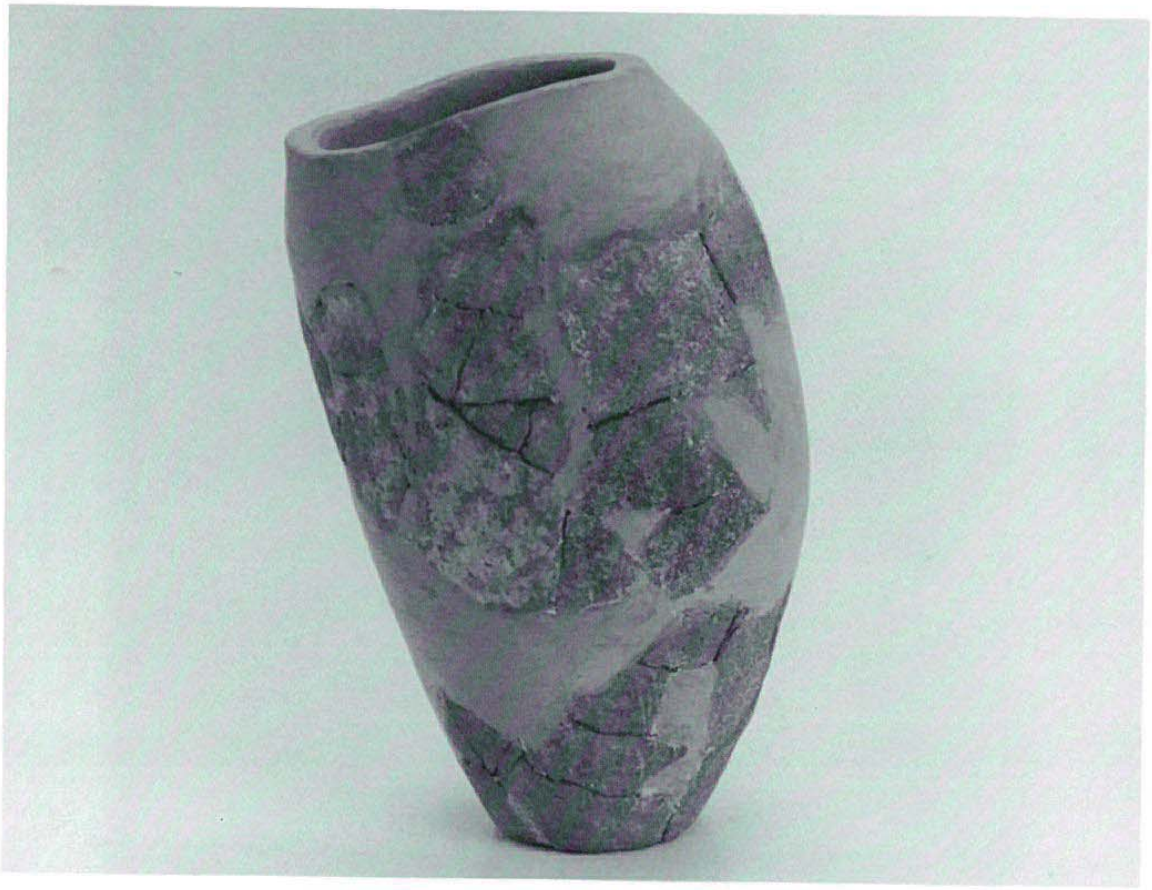


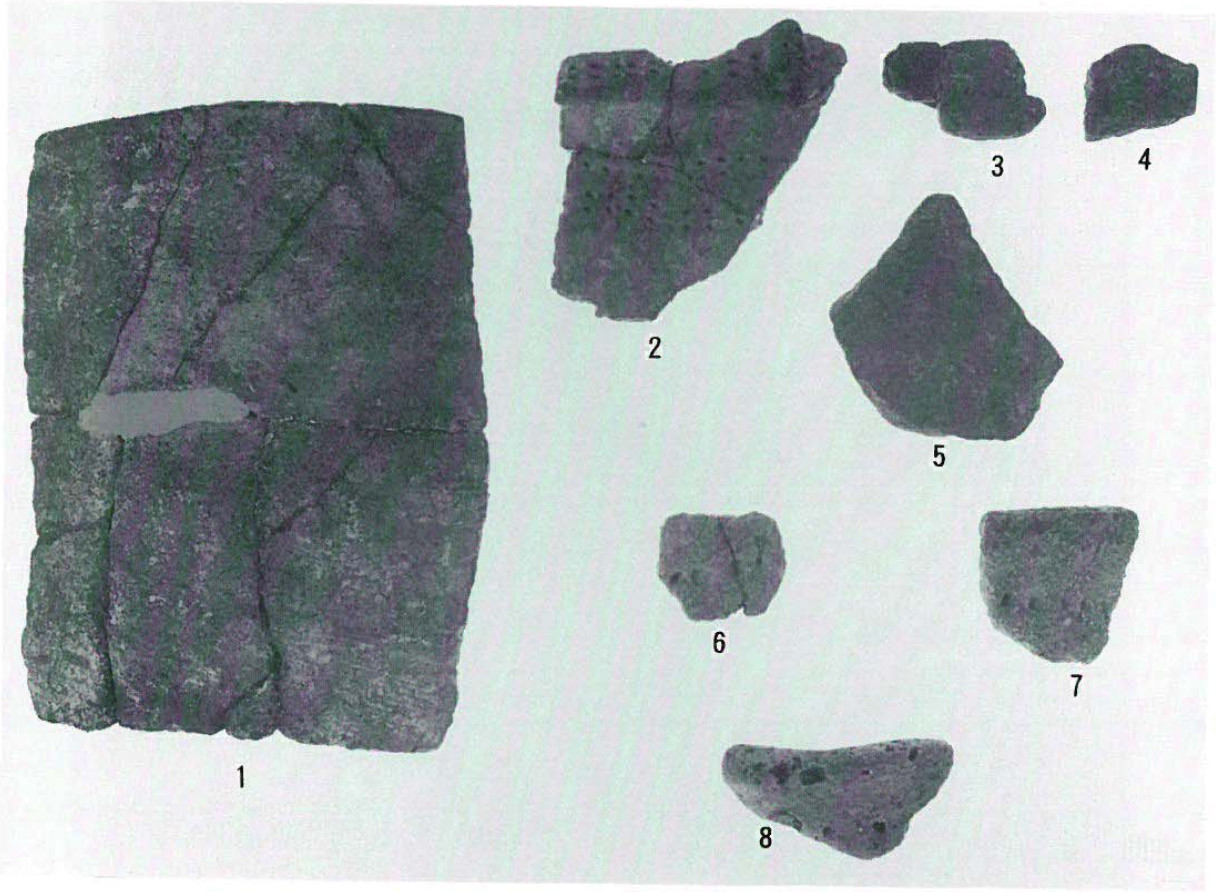
伊波式土器・9



上・下：伊波式土器・10

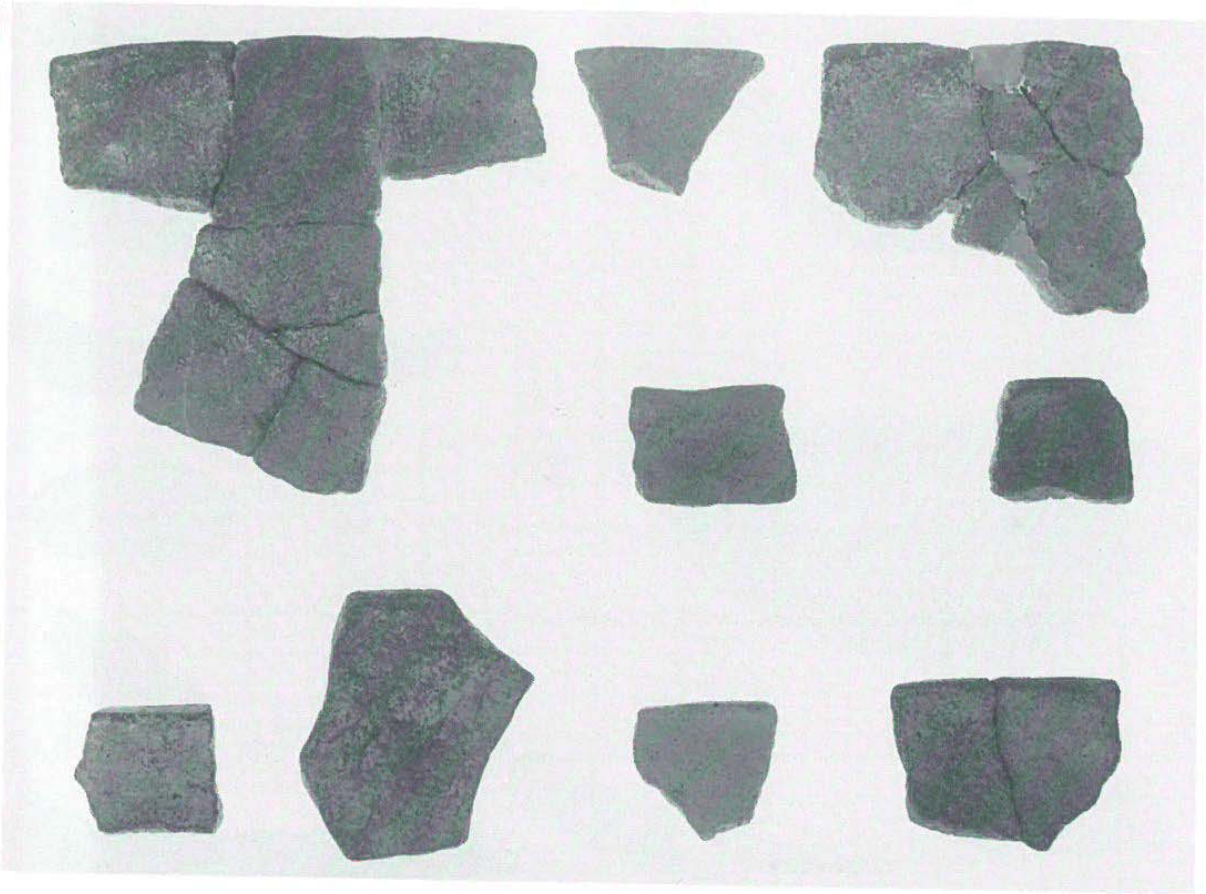
図版 二十四

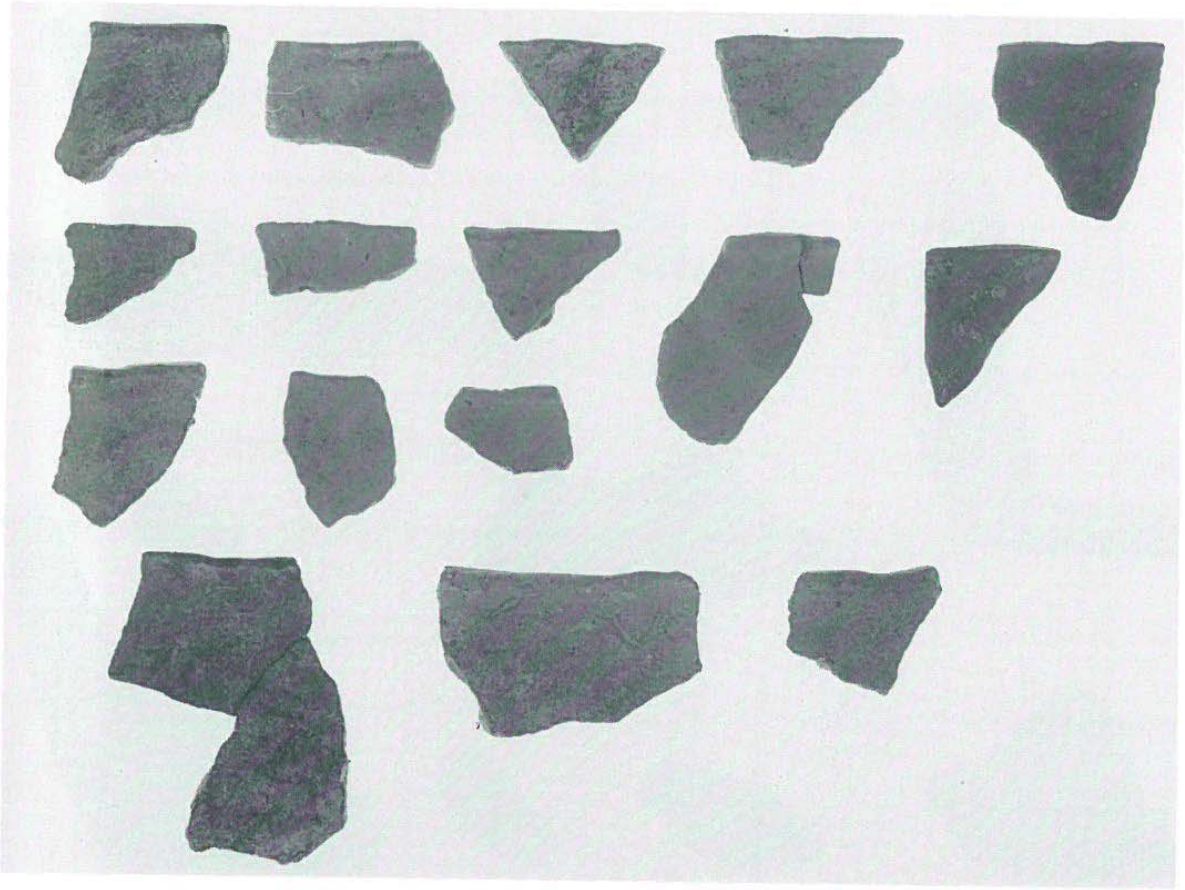




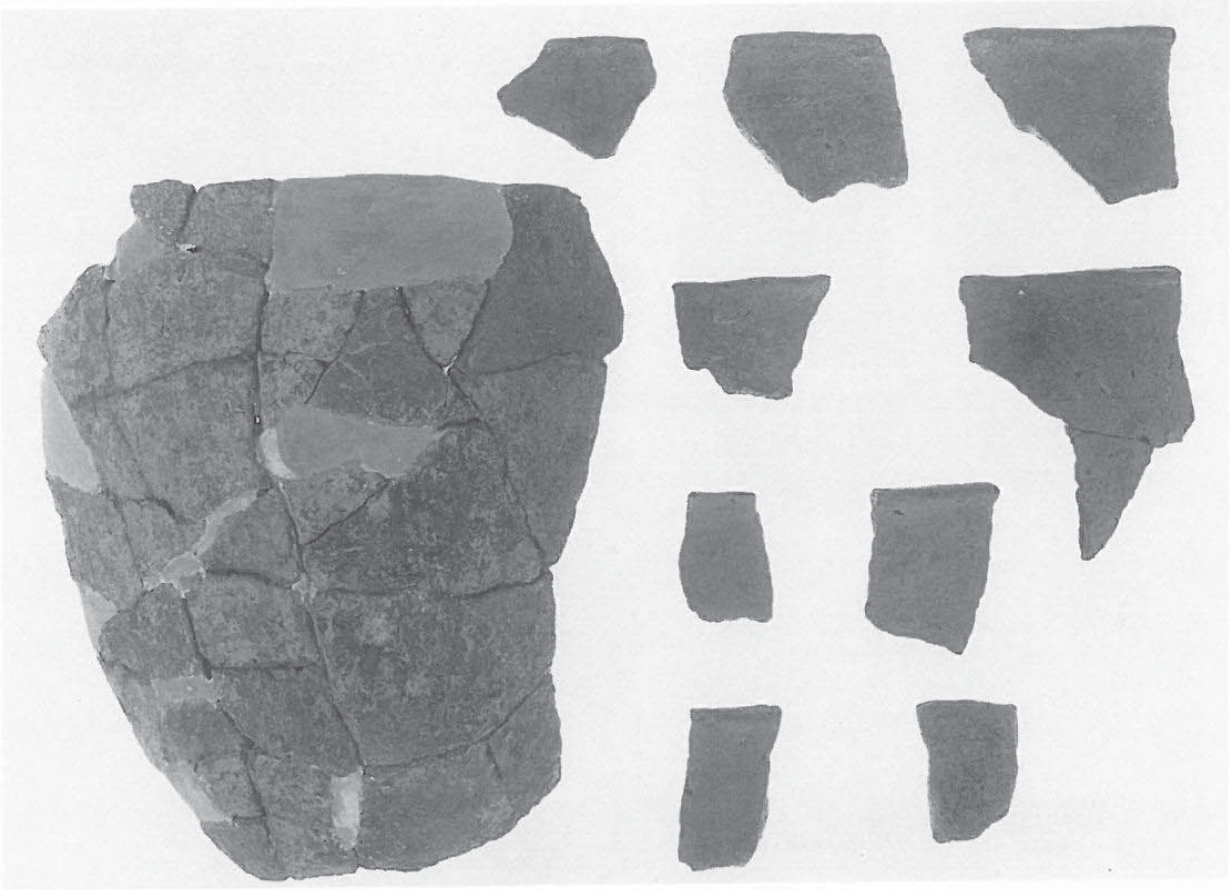
上：前期の無文土器　　下：1：前期の無文土器　2：前期の有文土器　3～5：大山式土器，
6・7：室川式土器　9：室川上層期の土器

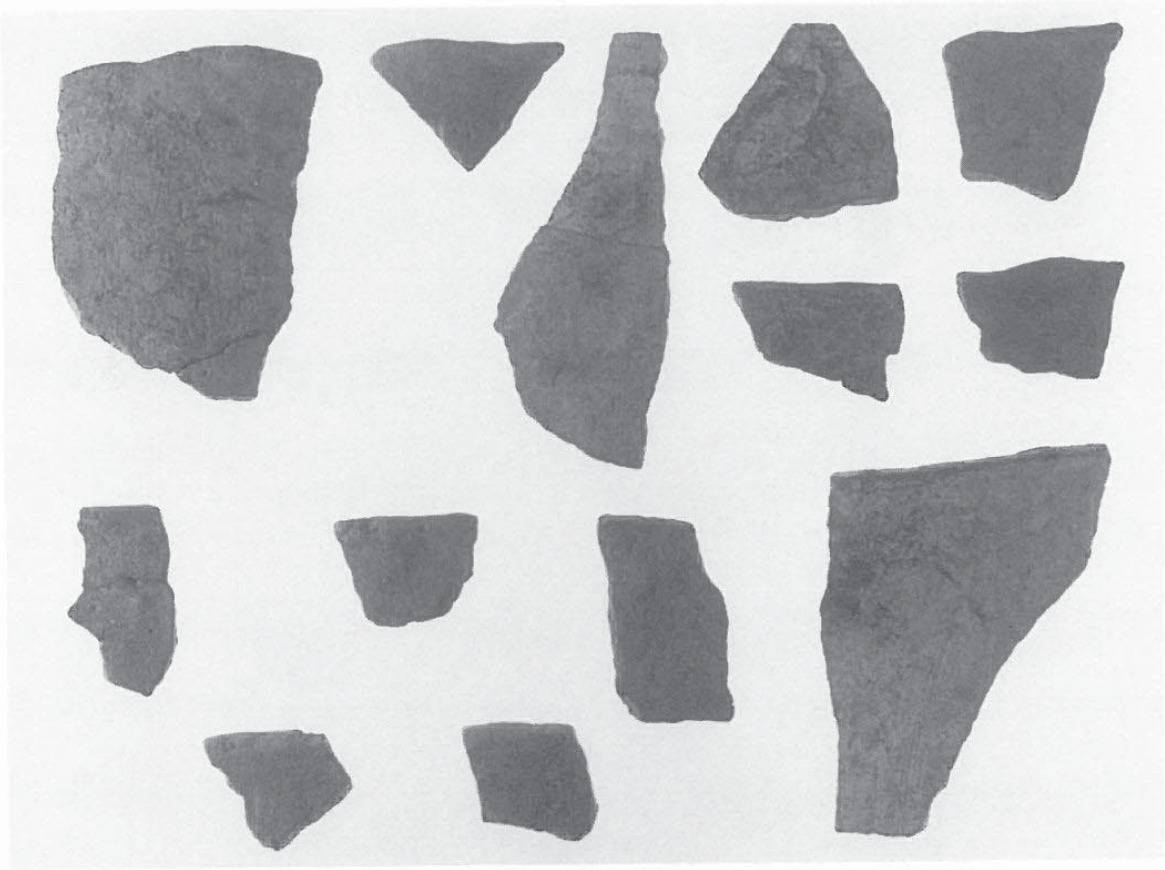
伊波式土器・他底部



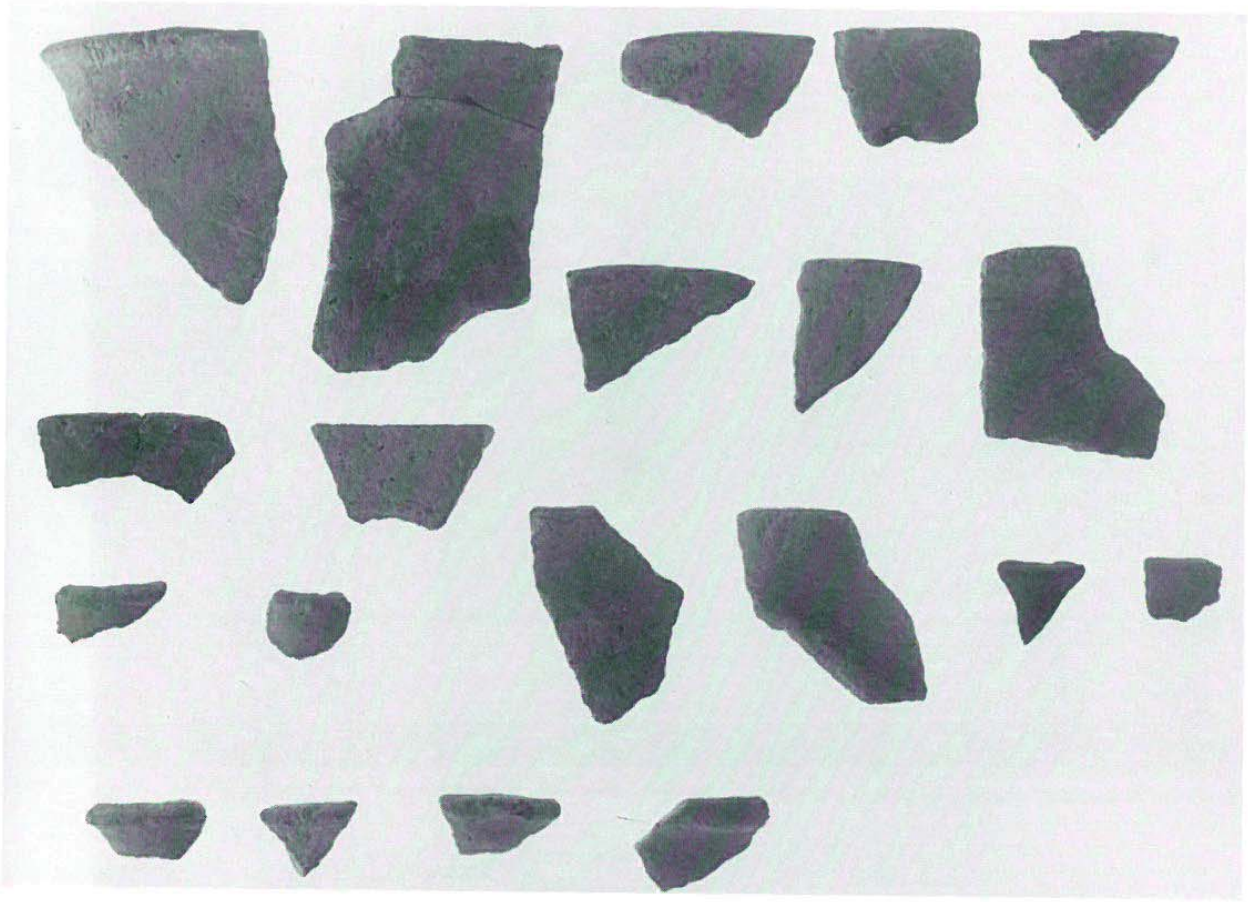


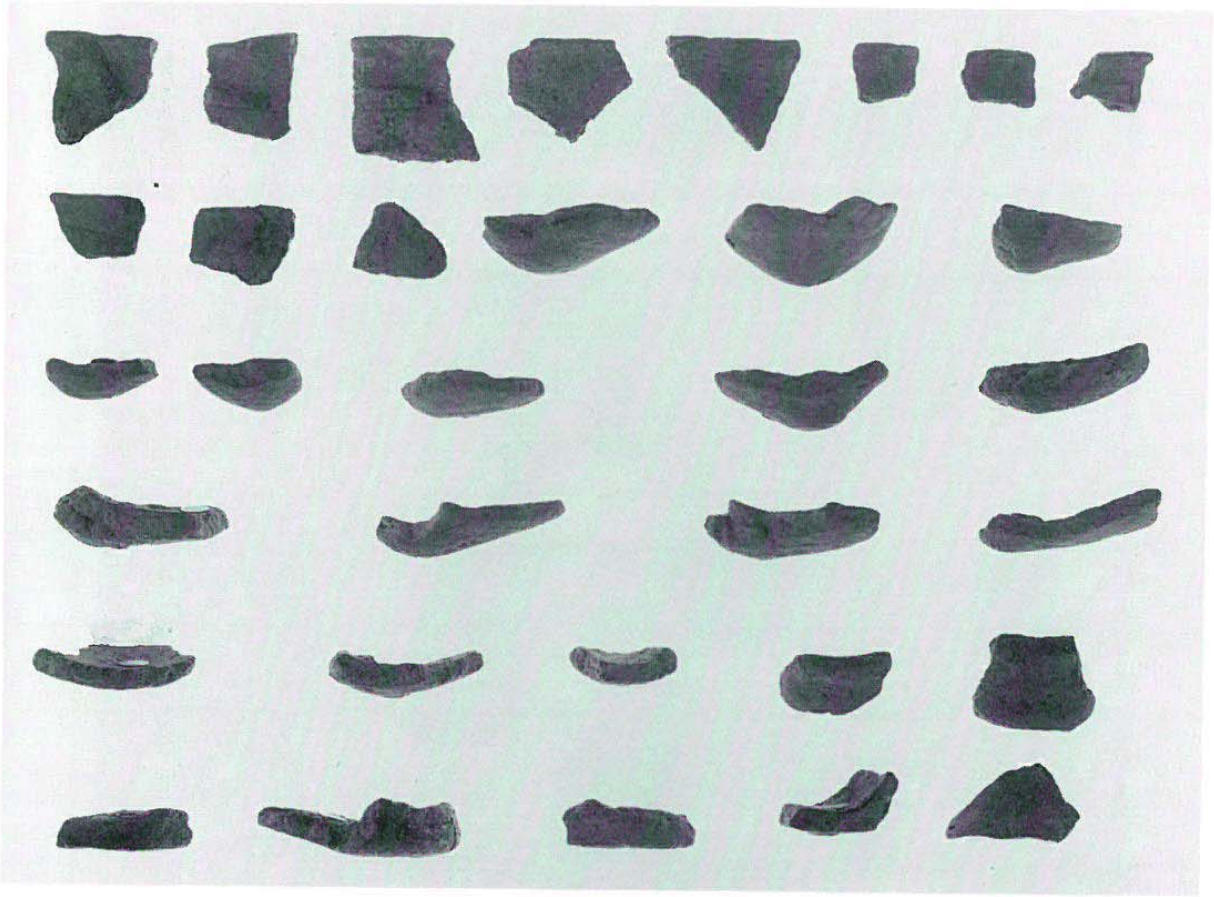
上：後期系土器・1　　下：後期系土器・2



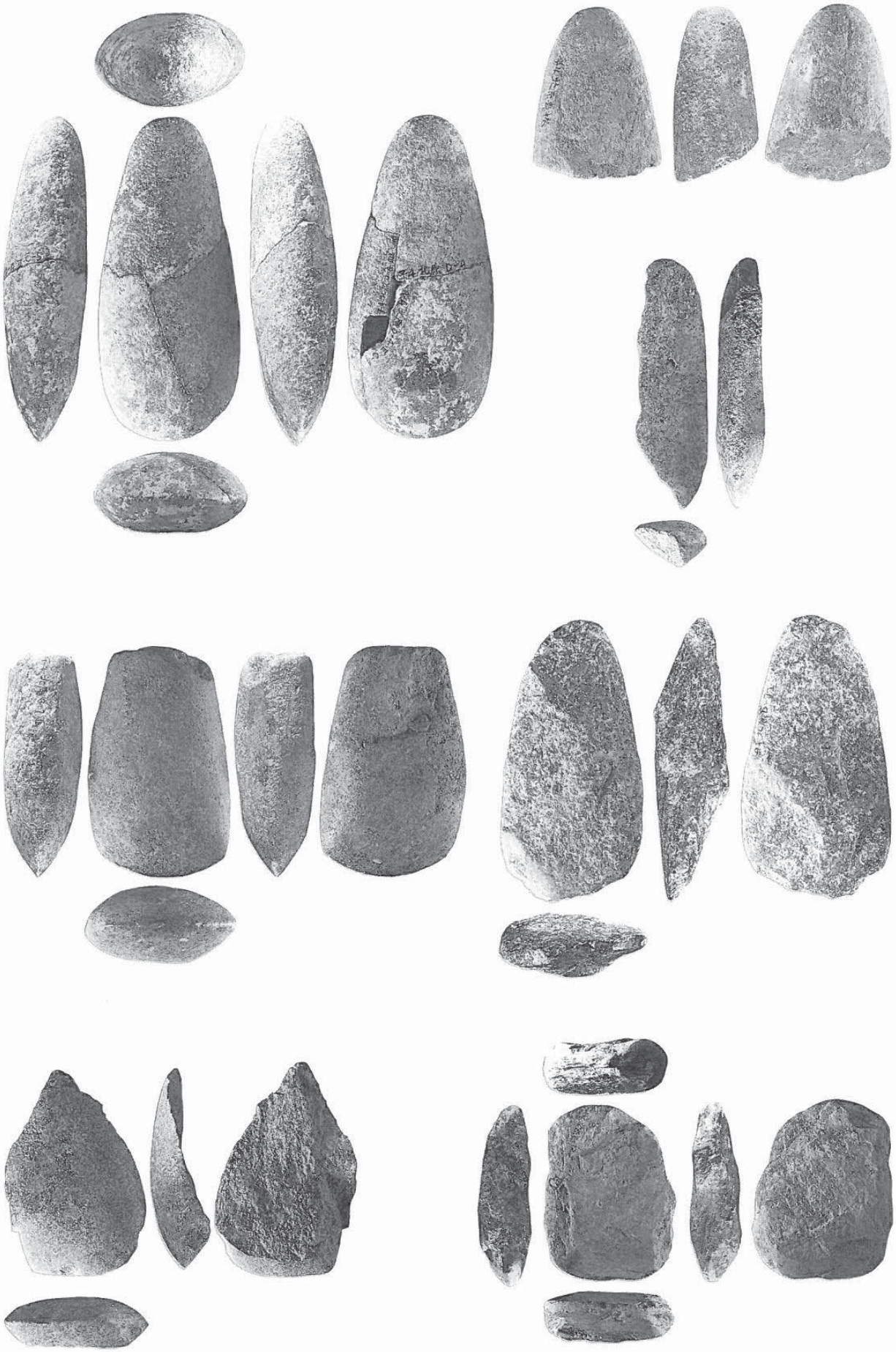


上：後期系土器・3　　下：後期系土器・4



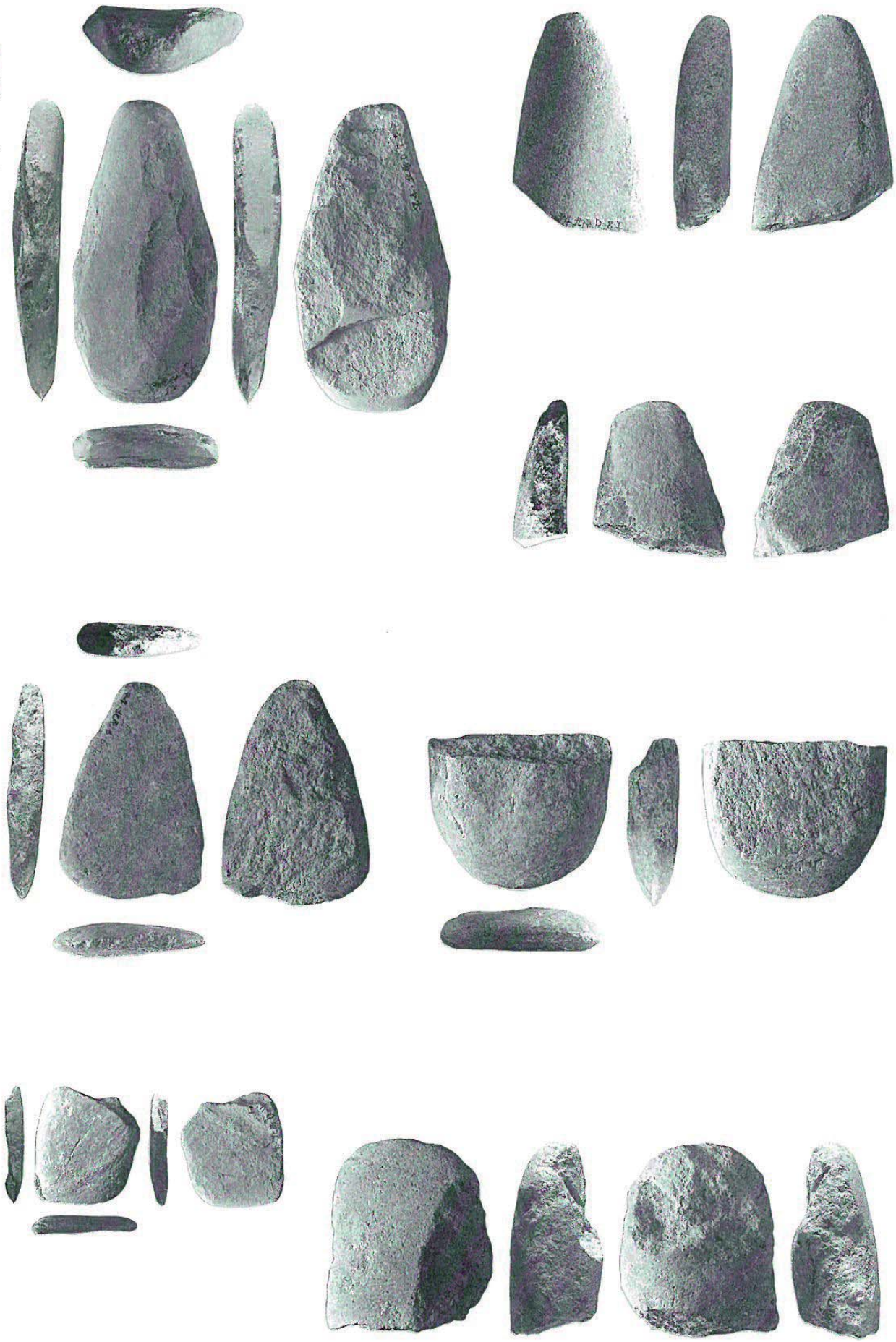


上：後期系土器・5　　下：後期系土器・6



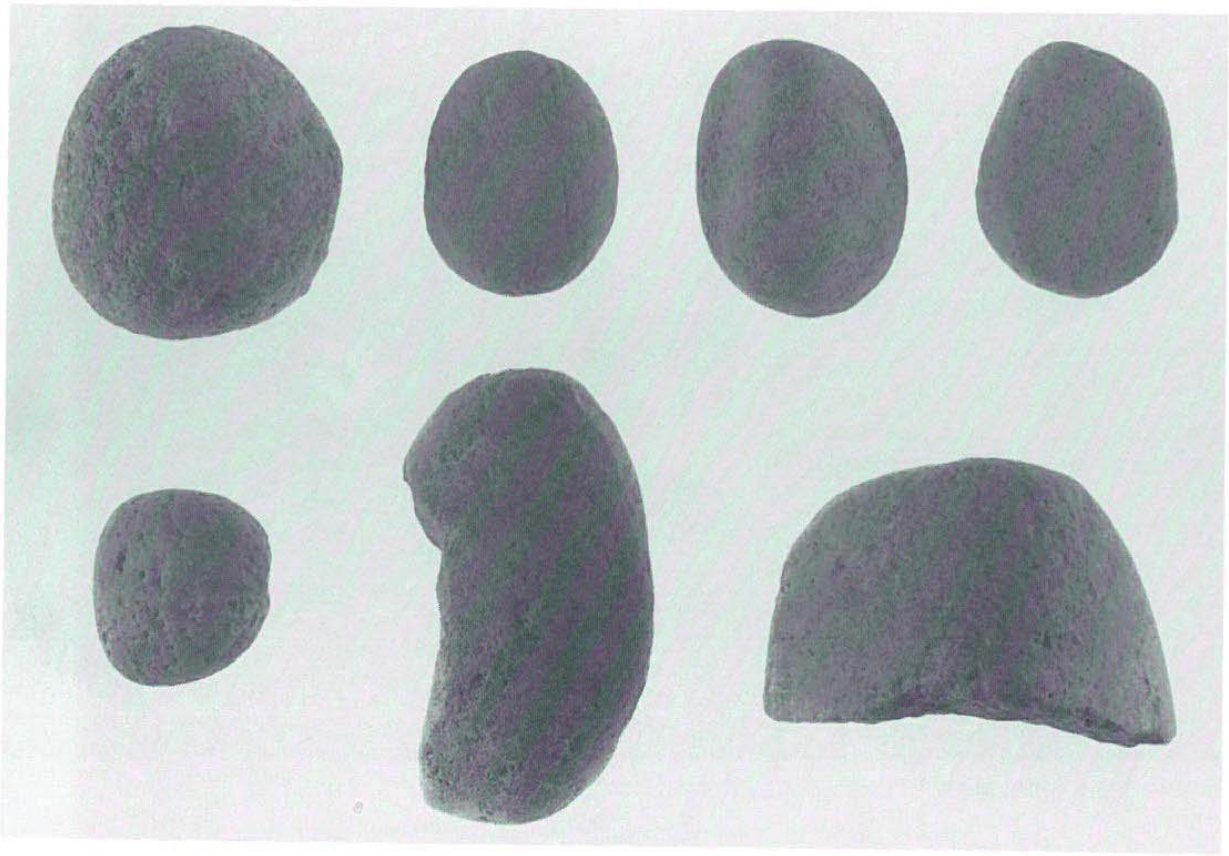
石　斧・1

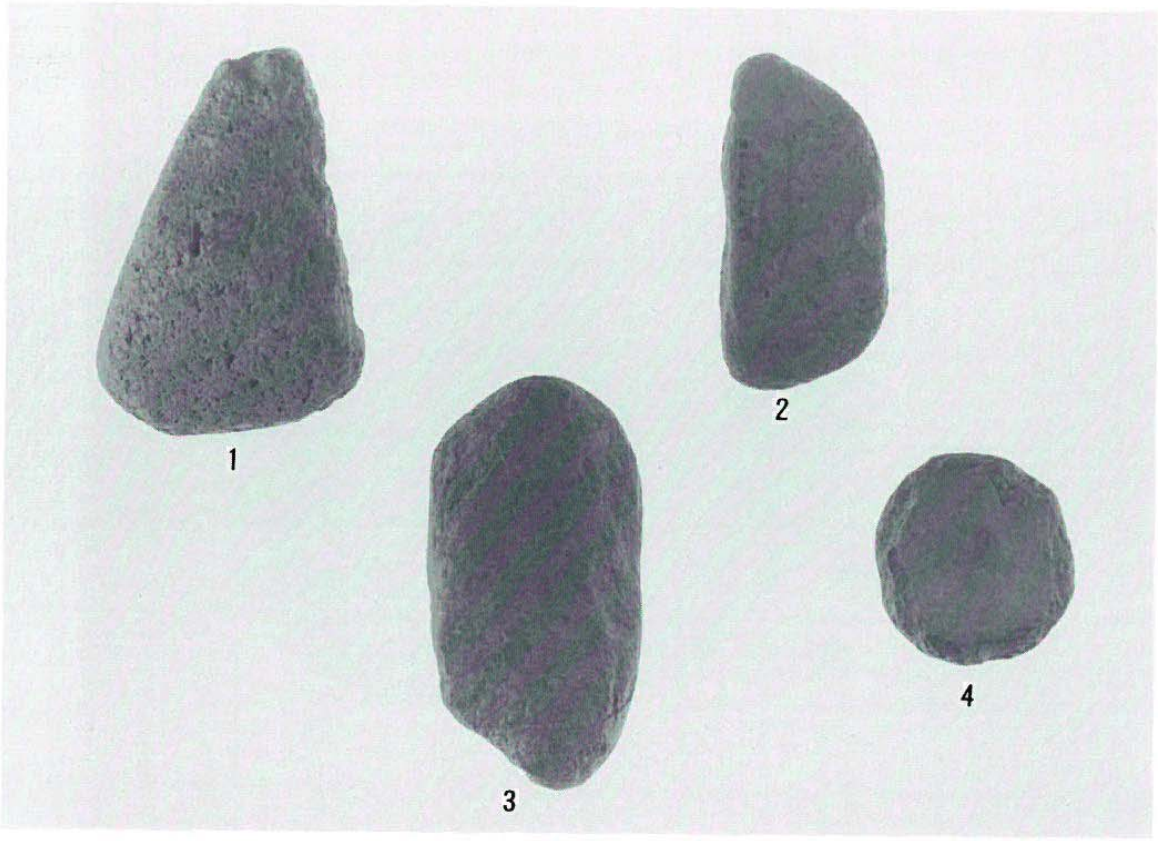
図版 三十



石　斧・2

上・下：石皿

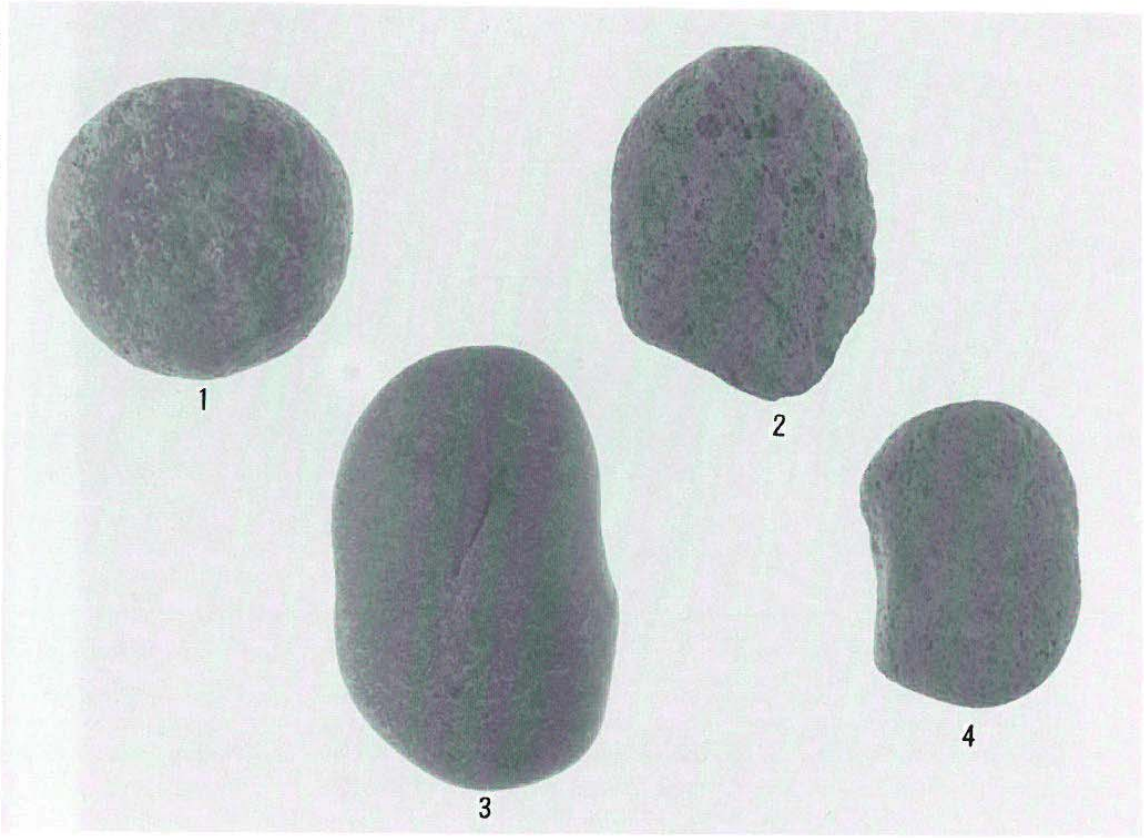




上：敲石Ⅰ類　下：敲石Ⅰ・Ⅱ類(1・2：Ⅰ類，3・4：Ⅱ類)

上：敲石Ⅲ類　下：磨石兼敲石Ⅰ類

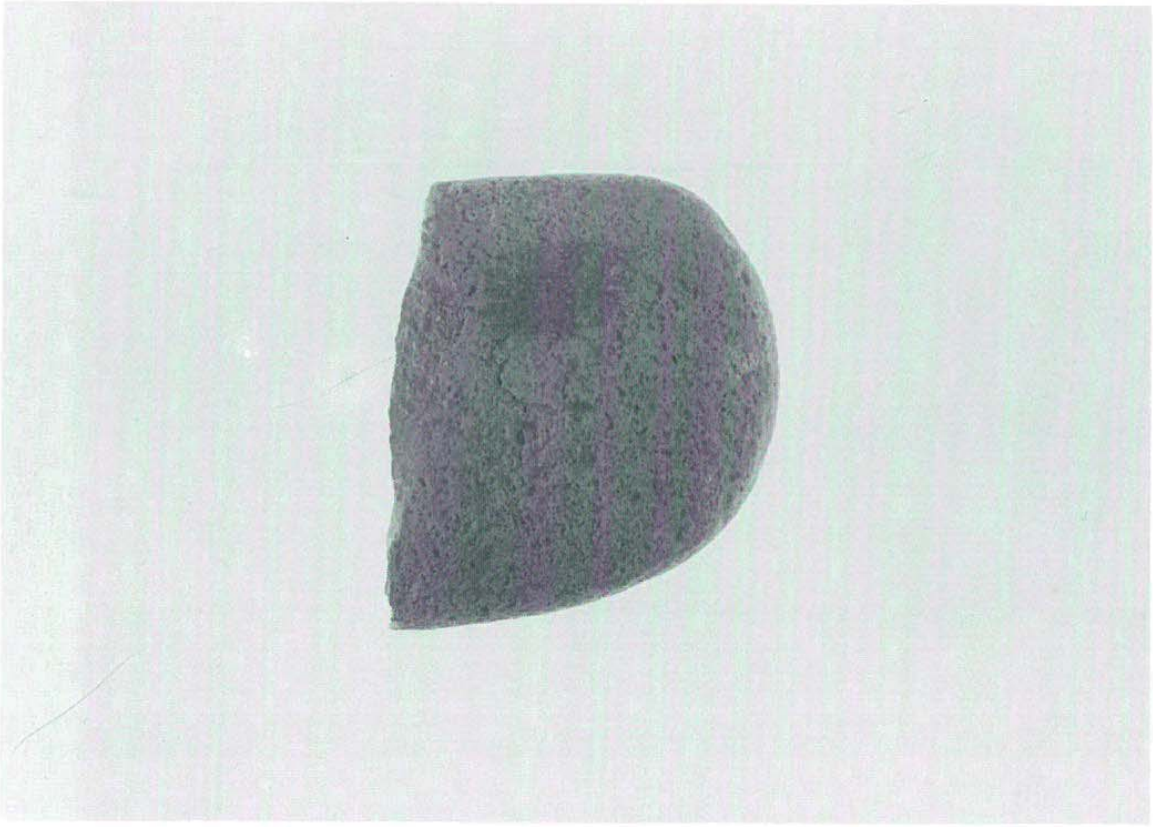
図版 三十四

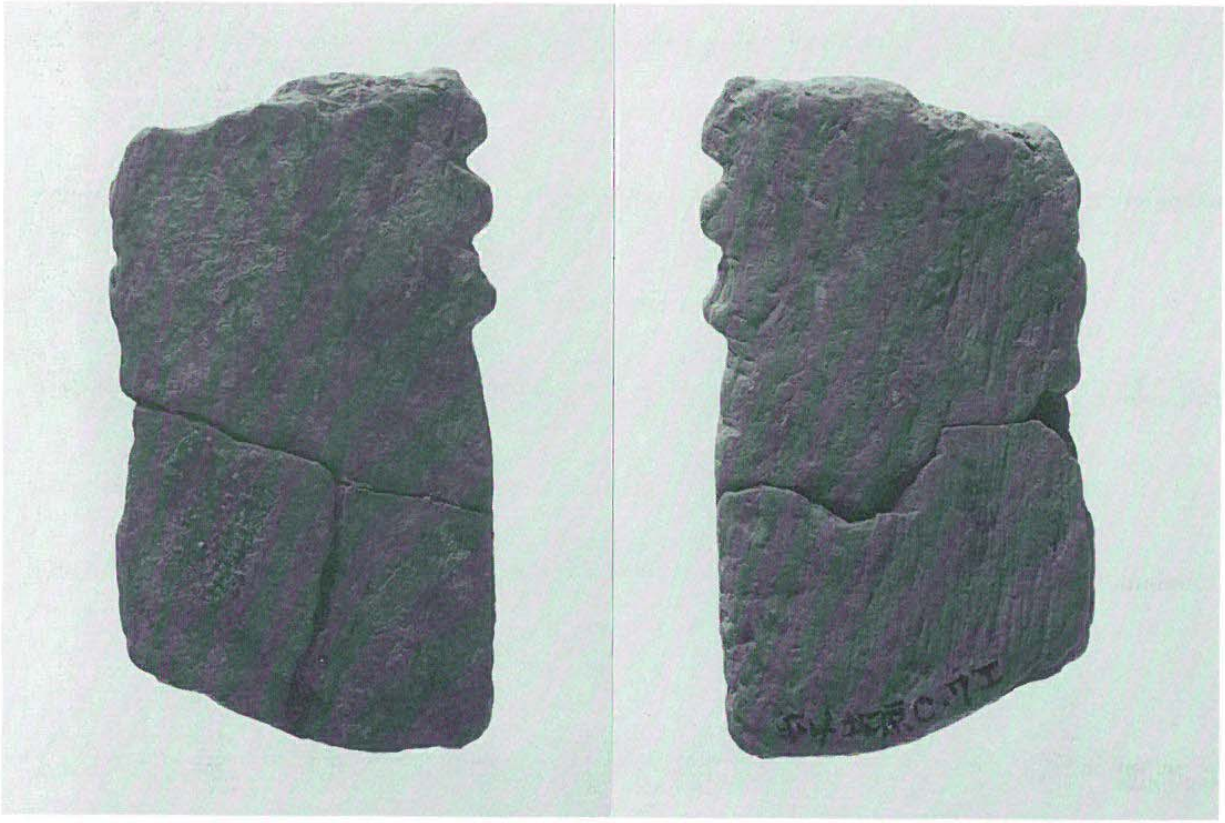


上：磨石兼敲石Ⅰ・Ⅱ類（1・2：Ⅰ類，3・4：Ⅱ類）　下：磨石兼敲石Ⅲ類

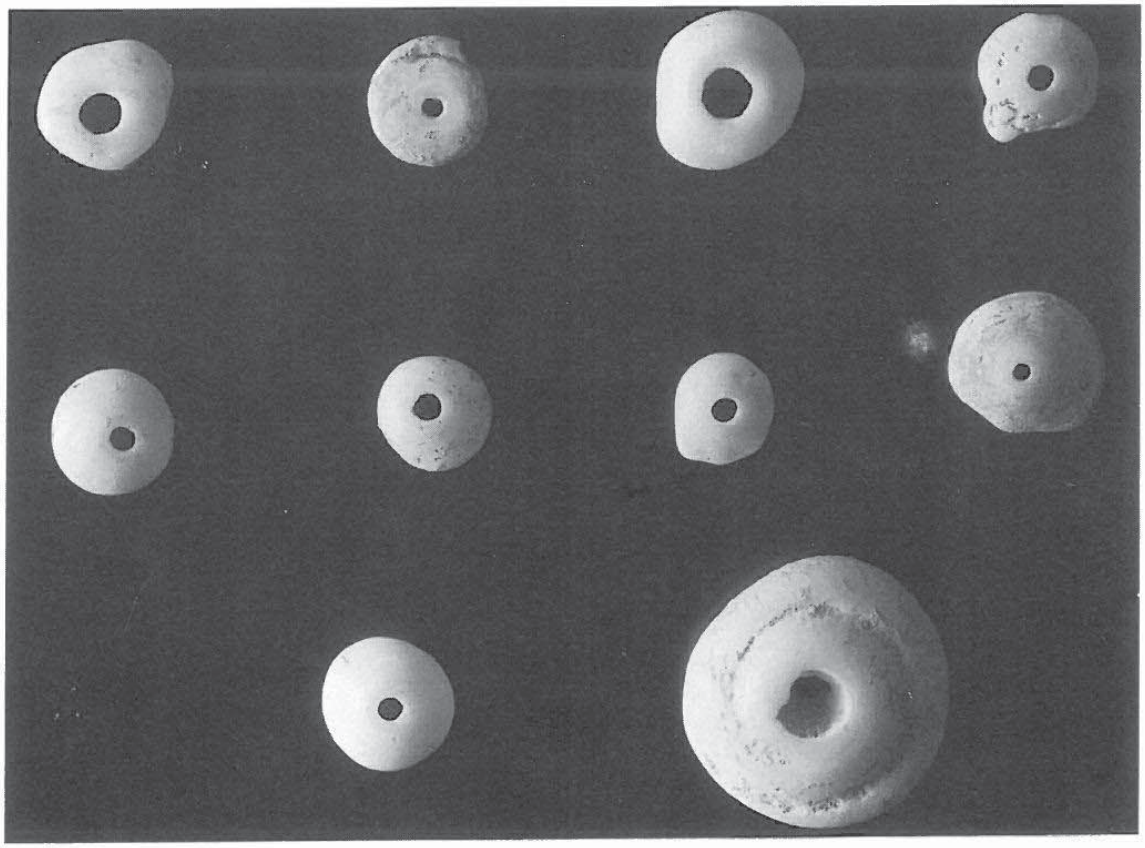
上・下：磨石兼敲石Ⅲ類

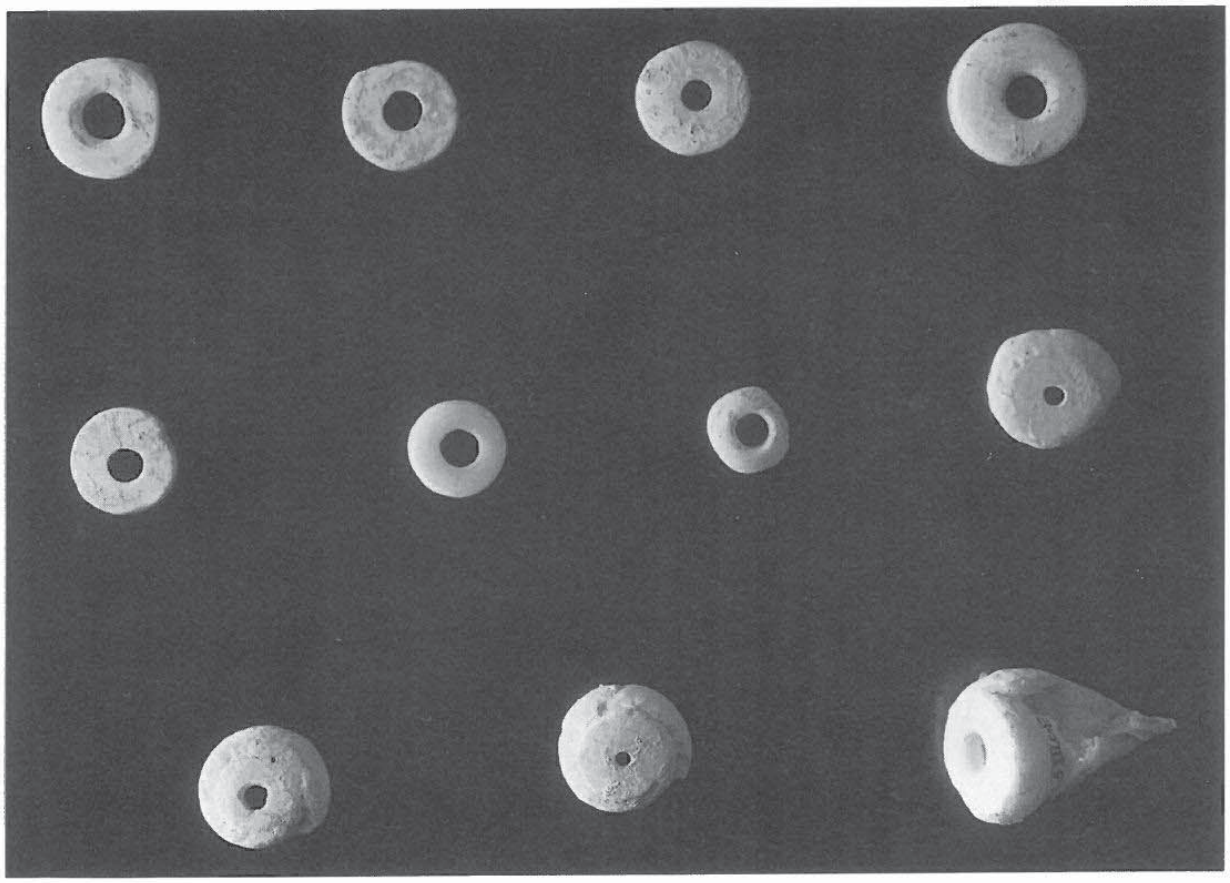
図版　三十六



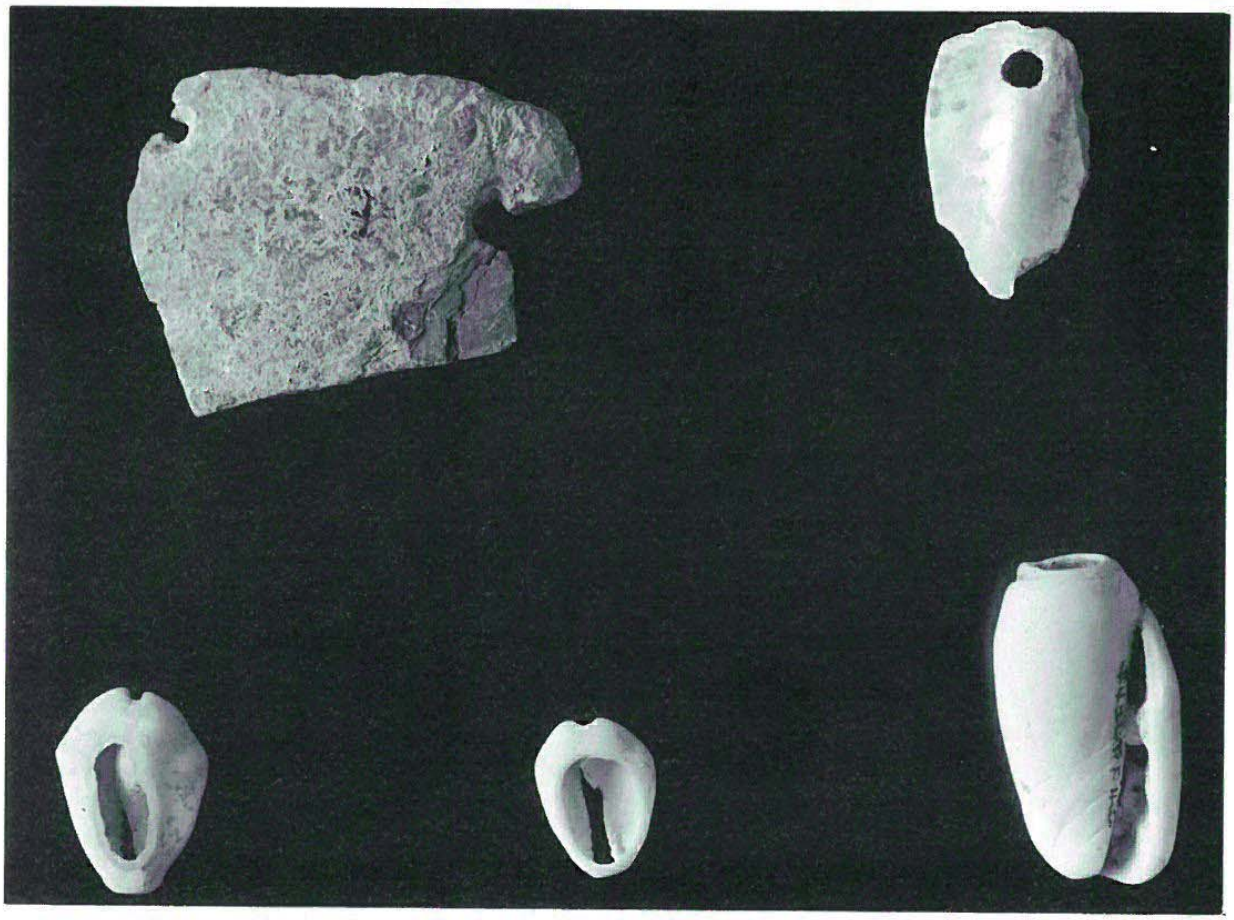


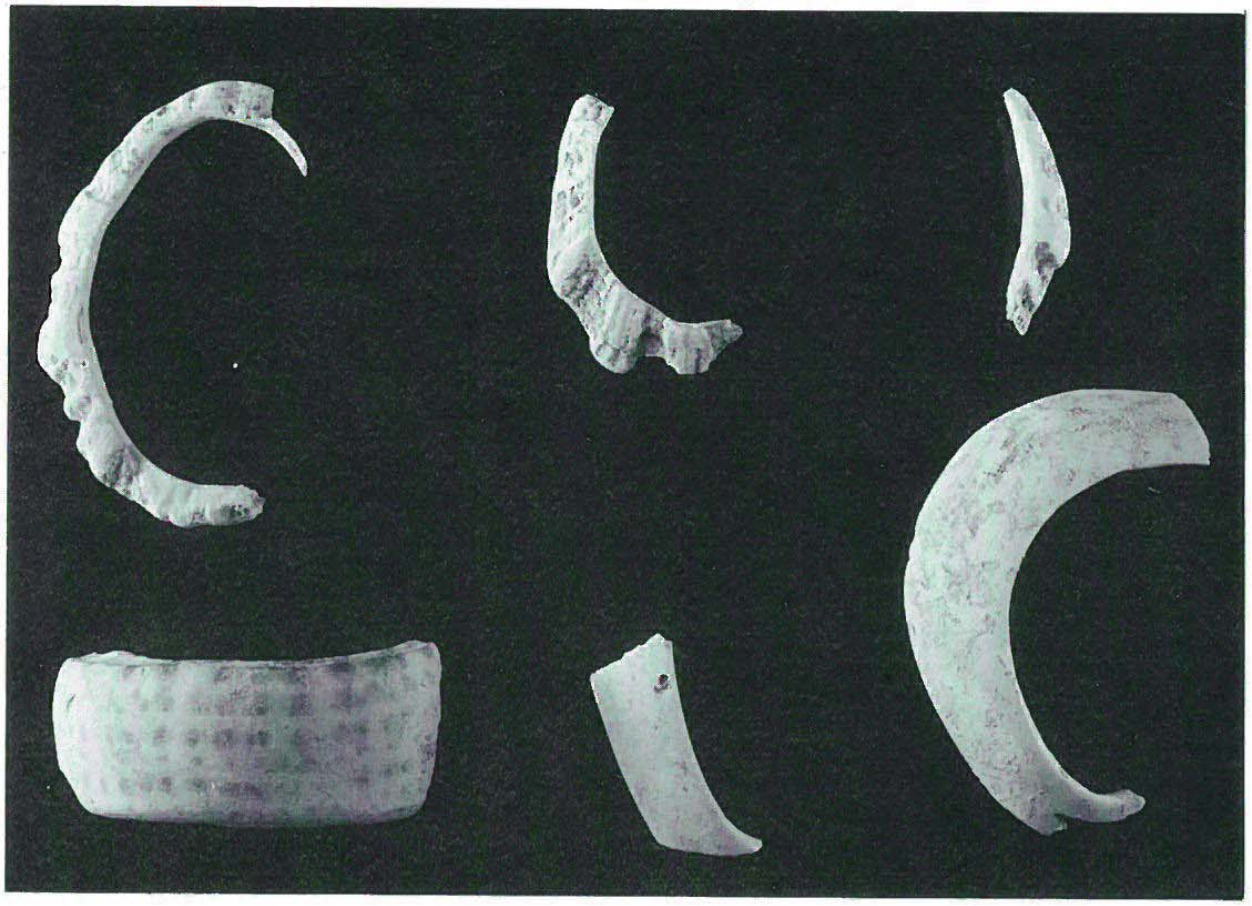
上：クガニイシ　下：石製品



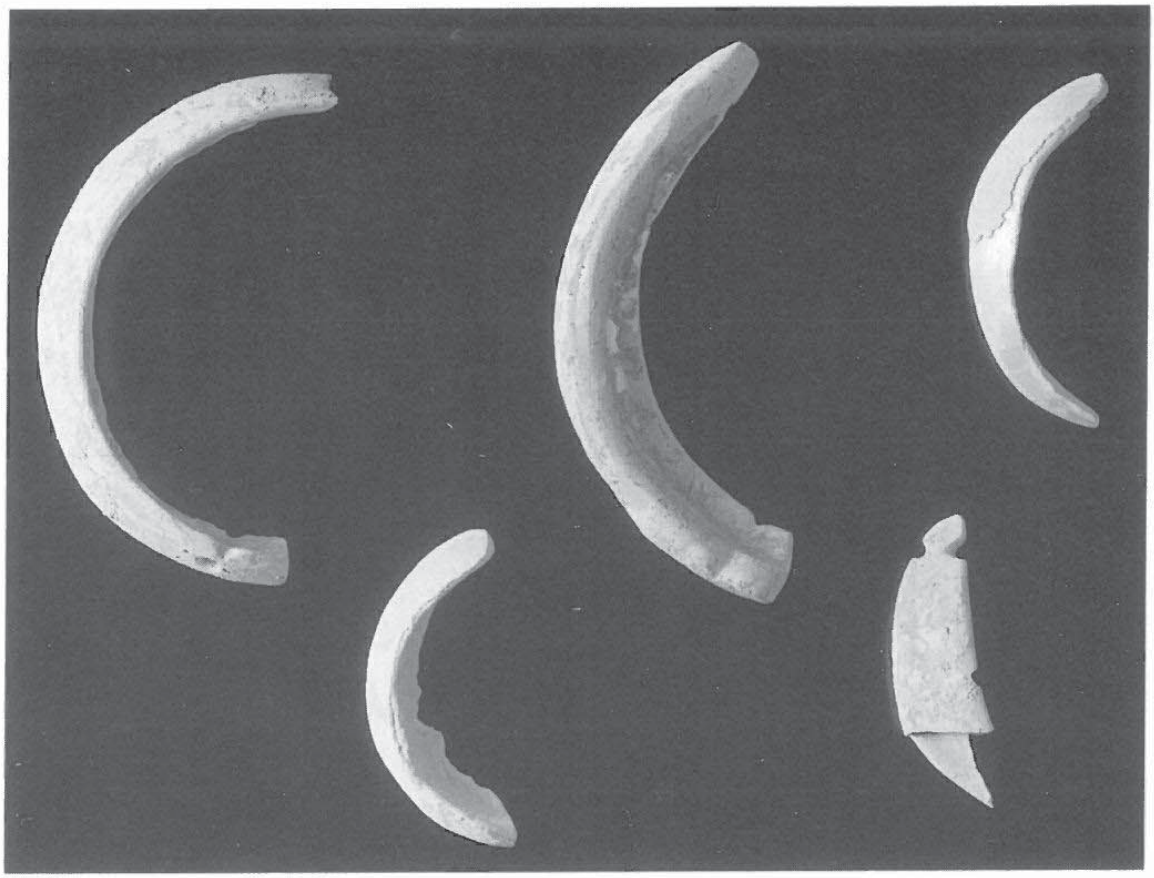


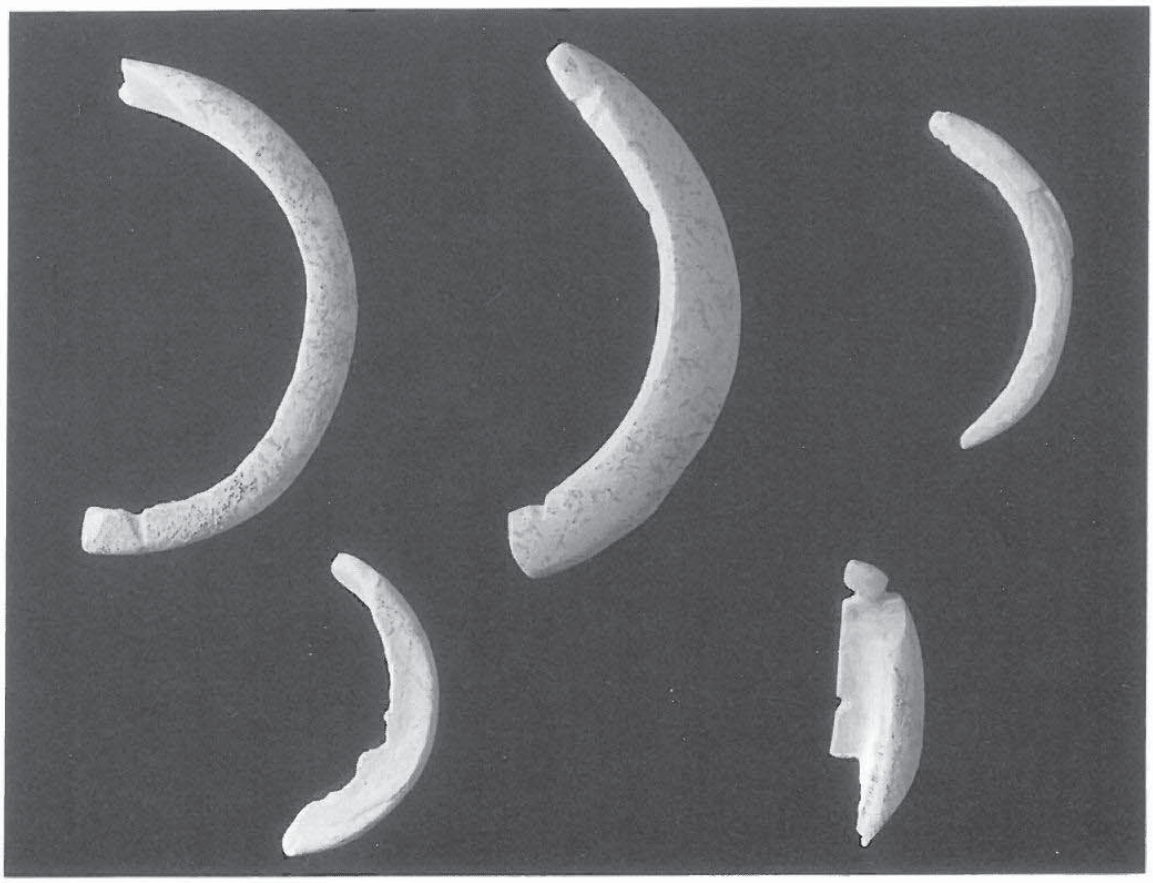
上：丸玉　下：臼玉



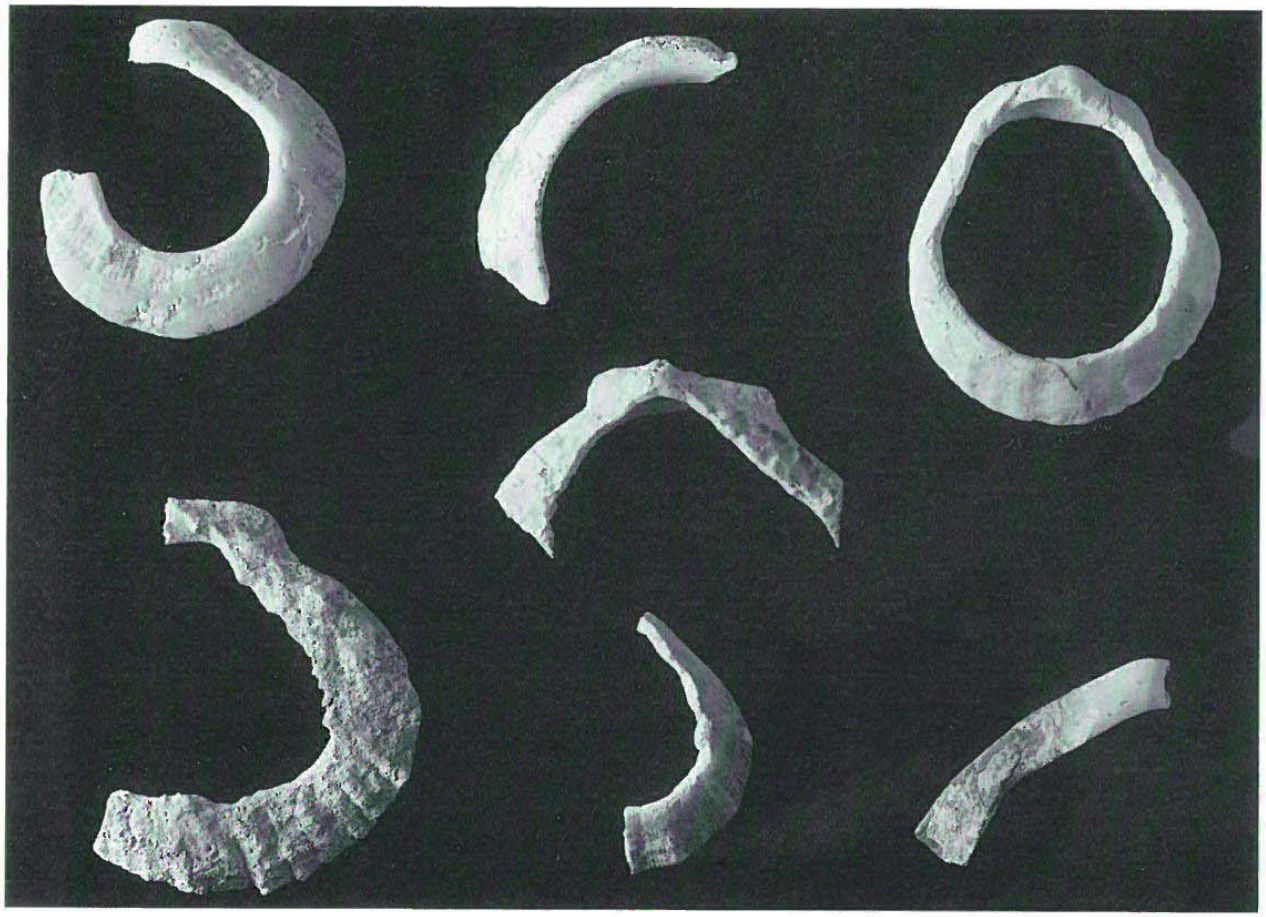


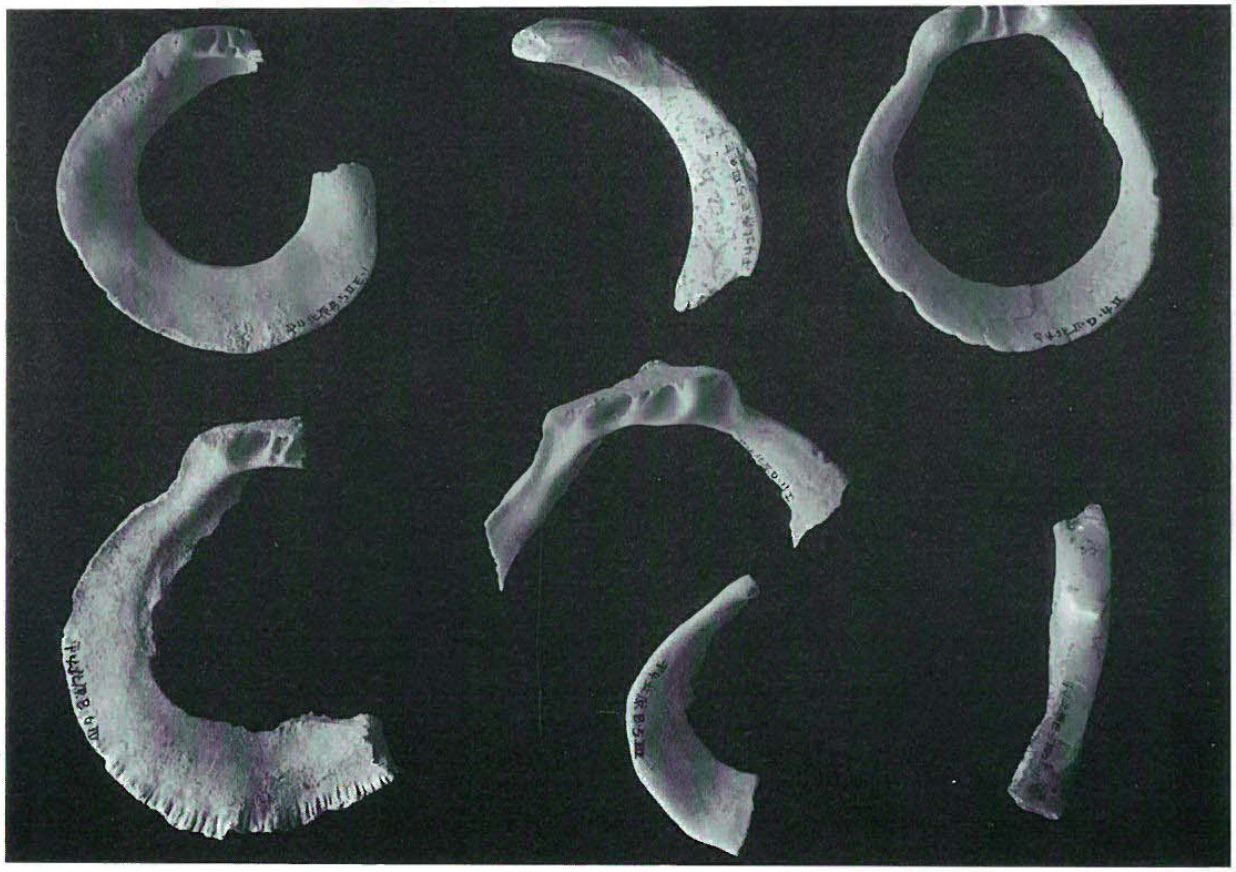
上：ヤコウガイ製錘飾，サツマビナガイ製品，タカラガイ製品
下：貝輪・1（オオツタノハガイ製，イモガイ科製，ゴホウラ製）



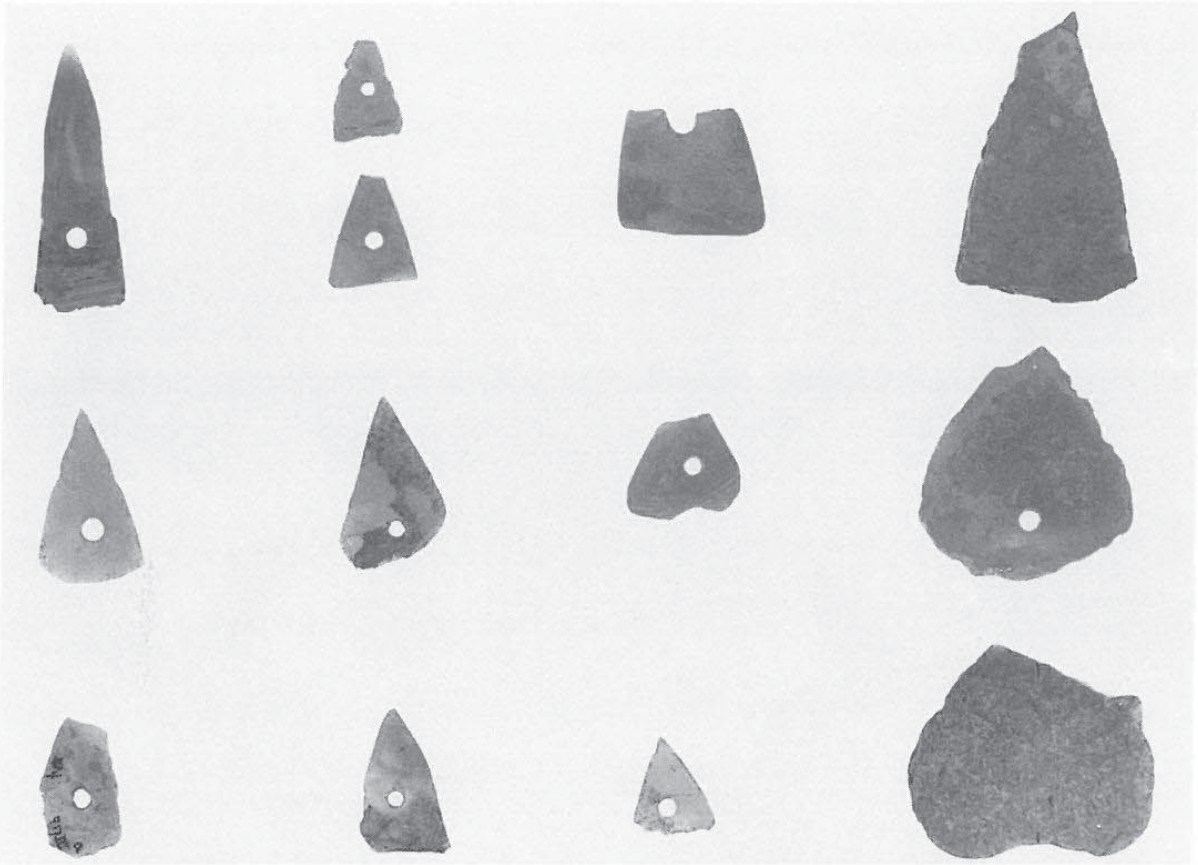


上・下：貝輪・２（サラサバテイ製）



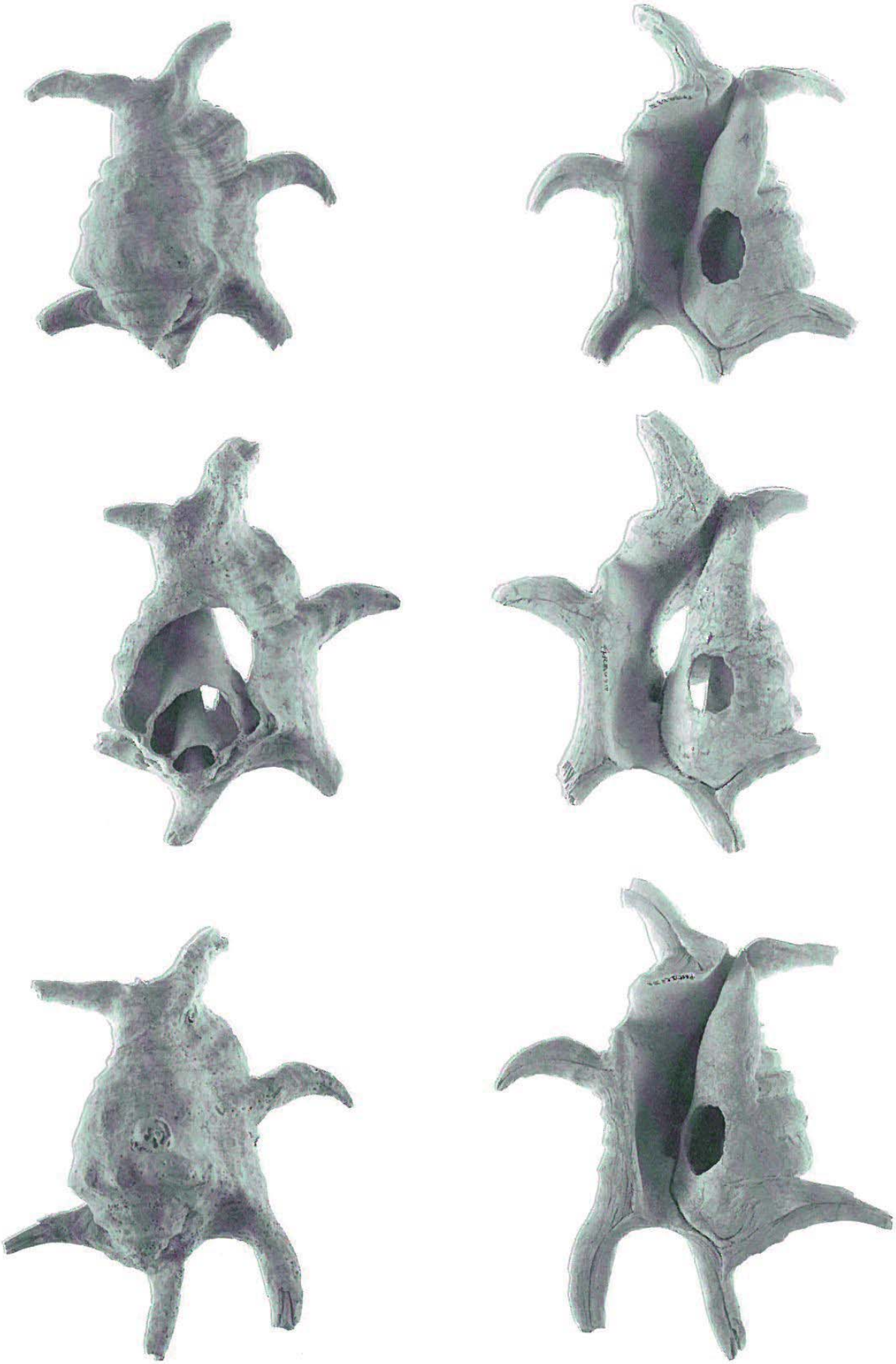


上・下：貝輪・3（ウミギクガイ科製，クロチョウガイ製）

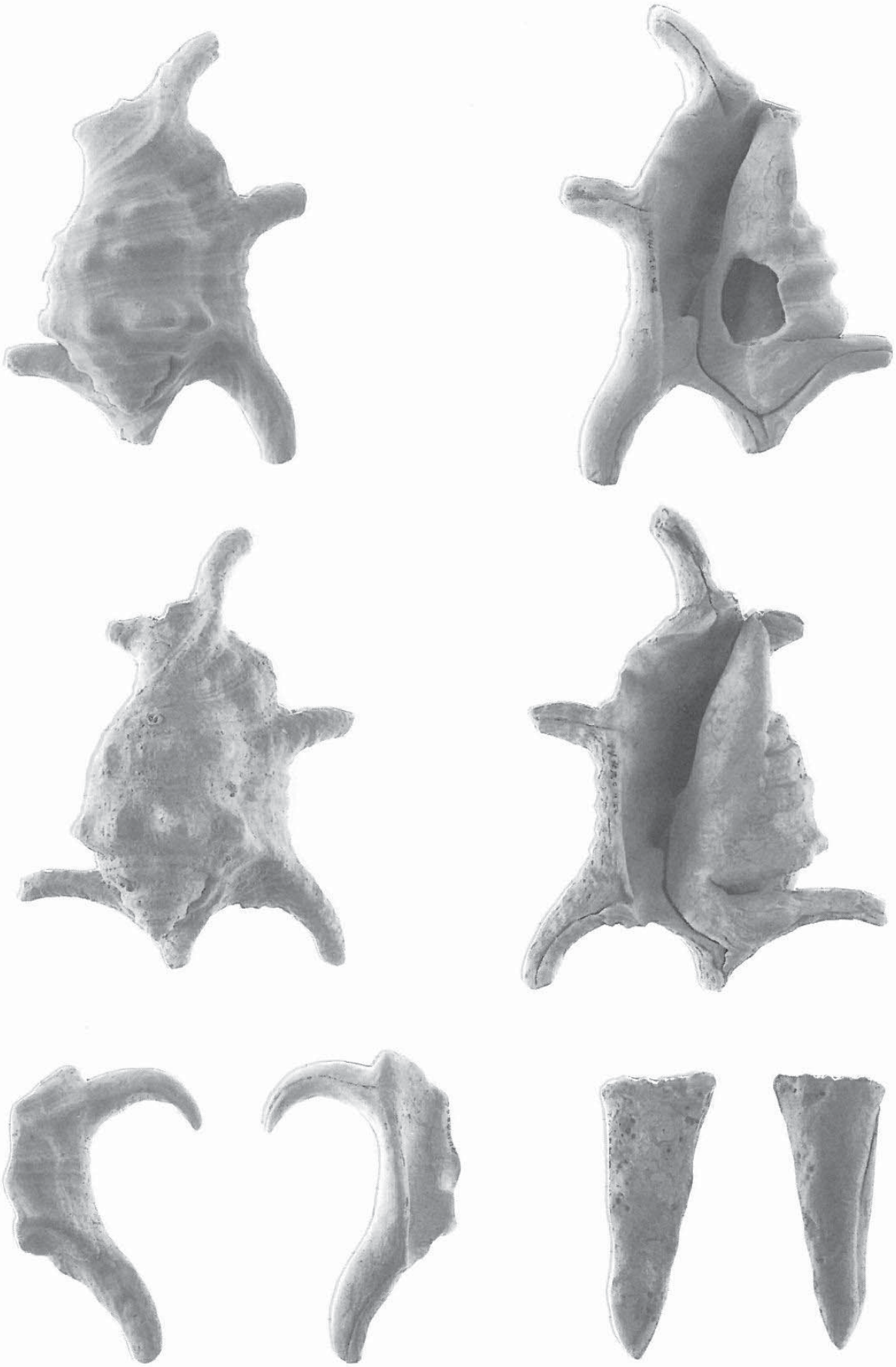


上：鏃　下：庖丁様製品

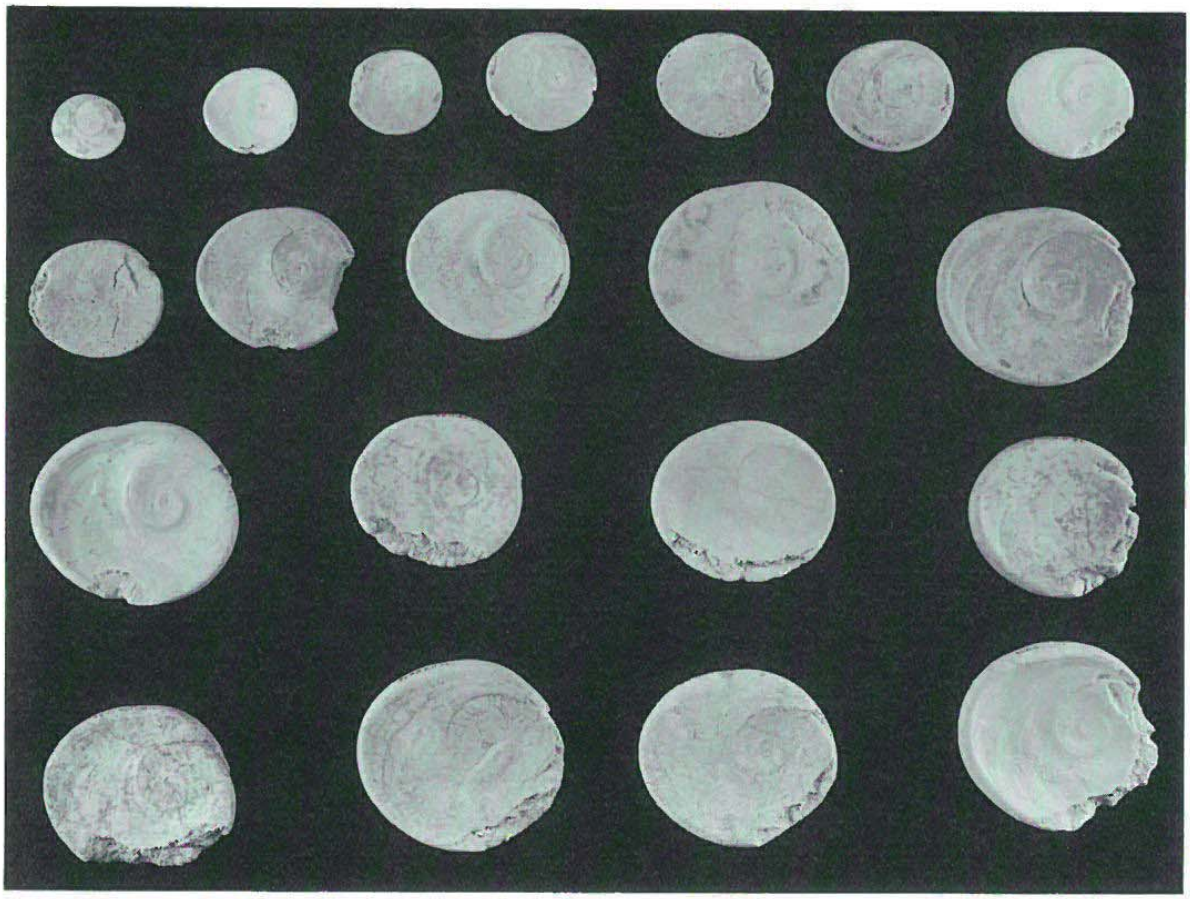
図版　四十二

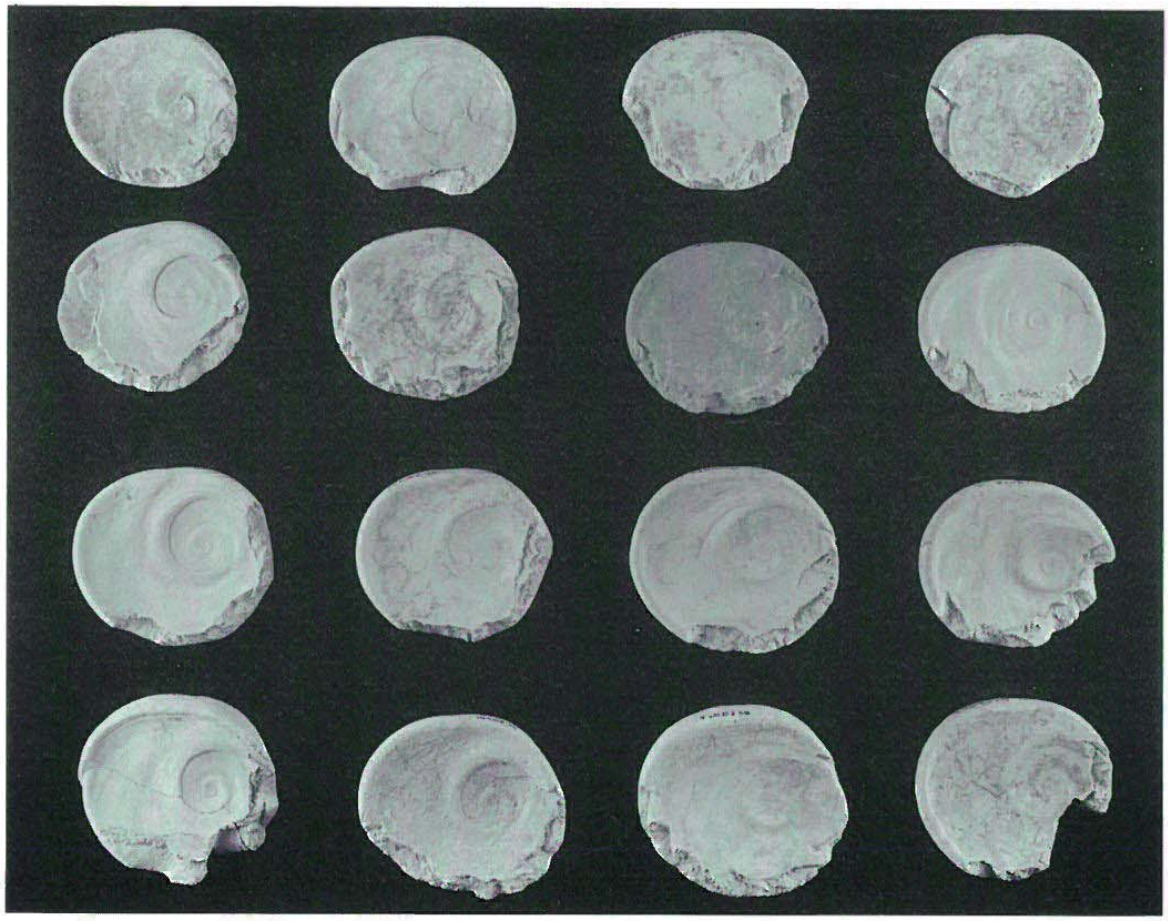


スイジガイ製利器・1

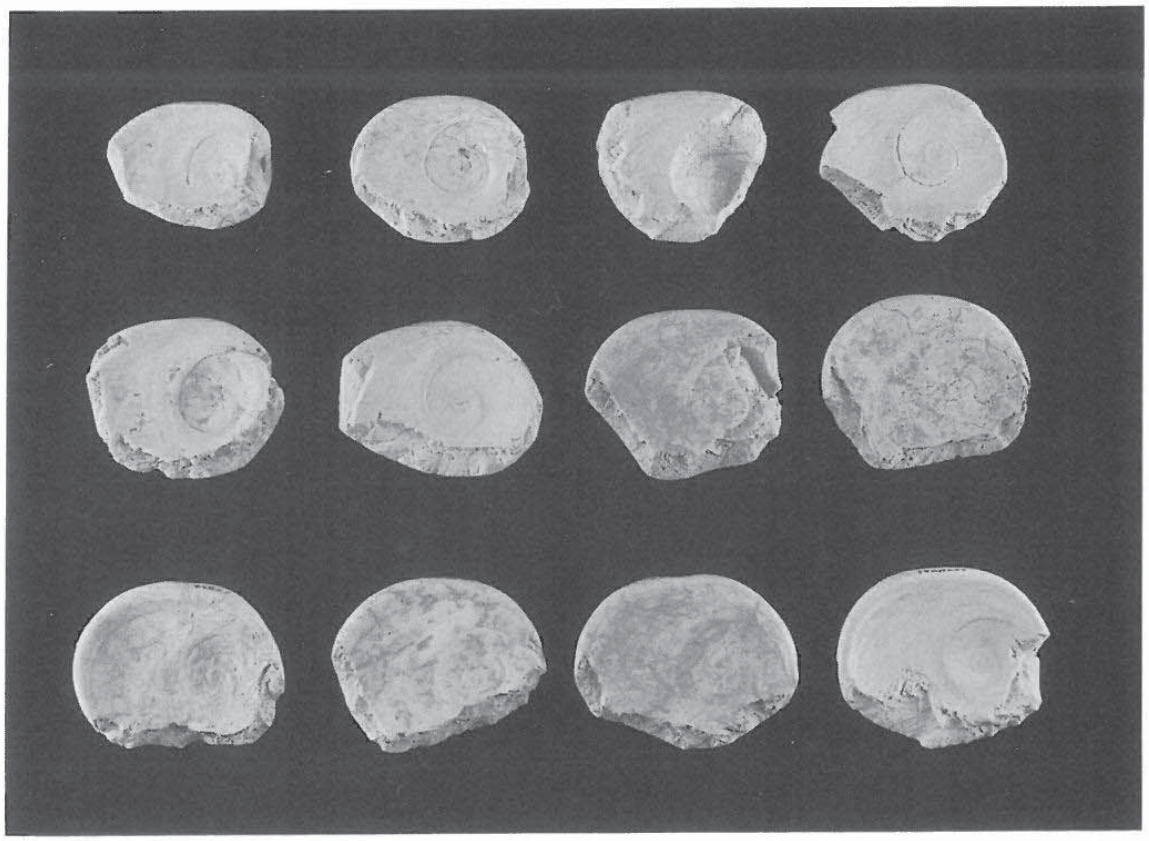


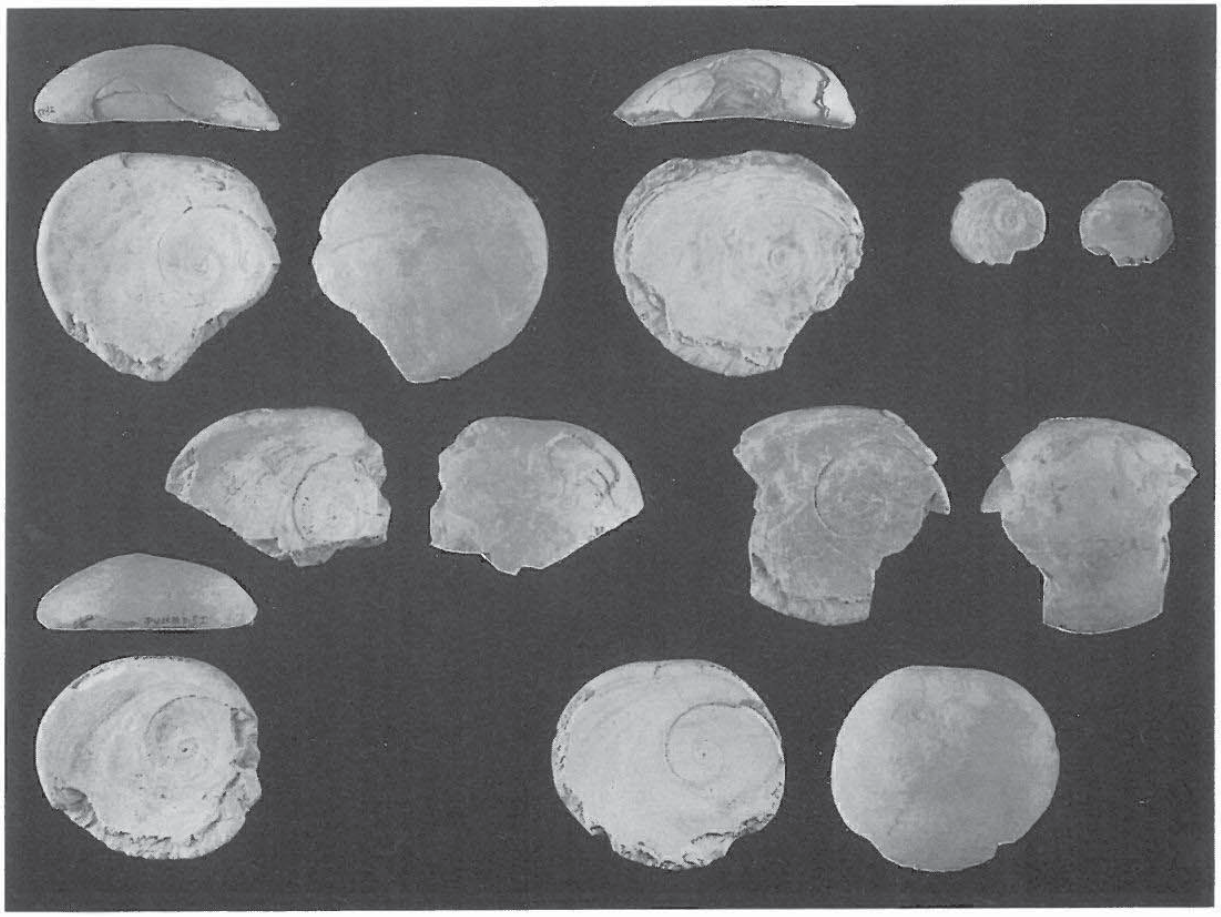
スイジガイ製利器・2



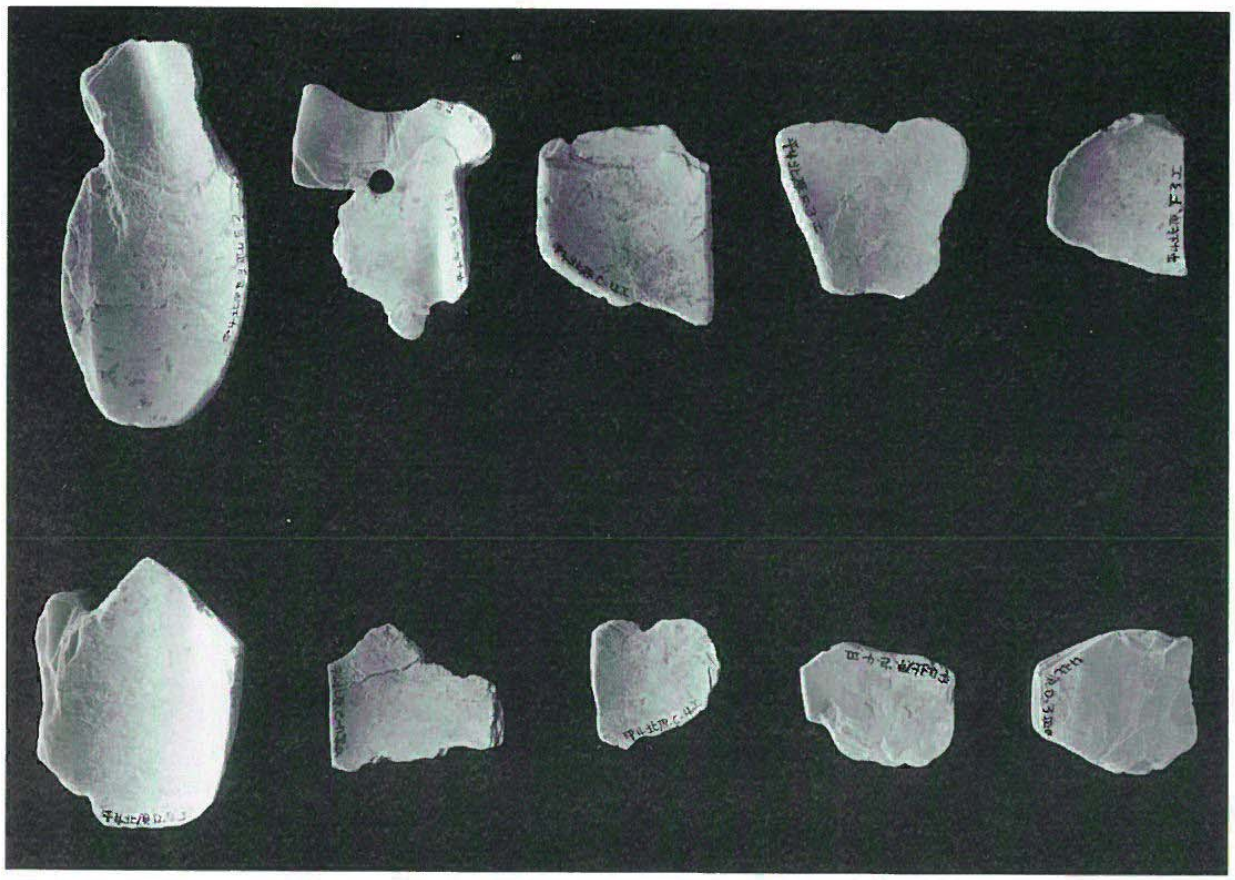


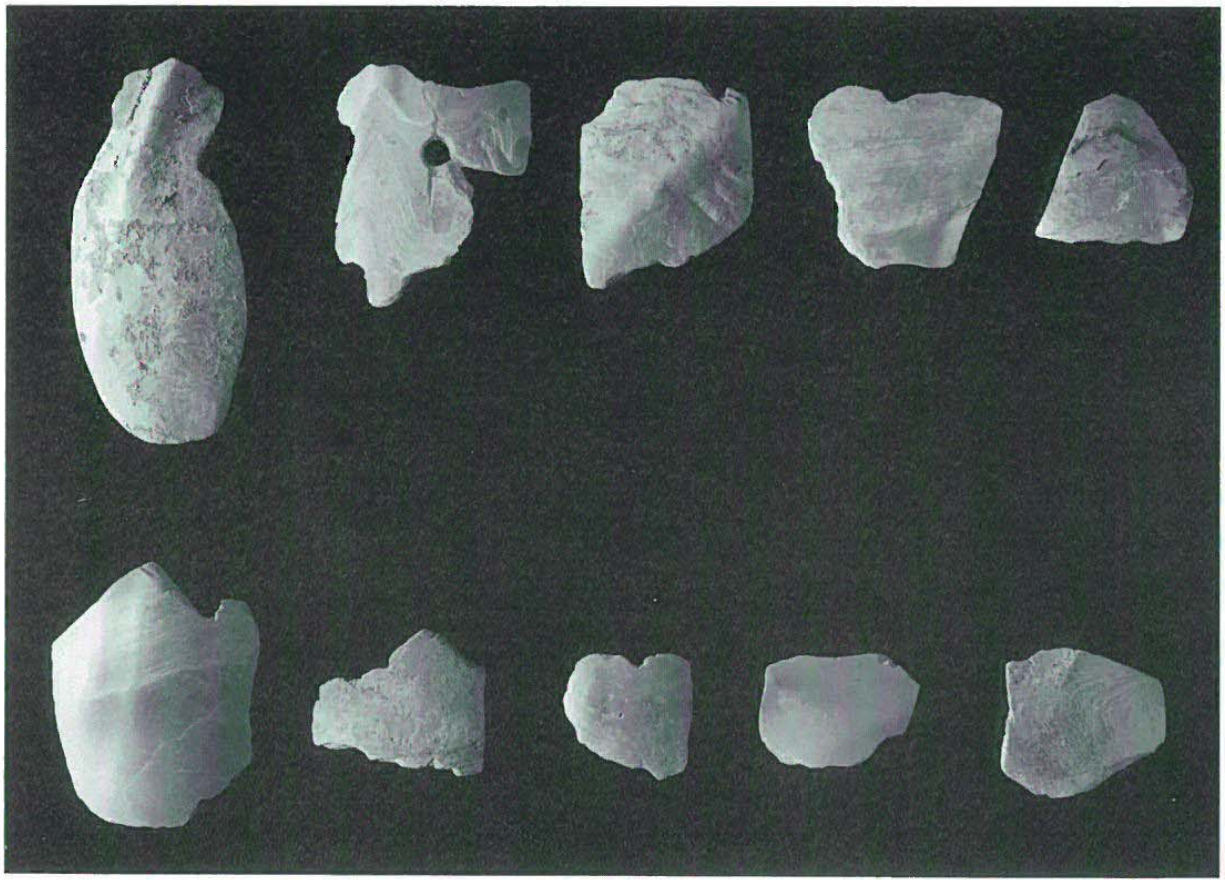
上･下：螺蓋製品・1



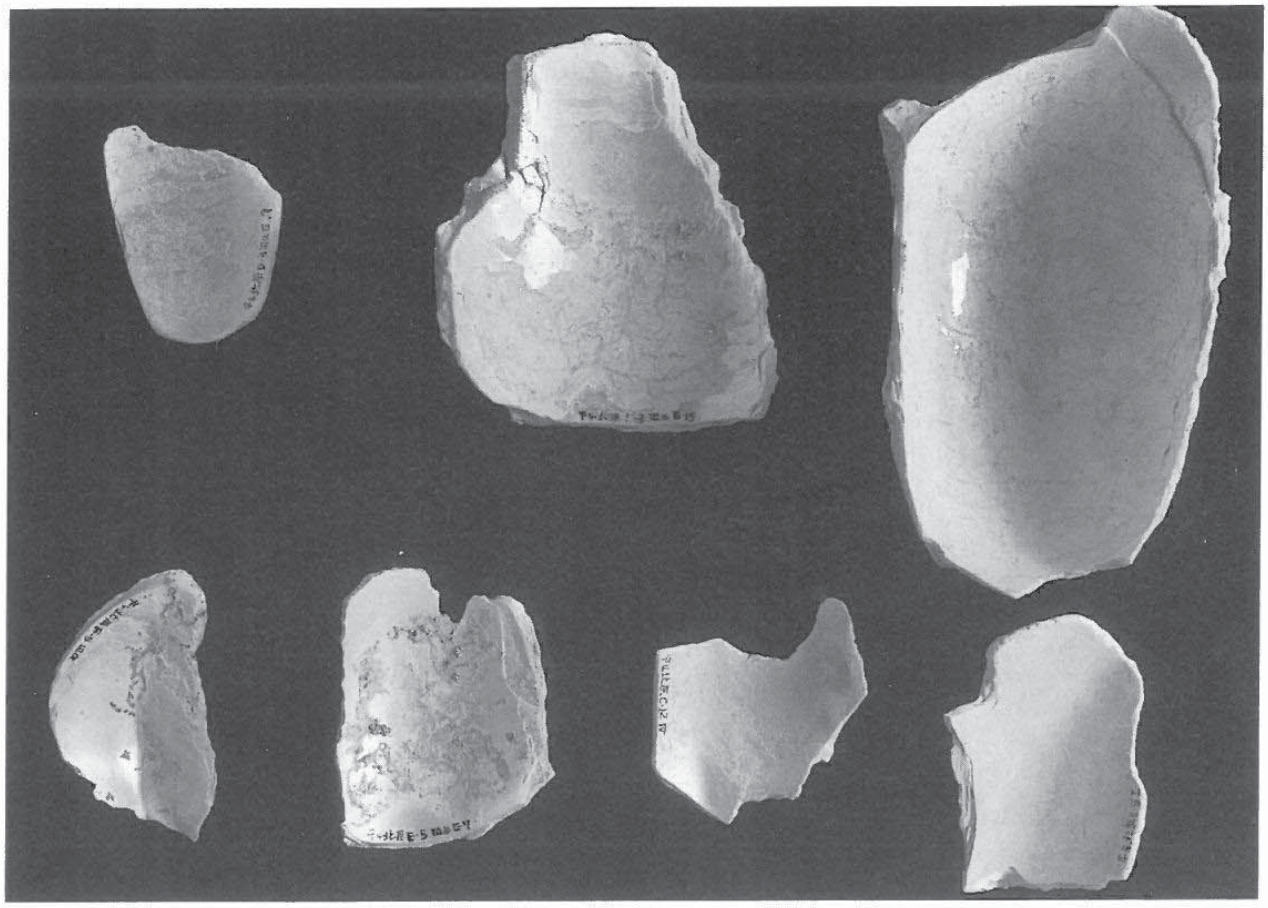


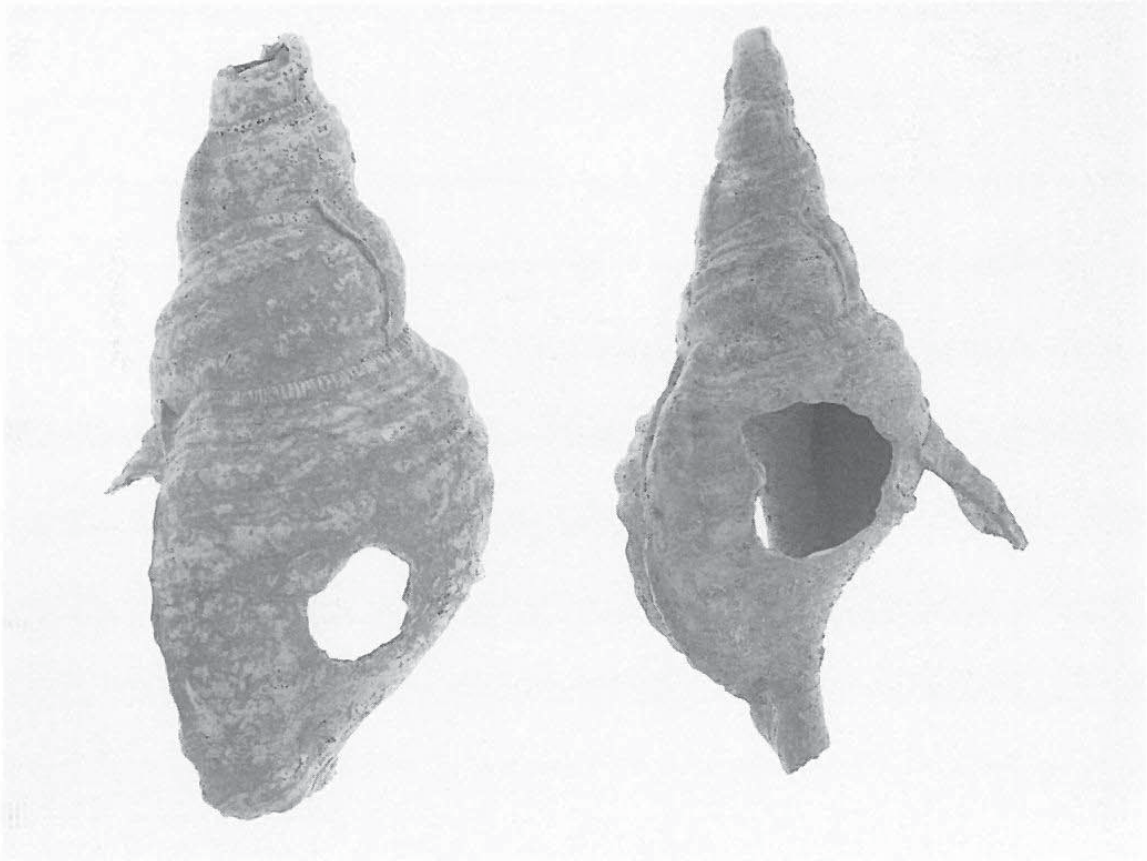
上・下：螺蓋製品・2





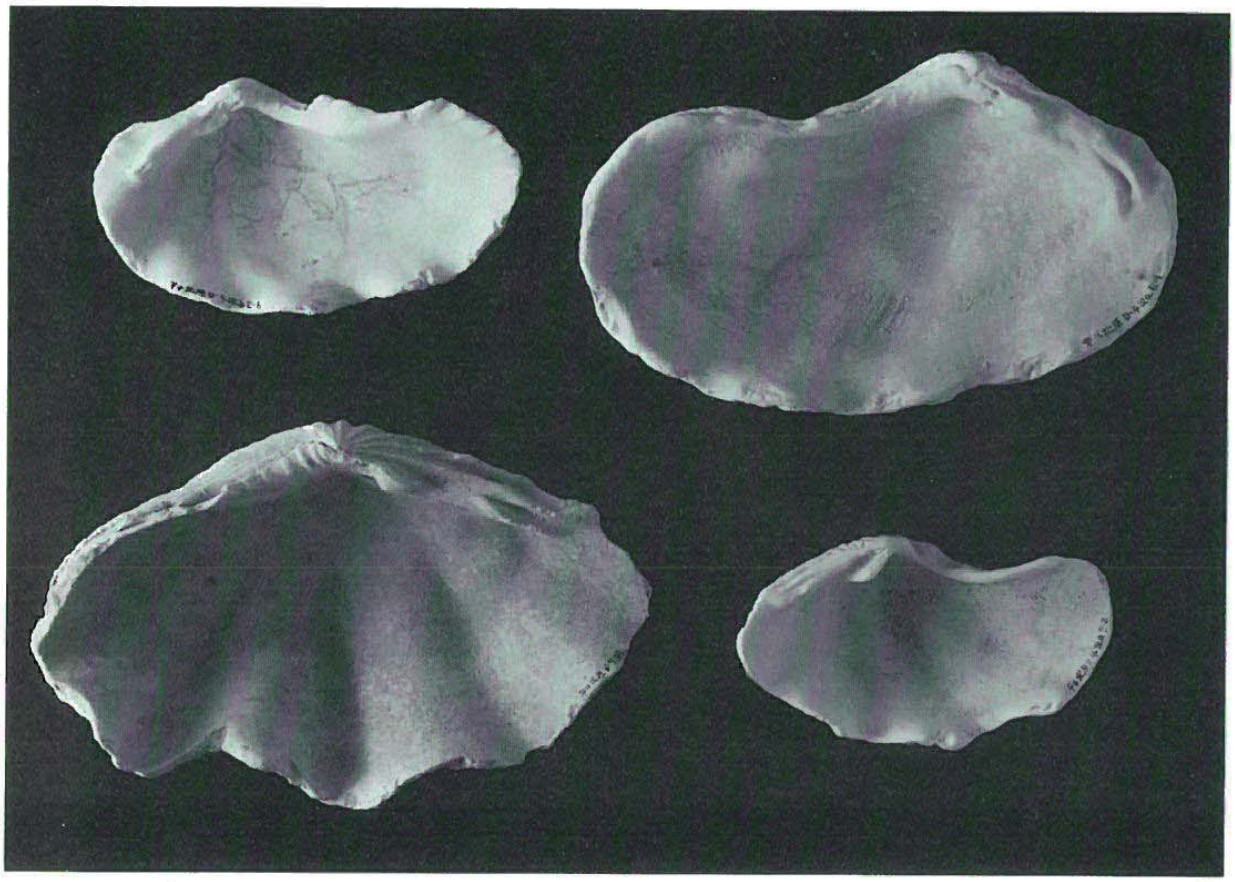
上・下：ヤコウガイ製杓子状製品・1

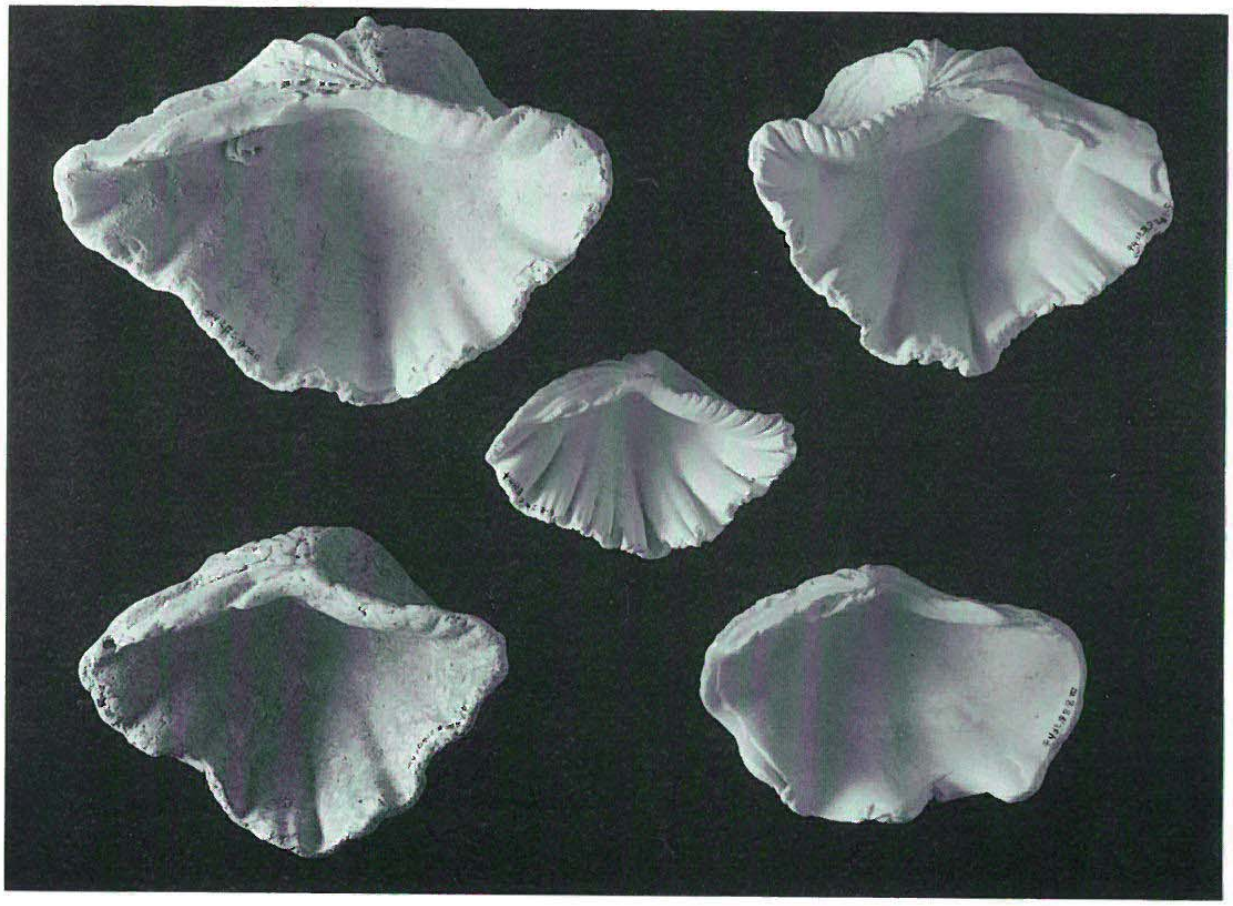




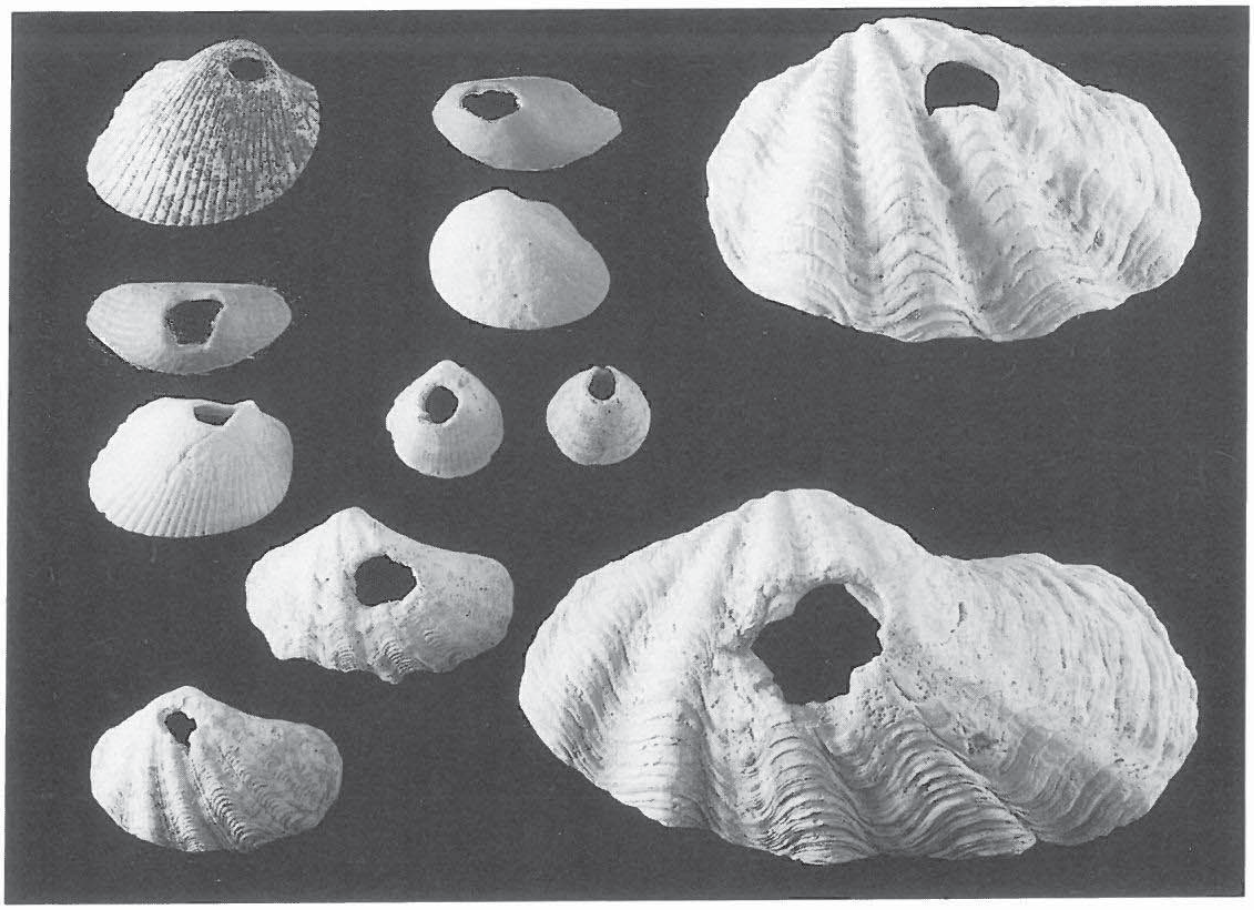
上：ヤコウガイ製杓子状製品・2　下：ホラガイ製品

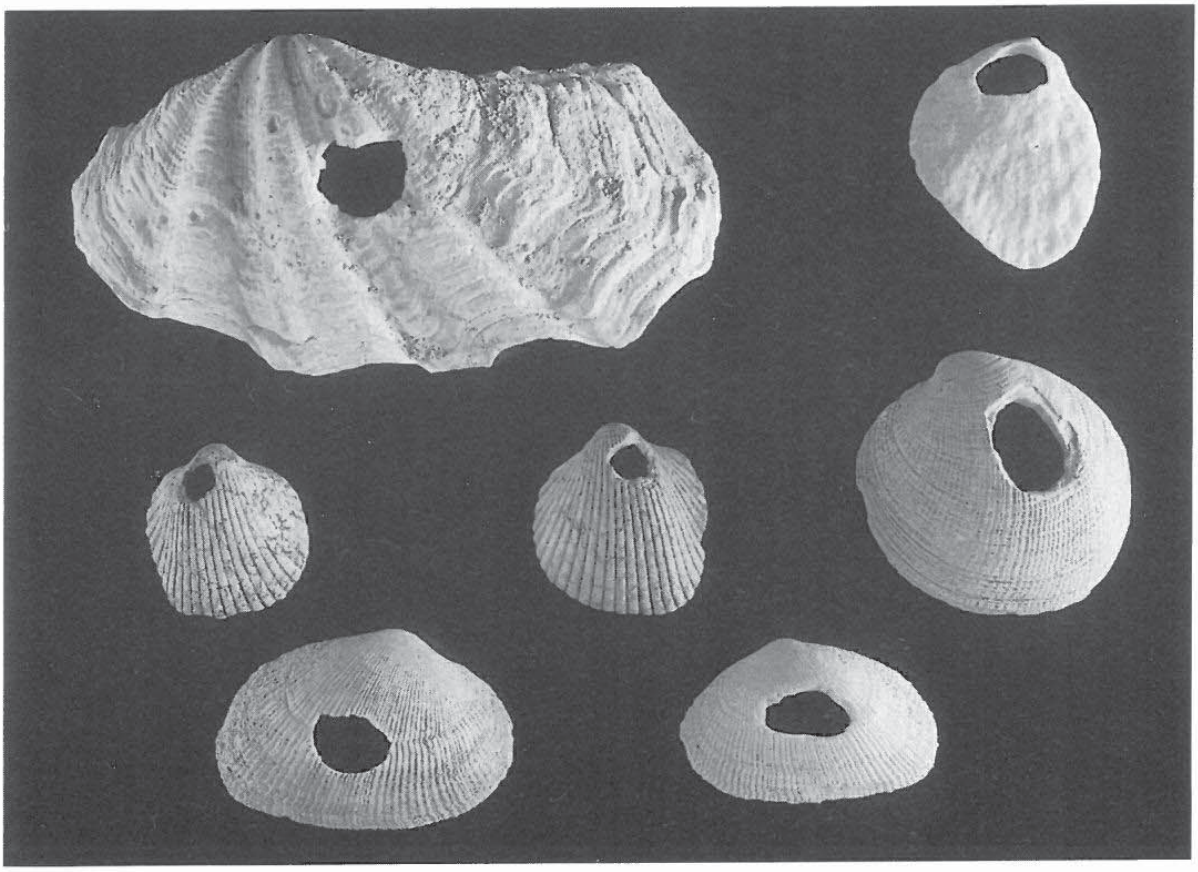
図版　四十八





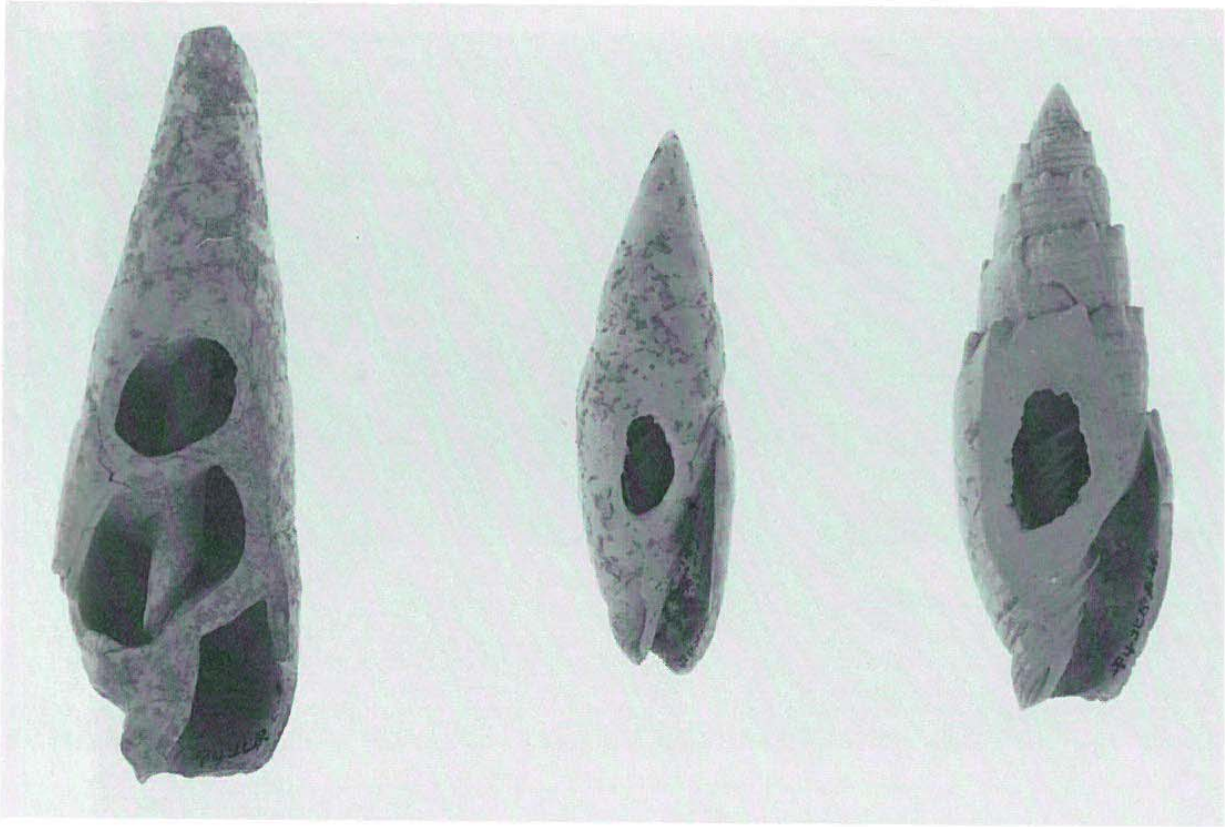
上・下：貝皿

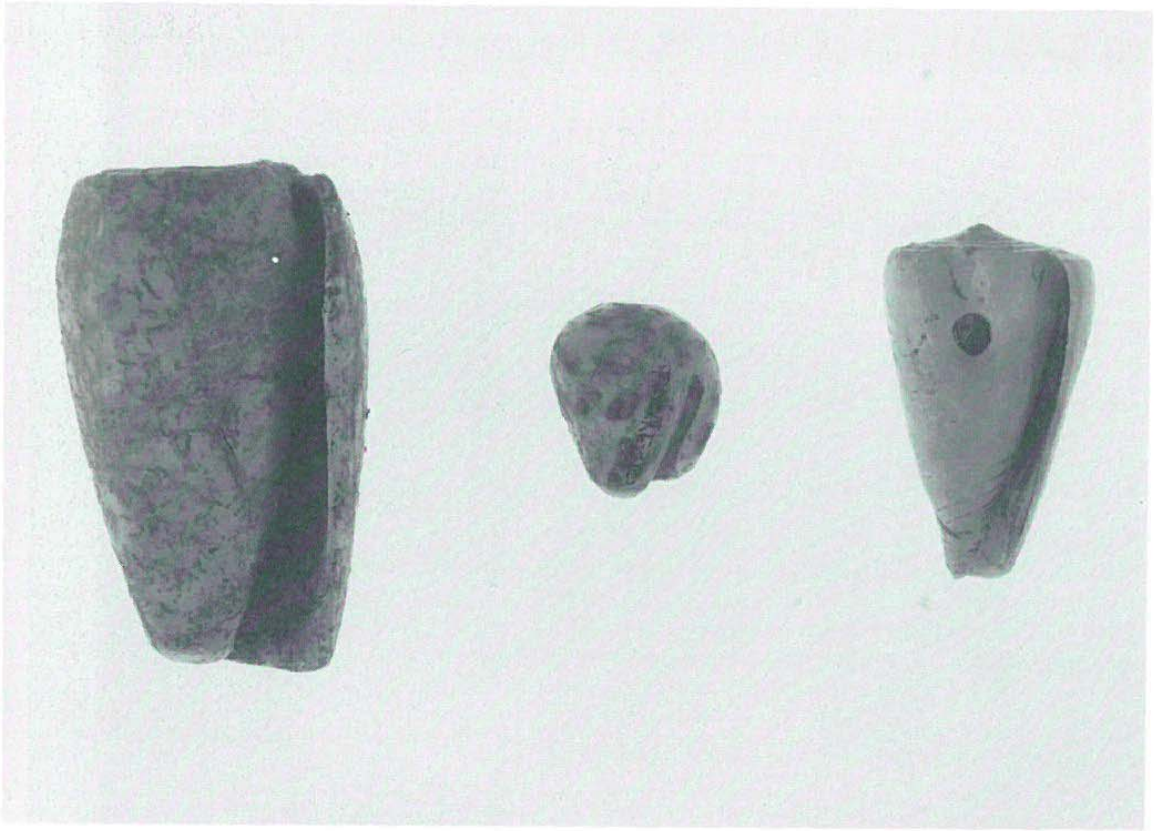




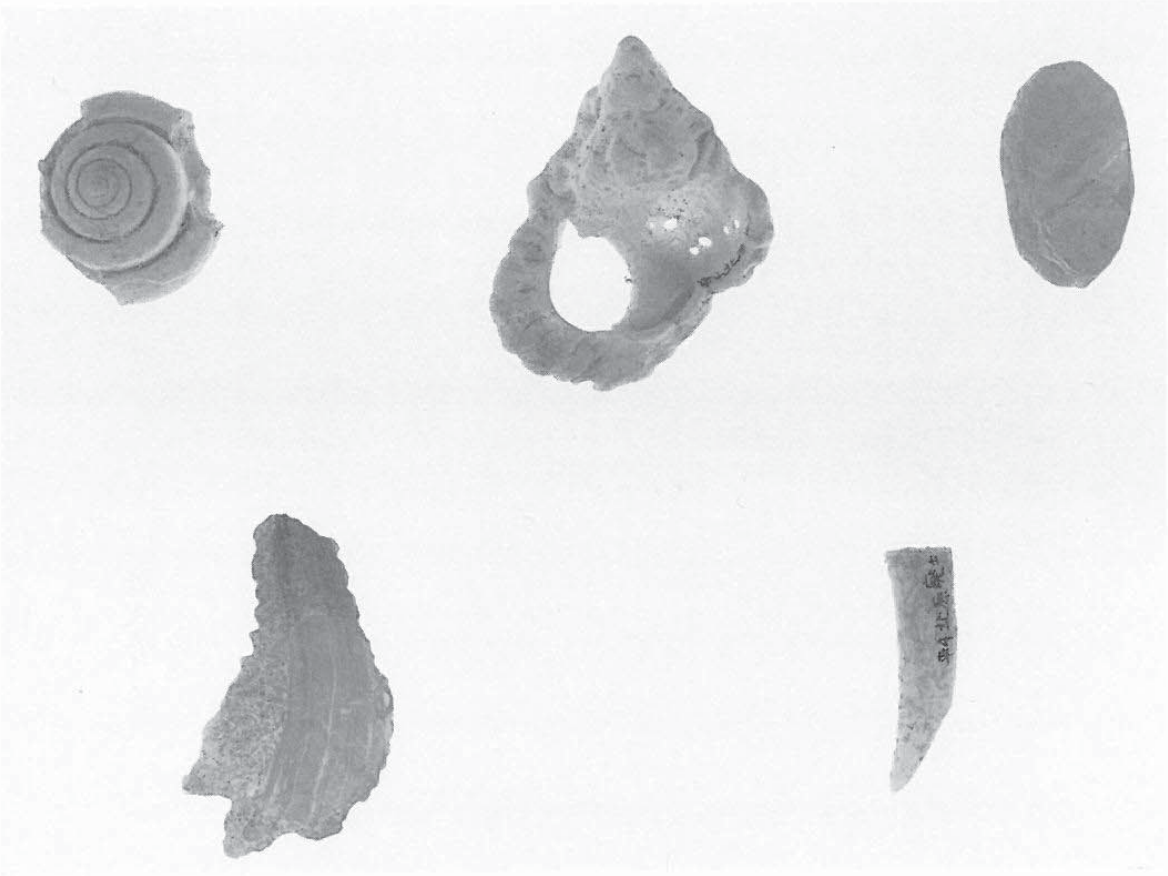
上・下：貝製漁網錘

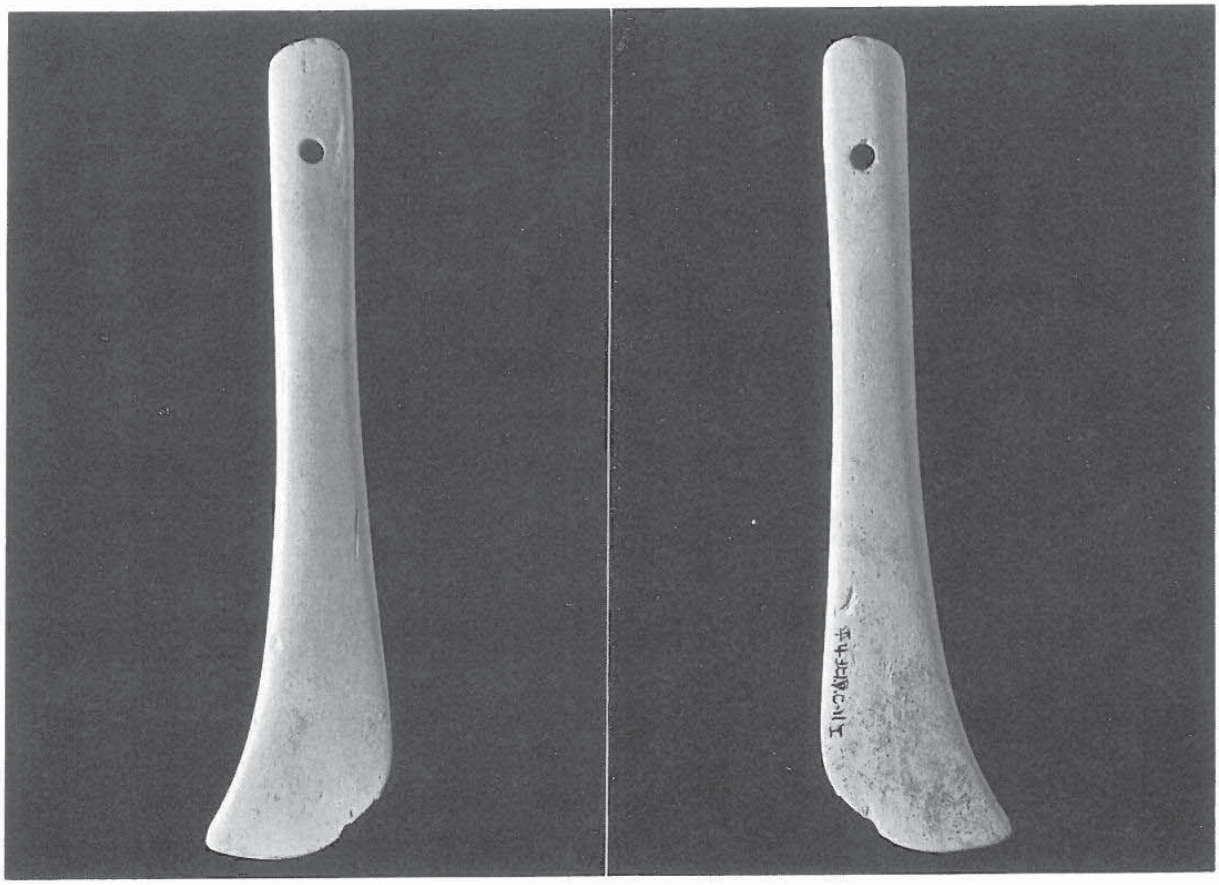
図版　五十





上：フデガイ科製品　下：イモガイ科製品





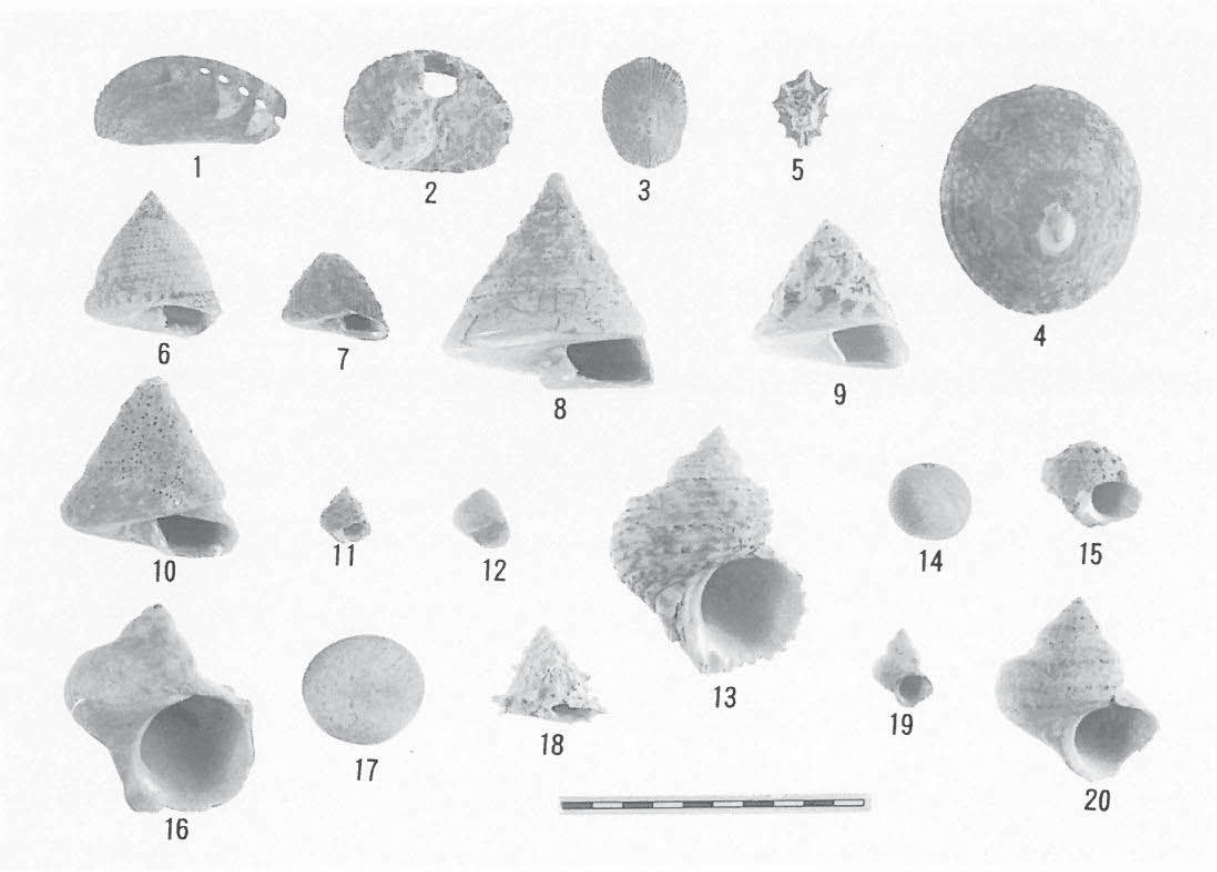
上：その他の貝製品　下：骨製品（裁縫用ヘラ）

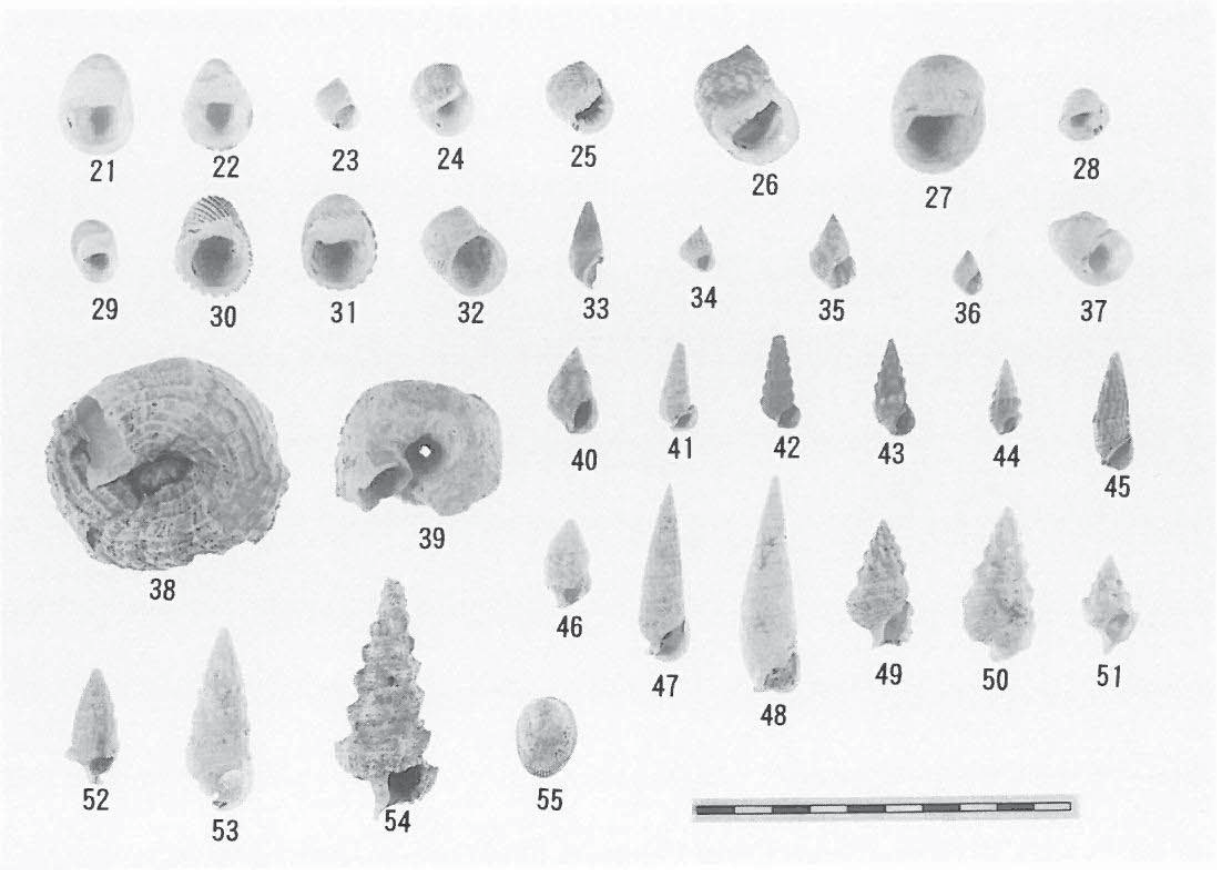
上

1．ミミガイ
2．マアナゴ
3．ヨメガカサガイ
4．オオベッコウカサガイ
5．リュウキュウノアシ
6．ニシキウズ
7．ムラサキウズ
8．ギンタカハマ
9．サラサバテイ
10．ベニシリダカ
11．オキナワイシダタミ
12．サラサダマ
13．チョウセンサザエ
14．チョウセンサザエの蓋
15．カンギク
16．ヤコウガイ
17．ヤコウガイの蓋
18．オオウラウズ
19．コシダカサザエ
20．リュウテンサザエ

下

21．ニシキアマオブネ
22．アマオブネ
23．イシダタミアマオブネ
24．カノコガイ
25．キバアマガイ
26．コシダカアマガイ
27．オオマルアマオブネ
28．マルアマオブネ
29．リュウキュウアマガイ
30．マキミゾアマオブネ
31．フトスジアマガイ
32．アマガイモドキ
33．カワニナ
34．コンペイトウガイ
35．ウズラタマキビ
36．ホソスジウズラタマキビ
37．カタベガイダマシ
38．オオヘビガイ
39．リュウキュウヘビガイ
40．ゴマフニナ
41．ヘナタリ
42．イトカケヘナタリ
43．イボウミニナ
44．ウミニナ
45．ヨコワカニモリ
46．クワノミカニモリ
47．カザリカニモリ
48．ナガタケノコカニモリ
49．コオニノツノガイ
50．メオニノツノガイ
51．メオニノツノガイ（幼）
52．トウガタカニモリ
53．ヒメトウガタカニモリ
54．オニノツノガイ
55．スズメガイ


1
2
3
5
4
6
7
8
9
10
11
12
13
14
15
16
17
18
19
20


21
22
23
24
25
26
27
28
29
30
31
32
33
34
35
36
37
38
39
40
41
42
43
44
45
46
47
48
49
50
51
52
53
54
55

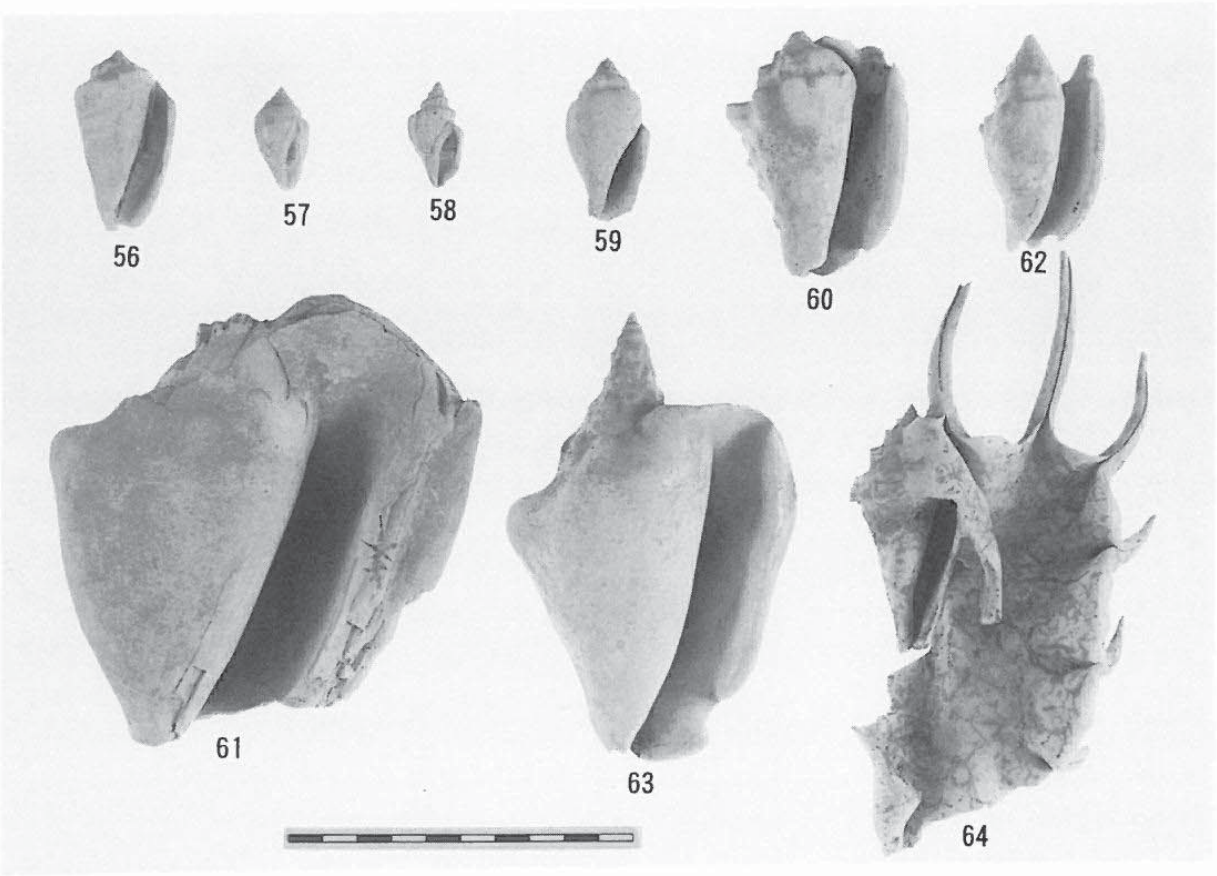
貝類遺存体・1

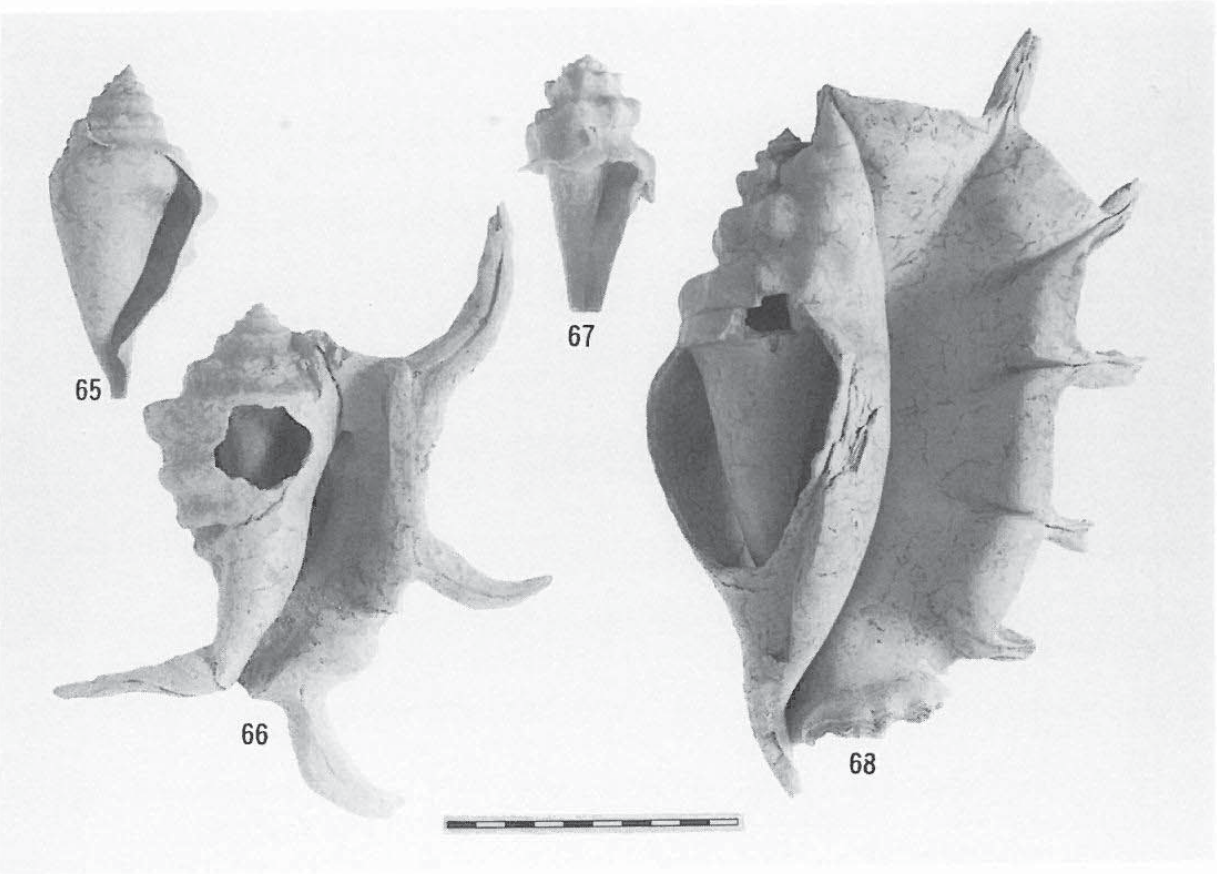
上

56. マガキガイ
57. ムカシタモトガイ
58. ヒダトリガイ
59. ネジマガキガイ
60. イボソデガイ
61. ゴホウラ
62. ベニソデガイ
63. アツソデガイ
64. クモガイ

下

65. クモガイ（幼）
66. スイジガイ
67. スイジガイ（幼）
68. ラクダガイ





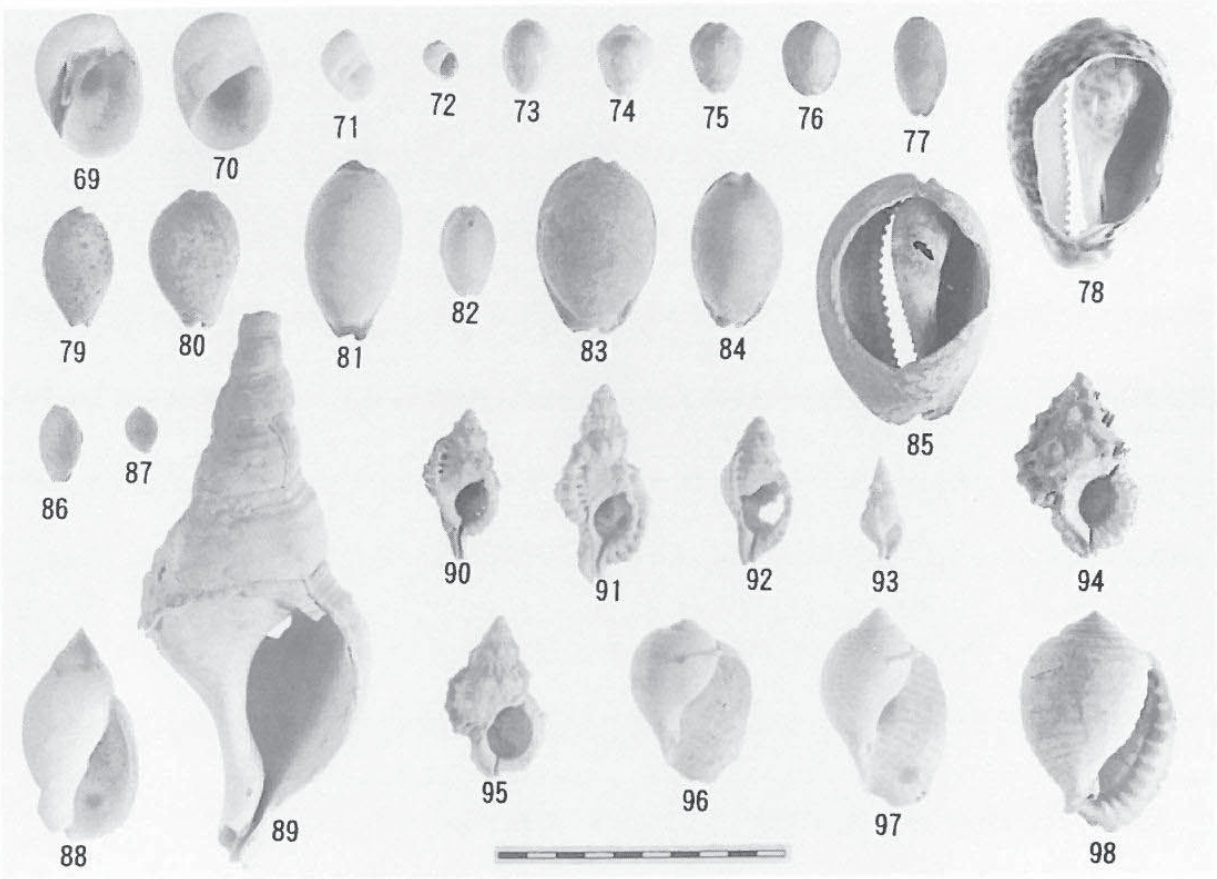
貝類遺存体・2

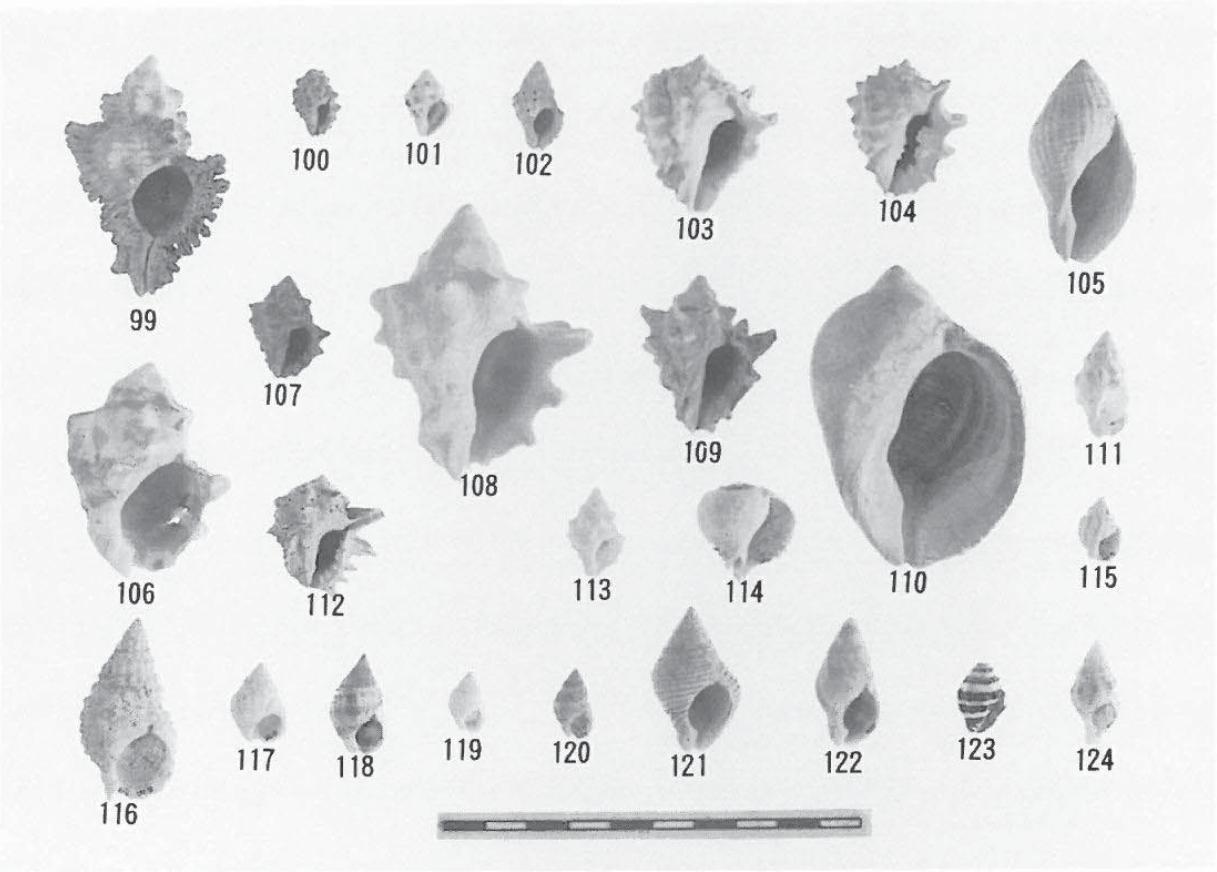
上

69. リスガイ
70. トミガイ
71. ヘソアキトミガイ
72. ホウシュノタマガイ
73. ハナビラタカラガイ
74. キイロダカラガイ
75. フシダカキイロダカラ
76. ハナマルユキ
77. ヤナギシボリダカラ
78. ホシダカラ
79. ヒメホシダカラ
80. ホシキヌタ
81. タルダカラ
82. コモンダカラ
83. ヤクシマダカラ
84. ホソヤクシマダカラ
85. ハチジョウダカラ
86. サメダカラ
87. メノウチドリダカラ
88. ヒナヅルガイ
89. ホラガイ
90. シオボラ
91. ミツカドボラ
92. ジュセイラ
93. ヒモカケセコバイ
94. オキニシ
95. イワカワウネボラ
96. スクミウズラガイ
97. ウズラガイ
98. イワカワトキワガイ

下

99. ガンゼキボラ
100. レイシダマシ
101. レイシダマシモドキ
102. ウネレイシダマシ
103. アカイガレイシ
104. ムラサキイガレイシ
105. ハナワレイシ
106. ツノレイシ
107. テツレイシ
108. シラクモガイ
109. ツノテツレイシ
110. ホソスジテツボラ
111. シロレイシ
112. キマダラレイシ
113. ヒメシロレイシダマシ
114. カブラガイ
115. ヒメオリイレムシロ
116. サメムシロ
117. アツムシロ
118. リュウキュウムシロ
119. ヒメヨフバイ
120. ミスジヨフバイ
121. スジグロホラダマシ
122. シマベッコウバイ
123. ノシガイ
124. ヒメホラダマシ


69
70
71
72
73
74
75
76
77
78
79
80
81
82
83
84
85
86
87
88
89
90
91
92
93
94
95
96
97
98


99
100
101
102
103
104
105
106
107
108
109
110
111
112
113
114
115
116
117
118
119
120
121
122
123
124

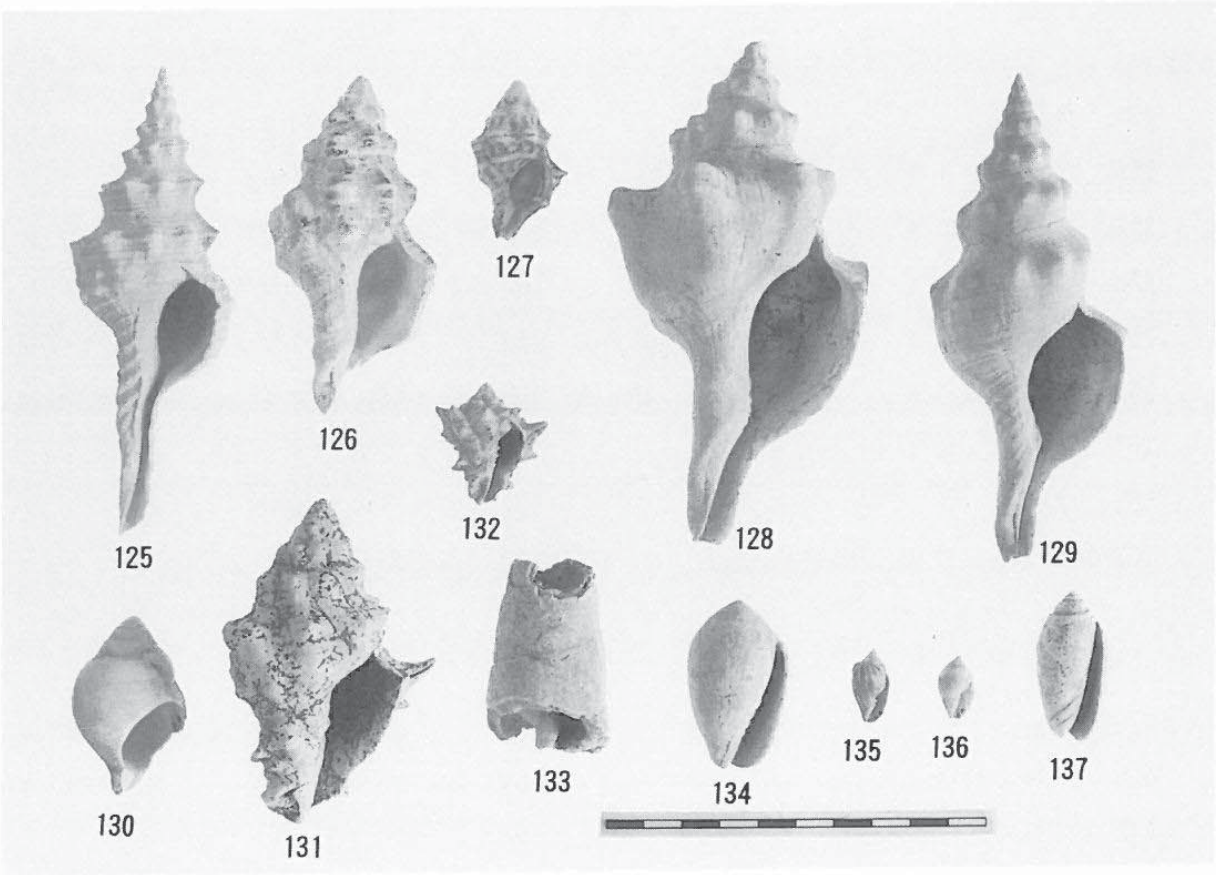
貝類遺存体・3

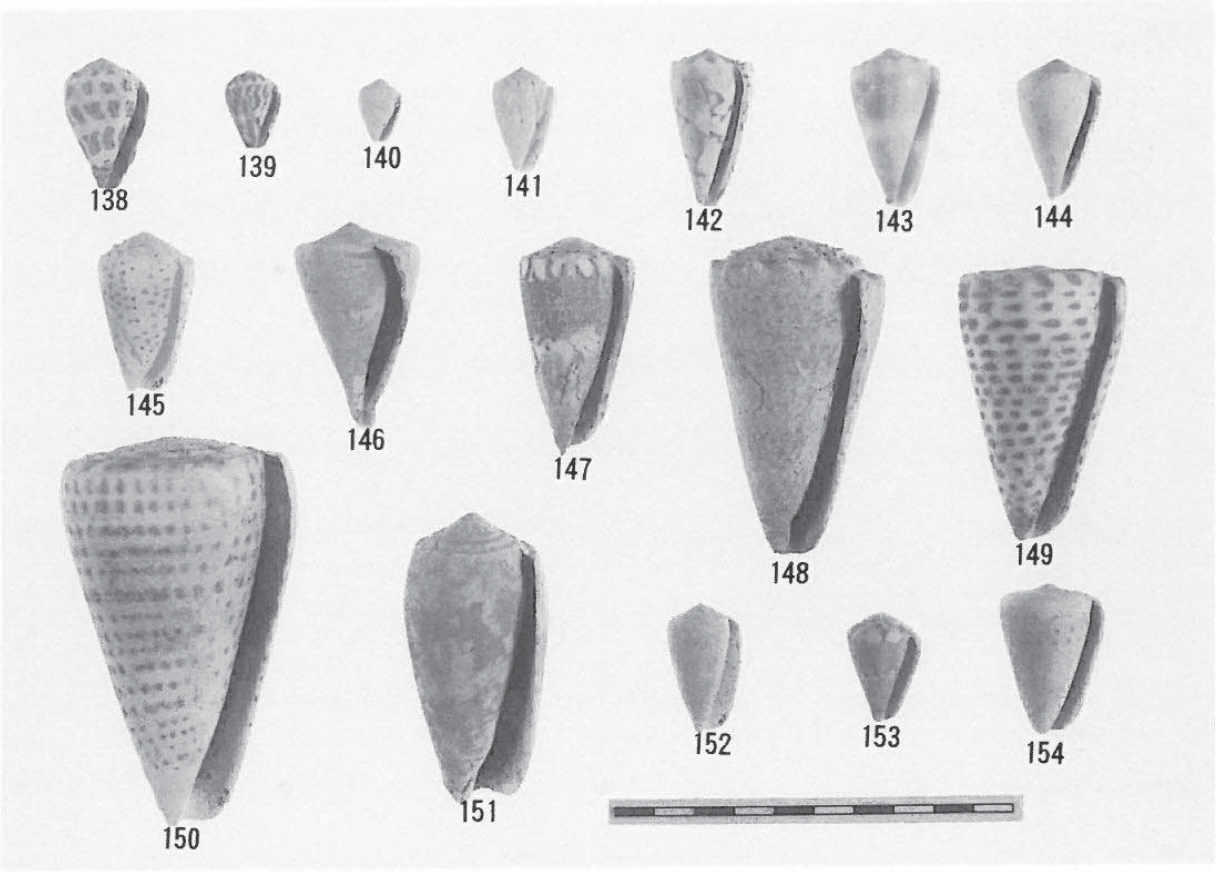
上

125. チトセボラ
126. リュウキュウツノマタガイ
127. ツノマタガイ
128. イトマキボラ
129. ナガイトマキボラ
130. マルニシ
131. オニコブシ
132. コオニコブシ
133. チョウセンフデガイ
134. イモフデガイ
135. ナガシマヤタテガイ
136. マユフデガイ
137. サツマビナ

下

138. マダライモ
139. コマダライモ
140. ジュズカケサヤガタイモ
141. サヤガタイモ
142. クロミナシ
143. イボシマイモ
144. キヌカツギイモ
145. ゴマフイモ
146. サラサミナシ
147. サラサミナシモドキ
148. ミカドミナシ
149. アンボンクロザメ
150. クロフモドキ
151. ニシキミナシ
152. アジロイモ
153. イタチイモ
154. クロザメモドキ


125
126
127
128
129
130
131
132
133
134
135
136
137


138
139
140
141
142
143
144
145
146
147
148
149
150
151
152
153
154

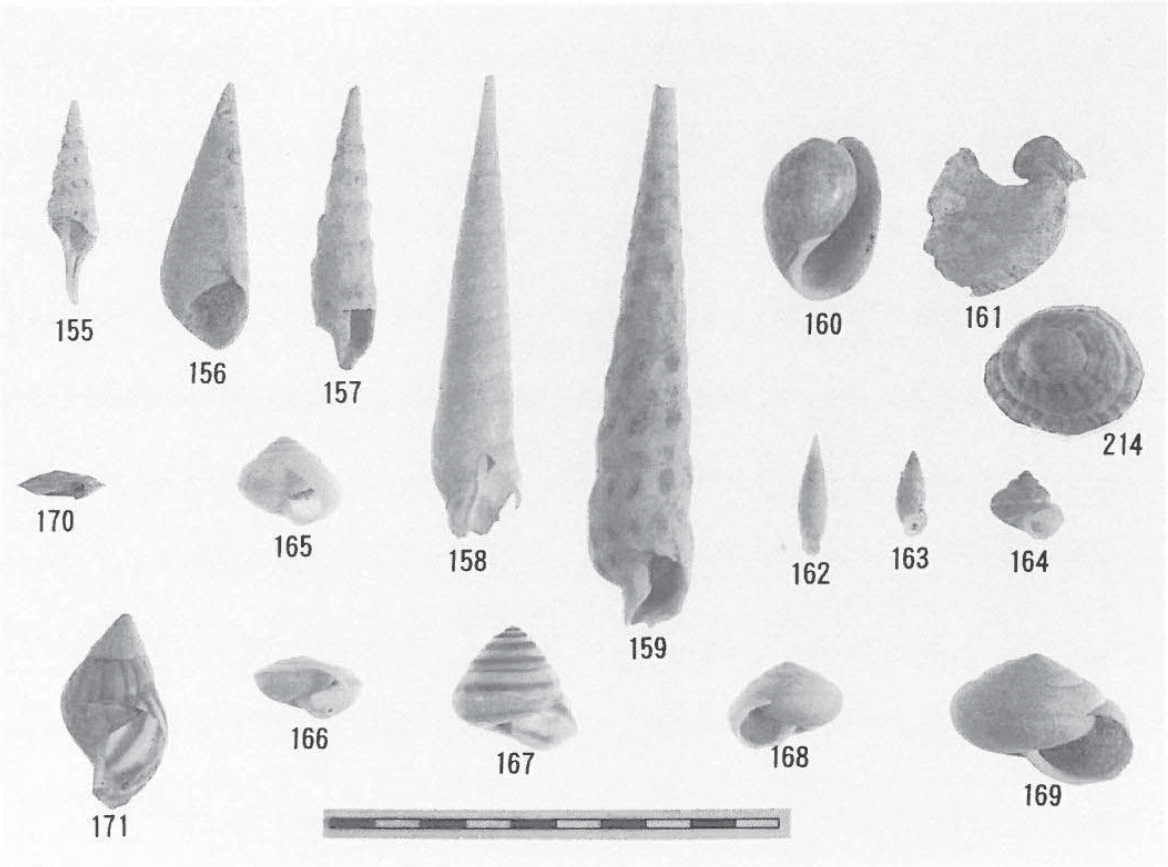
貝類遺存体・4

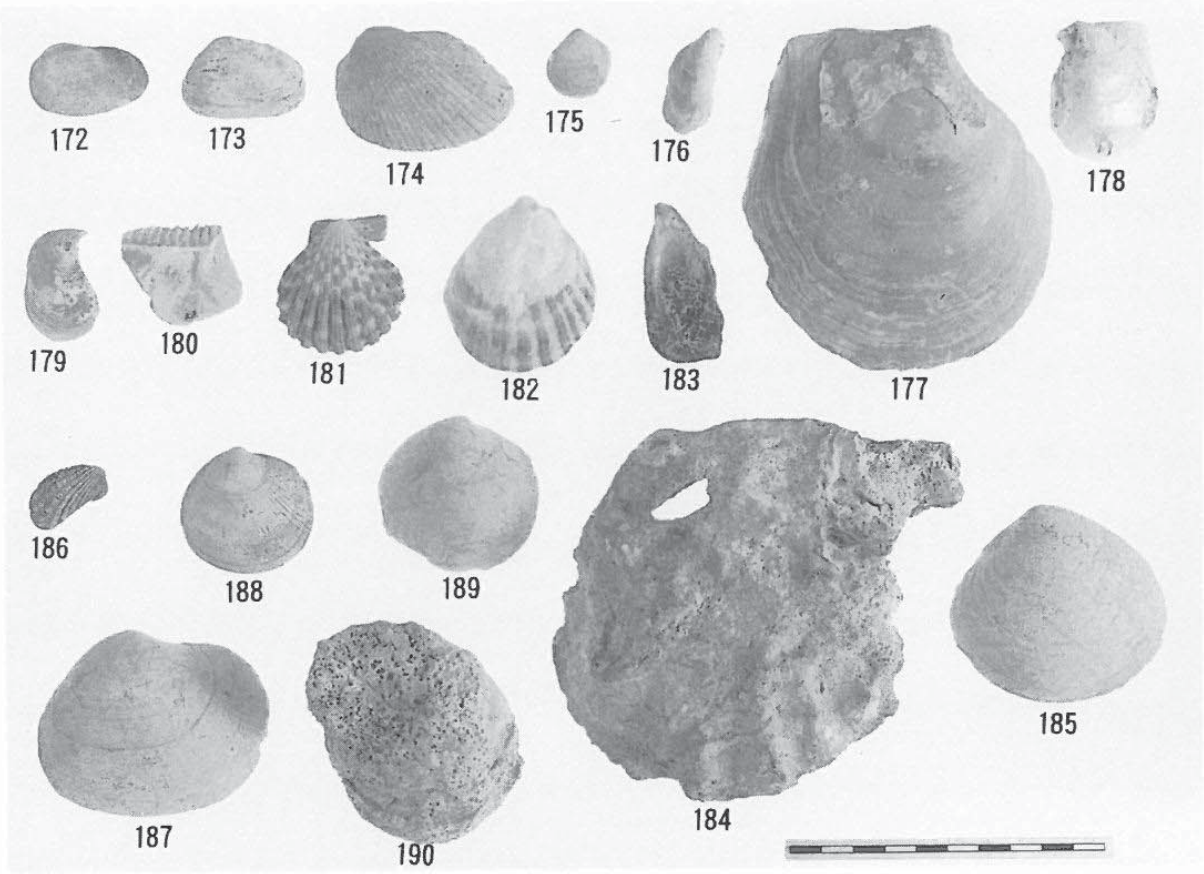
上

155. クダボラ
156. リュウキュウタケガイ
157. キバタケガイ
158. ベニタケガイ
159. タケノコガイ
160. ナツメガイ
161. タツナミガイ
162. ツヤギセル
163リュウキュウセルモドキ
164. オキナワヤマタニシ
165. オキナワウスカワマイマイ
166. パンダナマイマイ
167. オキナワヤマタカマイマイ
168. リュウキュウヒダリマキマイマイ
169. シュリマイマイ
170. オオカサマイマイ
171. アフリカマイマイ
214. カモガイ

下

172. ベニエガイ
173. エガイ
174. リュウキュウサルボウ
175. ソメワケグリ
176. リュウキュウヒバリガイ
177. クロチョウガイ
178. ミドリアオリガイ
179. カイシアオリガイ
180. シュモクアオリガイ
181. チサラガイ
182. メンガイ
183. ニセマガキ
184. イタボガキ科の一種
185. シレナシジミ
186. クロフトマヤガイ
187. カゴガイ
188. ウラキツキガイ
189. クチベニツキガイ
190. キクザルガイの一種


155
156
157
158
159
160
161
214
170
165
162
163
164
171
166
167
168
169


172
173
174
175
176
178
179
180
181
182
183
177
186
188
189
185
187
190
184

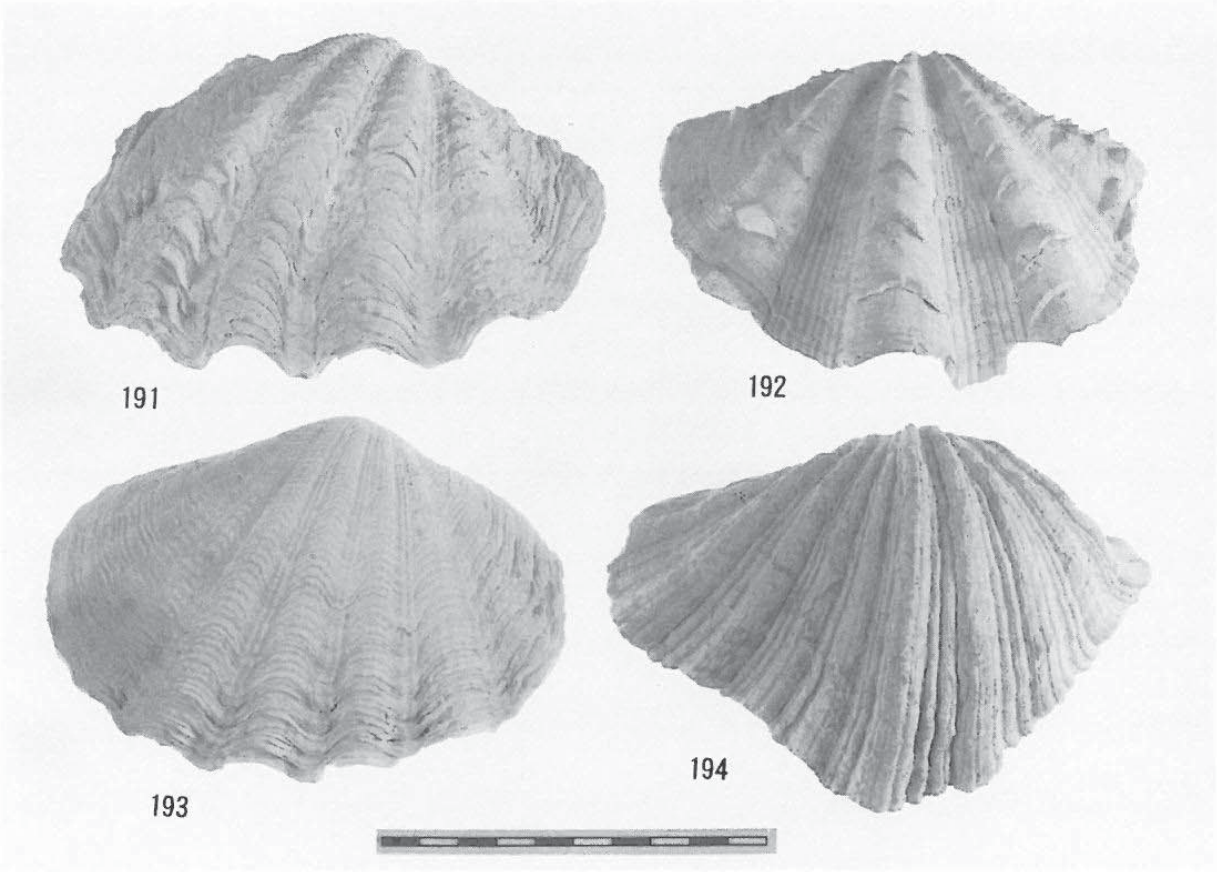
貝類遺存体・5

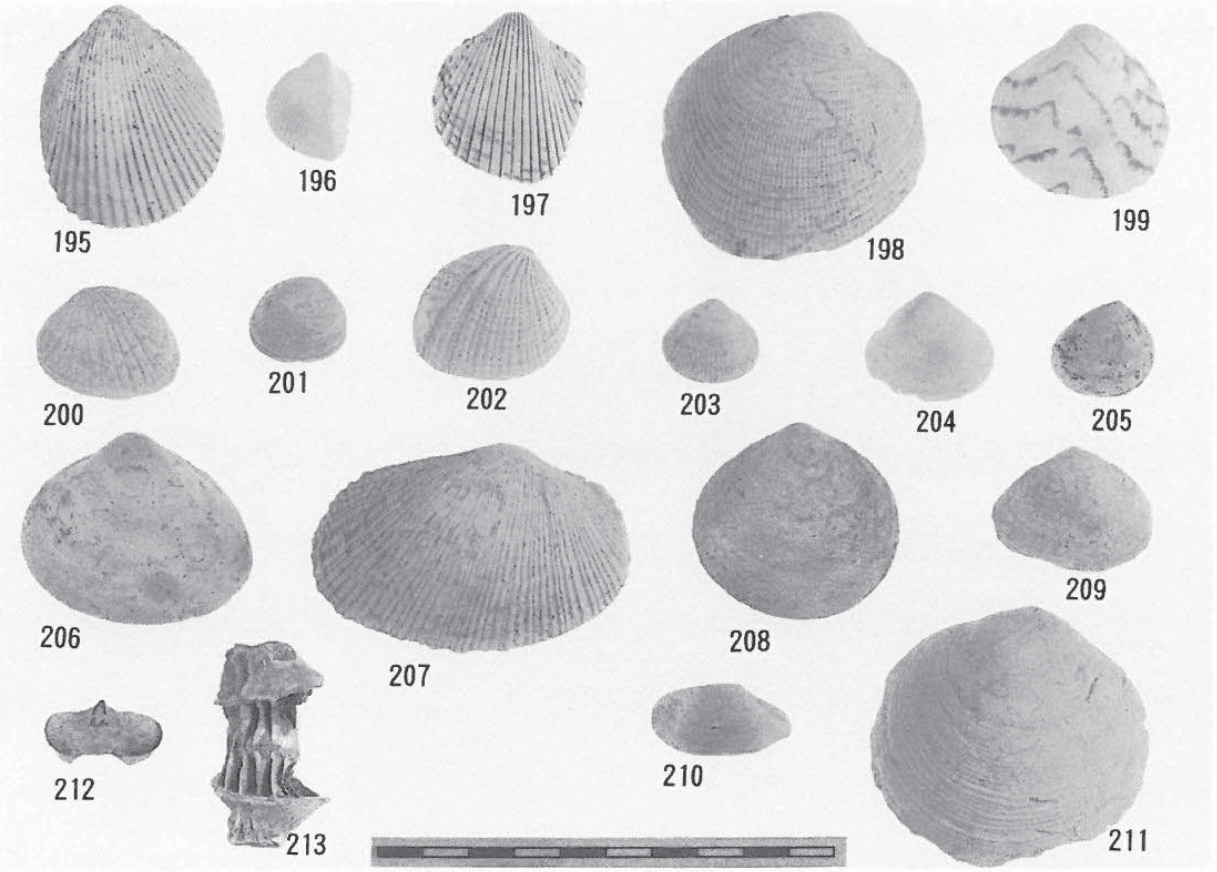
上

191. シラナミガイ
192. ヒレジャコ
193. ヒメジャコ
194. シャゴウ

下

195. リュウキュウザルガイ
196. オオヒシガイ
197. カワラガイ
198. ヌノメガイ
199. マルオミナエシ
200. ホソスジイナミガイ
201. ヒメイナミガイ
202. アラスジケマンガイ
203. カノコアサリ
204. イソハマグリ
205. ナミノコマスオ
206. リュウキュウバカガイ
207. リュウキュウマスオガイ
208. サメザラガイ
209. リュウキュウシラトリガイ
210. ヒメニッコウガイ
211. モチヅキザラ
212. ヒザラガイの一種
213. オウムガイ


191
192
193
194


195
196
197
198
199
200
201
202
203
204
205
206
207
208
209
210
211
212
213

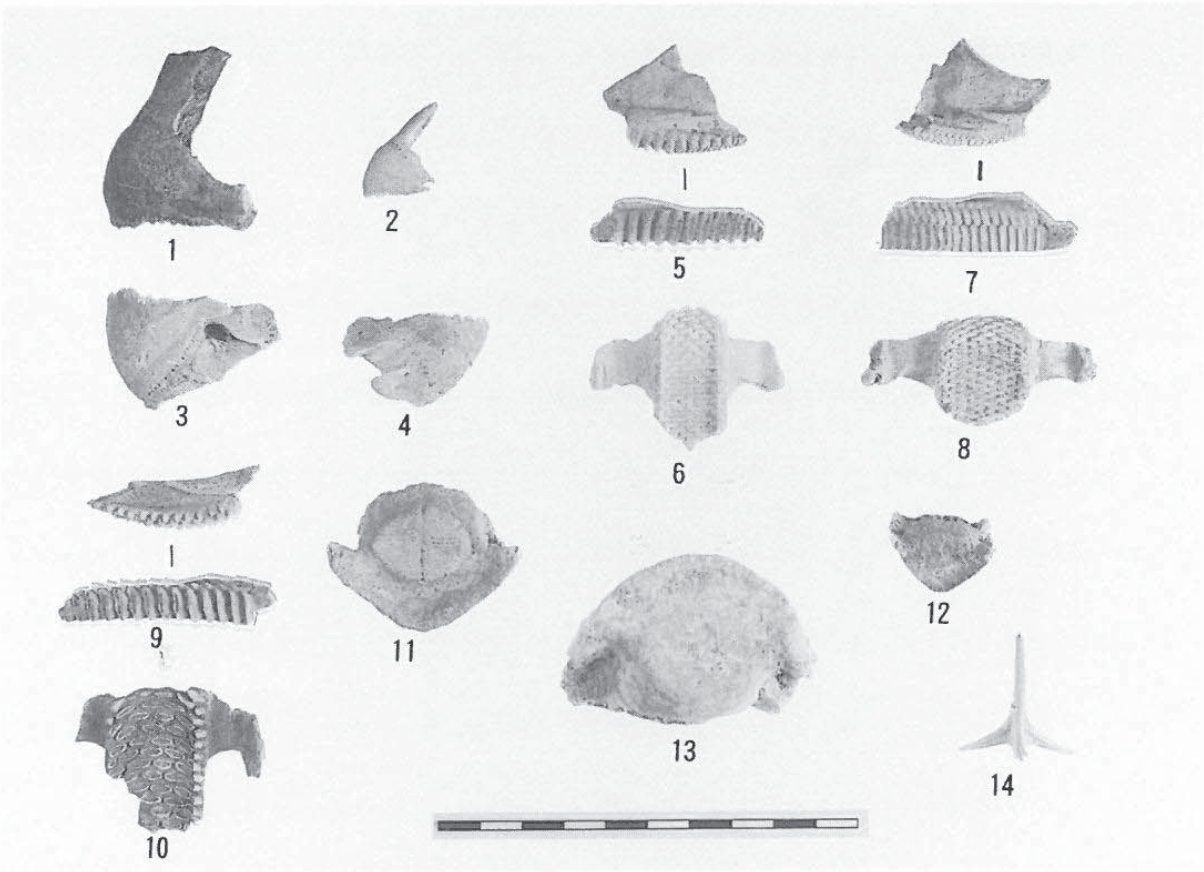
貝類遺存体・6

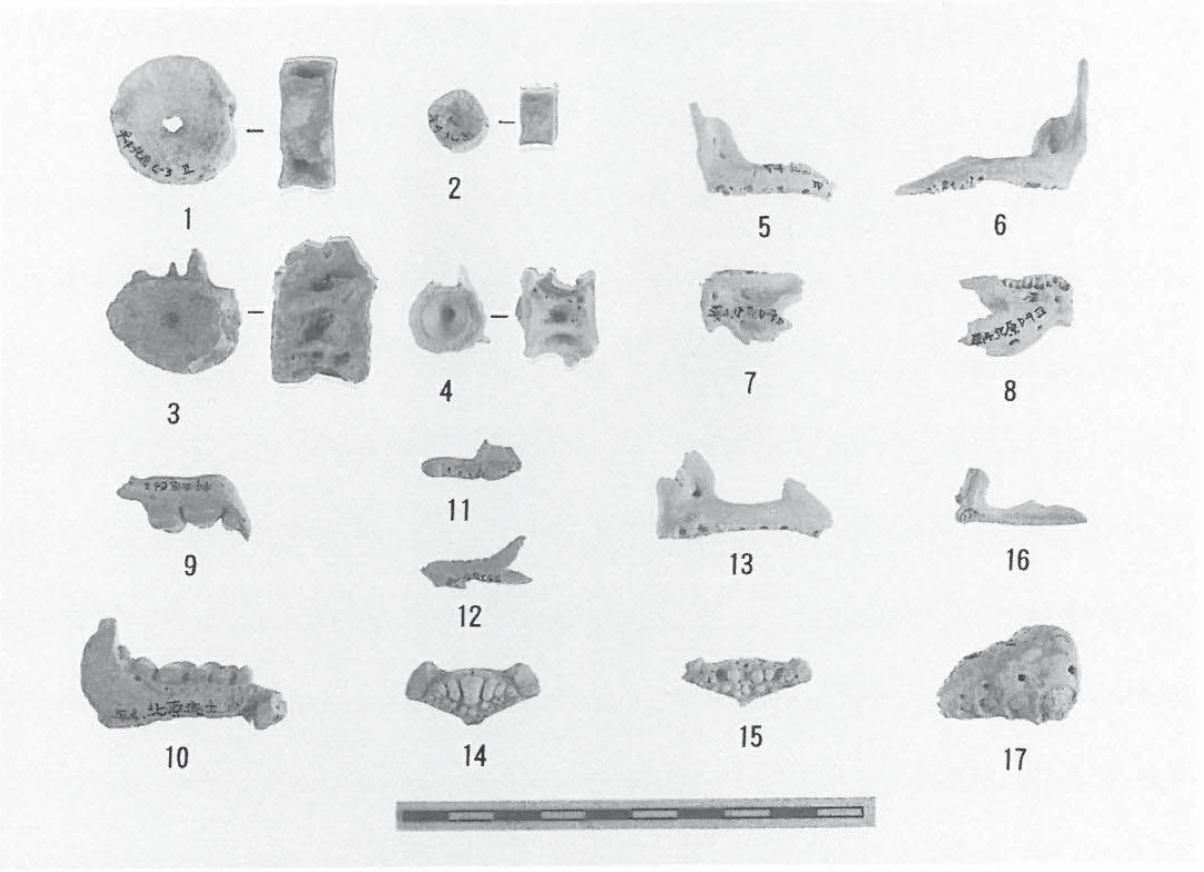
上：魚類遺存体・1

1．右　ブタイ科　前上顎骨
2．〃　〃　〃
3．左　ブタイ科　歯骨
4．右　イロブダイ科　歯骨
5．左　ナンヨウブダイ　上咽頭骨
6．　〃　下咽頭骨
7．右　イロブダイ　上咽頭骨
8．　イロブダイ　下咽頭骨
9．右　ナガブダイ　上咽頭骨
10．　〃　下咽頭骨
11．ハリセンボン　上顎骨
12．　〃
13．　〃　下顎骨
14．ハリセンボン　棘

下：魚類遺存体・2

1．サメ類脊椎骨
2．　〃
3．硬骨魚網脊椎骨
4．　〃
5．左　コショウダイ型　前上顎骨
6．右　〃　〃
7．左　〃　歯骨
8．右　〃　〃
9．〃　ヨコシマクロダイ　前上顎骨
10．〃　〃　歯骨
11．左　ハマフエフキ　フエフキダイ科　前上顎骨
12．右　〃　〃　歯骨
13．左　フエフキダイ科　前上顎骨
14．ベラ科　カンムリベラ　下咽頭骨
15．ベラ科　コブダイ　下咽頭骨
16．右　ハタ科　マハタ属　前上顎骨
17．〃　モンガラカワハギ科　上顎骨





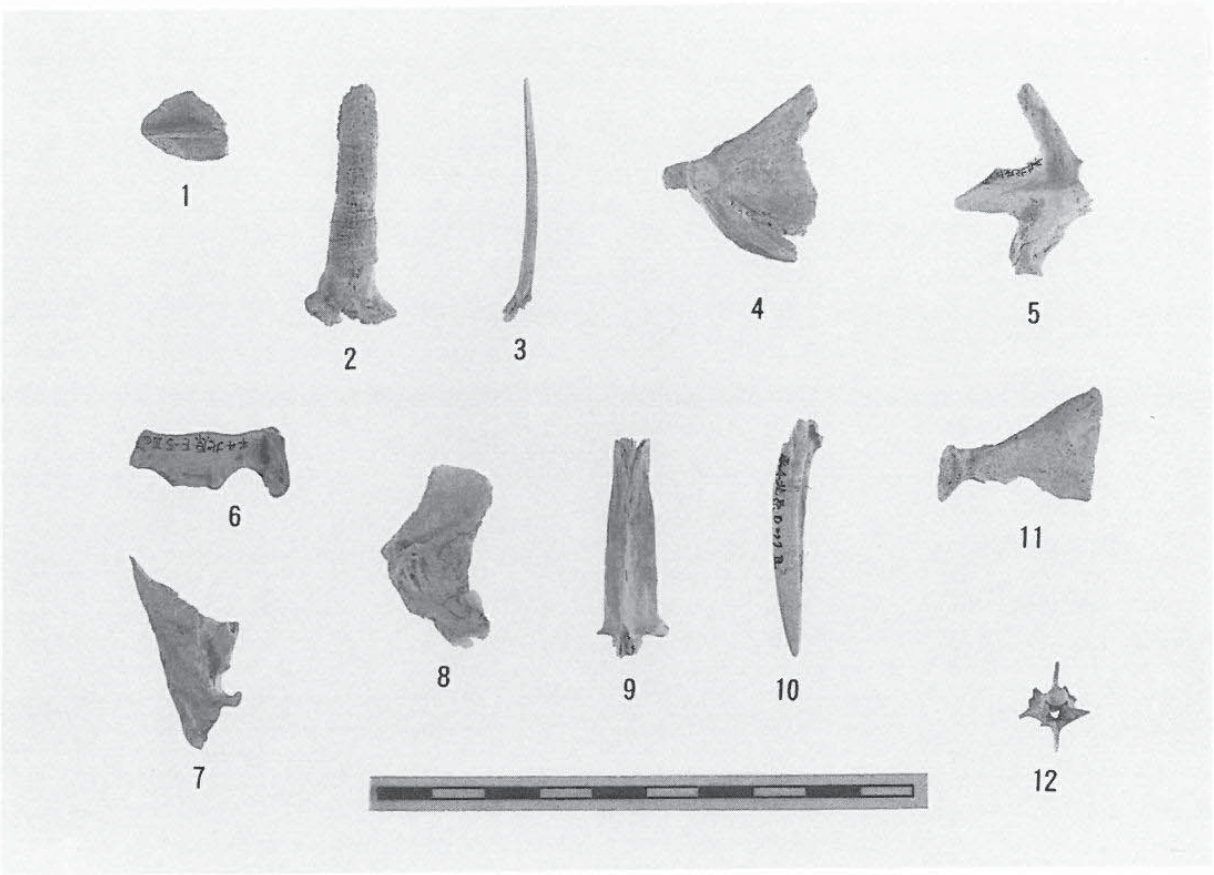
上：魚類遺存体・1　下：魚類遺存体・2

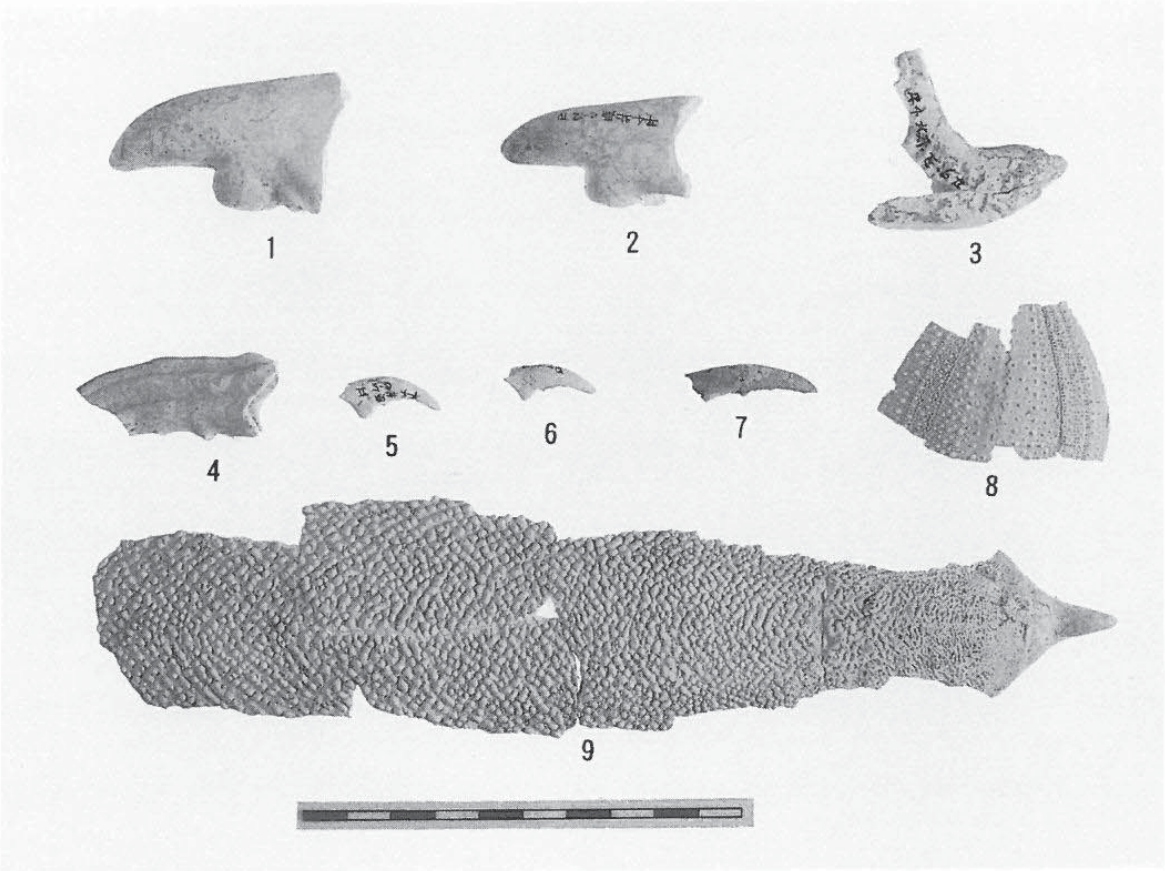
上　魚類遺存体・3

1．ニザダイ科の鱗
2．モンガラカワハギ棘
3．椎体突起
4．主鰓蓋骨
5．左　関節骨
6．主上顎骨
7．左　関節骨
8．右　尾舌骨
9．腹鰭軟条
10．腰　帯
11．尾椎骨
12．ヘビ椎体

下　カニ・ウニ・イカ類遺存体

1．左　ノコギリガサミの可動指
2．　　〃　　〃
3．右　　〃　　の不動指
4．タイワンガサミの可動指
5．右　可動指
6．右　　〃
7．右　　〃
8．ウニ甲羅
9．イカ　〃





上：魚類遺存体・３　下：カニ・ウニ・イカ遺存体

上　ウミガメ類遺存体

1．烏口骨

2．左　上腕骨

3．右　寛　骨

4．右　大腿骨

5．縁甲板

6．背甲板

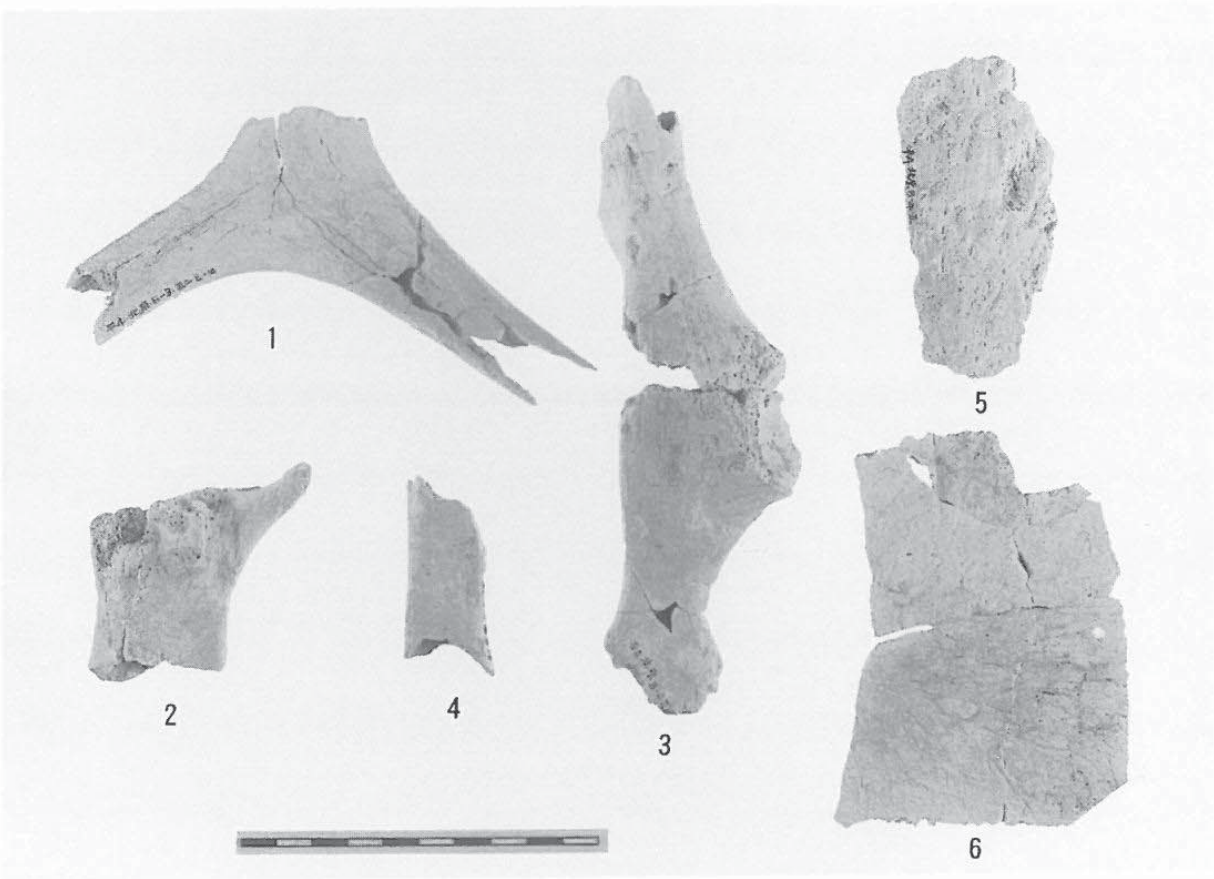
下　ウマ遺存体

1．左　肩甲骨

2．右　大腿骨

3．踵　骨

4．右　中足骨



上：ウミガメ類遺存体　下：ウマ遺存体

上　イノシシ遺存体・1（歯等）

1．左　dm^4　M^1

2．左　dm^4

3．右　M^1

4．右（I_1　$dm_{3.4}$）

5．右　M^2

6．右（$P^{3.4}$　$M^{1\cdot2}$）

7．左　$\overline{C}$

8．右　$\overline{C}$

9．右（I_1）

10．右　P_2

11．左（$dm'_{3.4}$　$M_{1.2}$）

下　ウシ遺存体・1（歯等）

1．左　M^1

2．左　dm^4

3．左　dm^3

4．左　I_2

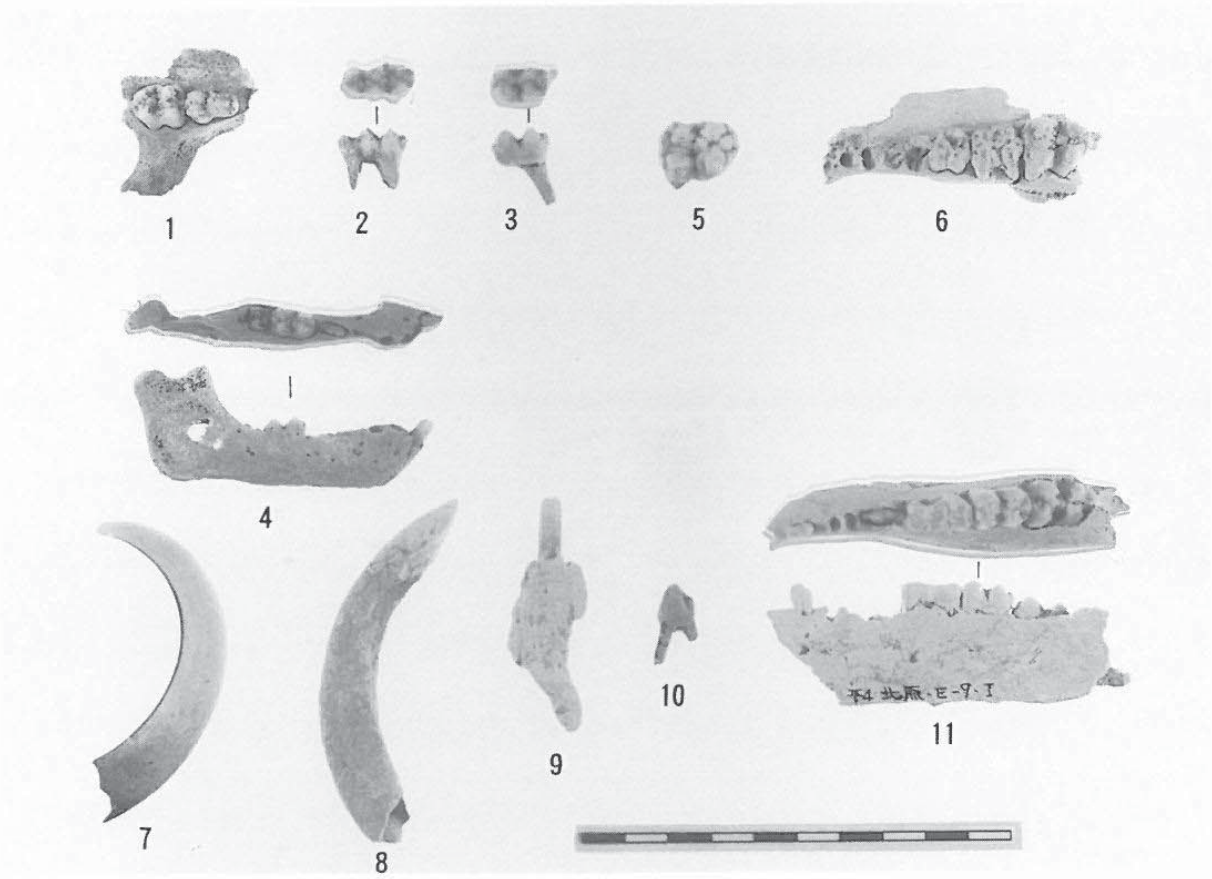
5．左　I_1

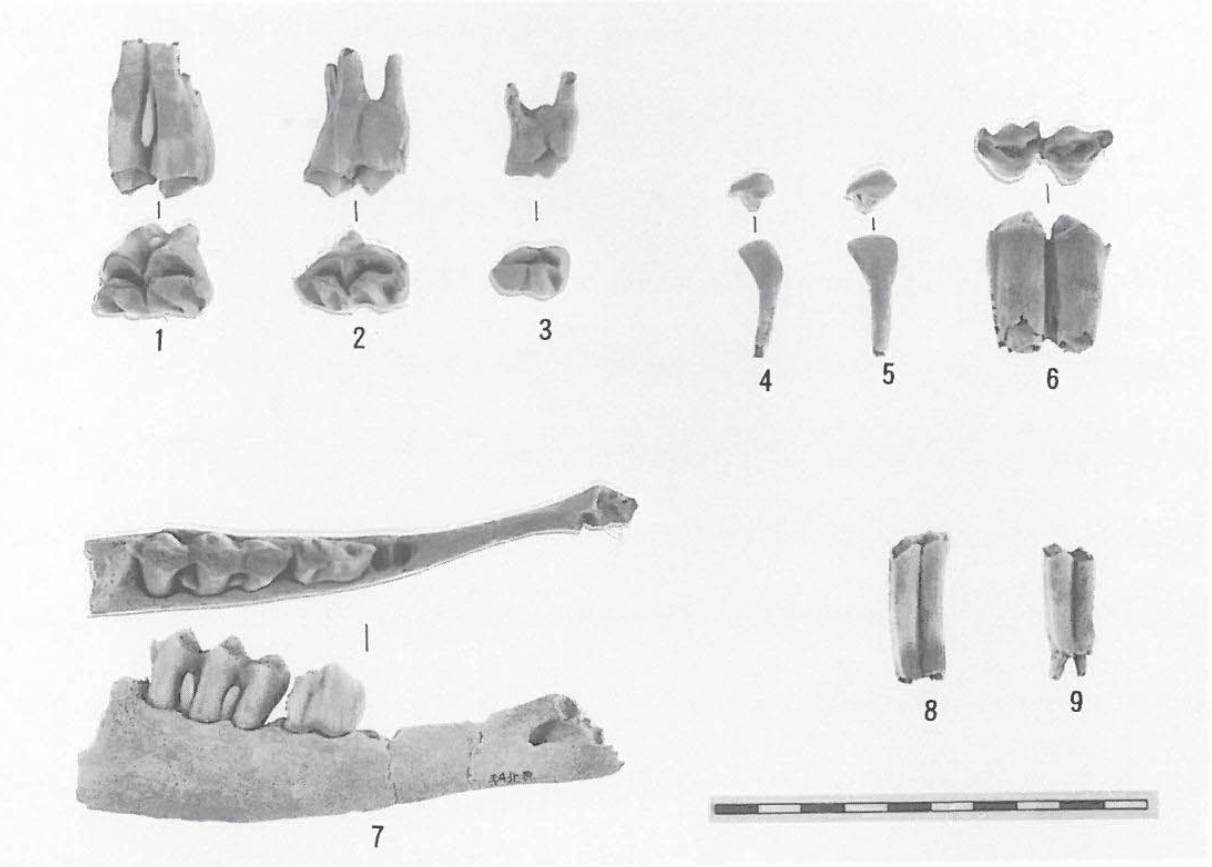
6．左　M_1

7．右（$dm_{3.4}$）

8．左下顎骨（ヤギ）

9．右　〃　（ヤギ）

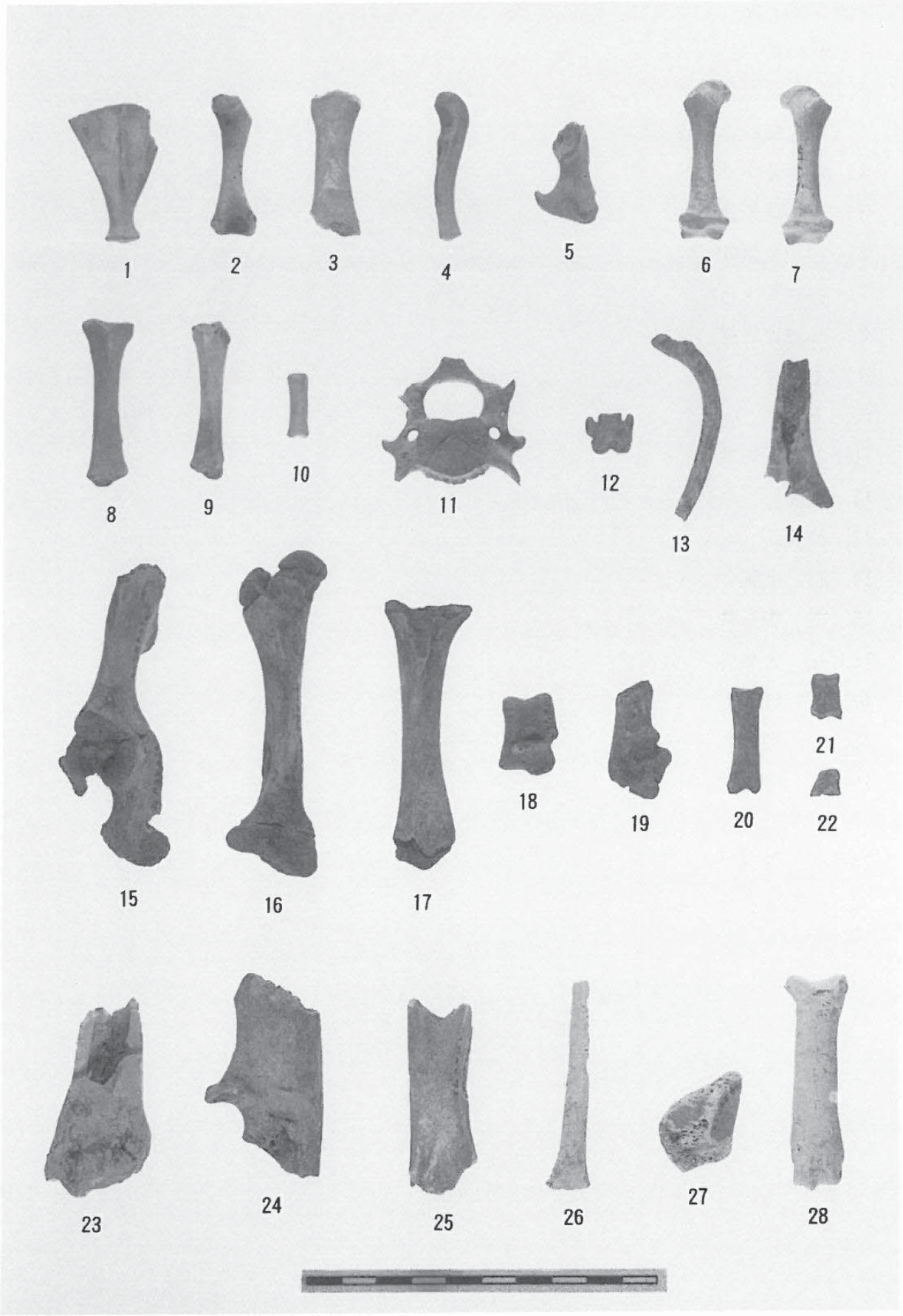




上：イノシシ遺存体・１（歯等）　下：ウシ遺存体・１（歯等）

イノシシ遺存体・2（四肢骨等）

1．右　肩甲骨（幼）
2．〃　上腕骨（〃）
3．左　橈　骨（〃）
4．〃　尺　骨（〃）
5．〃　寛　骨（〃）
6．〃　大腿骨（〃）
7．右　　〃　（〃）
8．左　脛　骨（〃）
9．右　　〃　（〃）
10．〃　中手骨　Ⅳ（〃）
11．　　頸　椎（若）
12．　　仙　骨（〃）
13．　　肋　骨（〃）
14．右　上腕骨（〃）
15．左　寛　骨（〃）
16．〃　大腿骨（〃）
17．〃　脛　骨（〃）
18．〃　距　骨（〃）
19．〃　踵　骨（〃）
20．右　中手骨（〃）
21．　　基節骨（〃）
22．　　中節骨（〃）
23．左　脛　骨
24．〃　尺　骨
25．右　大腿骨
26．　　腓　骨
27．左　膝蓋骨
28．　　中手骨　Ⅲ



イノシシ遺存体・2（四肢骨等）

ウシ遺存体・2

1．頭頂骨
2．左　側頭骨鼓室部
3．右　側頭骨頬骨突起
4．蝶形骨体
5．左　側頭鱗
6．〃　後頭顆
7．右　　〃
8．後頭骨底部
9．上顎骨
10．下顎骨
11．左　下顎骨
12．環椎
13．軸椎
14．左　橈骨
15．右　中手骨
16．左　大腿骨
17．右　脛骨
18．〃　踵骨
19．左　中足骨
20．基節骨
21．中節骨
22．末節骨

ウシ遺存体・2

ウシ遺存体・3

1．肋骨

2．左　上腕骨

3．〃　橈骨

4．〃　尺骨

5．中足骨

6．右　距骨

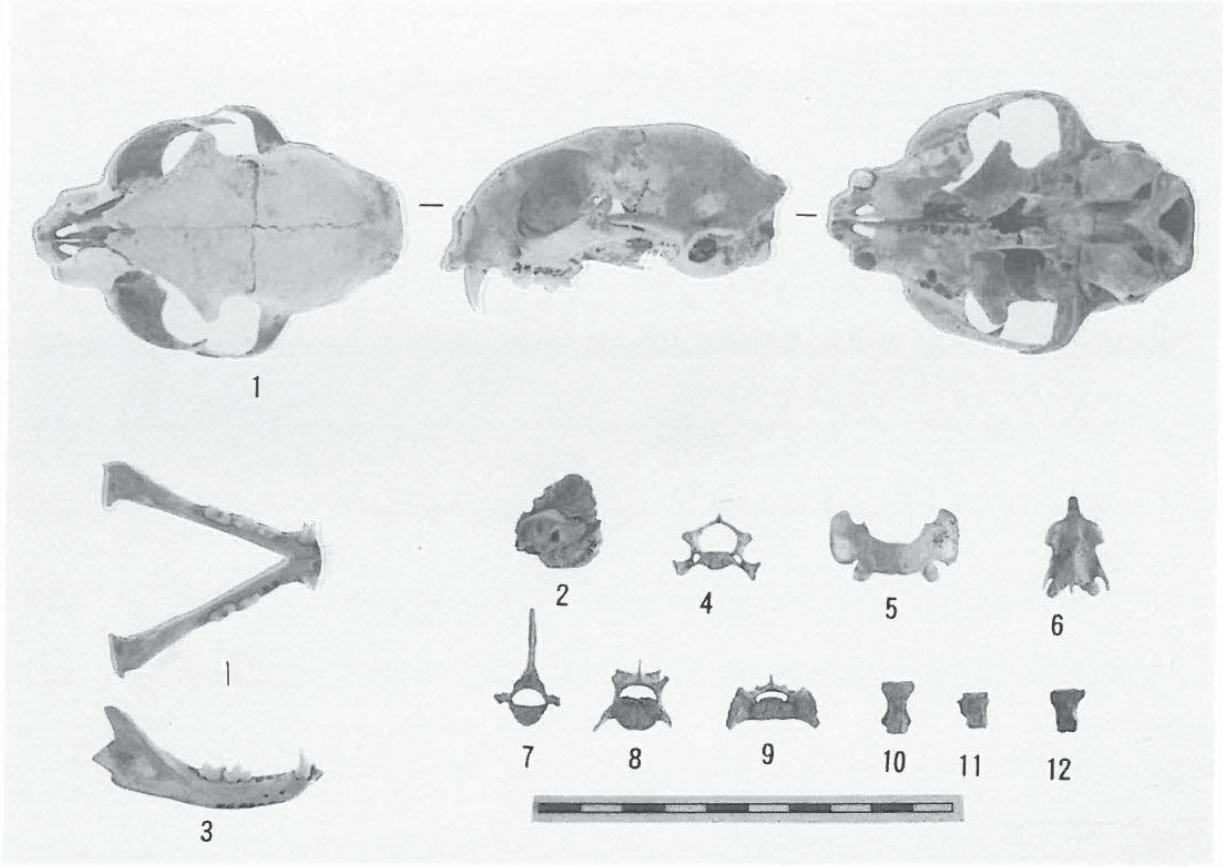
1
2
3
4
5
6

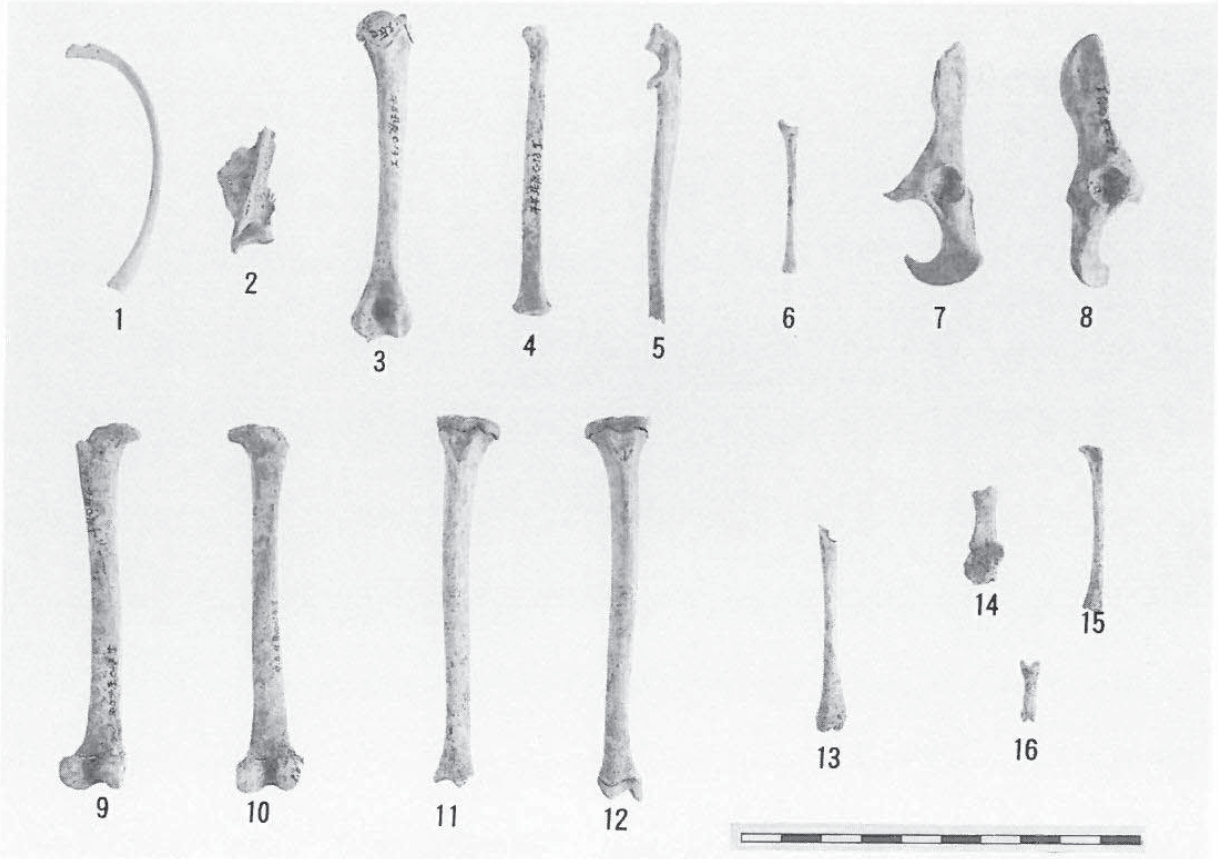
上　ネコ遺存体

1．頭蓋骨
2．右　側頭鼓室部
3．下顎骨
4．頚椎
5．環椎
6．軸椎
7．胸椎
8．腰椎
9．仙骨
10．尾椎
11．　〃
12．　〃

下　ネコ遺存体

1．助骨
2．左　肩甲骨
3．右　上腕骨
4．〃　橈骨
5．〃　尺骨
6．中手骨
7．左　寛骨
8．右　　〃
9．左　大腿骨
10．右　　〃
11．左　脛骨
12．右　　〃
13．腓骨
14．右　踵骨
15．中足骨
16．基節骨





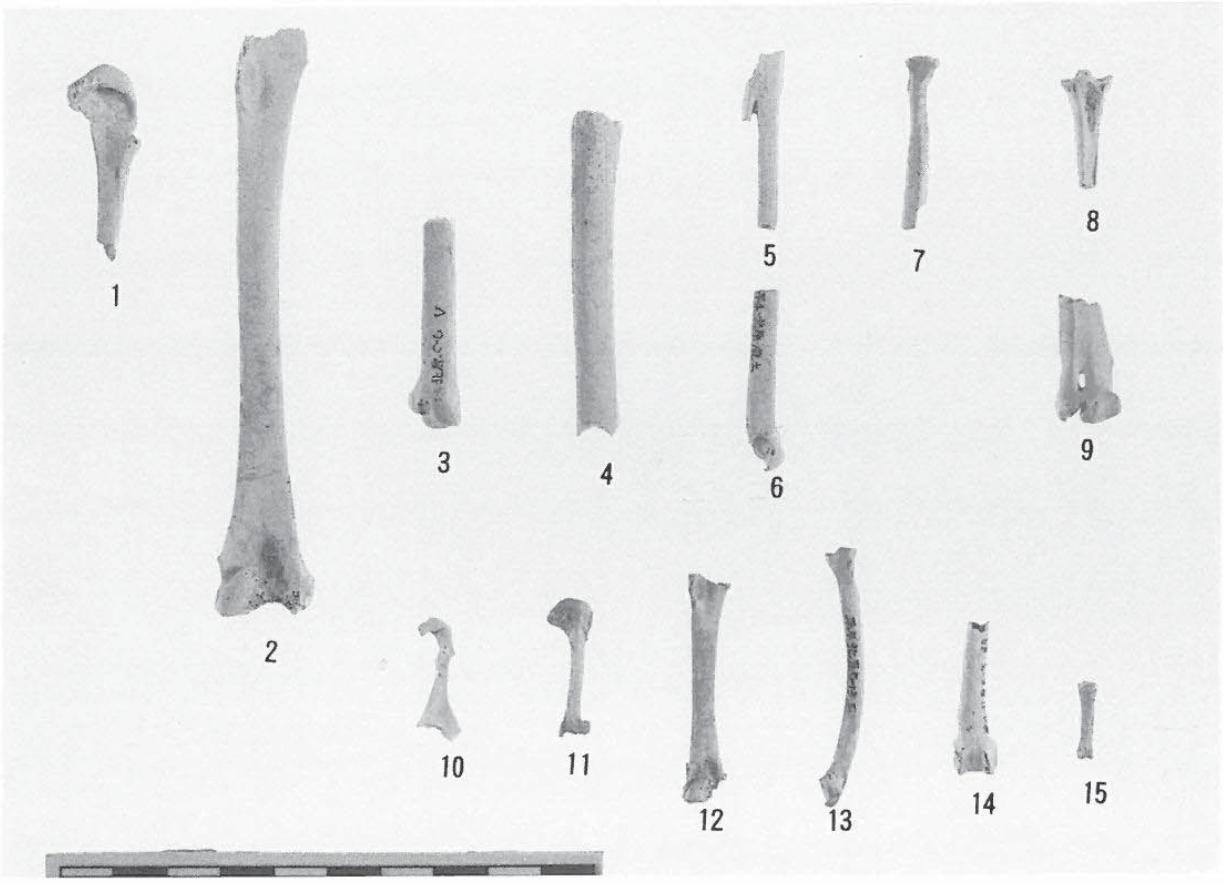
上・下：ネコ遺存体

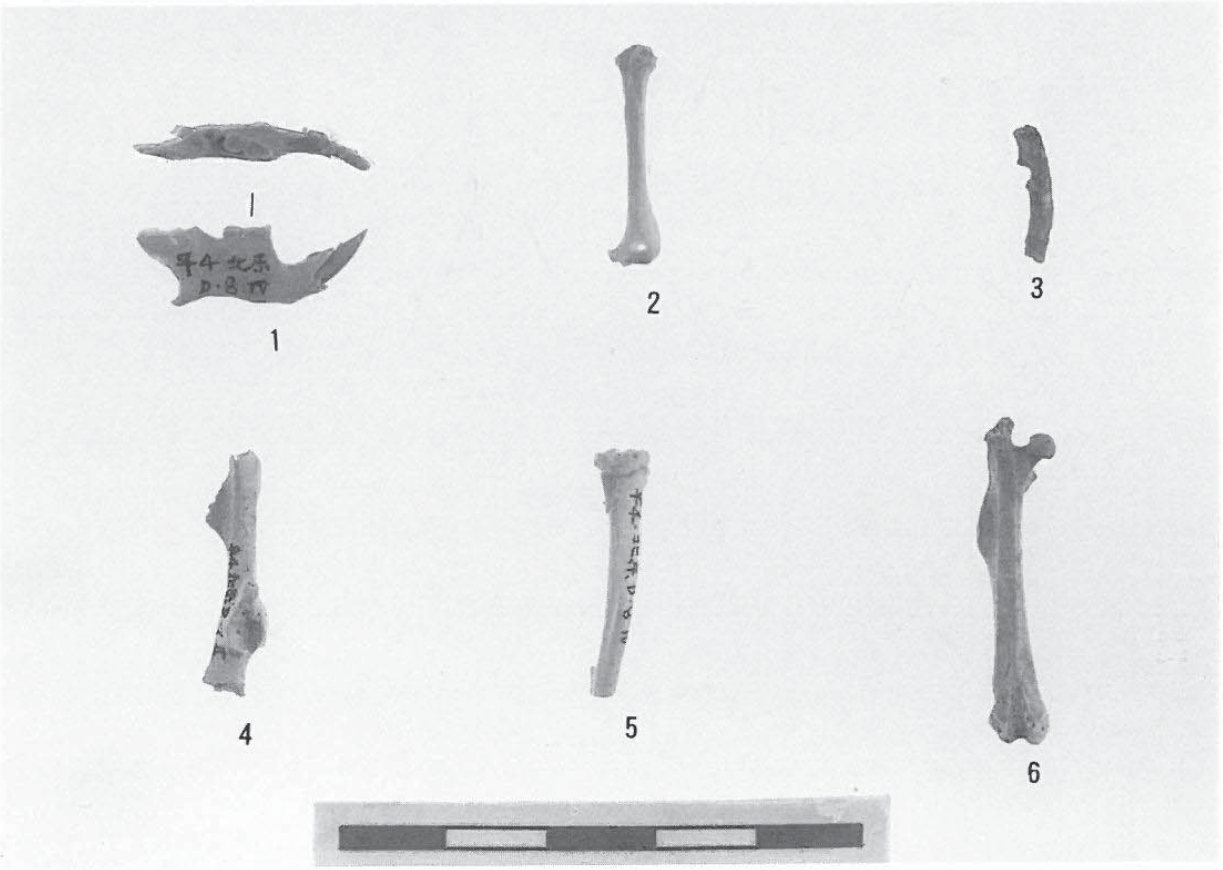
上・鳥類（カモメ科，ワシ・タカ目）遺存体

1．左　カモメ科　烏口骨
2．右　　〃　　上腕骨
3．左　　〃　　尺　骨
4．〃　　〃　　脛　骨
5．〃　　〃　　中手骨(近位部)
6．右　　〃　　中手骨(遠位部)
7．〃　　〃　　橈骨(近位部)
8．〃　　〃　　中足骨(近位部)
9．〃　　〃　　中足骨(遠位部)
10．左　ワシ・タカ目　烏口骨
11．右　　〃　　上腕骨
12．〃　　〃　　上腕骨
13．左　　〃　　尺骨
14．右　　〃　　脛骨(遠位部)
15．　　〃　　趾骨

下．ネズミ遺存体

1．右　下顎骨
2．右　上腕骨
3．〃　尺骨
4．〃　寛骨
5．〃　脛骨
6．左　大腿骨





上：鳥類（カモメ科，ワシ・タカ目）遺存体　下：ネズミ遺存体

沖縄県文化財調査報告書第123集

北原貝塚発掘調査報告書

発行日　1995年3月31日
編　集　盛　本　　勲
発行所　沖縄県教育委員会
那覇市泉崎1-2-2
TEL 098-866-2731
印　刷　(有)南　部　印　刷
那覇市寄宮3－18－10
TEL 098-832－3046